

HP Client Automation

Core および Satellite

Standard Edition

Windows® オペレーティング システム用

ソフトウェア バージョン : 7.90

ユーザー ガイド

製造部品番号 : なし

ドキュメントのリリース日 : 2010 年 5 月

ソフトウェアのリリース日 : 2010 年 5 月



ご注意

保証

HP の製品およびサービスで保証されるのは、製品およびサービスに添付される明確な保証文で説明されているものだけです。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的誤り、編集上の誤り、または欠如について、HP はいかなる責任も負いません。

本書に記載した内容は、予告なしに変更することがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピュータ ソフトウェアです。所有、使用、または複製を行う場合には、HP からの正規のライセンスが必要です。FAR 12.211 および 12.212 に従い、商用コンピュータ ソフトウェア、コンピュータ ソフトウェア ドキュメンテーション、および市販品の技術データは、各販売者の標準営業許可のもとに米国政府にライセンスされています。

著作権

© Copyright 2009-2010 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標

Apache Software License、Version 1.1

この製品には Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) が開発したソフトウェアが含まれています。

Copyright © 1999-2001 The Apache Software Foundation. All rights reserved.

Linux は、Linus Torvalds の登録商標です。

Microsoft®、Windows®、Windows® XP および Windows Vista® は、Microsoft Corporation の米国における登録商標です。

PREBOOT EXECUTION ENVIRONMENT (PXE) SERVER

Copyright © 1996-1999 Intel Corporation.

TFTP サーバー

Copyright © 1983, 1993

The Regents of the University of California.

OpenLDAP

Copyright 1999-2001 The OpenLDAP Foundation, Redwood City, California, USA.

Portions Copyright © 1992-1996 Regents of the University of Michigan.

OpenSSL License
Copyright © 1998-2001 The OpenSSLProject.

Original SSLeay License
Copyright © 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com)

DHTML Calendar
Copyright Mihai Bazon, 2002, 2003

Lab PullParser
Copyright © 2002 The Trustees of Indiana University. All rights reserved

この製品には、Indiana University Extreme! Lab が開発したソフトウェアが含まれています。詳細については、<http://www.extreme.indiana.edu/> を参照してください。

ドキュメントの更新

本書のタイトル ページには、次の識別情報が含まれています。

- ソフトウェア バージョン番号。ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントのリリース日。ドキュメントが更新されるごとに変ります。
- ソフトウェアのリリース日。ソフトウェアのこのバージョンのリリース日を示します。

最近の更新がないか確認したり、最新版ドキュメントを使用していることを確認したりするには、次の URL に移動してください。

<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトでは、HP Passport に登録し、サインインする必要があります。HP Passport ID に登録するには、次を参照してください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

または、HP Passport サインインのページの **[New users - please register]** のリンクをクリックしてください。

適切な製品サポート サービスを購読している場合にも、更新版や新版を受け取ることができます。詳細は、HP 営業担当者までご連絡ください。

次の表には、前回のリリース以降に変更された箇所が示されています。

表 1 ドキュメントの変更点

章	バージョン	変更点
第 8 章、「設定」	7.80	アプリケーション利用状況データ収集が HPCA Enterprise で使用できるようになりました。239 ページの「利用状況管理」を参照してください。
第 7 章、「オペレーション」	7.80	176 ページの「パッチ取得スケジュールを設定するには」に新しいパッチ取得設定が追加されました。
第 9 章、「ウィザード」	7.80	アプリケーション利用状況データ収集フィルタの作成と管理、および利用状況収集エージェントを配布する手順が更新されました。273 ページの「利用状況収集フィルタ作成ウィザード」および 272 ページの「アプリケーション利用状況収集ウィザード」を参照してください。
第 5 章、「管理」	7.90	設定プロファイルの新しい管理機能が追加されました。112 ページの「設定管理」を参照してください。
第 7 章、「オペレーション」	7.90	設定プロファイルの操作が追加されました。188 ページの「設定管理」を参照してください。

表 1 ドキュメントの変更点

章	バージョン	変更点
第 7 章、「オペレーション」、 第 8 章、「設定」、 第 4 章、「HPCA および HP Live Network」	7.90	最新の設定プロファイルの内容の取得するための HP Live Network の情報が追加されました。表の最初のコラムに示されている章を参照してください。
第 6 章、「レポートの使用」	7.90	Application Management Profiles のレポートが追加されました。149 ページの「 設定管理レポート 」を参照してください。
第 9 章、「ウィザード」	7.90	新しい [設定プロファイルの配布] ウィザードが追加されました。256 ページの「 設定プロファイル配布ウィザード 」を参照してください。
第 10 章、「メタデータを使用したパッチ管理」	7.90	パッチ メタデータの配布モデルは、デフォルトの配布モデルに変更されています。 メタデータを使用したパッチ管理 を参照してください。
第 11 章、「OS イメージの準備とキャプチャ」 第 12 章、「パブリッシュ」 第 9 章、「ウィザード」 付録 E、 「Windows XP および Windows Server 2003 の OS イメージのキャプチャ」	7.9	実装された操作性の向上を反映して、OS イメージ キャプチャ、パブリッシュ、および配布プロセスに関する情報を再編成し、更新しました。

サポート

HP Software のサポート Web サイトは次のとおりです。

www.hp.com/go/hpsoftwaresupport

この Web サイトには、HP Software の製品、サービス、サポートに関するお問い合わせ先情報が掲載されています。

HP Software オンライン サポートでは、お客様自身が問題を解決するのに有益な情報を提供します。ビジネスを管理するために必要な対話型技術サポート ツールに素早く効率的にアクセスする方法を提供しています。サポートを受けるお客様は、サポート Web サイトを使って以下のことができます。

- 関心がある知識ドキュメントの検索
- サポート事例および機能強化リクエストの提出とサポート状況の追跡
- ソフトウェア パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポートの問い合わせ先の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の確認
- 他のソフトウェア顧客とのディスカッションへの参加
- ソフトウェア トレーニングの検索と登録

多くのサポート エリアは、HP Passport のユーザー登録とサインインを必要とします。サポート契約が必要なエリアもあります。HP Passport ID に登録するには、次を参照してください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

アクセス レベルに関する詳細については、次を参照してください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

目次

1 紹介	25
このマニュアルについて	25
HPCA のドキュメント	25
略語と変数	26
2 はじめに	27
Web ベースの HPCA Console へのアクセス	27
クイック スタート タスク	28
タスク 1: デバイスのインポート	30
タスク 2: HPCA Agent の配布	31
タスク 3: スケジュールの設定	31
タスク 4: ソフトウェアのパブリッシュとパッチの取得	32
タスク 5: グループの作成	33
タスク 6: ソフトウェアまたはパッチの付与と配布	34
タスク 7: レポートの生成と表示	35
3 ダッシュボードの使用	37
ダッシュボードの概要	38
ダッシュボード デバイス	41
HPCA 操作ダッシュボード	42
クライアント接続	43
サービス イベント	44
ドメイン別 12 か月サービス イベント	46
パッチ管理ダッシュボード	48
ステータス別デバイス適用状況	48
ブリティン別デバイス適用状況	50
ステータス別デバイス適用状況	52

Microsoft セキュリティ プリティン	53
最も脆弱性の高い製品	54
4 HPCA および HP Live Network	57
概要	57
ライセンスの要件	57
HP Live Network コンテンツの更新	58
HP Live Network コネクタ	58
HP Live Network コネクタのダウンロード	59
HP Live Network コンテンツの更新方法	59
5 管理	61
デバイス管理	62
ターゲット デバイスの前提条件	62
HPCA の Windows XPE 要件	63
全般	65
デバイス	66
デバイスのインポート	69
[デバイス] タブからの HPCA Agent の配布	69
HPCA Agent の削除	70
ソフトウェア / ハードウェア インベントリの探索	70
パッチ適用状況の探索	71
アプリケーション利用状況の探索	71
リモート制御	72
電源管理	78
アウトバンド管理	78
デバイスを削除	79
デバイスの詳細	79
現在のジョブ	81
過去のジョブ	81
HPCA Agent の手動インストール	81
HP シンクライアントでの HPCA Agent のインストール	82
HP シンクライアント デバイスへの Agent の手動インストール	83
HP Registration and Loading Facility	86

グループ管理.....	90
全般.....	90
グループ タイプ.....	91
グループ.....	92
グループの作成.....	94
グループへの HPCA Agent の配布.....	94
HPCA Agent のグループからの削除.....	95
グループのソフトウェア / ハードウェア インベントリの探索.....	95
グループのパッチ適用状況の探索.....	96
グループのアプリケーション利用状況データの探索.....	96
電源管理.....	97
グループの削除.....	97
グループの詳細.....	97
[グループの詳細] ウィンドウのタスク.....	99
スタティック グループでのデバイスの追加と削除.....	100
グループでのソフトウェア資格の追加と削除.....	100
グループでのソフトウェアの配布、削除、および同期.....	101
グループでのパッチ資格の追加と削除.....	102
グループへのパッチの配布.....	102
現在のジョブ.....	103
過去のジョブ.....	103
ソフトウェア管理.....	104
[全般] タブ.....	104
[ソフトウェア] タブ.....	105
ソフトウェアの配布.....	105
グループ資格の追加または変更.....	106
デフォルトのソフトウェア.....	106
[ソフトウェアの詳細] ウィンドウ ([管理] タブ).....	107
[現在のジョブ] タブ.....	111
[過去のジョブ] タブ.....	111
設定管理.....	112
全般.....	112
設定プロファイル.....	113

設定プロファイルの配布.....	113
グループ資格の追加.....	114
設定プロファイルの詳細.....	114
現在のジョブ.....	115
過去のジョブ.....	115
パッチ管理.....	116
Microsoft Update Catalog: OS とサービス パックの最低要件	116
Microsoft 自動更新に関する重要な情報	117
[全般] タブ.....	119
[パッチ] タブ.....	120
パッチの配布.....	120
グループ資格の追加.....	121
[パッチの詳細] ウィンドウ ([管理] タブ).....	121
[現在のジョブ] タブ.....	123
[過去のジョブ] タブ.....	124
OS 管理.....	125
[全般] タブ.....	125
[オペレーティング システム] タブ.....	126
オペレーティング システムの配布.....	127
LSB を使用した OS イメージの配布	130
PXE を使用した OS イメージの配布	130
サービス CD を使用した OS イメージの配布.....	131
グループ資格の追加.....	132
オペレーティング システムの復元.....	133
[OS の詳細] ウィンドウ ([管理] タブ).....	133
[現在のジョブ] タブ.....	136
[過去のジョブ] タブ.....	137
ジョブ管理.....	137
全般.....	137
現在のジョブ.....	137
ジョブ コントロール.....	138
Job Status	138
ジョブの詳細.....	141

過去のジョブ	142
6 レポートの使用	143
レポートの概要	144
レポート間の移動	145
レポートのタイプ	147
インベントリ管理レポート	147
HP ハードウェア レポート	148
Windows レポート	148
設定管理レポート	149
HPCA 管理レポート	150
パッチ管理レポート	150
利用状況管理レポート	151
詳細な情報への掘り下げ	152
レポートのフィルタ	152
ダイナミック レポート グループの作成	155
7 オペレーション	157
インフラストラクチャ管理	158
サポート	158
ログ ファイルのダウンロード	158
Live Network	159
Live Network の自動更新のスケジュール	160
HP Live Network コンテンツを今すぐ更新する	161
更新の結果またはステータスの表示	162
データベース メンテナンス	162
ソフトウェア管理	163
ソフトウェア サービスのインポート	164
ソフトウェア サービスのエクスポート	165
ソフトウェア サービスの削除	166
[ソフトウェアの詳細] ウィンドウ ([操作] タブ)	166
アウトバンド管理	168
プロビジョニングと設定情報	168
DASH 設定関連ドキュメント	168

DASH 設定ユーティリティ	169
デバイス管理	169
グループ管理	170
警告の通知	171
パッチ管理	171
パッチ ライブラリの操作	172
パッチ サービスのインポート	172
パッチ サービスのエクスポート	173
パッチ サービスの削除	174
[パッチの詳細] ウィンドウ ([操作] タブ)	175
取得	176
同期を実行	179
取得履歴	179
OS 管理	180
OS サービスのインポート	181
OS サービスのエクスポート	182
OS サービスの削除	182
配布メディアの作成	182
[OS の詳細] ウィンドウ ([操作] タブ)	183
利用状況管理	184
収集フィルタ	184
利用状況収集フィルタの設定	185
利用状況条件の定義	186
設定管理	188
設定テンプレート	189
新規プロファイルの作成	189
既存のプロファイルの変更	190
プロファイルの削除	191
8 設定	193
ライセンス	194
アップストリーム ホスト	194
アクセス制御	195

Core コンソールのアクセス制御	195
[ユーザー] パネル	195
[ロール] パネル	197
Satellite コンソールのアクセス制御	198
設定	200
データ キャッシュ	201
インフラストラクチャ管理	202
プロキシ設定	202
SSL	203
SSL サーバー	203
SSL クライアント	204
データベース設定	204
Live Network	205
HP Live Network サーバーへの接続の設定	205
Live Network の設定のテスト	206
	208
Satellite 管理	208
Satellite Server	209
Satellite Server の考慮事項	210
Satellite Server の追加	211
Satellite Server の削除	212
Satellite Server コンポーネントの配布	212
Satellite Server コンポーネントの削除	214
[サーバーの詳細] ウィンドウ	214
Satellite Server の同期	216
サブネット ロケーション	218
新しいサブネット ロケーションの作成	219
Satellite Server へのサブネット ロケーションの割り当て	219
[サブネット ロケーションの詳細] ウィンドウ	220
デバイス管理	221
警告中	221
CMI	221
S.M.A.R.T.	222

Trusted Platform Module	223
パッチ管理	224
データベース設定	225
エージェント オプション	225
.....	229
アウトバンド管理	229
使用可能性	229
デバイス タイプの選択	230
DASH デバイス	230
vPro デバイス	230
両方	230
デバイス タイプの選択によって決まる設定および操作オプション	231
vPro システム保護の設定	231
OS 管理	233
設定	233
配布	234
配布動作の基本プロパティ	234
配布動作の詳細プロパティ	235
パーティション作成方法の基本プロパティ	236
パーティション作成方法の詳細プロパティ	238
利用状況管理	239
データベース設定	239
設定	240
ダッシュボード	240
HPCA 操作	241
パッチ管理	242
9 ウィザード	245
デバイスインポート ウィザード	246
エージェント配布ウィザード	247
エージェント削除ウィザード	248
ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード	249
パッチの適用状況探索ウィザード	250

電源管理ウィザード	251
グループ作成ウィザード	252
ソフトウェア配布ウィザード	255
設定プロファイル配布ウィザード	256
サービスインポートウィザード	259
サービスエクスポートウィザード	260
ソフトウェア同期ウィザード	261
パッチ配布ウィザード	261
サービス資格ウィザード	263
ソフトウェア削除ウィザード	263
OS 配布ウィザード	265
同じ OS をサイレントに再インストールする方法	272
アプリケーション利用状況収集ウィザード	272
利用状況収集フィルタ作成ウィザード	273
Satellite Server 配布ウィザード	274
Satellite Server 削除ウィザード	275
サブネットロケーション作成ウィザード	276
10 メタデータを使用したパッチ管理	279
概要	279
パッチゲートウェイの設定	283
Satellite での有効化	283
11 OS イメージの準備とキャプチャ	285
プロセスの概要	286
紹介	287
デスクトップ OS イメージの準備とキャプチャ	287
前提条件	288
OS Image Capture ツールについて	288
参照マシンの準備	290
Windows 7 または Windows Server 2008 R2 x64	290
Windows Vista または Windows Server 2008	292
OS イメージのキャプチャ	293
イメージオプション	294

要約.....	295
シンクライアント OS イメージの準備とキャプチャ.....	296
Windows XPe イメージおよび WES OS イメージ.....	296
Windows CE OS イメージ.....	300
Embedded Linux OS イメージ.....	303
OS イメージのパブリッシュおよび配布.....	308
Windows PE Service OS 画面について.....	308
12 パブリッシュ	311
ソフトウェアのパブリッシュ.....	313
Windows インストーラ ファイルのパブリッシュ.....	313
[コンポーネントの選択] を使用したパブリッシュ.....	315
オペレーティング システム イメージのパブリッシュ.....	317
.WIM イメージのパブリッシュの前提条件.....	319
DVD から直接パブリッシュする場合の前提条件.....	320
Windows セットアップの応答ファイルの指定.....	321
OS イメージのパブリッシュ.....	322
OS ADDON および追加 Production OS (POS) ドライバのパブリッシュ.....	325
前提条件.....	325
HP Softpaq のパブリッシュ.....	326
BIOS 設定のパブリッシュ.....	328
BIOS 設定ファイルの作成.....	329
パブリッシュされたサービスの表示.....	330
HP Client Automation Administrator Agent Explorer.....	330
13 Application Self-Service Manager の使用	331
Application Self-Service Manager へのアクセス.....	332
Application Self-Service Manager の概要.....	332
グローバル ツールバー.....	334
メニュー バー.....	334
カタログ リスト.....	335
仮想カタログ.....	335
サービス リスト.....	335
Application Self-Service Manager ユーザー インターフェイスの使用.....	336

ソフトウェアのインストール.....	337
カタログのリフレッシュ.....	338
情報の表示.....	338
ソフトウェアの削除.....	339
ソフトウェアの検証.....	340
ソフトウェアの修復.....	340
履歴の表示.....	340
バンド幅の調整.....	341
ステータスの表示.....	341
ユーザー インターフェイスのカスタマイズ.....	343
全般オプション.....	343
サービス リスト オプション.....	345
表示のカスタマイズ.....	346
接続オプション.....	348
HPCA System Tray アイコン.....	349
[HPCA ステータス] ウィンドウ.....	350
14 Personality Backup and Restore.....	353
要件.....	353
オペレーティング システム.....	354
ディスク容量.....	354
ソフトウェア.....	355
USMT について.....	355
サポートされるファイル、アプリケーション、および設定.....	356
Microsoft USMT 3.0.1 または 4.0 の入手とインストール.....	356
Microsoft USMT 3.0.1 の入手.....	357
Microsoft USMT 4.0 の入手.....	357
管理対象デバイスでの Microsoft USMT のインストール.....	357
移行ファイル.....	358
ルールの編集.....	358
Core Server への移行ルールの保存.....	358
ScanState コマンドラインと LoadState コマンドライン.....	359
Personality Backup and Restore の使用.....	360

HPCA Personality Backup and Restore Utility の使用.....	361
パーソナリティのバックアップ	361
パーソナリティの復元	363
コマンドライン インターフェイスの使用.....	365
Personality Backup and Restore サービスの使用	366
トラブルシューティング	367
バックアップまたは復元が正常に完了しなかった	367
ユーザーがパスワードを忘れたためデータを復元できない	367
15 よく寄せられる質問	369
HPCA Console にはどうやってアクセスしますか?.....	370
どのバージョンを使用しているかは、どのようにしてわかりますか?	370
コンソールのパスワードはどのようにして変更できますか?.....	370
自分の環境にあるデバイスの管理を始めるには、どのようにしますか?.....	371
インベントリの収集のスケジュール設定は、どのようにしますか?.....	371
管理対象デバイスのインベントリ情報は、どのようにして表示できますか?.....	372
パッチ取得はどのようにして自動化できますか?.....	372
パッチ適用状況探索スケジュールをどのようにして設定しますか?.....	373
管理対象デバイスすべてにソフトウェアを配布するには、どのようにしますか?.....	373
特定の Microsoft パッチを取得するには、どのようにしますか?.....	374
ライセンス キーはどのようにして更新しますか?.....	374
OS サービス パックの対象とするデバイスのグループをどのようにして作成しますか?	375
ソフトウェアをある 1 つのデバイスに配布するには、どのようにしますか?.....	375
コンソールを使用せずに HPCA Agent をインストールするには、どのようにしますか?	376
Windows インストーラ パッケージをパブリッシュするには、どのようにしますか?... ..	376
setup.exe をパブリッシュするには、どのようにしますか?.....	376
全デバイスがソフトウェアを受信したのは、どのようにしてわかりますか?.....	377
ソフトウェアをユーザーがインストールできるようにするには、どのようにしますか?	377
デバイス適用状況レポートを生成するには、どのようにしますか?.....	378
OS イメージをキャプチャするには、どのようにしますか?.....	378
OS イメージにドライバを追加するには、どのようにしますか?	378
OS イメージをパブリッシュするには、どのようにしますか?	379
OS イメージを配布するには、どのようにしますか?	379
利用状況データの収集を開始するには、どのようにしますか?.....	380

16	トラブルシューティング	381
	ログ ファイル	381
	エージェント配布の問題	383
	OS 配布の問題	384
	Application Self-Service Manager の問題	385
	電源管理の問題	385
	パッチ管理の問題	386
	HPCA Server のトラブルシューティング	386
	HPCA Core コンポーネントのトラブルシューティング	386
	HPCA Cpre の設定ファイル	387
	HPCA Core のログ ファイル	389
	ブラウザの問題	391
	F5 キーを使用してページをリフレッシュできない	391
	Internet Explorer 6 と SSL を使用して HTTP 1.1 を有効化できない	391
	リモート制御を使用するとブラウザでエラーが発生する	391
	ダッシュボードの問題	393
	ダッシュボード レイアウト設定の削除	393
	ダッシュボード ペイン読み込み状態が終了しない	393
	RSS クエリに失敗する	394
	その他の問題	395
	SQL Server データベースの設定の問題	395
	英語以外の環境でのレポート チャートの表示の問題	396
	レポートを開けない	396
	追加のパラメータが HPCA ジョブのウィザードで無視される	397
	仮想マシンが起動しない	398
	クエリが限界に達しました	398
A	HPCA Core Server と HPCA Satellite Server での SSL 設定	401
	SSL の構成要素	401
	HPCA 環境での SSL	402
	リモート サービスへの SSL 通信のサポート	402
	コンシューマへのセキュアな通信サービスの提供	402
	Console の SSL 証明書フィールド	403

SSL サーバー	403
SSL クライアント	404
B 2 バイト文字のサポートについて	405
サポートされる言語	405
ロケールの変更	406
Sysprep ファイルの 2 バイト文字サポート	406
C レポートのパフォーマンスの強化	407
ビューの使用	407
ユーティリティ スクリプト	408
Oracle 用のその他のスクリプト	409
D Windows 応答ファイルのカスタマイズ	411
unattend.xml ファイルのカスタマイズ	412
ProductKey	413
リテール版	413
ビジネス版	413
64 ビット プラットフォーム	414
TimeZone	415
RegisteredOwner および RegisteredOrganization	416
JoinDomain	416
MetaData	418
HPCA OS Manager での XML ファイルの処理	419
.subs ファイルおよび .xml ファイルについて	421
置き換えの例	422
E Windows XP および Windows Server 2003 の OS イメージのキャプチャ	425
HPCA Image Preparation Wizard について	425
Image Preparation Wizard の終了ポイント	427
イメージのキャプチャの前提条件	427
参照マシンの準備	428
Windows AIK のインストール	430
Sysprep のインストールおよび設定	430
OS イメージのキャプチャ	433

Image Capture Wizard を使用したイメージのキャプチャ	433
無人モードでの Image Preparation Wizard を使用したイメージのキャプチャ	439
Windows Native Install Packager を使用した配布用のイメージのキャプチャ	442
タスク 1: 参照マシンの準備	442
タスク 2: unattend.txt の作成	444
タスク 3: HPCA Windows Native Install Packager のインストール	445
タスク 4: HPCA Windows Native Install Packager の実行	445
OS イメージのパブリッシュおよび配布	448
F カスタム Windows PE Service OS のビルド	449
カスタム ビルド スクリプトについて	450
前提条件	451
プロセスの知識	451
Administrator マシン	451
メディア	452
ファイルとディレクトリ	452
他の言語のサポート	453
高度なオプション	453
Windows PE Service OS へのドライバの追加	454
カスタム Windows PE Service OS のビルド	455
スクリプトの取得	455
スクリプトの実行	456
その他の情報	460
カスタマイズした build.config ファイルの使用 (高度なオプション)	461
索引	463

1 紹介

HP Client Automation Enterprise は、PC ソフトウェア設定管理ソリューションです。OS イメージの配布、パッチの管理、リモート コントロール、HP ハードウェアのドライバや BIOS の更新、およびソフトウェアの配布と利用状況の測定などのソフトウェアおよび HP ハードウェア管理機能すべてを、Web ベースの統合コンソールから提供します。

このマニュアルについて

このガイドでは、HP Client Automation コンソール、Publisher、Application Self-Service Manager、および Image Preparation Wizard を使用するための詳細な情報を提供し、手順について説明します。

HPCA Core および Satellites サーバーのインストールと初期設定の要件および方法については、『HP Client Automation Core および Satellite 入門およびコンセプト ガイド』を参照してください。

HPCA のドキュメント

メディアに収録されている HP Client Automation のドキュメントは、Core インストール時にもインストールされます。これらは PDF 形式のドキュメントで、Windows の [スタート] メニューやデスクトップのショートカット リンクからアクセスするか、Core Server マシンにアクセスできる任意のデバイスからブラウザを使用してアクセスできます (URL: http://HPCA_Host:3466/docs (HPCA_Host は HPCA がインストールされているサーバー名))。

略語と変数

表 1 このガイドで使われている略語

略語	定義
HPCA	HP Client Automation
Classic	個別のサーバー コンポーネント (Core や Satellite 以外) からインストールされた従来の HPCA Enterprise 環境
Core および Satellite	1 つの Core Server と 0 以上の Satellite Server で構成される HPCA Enterprise 環境。すべての機能が Core Server または Satellite Server の一部としてインストールされます。
CSDB	Configuration Server Database
Portal	HPCA Portal (以前の Management Portal)

表 2 このガイドで使われている変数

変数	説明	デフォルト値
<i>InstallDir</i>	HPCA Server がインストールされる場所	従来の HPCA Enterprise インストールの場合 : C:\Program Files\Hewlett-Packard\CM Core および Satellite インストールの場合 : C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA
<i>SystemDrive</i>	HPCA Server のインストール先のドライブのドライブラベル	C:



このマニュアルは、ユーザーが HPCA Core インストールと Satellite インストールを使用していることを前提としています。

HPCA Classic インストールがある場合は、HPCA コンポーネントが使用するさまざまなファイルおよびフォルダへのパスが異なります。正しいパスについては、次のフォルダにある各コンポーネントガイドを参照してください。

InstallDir\Docs\Enterprise\Reference Library

2 はじめに

HPCA のインストールと設定が完了し、Web ベースの HPCA Console (コンソール) を使用してお使いの環境のクライアント マシンの管理を始める準備ができました。

この章では、HPCA を使用して企業内のクライアント マシンの管理を始める前に、完了しておく必要のある重要なタスクについて説明します。

- 27 ページの「Web ベースの HPCA Console へのアクセス」
- 28 ページの「クイック スタート タスク」

Web ベースの HPCA Console へのアクセス

HPCA Server にはコンソールが付属しており、そこからさまざまな管理タスクや設定タスクを実行できます。これらのタスクの詳細については、157 ページの「オペレーション」および 193 ページの「設定」を参照してください。

HPCA Console は、次の 3 つの方法のいずれかを使用して起動およびアクセスすることができます。

- サーバーがインストールされているマシンで、[HP Client Automation Console] デスクトップ アイコンをダブルクリックします。
- HPCA Server がインストールされたマシンで、Windows の [スタート] メニュー パスに移動します。

[HP Client Automation] > [Client Automation コンソール]

- 環境内の任意のデバイスで Web ブラウザを開き、次の URL に移動します。

`http://HPCA_host:3466/`

ここで、`HPCA_host` は、HPCA がインストールされているサーバーの名前です。

どの方法でも **HPCA Console** が起動され、ログイン認証情報の入力を求めるメッセージが表示されます。

入力を求めるメッセージが表示されたら、ユーザー名とパスワードを指定し、**[サインイン]** をクリックします。デフォルトのユーザー名は **admin**、デフォルトのパスワードは **secret** です。

デフォルトのユーザー名とパスワードの変更方法、コンソールへのアクセス権限リストにユーザーを追加する方法については、**193** ページの「**設定**」を参照してください。セキュアな通信のためにコンソールで **SSL** を有効にする方法については、**203** ページの「**SSL**」を参照してください。

重要

- ウィザードを実行したり警告を表示するときに、**HPCA Console** が別のブラウザインスタンスを開く場合があります。これらのウィザードや警告にアクセスするには、ブラウザのポップアップブロック設定で **[許可されたサイト]** に **HPCA** を指定します。
- セキュリティのため、**HPCA** では、**20** 分間操作を行わないと、自動的に現在のユーザーがログアウトされます。コンソールの使用を続けるには、再度ログインする必要があります。
- コンソールの **[レポート]** セクションのグラフィカル レポートを表示するには、**Java Runtime** または **Java Virtual Machine** が必要です。**Java** は、<http://java.com/en/index.jsp> からインストールできます。
- **Windows 2003 Server:** **Windows 2003 Server** オペレーティング システムがインストールされたデバイスで **HPCA** にローカル アクセスできるようにするには、ローカル エリア ネットワーク (**LAN**) の設定で **[ローカル アドレスにはプロキシ サーバーを使用しない]** を有効にする必要があります。

クイック スタート タスク

この章では、環境を素早くセットアップし、すぐに **HPCA** を使用してクライアント デバイスを管理できるようにする一連のタスクについて説明します。その他にも管理、レポート、パッチ管理、配布、および操作機能を使用できますが、これらの初期クイック スタート タスクは、ユーザーが **HPCA** の機能を知り、インストール後、できるだけ早く使用を開始できるようにすることを目的に設計されています。

次のクイック スタート タスクがあります。これらのタスクは、説明された順序に沿って実行する必要があります。

30 ページの「**タスク 1: デバイスのインポート**」

クライアント デバイスを HPCA 環境にインポートして、デバイスが HPCA Server に認識されるようにします。

31 ページの「[タスク 2: HPCA Agent の配布](#)」

HPCA Agent をクライアント デバイスに配布およびインストールして、HPCA で制御できるようにします。

31 ページの「[タスク 3: スケジュールの設定](#)」

インベントリ確認やパッチ管理のスケジュールを設定します。

32 ページの「[タスク 4: ソフトウェアのパブリッシュとパッチの取得](#)」

HPCA の管理対象デバイスへの配布用にソフトウェア パッケージを準備し、パッチ取得スケジュールに従って自動的にパッチをダウンロードします。ソフトウェア パッケージとパッチは、それぞれのライブラリに格納されます。

33 ページの「[タスク 5: グループの作成](#)」

ソフトウェアとパッチを効率よく配布するために、ターゲット デバイスのグループを作成します。

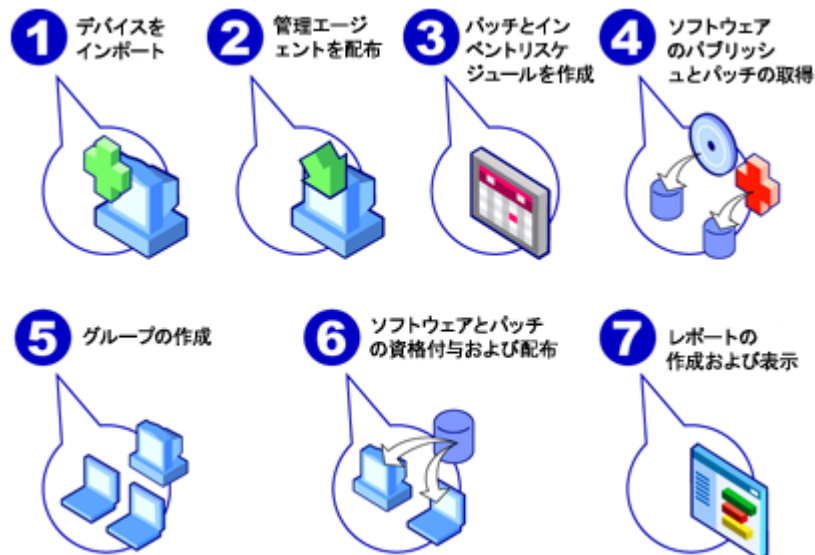
34 ページの「[タスク 6: ソフトウェアまたはパッチの付与と配布](#)」

ユーザーとデバイスにソフトウェア パッケージを付与することで、ユーザーがいくつかのソフトウェアをダウンロードするかを選択できるようになります。通常、パッチはユーザーの介入や認識なしにダウンロードされます。

35 ページの「[タスク 7: レポートの生成と表示](#)」

印刷および配布が可能なレポートを生成および表示します。レポートは、カスタマイズ可能で、HPCA 管理対象デバイスに関するさまざまな情報に基づいています。

図1 クイック スタート タスクの概要



タスク 1: デバイスのインポート

使用環境にある HPCA の管理対象デバイスを (HPCA に) インポートする必要があります。これにより、それらのデバイスが HPCA によって認識されるため、インベントリ情報を収集したり、ソフトウェアやパッチを配布したりできるようになります。

- 1 [管理] タブで、[デバイス管理]、[全般] タブの順に選択し、[インポート] をクリックして **デバイス インポート ウィザード** を起動します。
- 2 ウィザードの手順に従って、デバイスをインポートします。

▶ ほとんどのタスクは、[現在のジョブ] タブおよび [過去のジョブ] タブまたは [ジョブ管理] セクションで監視できるジョブを生成します。

デバイスがインポートされたら、**タスク 2: HPCA Agent の配布** に進んでソフトウェア、パッチ、およびインベントリの管理を行います。

タスク 2: HPCA Agent の配布

デバイスがインポートされたら、HPCA Agent を配布します。

- 1 [管理] タブで、[デバイス管理]、[全般] タブの順に選択し、[配布] をクリックしてエージェント配布ウィザードを起動します。
- 2 ウィザードの手順に従って、インポートしたデバイスに HPCA Agent を配布します。



Windows Vista に関する注意事項

ローカルに定義された管理者に対しては、Windows Vista デバイスの管理共有 (C\$) へのアクセスは無効にされています。このため、Windows Vista デバイスはドメインの一部である必要があり、そのドメインの管理者の認証情報を、HPCA Console を通じて HPCA Agent の配布中に指定する必要があります。

デバイスがドメインの一部でない場合、ローカルの管理者にアクセスを許可するために、追加の手順を実行する必要があります (Microsoft サポート技術情報の記事、「[Error message when you try to access an administrative share on a Windows Vista-based computer](#)」に詳しく解説されています)。


これらの変更が終了したら、デバイスを再起動します。

これでデバイスの管理を開始できました。タスク 3: スケジュールの設定に進んで、インベントリの収集、パッチの適用状況スキャン、およびパッチの取得を行います。

タスク 3: スケジュールの設定

インベントリおよびパッチ取得のスケジュールを開始するには、ソフトウェア / ハードウェア インベントリ ウィザードと [設定] タブを使用します。

インベントリ スケジュールを設定するには


- 1 [デバイス管理] 領域の [デバイス] タブで、デバイスの左側にあるチェックボックスをオンにして、1 つ以上のデバイスを選択します。
- 2 [インベントリの収集]  をクリックし、[ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索] を選択して、ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザードを起動します。

- 3 249 ページの「ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード」の手順に従って、デバイスとグループについてソフトウェアおよびハードウェアのインベントリ収集を定義します。


パッチ取得のスケジューリングおよび設定を行うには

[操作] タブの [パッチ管理] セクションを使用して、パッチ取得の設定およびスケジュールを設定します。

- 1 [パッチ管理] セクションを展開し、[取得] をクリックします。
- 2 [スケジュール] タブを使用して、パッチ取得のスケジュールを指定します。
- 3 [設定] タブで、必要な Microsoft ブリティンと HP SoftPaq 取得の設定を指定します。

 メタデータを使用したパッチ管理は、デフォルトで Microsoft パッチで有効になっています。この機能によって、パッチを取得するためにかかる時間や Core Configuration Server に対する全体的な負荷が削減されます。詳細については、第 10 章、「メタデータを使用したパッチ管理」を参照してください。

パッチ適用状況探索スケジュールを設定するには

- 1 [デバイス管理] 領域の [デバイス] タブで、デバイスの左側にあるチェックボックスをオンにして、1 つ以上のデバイスを選択します。
- 2 [インベントリの収集]  をクリックし、[パッチの適用状況の探索] を選択して、パッチの適用状況探索ウィザードを起動します。
- 3 ウィザードの手順に従って、該当するデバイスとグループに対するパッチ適用状況スケジュールを作成します。

スケジュールを設定したら、タスク 4: ソフトウェアのパブリッシュとパッチの取得に進みます。

タスク 4: ソフトウェアのパブリッシュとパッチの取得

管理対象のデバイスにソフトウェアやパッチを配布する前に、ソフトウェア ライブラリおよびパッチ ライブラリにソフトウェアやパッチを格納する必要があります。

- 1 ソフトウェアを HPCA データベースにパブリッシュするには、Publisher を使用します。

- ソフトウェア サービスの設定およびパブリッシュを行う側のマシンで **Publisher** を起動します。詳細については、**Publisher** のオンラインヘルプ、または 311 ページの「**パブリッシュ**」を参照してください。

▶ **Starter** ライセンスには、**HP SoftPaq** および **BIOS** 設定をパブリッシュするためのオプションが含まれます。また、シンクライアントに限り、ソフトウェアおよび **OS** イメージをパブリッシュするオプションが含まれます。

Standard ライセンスには、ソフトウェアおよびオペレーティングシステムイメージをパブリッシュするためのオプションに加え、これらのオプションが含まれます。

- 2 **HP** または **Microsoft** からパッチを取得して、パッチライブラリに格納します。

- [管理] タブの [パッチ管理] セクションにある [全般] タブで、**[取得]** をクリックします。パッチがダウンロードされ、パッチライブラリに追加されます。パッチは、前の手順、31 ページの「**タスク 3: スケジュールの設定**」で設定した取得スケジュールに従って、自動的にダウンロードされます。

▶ パフォーマンスの問題を避けるため、最初は、パッチを評価用の非実運用環境にある **HPCA Server** に取得します。

各ライブラリでソフトウェアおよびパッチが利用可能になったら、**タスク 5: グループの作成**に進み、配布用のソフトウェアおよびパッチを付与します。

タスク 5: グループの作成

ソフトウェアまたはパッチを配布するには、ターゲット デバイスを含むグループを作成してから、ソフトウェアまたはパッチをそのグループに付与する必要があります。

- [グループ管理] の [全般] タブで、**[新しいスタティック グループの作成]** をクリックします。**グループ作成ウィザード**が起動します。ウィザードの手順に従って、静的グループを作成します。

HPCA では、発見されたデバイス（探索グループ）または選択されたインベントリ条件（レポートグループ）に基づいて、動的デバイスグループも必要に応じてサポートされます。これらのグループは、グループ作成ウィザードを使用しても作成できます。詳細については、90 ページの「**グループ管理**」を参照してください。

グループが作成されたら、**タスク 6: ソフトウェアまたはパッチの付与と配布**に進み、そのグループのデバイスに付与します。



タスク 6: ソフトウェアまたはパッチの付与と配布

[グループ管理] 領域の [グループ] タブで、グループの表示名をクリックして [グループの詳細] ウィンドウを開きます。ここで、ソフトウェアまたはパッチの付与および配布ができます。

- ▶ ソフトウェアおよびパッチを配布するには、**HP Client Automation Standard** が必要です。**HP Client Automation Starter** では、BIOS 設定および **HP Softpaq** の配布ができます。


ソフトウェアの付与および配布を行うには


ソフトウェアの付与と配布を行うには、[グループの詳細] の [ソフトウェア] タブを使用します。

- 1 **[ソフトウェア資格の追加]**  をクリックして、ソフトウェア サービスを選択し、そのグループで利用できるようにします。付与されたソフトウェアは、[ソフトウェア] タブの [ソフトウェア資格] テーブルに表示され、**Application Self-Service Manager** のエンド ユーザーから利用できるようになりますが、自動的に配布されることはありません。これにより、管理対象ソフトウェア カタログを作成できるため、ユーザーは、どの追加のソフトウェア サービスをいつ配布するかを決定できます。
- 2 ソフトウェアを配布するには、配布するソフトウェアを選択して、**[ソフトウェアの配布]**  ボタンをクリックします。ソフトウェア配布ウィザードが開きます。ウィザードの手順に従って、そのグループのデバイスにソフトウェアを配布します。配布されたソフトウェアは、エンド ユーザーのデバイスに自動的にインストールされます。

パッチの付与および配布を行うには

[グループの詳細] の [パッチ] タブを使用して、パッチの付与と配布を行います。

- 1 **[パッチ資格の追加]**  をクリックして、パッチを選択し、そのグループで利用できるようにします。付与したパッチが、[パッチ資格] テーブルに表示されます。

- パッチを配布するには、配布するパッチを選択して、[**パッチの配布**]  ボタンをクリックします。 **パッチ配布ウィザード**が開きます。ウィザードの手順に従って、そのグループのデバイスにパッチを配布します。

▶ パッチの適用状況の強制は、 **パッチ配布ウィザード**を使用して設定できます。

▶ 付与したパッチは、 **Application Self-Service Manager** カタログに表示されません。


HPCA を使用して、ソフトウェアおよびパッチの配布を行いました。次に、 **タスク 7: レポートの生成と表示**セクションの手順に従って、レポートの作成について学びます。

タスク 7: レポートの生成と表示

管理対象デバイスの情報に基づいて、レポートの生成と表示を行うには、[**レポート**] タブを使用します。

- 手早くレポートの例を生成するには、[**インベントリ情報**] 領域の [**管理対象デバイスを表示**] をクリックして、HPCA Agent がインストールされている全デバイスのリストを表示します。

デバイスのリストが作成されると、左のオプションを使用して、またはデバイスカラムの詳細のいずれかをクリックして、追加のフィルタを適用できます。

- レポートが生成されたら、[**新しいダイナミック レポート グループの作成**]  をクリックして、そのレポートにデバイスの動的グループを作成します。 **グループ作成ウィザード**が起動します。ウィザードの手順に従って、レポートグループを作成します。

3 ダッシュボードの使用

ダッシュボードを使用すると、お使いの環境のステータスをさまざまな方法で迅速に評価できます。ダッシュボードでは、[レポート]領域における特定のタイプの情報が視覚的に表現されます。保有している HPCA ライセンスのタイプによって、特定のダッシュボードが使用できます。この章のは、次の各トピックで構成されています。

- 38 ページの「ダッシュボードの概要」
- 42 ページの「HPCA 操作ダッシュボード」
- 48 ページの「パッチ管理ダッシュボード」

ダッシュボードの概要

HPCA Console には、企業内のステータスの概要を簡単に表示および評価できるダッシュボードが含まれます。

- 42 ページの「**HPCA 操作ダッシュボード**」には、HPCA インフラストラクチャで行われた作業の量が表示されます。
- 48 ページの「**パッチ管理ダッシュボード**」には、ネットワーク内のデバイスで検出されたパッチ脆弱性に関する情報が表示されます。


各ダッシュボードにはそれぞれ 2 つのビューがあります。

表 3 **ダッシュボードのビューのタイプ**

タイプ	説明
エグゼクティブ ビュー	マネージャを対象とした高レベルの要約情報です。企業の履歴情報などが含まれます。
操作ビュー	日常業務に HPCA を使用する一般ユーザーを対象とした詳細情報です。特定デバイス、サブネット、脆弱性、および特定の適応状況またはセキュリティツールの問題に関する情報が含まれています。

各ビューには数多くの情報ペインがあります。HPCA を設定して、これらのペインをすべて表示したり一部を表示したりできます。詳細については、240 ページの「**ダッシュボード**」を参照してください。

各ダッシュボードには、統計の要約と関連レポートへのリンクが掲載されたホーム ページが含まれます。これらのリンクのいずれかをクリックすると、別のブラウザ ウィンドウが開き、によりレポートが表示されます。

大部分のダッシュボード ペインでは、情報をグラフまたはグリッド形式で表示できます。グリッド表示では、現在のソートパラメータがカラム見出し内で  アイコンで表示されます。ソートパラメータを変更するには、別のカラム見出しをクリックします。ソート順を逆にするには、カラム見出しを再度クリックします。カラムを移動するには、カラム見出しセルの背景部分をクリックして、カラムを移動先までドラッグします。

大部分のダッシュボード ペインでは、棒グラフまたは円グラフの色分けされた領域や線グラフのデータ ポイントにカーソルを置くと、詳細情報が表示されます。また、大部分のペインでは、レポートを掘り下げてより詳細な情報を得ることができます。

各ペインの左下隅のタイム スタンプは、その情報の取得元からの最新のリフレッシュ日時を示しています。

図 2 タイム スタンプ



ダッシュボード ペインでは、現地のタイム ゾーンを使用して日時が表示されます。[レポート] タブで利用可能なレポートでは、デフォルトでグリニッジ標準時 (GMT) が使用されます。ただし、個々のレポート パックでは、GMT または現地時間のどちらかを使用するかを設定できます。

ダッシュボード ペインでは、次のアクションを実行できます。

表 4 ダッシュボード ペインのアクション












アイコン	説明
	情報をグラフ形式で表示します。
	情報をグリッド形式で表示します。
	該当グラフの凡例を表示します。
	データの取得元からデータをリフレッシュします。個々のペインのデータをリフレッシュするには、それぞれのペインのリフレッシュ アイコンをクリックします。すべてのペインをリフレッシュするには、ダッシュボードの右上隅のリフレッシュ アイコンをクリックします。 HPCA Console セッションがタイムアウトした場合、ダッシュボードのペインは自動的にリフレッシュされません。データベースから最新の情報を取得するには、再度サインインしてから手動で各ペインをリフレッシュする必要があります。
	ダッシュボード内のすべてのペインの表示を出荷時の設定にリセットします。

表 4 ダッシュボード ペインのアクション

アイコン	説明
	HPCA データが含まれているペインについて、対応するレポートを表示します。外部 Web サイトまたは RSS フィードからの情報が含まれているペインの場合は、情報元の Web サイトに移動します。
	「クイック ヘルプ」ボックスまたはツール チップが開きます。このボタンを 1 回クリックすると、該当ダッシュボード ペインの簡単な説明が表示されます。再度クリックすると、クイック ヘルプ テキストが非表示になります。
	該当ペインに関する状況に応じたオンライン ヘルプ トピックが開きます。このコントロールは、クイック ヘルプ テキストが表示されている場合にのみ使用できます。
	ダッシュボード ペインを最小化します。
	ダッシュボード ペインを最大化します。
	最大化されたペインを元のサイズに戻します。

あるダッシュボード ペインを最小化すると、その他のペインはダッシュボードのウィンドウに合うようにサイズが拡大します。同様に、あるダッシュボード ペインを最大化すると、その他のペインは下に隠れます。最小化されたペインを元に戻すには、ダッシュボードの下部にあるペインの名前が表示されたグレーのボタンをクリックします。この例では、24 時間のサービス イベント ペインが最小化されています。

図 3 ダッシュボード ペインを復元するボタン

24 時間のサービスイ...

ペインをドラッグ アンド ドロップして、ダッシュボード ウィンドウ内でペインの配置を変更できます。ただし、ダッシュボードの外にはドラッグできません。

ダッシュボード内の各ペインのサイズや配置を変更して外観をカスタマイズした場合、または 1 つ以上のペインのグラフとグリッドのビューを切り替えた場合、このカスタマイズは次回 HPCA Console にサインインした場合にも適用されます。ダッシュボードのレイアウト設定は、お使いのコンピュータのローカルフ

ラッシュ共有オブジェクト (ブラウザ **cookie** など) として格納されます。この設定は、明示的に削除しない限り保存されます。詳細については、**393** ページの「[ダッシュボード レイアウト設定の削除](#)」を参照してください。



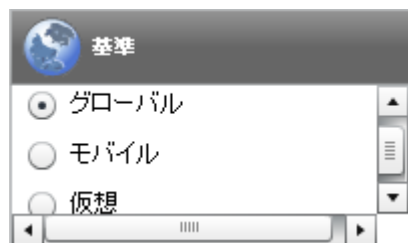
いずれかのダッシュボードの表示中に **F5** ファンクション キーを押すと、ブラウザが **HPCA Console** を再度読み込んだ後にそのダッシュボードのページに戻ります。

ダッシュボード デバイス

デバイスにより、特定のタイプのデバイスに対してダッシュボードの各ペインに表示される情報を制限できます。デフォルトでは次の **3** 種類のデバイスが使用可能です。

- グローバル – すべてのデバイス (フィルタは適用されません)。
- モバイル – ラップトップやその他のモバイル コンピューティング デバイスです。これには、次のシャードタイプのすべてのデバイスが含まれます。
 - ポータブル
 - ラップトップ
 - ノートブック
 - ハンドヘルド
 - サブ ノートブック
- 仮想 – 仮想デバイスです。これには、ベンダーおよびモデルのプロパティが **VMware** または **Xen (Citrix を含む)** であるすべてのデバイスが含まれます。

の「[カスタム ダッシュボード デバイスとフィルタの追加](#)」デバイスを適用するには、コンソールの左上隅の [基準] ボックスでデバイスを選択します。



表示されるデータの特性により、一部のダッシュボード ペインでは、デバイスの設定が適用されません。[モバイル]または[仮想]デバイスを選択した場合、これらが適用されないペインの上部に、次の強調表示のメッセージが表示されます。

フィルタまたはデバイスが適用できません

また、デバイスの設定が適用されないペインは外枠がオレンジ色になります。

デバイスを選択すると、HPCA Console 内のすべてのダッシュボード ペインに設定が適用されますが、例外として上記の「フィルタまたはデバイスが適用できません」が表示されたペインには適用されません。デバイスは個別のダッシュボード ペインには適用できません。

HPCA 操作ダッシュボード

このダッシュボードには、企業内の HPCA インフラストラクチャで行われる作業が表示されます。表示されるのは次の 3 点です。

- HPCA クライアント接続の数
- 発生したサービス イベント (インストール、アンインストール、更新、修復および検証) の数
- HPCA で実行された操作のタイプ (OS、セキュリティ、パッチまたはアプリケーション)

また、2 つの期間のクライアント接続およびサービス イベントの指標が表示されます。エグゼクティブ ビューには、最新の 12 か月が表示されます。[操作] ビューには、最新の 24 時間が表示されます。どちらのビューにも、次の情報ペインが含まれます。

43 ページの「[クライアント接続](#)」

44 ページの「[サービス イベント](#)」

エグゼクティブ ビューには、次のペインも含まれます。

46 ページの「[ドメイン別 12 か月サービス イベント](#)」

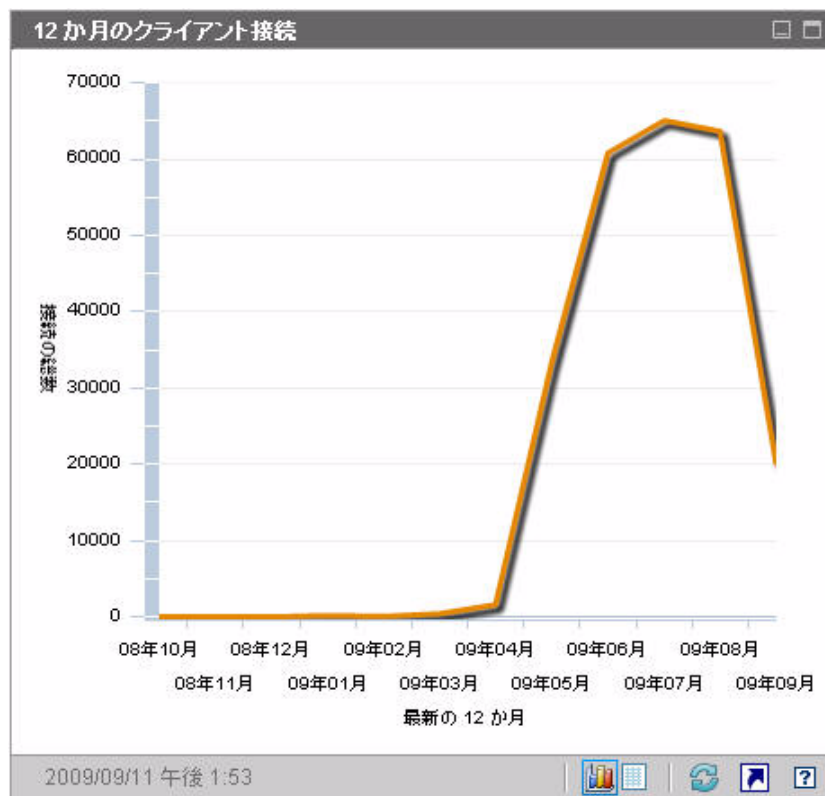
デフォルトではこれらのペインがすべて表示されます。ダッシュボードでは、これらの任意のペインの表示/非表示を切り替えることができます。240 ページの「ダッシュボード」を参照してください。

- ▶ 左側のナビゲーション ペインの [HPCA 操作] をクリックすると、[HPCA 操作] ホームページが表示されます。このページには統計と関連レポートへのリンクが掲載されています。

クライアント接続

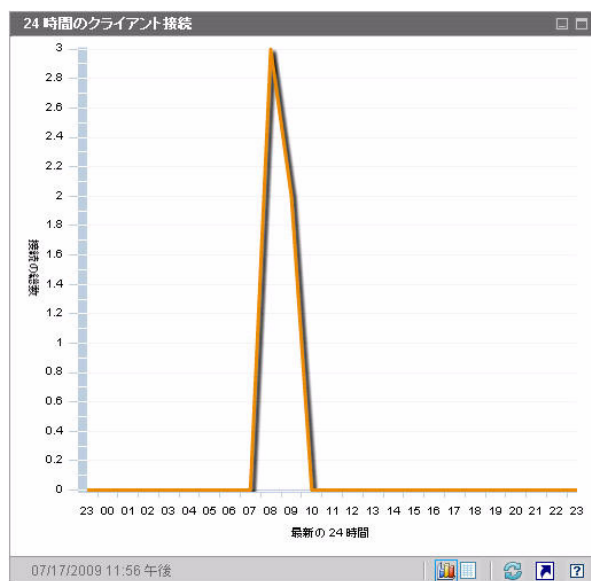
このペインのグラフ表示には、過去 12 か月（エグゼクティブ ビュー）または 24 時間（操作ビュー）に発生した HPCA Agent クライアント接続の数が表示されます。データ ポイントの上にカーソルを置くと、その月または時間の合計接続数が表示されます。

図 4 12 か月のクライアント接続



このペインのグリッド表示では、過去 12 か月の各月に完了したクライアント接続の合計数がリストされます。

図 5 24 時間のクライアント接続



▶ ダッシュボード ペインでは、現地のタイムゾーンを使用して日時が表示されます。[レポート] タブで利用可能なレポートでは、デフォルトでグリニッジ標準時 (GMT) が使用されます。ただし、個々のレポートパックでは、GMT または現地時間のどちらを使用するかを設定できます。

このペインのグリッド表示では、過去 24 時間の各時間帯に完了したクライアント接続の数がリストされます。

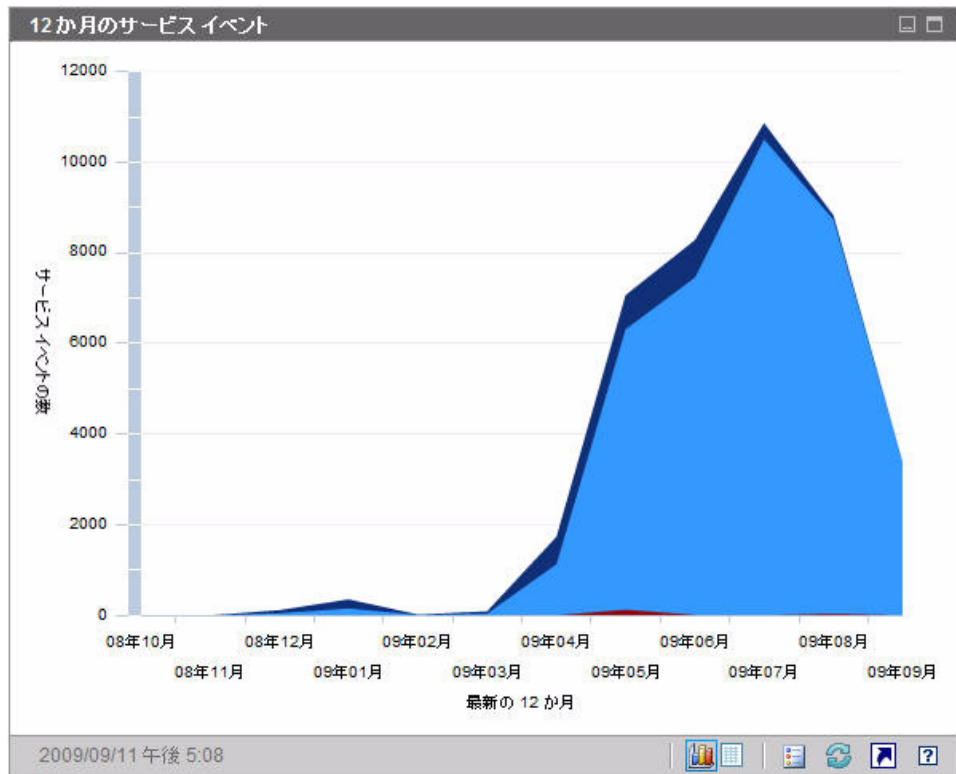
サービス イベント

このペインのグラフ表示では、過去 12 か月 (エグゼクティブ ビュー) または 24 時間 (操作ビュー) に企業のクライアント デバイスにおいて HPCA で完了したサービス イベントの数が表示されます。これらのサービス イベントには、HPCA により次の作業が行われたアプリケーションの数が含まれます。

- インストール済み
- アンインストール済み
- 更新済み
- 修復済み
- 検証済み

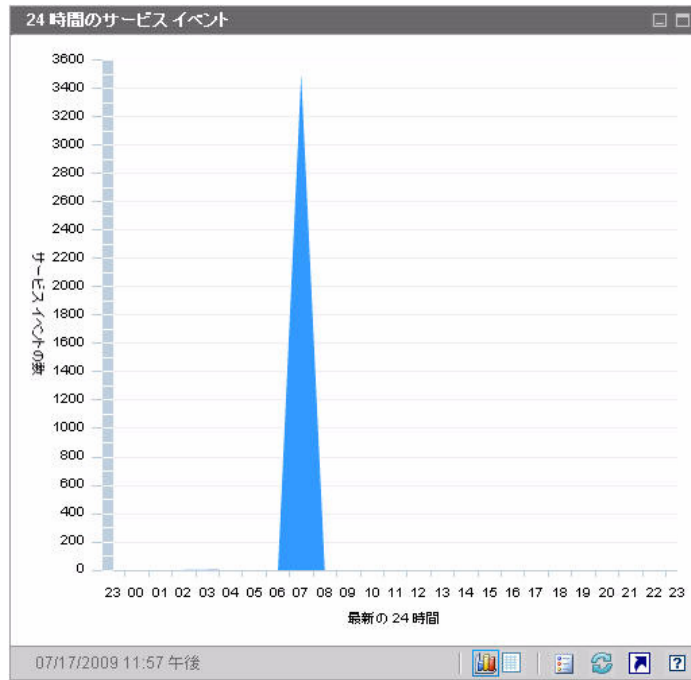
データ ポイントの上にカーソルを置くと、特定の月または時間に完了したサービス イベント数が表示されます。

図 6 12 か月のサービス イベント



このペインのグリッド表示では、過去 12 か月の各月に HPCA で完了した各種 サービス イベントの数がリストされます。

図 7 24 時間のサービス イベント



ダッシュボード ペインでは、現地のタイム ゾーンを使用して日時が表示されます。[レポート] タブで利用可能なレポートでは、デフォルトでグリニッジ標準時 (GMT) が使用されます。ただし、個々のレポート パックでは、GMT または現地時間のどちらかを使用するかを設定できます。

このペインのグリッド表示では、過去 24 時間の各時間帯に HPCA により開始された各種サービス イベントの数がリストされます。

ドメイン別 12 か月サービス イベント

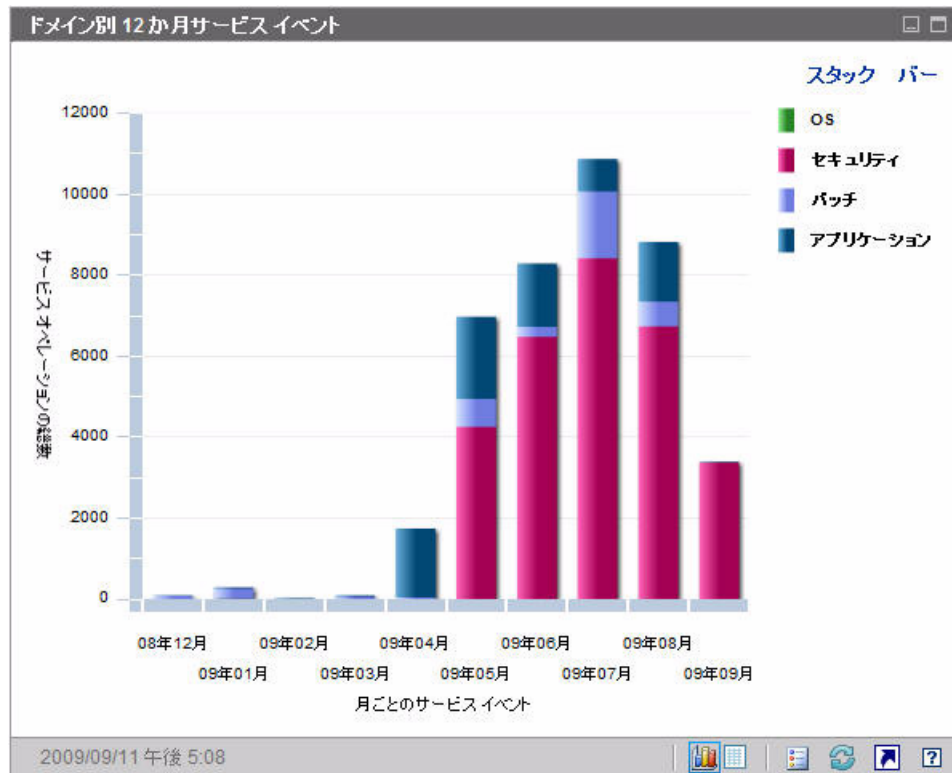
このペインのグラフ表示では、過去 12 か月の各月に HPCA により実行された次のサービスの数が表示されます。

- オペレーティング システム (OS) の操作
- セキュリティ操作
- パッチ操作

- アプリケーション操作

取得可能なデータが 12 か月以下の場合、このグラフに表示されるバーの数は少なくなります。

図 8 ドメイン別 12 か月サービス イベント



このグラフには、2 とおりのデータ表示方法があります。

- スタック –異なるタイプのサービス イベントが、各月に対応した単一のバー内に垂直にスタックされます(図示)。
- バー –月ごとに各タイプのサービス イベントが個別のバーで表示されます。

グリッド表示では、過去 12 か月の各月に HPCA により実行された各種サービスの数がリストされます。

パッチ管理ダッシュボード

パッチ管理ダッシュボードには、ネットワーク内の管理対象デバイスで検出された任意のパッチ脆弱性に関する情報が表示されます。

パッチ管理ダッシュボードのエグゼクティブビューには、次の2つの情報ペインがあります。

- 48 ページの「ステータス別デバイス適用状況」
- 50 ページの「ブリティン別デバイス適用状況」

操作ビューには、次の情報ペインがあります。

- 52 ページの「ステータス別デバイス適用状況」
- 53 ページの「Microsoft セキュリティブリティン」
- 54 ページの「最も脆弱性の高い製品」

ダッシュボードでは、これらの任意のペインの表示 / 非表示を切り替えることができます。240 ページの「ダッシュボード」を参照してください。



[ホーム] タブの左側のナビゲーションペインで [パッチ管理] をクリックすると、パッチ管理のホーム ページが表示されます。このページには統計と関連レポートへのリンクが掲載されています。

ステータス別デバイス適用状況

このペインのグラフ表示には、パッチポリシーに現在適合しているネットワーク内のデバイスのパーセンテージが表示されます。円グラフ内の色付きの扇形は、次の状態を表します。

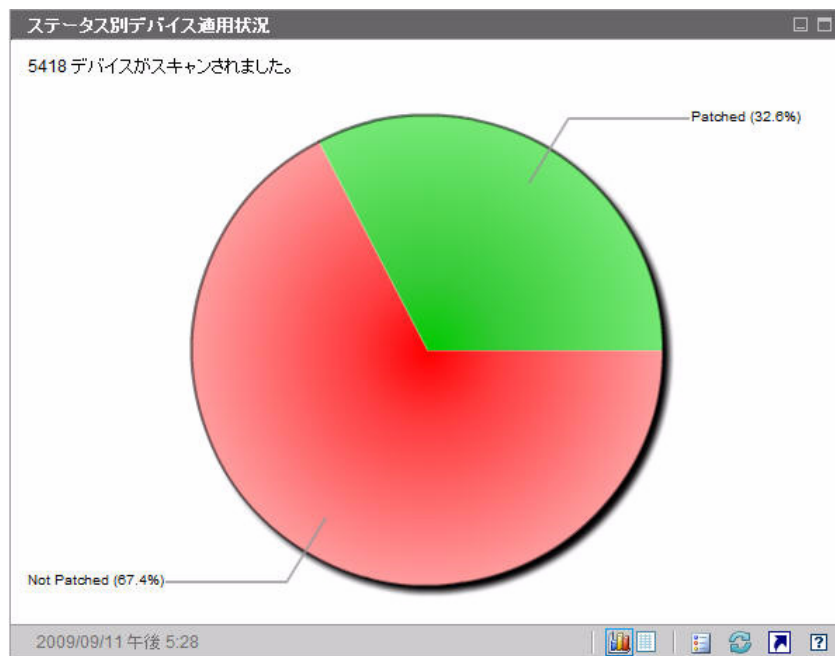
- パッチ適用済み (緑)
- パッチ未適用 (赤)

52 ページの「ステータス別デバイス適用状況」に似ていますが、このビューにはさらに詳しい情報が表示されます。

表 5 ステータス別デバイス適用状況ビュー

エグゼクティブ ビュー	操作ビュー
パッチ適用済み	パッチ適用済み 警告
パッチ未適用	パッチ未適用 再起動の保留 その他

図 9 ステータス別デバイス適用状況



特定のカテゴリのデバイス数を表示するには、カーソルを円グラフの色付き部に移動します。

円グラフ内の色付きの扇形をクリックすると、新しいブラウザ ウィンドウが開き、フィルタされたレポートが表示されます。レポートには、クリックした扇形に対応するパッチ適用状況ステータスのすべてのデバイスが表示されます。

このペインのグリッド表示には、円グラフに表示されているそれぞれの適用状況にあるネットワーク デバイスの数が表示されます。

ブリティン別デバイス適用状況

このペインのグラフ表示には、ネットワーク内で最大数のデバイスに影響するパッチ脆弱性が **10** 種類表示されます。垂直軸には、これらの脆弱性についてのパッチ ブリティン番号の一覧が表示されます。水平軸は影響を受けたデバイスの数を表し、対数尺度を使用します。



特定のブリティンが **1** つのデバイスにのみ影響する場合、グラフ表示にそのブリティンのデータは表示されません。これは、対数目盛りの既知の制限です。ただし、グリッド表示ではデータが表示されます。

ブリティンの名前と影響を受けるデバイスの数を表示するには、カーソルを色付きのいずれかの棒上に合わせます。

図 10 ブリテン別デバイス適用状況



グラフの色付き棒の 1 つをクリックすると、新しいブラウザ ウィンドウが開き、フィルタされたレポートが表示されます。このレポートには、このパッチ脆弱性を持つ管理対象デバイスが表示されます。

グリッド表示には、検出された上位 10 件のパッチ脆弱性に関する次の情報が表示されます。

- ブリテン – この脆弱性の **Microsoft** セキュリティ ブリテン
- 説明 – ブリテンのタイトル
- パッチ未適用 – このパッチ脆弱性を持つデバイスの数

初期状態のテーブルは、[パッチ未適用] を基準にソートされています。ソートパラメータを変更するには、対応するカラム見出しをクリックします。

特定のブリティンについての詳細を表示するには、ブリティン番号をクリックしてください。

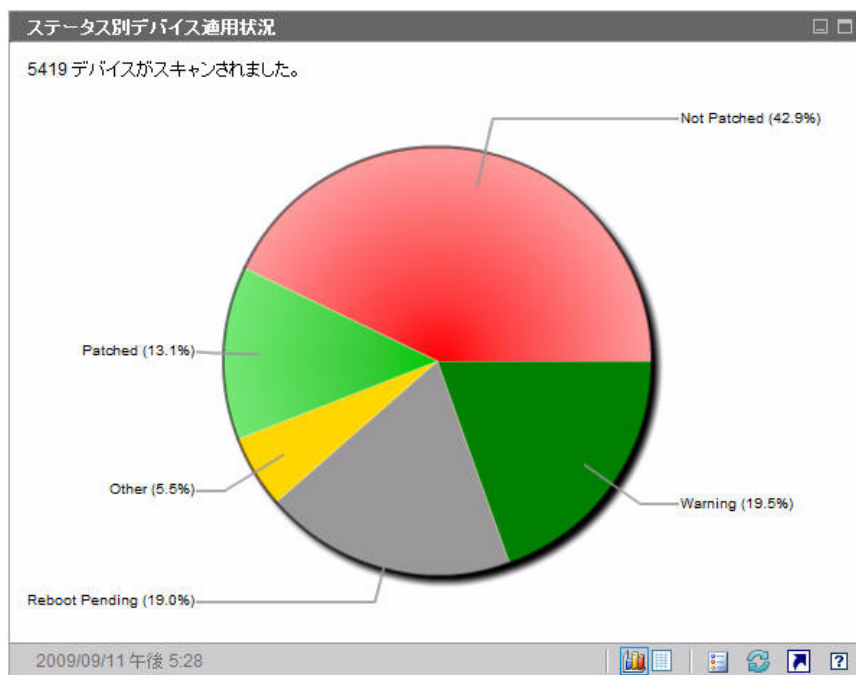
ステータス別デバイス適用状況

このペインのグラフ表示には、パッチ ポリシーに現在適合しているネットワーク内のデバイスのパーセンテージが表示されます。特定のカテゴリのデバイス数を表示するには、カーソルを円グラフの色付き部に移動します。

このペインは、[ステータス別デバイス適用状況](#)ペインに似ています。このペインにはより詳細な情報が表示され、使用される色は **Patch Manager** の場合と同じです。

- パッチ適用済み (薄緑)
- パッチ未適用 (赤)
- 再起動の保留 (薄いグレー)
- 警告 (深緑)
- その他 (黄)
- 適用できません (濃いグレー)

図 11 ステータス別デバイス適用状況 (操作ビュー)



円グラフ内の色付きの扇形をクリックすると、新しいブラウザ ウィンドウが開き、フィルタされたレポートが表示されます。レポートには、クリックした扇形に対応するパッチ適用状況ステータスのすべてのデバイスが表示されます。


グリッド表示には、円グラフに表示されているそれぞれの適用状況にあるネットワーク デバイスの数が表示されます。

Microsoft セキュリティ ブリティン

このペインには、最新の Microsoft セキュリティ ブリティンが表示されます。デフォルトでは、この情報は Microsoft Corporation から RSS フィードによって提供されます。フィードの URL は、[設定] タブを使用して変更できます (240 ページの「ダッシュボード」を参照してください)。

図 12 Microsoft セキュリティ ブリテン



特定のブリテンの詳細を表示するには、ブリテン名のすぐ下にある  アイコンをクリックします。

このペインにはグラフ表示はありません。

最も脆弱性の高い製品

このペインはデフォルトで無効になっています。有効化するには、240 ページの「ダッシュボード」を参照してください。

このペインのグラフ表示には、ネットワーク内で最多のパッチ脆弱性が存在するソフトウェア製品が表示されます。垂直軸には、ソフトウェア製品の一覧が表示されます。水平軸は、企業内の適用可能な管理対象デバイス全体でまだ適用されていない、特定の製品に関するパッチの合計数が反映されます。例：

ABC という製品にパッチを含むブリテンが 6 件あるとします。

— 10 個の管理対象デバイスで 6 件のパッチすべてを必要としている

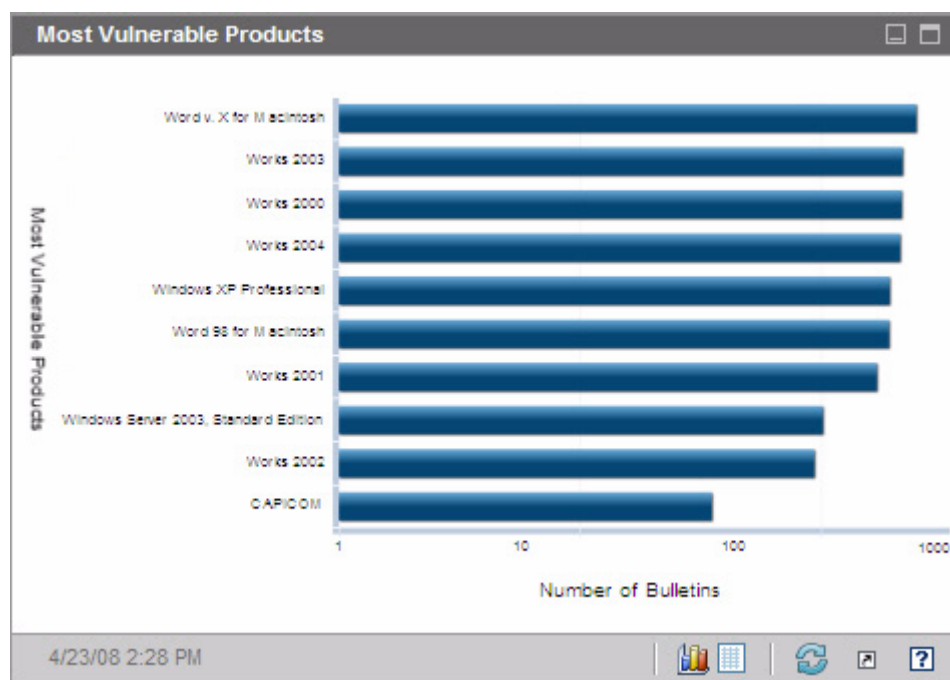
- 20 個の管理対象デバイスでそれらのパッチのうちの 3 件を必要としている
- 50 個の管理対象デバイスでそれらのパッチのうち 1 件のみを必要としている

ABC のブリティンの数 = $(10 \times 6) + (20 \times 3) + (50 \times 1) = 170$

このグラフでは対数スケールを使用するため、特定の製品のブリティンの数が 1 の場合、その製品のデータはグラフ表示に何も表示されません。これは、対数目盛りの既知の制限です。ただし、グリッド表示ではデータが表示されます。

特定のソフトウェア製品にパッチが適用されていないデバイスの数を表示するには、カーソルを色付きのいずれかの棒上に合わせます。

図 13 最も脆弱性の高い製品



グリッド表示には、製品ごとに次の情報が表示されます。

- 製品 – ソフトウェア製品の名前
- パッチ未適用 – 特定の製品の適用可能なすべてのデバイスでパッチが適用されていないブリティンの数
- 適用可能なデバイス – この製品がインストールされているデバイスの数

- 適用可能なブリティン – この製品に関連する **Microsoft** セキュリティ ブリティンの数

初期状態のテーブルは、[パッチ未適用] を基準にソートされています。ソートパラメータを変更するには、対応するカラム見出しをクリックします。

4 HPCA および HP Live Network

概要

HP Live Network は、HPCA の最新のコンテンツを取得できる登録契約サービスです。HPCA ライセンスに応じて、HP Live Network から使用できるコンテンツのタイプが異なります。

HPCA Standard では、設定プロファイルの最新のコンテンツを提供します。Live Network を介してレポートの強化機能も配布できます。入手できる場合、HP Live Network 更新を実行して、これらの強化機能を取得できます。Live Network サイトから最新のレポートをダウンロードしても、レポートに実行したカスタマイズは上書きされません。

更新されたコンテンツを取得するには、該当するコンテンツの有効な Live Network の登録認証情報を含むアクティブな HP Software サポートの連絡先が必要です。アクティブ化すると、ユーザー ID、パスワード、およびコンテンツサーバーの URL が通知されます。これらを使用して、[設定] タブで Live Network を設定できます。



登録契約に付随する HP Live Network コンテンツ サーバーの URL は、HPCA Console の [設定] タブの Live Network 設定ページに表示されるデフォルトの URL と異なる場合があります。登録契約に付随する URL を使用してください。詳細については、205 ページの「[Live Network](#)」を参照してください。

ライセンスの要件

HP Live Network から最新のコンテンツを取得するには、次のアイテムが必要です。

- HPCA Enterprise Edition のライセンス

- **Live Network** 登録の認証情報を持つアクティブな **HP Software** サポートの連絡先

これらのアイテムがない場合、関連するダッシュボードには何も表示されません。適用可能なコンテンツはダウンロードおよび使用には使用できません。

HP Live Network コンテンツの更新

HPCA で **HP Live Network** サイト (またはファイル システム) からコンテンツを更新する場合、**HP Live Network** コネクタ (LNC) と呼ばれるツールが使用されます。

Live Network のコンテンツを取得するには、**HP Live Network** コネクタ を使用して、**HP Live Network** コンテンツの更新方法を理解する必要があります。

HP Live Network コネクタ

HP Live Network のコンテンツにアクセスするには、**HP Live Network** コネクタは、最初にどのコンテンツが使用可能かを判断し、次に **HP Live Network** 登録サイトから適切なコンテンツをダウンロードします。

デフォルト バージョンの **HP Live Network** コネクタは、**HPCA** のインストール時にインストールおよび設定されます。このコネクタは自己更新されます。すべてのコネクタへの変更は、**HP Live Network** コンテンツを更新したときに自動的にダウンロードされます。特定の環境下では、**LNC** の新しいコピーをインストールすることもできます。何らかの理由で **HP Live Network** コネクタを再インストールする場合は、いつでも新しいコピーをダウンロードできます。59 ページの「**HP Live Network** コネクタのダウンロード」を参照してください。



HP Live Network コネクタは **HP Live Network** への認証を実行し、コンテンツをダウンロードします。このコネクタ自体は、**HPCA** インフラストラクチャに何もインストールしません。**HPCA** は、更新された **HP Live Network** コンテンツの読み込みを管理します。

HPCA コンテンツを更新すると (**HP Live Network** からまたはファイル システムからのいずれの場合も)、通常、次のアクションが実行されます。

- 1 コンテンツが一時ディレクトリにコピーされます。
- 2 コンテンツは **HPCA** データベースに読み込まれます。これらのアクションにより収集されたデータがデータベースによって処理され、**HPCA** が関連サービスを配布し、詳細レポートを作成できます。

- 3 HPCA Console は関連する UI コンテンツを使用して更新されます。

HP Live Network コネクタのダウンロード

HP Live Network コネクタ (LNC) は HPCA に付属しており、Live Network の設定を初めて設定したときに自動的にインストールされます。LNC は自己更新されます。HP Live Network コンテンツを更新する場合は、必ず LNC によって使用可能な LNC 更新がすべてチェックされ、インストールされます。このようにして、Live Network の更新のたびに、最新バージョンの LNC がインストールされることが常に保証されます。

何らかの理由で LNC を再インストールする必要がある場合 (たとえば、だれかが誤ってアンインストールした場合) は、次の手順を実行します。

HP Live Network コネクタの新しいコピーをダウンロードするには

- 1 [設定] タブで、[インフラストラクチャ管理] 領域を展開し、[Live Network] をクリックします。
- 2 [HP Live Network コネクタ] ボックスの右側にある [ダウンロード] リンクをクリックします。新しいブラウザ ウィンドウが開き、HP Live Network サイトが表示されます。そこから LNC の実行可能ファイルをダウンロードできます。ログインするには、HP Live Network 登録契約のユーザー名とパスワードが必要です。
- 3 LNC をダウンロードしてインストールするには、HP Live Network サイトの指示に従ってください。



LNC を元のインストール場所以外の場所にインストールする場合は、それに応じて Live Network 設定ページの [HP Live Network コネクタ] のパスを必ず更新してください。

HP Live Network コンテンツの更新方法

HP Live Network 登録 Web サイトから HP Live Network コンテンツを更新するには、次の手順を実行します。

- HP Live Network の [操作] ページにある [スケジュールの更新] タブを使用して、更新されたコンテンツを定期的にダウンロードするように HPCA Console を設定するか、または [すぐに更新] タブを使用して HP Live Network 登録サイトから即時に更新を開始します。

詳細な手順については、159 ページの「**Live Network**」を参照してください。

最新のコンテンツが確実に使用されるようにするために、**HPCA** ソフトウェアをインストールまたはアップグレードした後は、**HP Live Network** コンテンツを必ず更新してください。

▶ 新しい **HP Live Network** コンテンツをダウンロードするときに、単に既存サービスの更新情報入手する場合もあれば、新しいサービスにアクセスできる場合もあります。新しいサービスを使用するには、これらのサービスにクライアントデバイスを明示的に付与してください。

▶ **HP Live Network** からダウンロードしたサービスの表示名は山かっこ (< >) で囲まれており、**Live Network** サイトの **HP** がサポートするサービスとして一意に特定できます。使用環境でサービスを変更する場合は、**HP Live Network** コンテンツを次回更新するときに変更が失われる可能性があることに注意してください。

5 管理

[管理] タブには、環境を管理するのに使用するツールが備えられています。次のセクションでは、ユーザーがコントロールできる管理領域について説明します：

- 62 ページの「デバイス管理」
- 90 ページの「グループ管理」
- 104 ページの「ソフトウェア管理」
- 112 ページの「設定管理」
- 116 ページの「パッチ管理」
- 125 ページの「OS 管理」
- 137 ページの「ジョブ管理」

デバイス管理

[デバイス管理] セクションを使用して、デバイスのインポート、HPCA Agent の配布、インベントリの探索、パッチの管理、デバイスの電源オプションの管理、デバイスのリモート コントロール、アプリケーション利用状況の収集、および全管理対象デバイスに基づいたレポートの表示ができます。

デバイス管理のタブについては、以下のセクションで説明しています。

- 65 ページの「全般」
- 66 ページの「デバイス」
- 81 ページの「現在のジョブ」
- 81 ページの「過去のジョブ」

ターゲット デバイスの要件および手動インストールの手順については、次のセクションで説明します。

- 62 ページの「ターゲット デバイスの前提条件」
- 81 ページの「HPCA Agent の手動インストール」

ターゲット デバイスの前提条件

HPCA Agent をターゲット デバイスに配布する前に、このセクションの内容を確認してください。ターゲット デバイスのサポートされるプラットフォームについては、このリリースに付属の『リリース ノート』を参照してください。

- HPCA の管理対象のシンクライアント デバイスには、Windows CE、XPE、または Embedded Linux をインストールしておく必要があります。
- ファイルと印刷の共有を有効にします。
- Active Directory に参加していない Windows XP Professional を実行するデバイスについては、簡易ファイルの共有を無効にする必要があります。
- TPM 対応システムでは、Infineon Driver version 2.00 以降が必要です。
- ターゲット クライアント デバイスに個人向けファイアウォールがインストールされている場合、受信トラフィックに対して次のポートを除外します。
TCP 3463 および TCP 3465
- 次のポートを除外して、Management Agent のリモート配布を可能にします。

TCP 139 および 445

UDP 137 および 138

Windows ファイアウォールのユーザーは、ファイルとプリンタの共有を選択し、これらのポートを除外できます。

- さらに、次のプログラム ファイルをファイアウォールから除外する必要があります。C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent の中：

RadUIShell.exe

Radexecd.exe

nvdkit.exe

nvdtk.exe

- C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\ManagementAgent の中：
nvdkit.exe



これらのデバイスの管理には、BIOS に有効なシリアル番号とマシン UUID が含まれている必要があります (アセット タグの設定も推奨します)。これらの設定を行わないと、OS の配布が正しく実行されない場合があります。

HPCA の Windows XPe 要件


Windows XPe シン クライアント デバイスには、**Symantec Endpoint Protection** エージェントがプレインストールされています。したがって HPCA が動作するには、HPCA 実行可能ファイルに 1 つと HPCA ポートに 1 つ、合計 2 つのルールを作成する必要があります。

HPCA 実行可能ファイルのルールを作成するには

File-Based Write Filter を実行している場合は、手順を始める前にこの書き込みフィルタを無効にし、再起動する必要があります。この場合、次のコマンドを実行します。

```
fbwfmgr.exe /disable
```

- 1 管理者として Windows XPe へログオンします。
- 2 システム トレイの Symantec アイコンを右クリックして、**[Advanced Rules]** を選択します。
- 3 **[追加]** をクリックします。
- 4 **[全般]** タブで

- 説明 **[Allow HPCA Agent]** を追加します。
 - **[Allow this traffic]** を選択します。
- 5 [アプリケーション] タブで **[ブラウズ]** をクリックして、C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent から次のアプリケーションを追加します。
- Nvdkit
 - Radconct
 - Radpinit
 - Radexecd
 - Radstgrq
 - Radsched
 - Radgetproxy
 - Radntfyc
 - Radidgrp
 - Ralf
 - prepwiz.exe
-  prepwiz 実行可能ファイルは、HPCA Image Capture CD からのみ入手できます。これは、HPCA メディアの Image Capture ISO から作成されます。実行可能ファイルを追加するには、この .iso を使用できるようにする必要があります。

- 6 **[OK]** をクリックして、新しいルールを保存します。
- 7 **[OK]** をクリックして終了します。

HPCA ポートのルールを作成するには

- 1 システム トレイの Symantec アイコンを右クリックして、**[Advanced Rules]** を選択します。
- 2 **[追加]** をクリックします。
- 3 [全般] タブで
 - 説明 **[Allow HPCA Ports]** を追加します。
 - **[Allow this traffic]** を選択します。

- 4 [Ports and Protocols] タブの [Protocol:] で [TCP] をクリックし、[Local:] に 3463 と 3465 を追加します。
- 5 [OK] をクリックして、新しいルールを保存します。
- 6 [OK] をクリックして終了します。

両方のルールを作成したら、システム トレーの [Enhanced Write Filter] (EWF) アイコンを右クリックして、[適用] を選択します。再起動するようという指示が表示されます。これで、変更がフラッシュメモリに書き込まれます。

File-Based Write Filter を使用している場合は、この書き込みフィルタを有効にし、再起動する必要があります。この場合、次のコマンドを実行します。

```
fbwfmgr.exe /enable
```

再起動後に、Symantec Endpoint Protection ユーティリティで両方のルールが使用可能であり、かつ有効になっている (両方のルールで [Allow this traffic] が選択されている) ことを確認します。

全般

[全般] タブを使用して、デバイスの追加、HPCA Agent の配布、現在および過去のデバイス管理ジョブの表示ができます。



Console から HPCA Agent を配布する代わりに、管理するエンドユーザーのマシンに手動でインストールすることもできます。詳細については、81 ページの「HPCA Agent の手動インストール」を参照してください。

ワークスペースの [要約] セクションには、データベース内のデバイスの数、管理対象デバイス (HPCA Agent がインストールされているデバイス) の数、および現在のジョブの合計数が表示されます。

デバイスをインポートするには

- [共通のタスク] 領域で [インポート] をクリックします。デバイス インポート ウィザードが起動します。
246 ページのウィザードの手順に従って、新しいデバイスを HPCA に追加します。

HPCA Agent を配布するには

- [共通のタスク] 領域で [配布] をクリックします。エージェント配布ウィザードが起動します。

247 ページのウィザードの手順に従って、データベースにあるデバイスに HPCA Agent を配布します。

HPCA Agent の注意事項

- HPCA Agent は、Windows Vista および Windows Server 2008 デバイスには、サイレント モードでのみ配布されます。
- リモート デバイスに HPCA Agent を配布するには、管理共有へのアクセスが必要です。Windows XP には簡易ファイルの共有 (SFS) というセキュリティ機能が備えられており、これらの共有へのアクセスをブロックします。ワークグループの一部である Windows XP デバイスでは、SFS はデフォルトで有効になっています。また、Active Directory ドメインに参加するデバイスでは、SFS は自動的に無効となります。

ターゲット デバイスが Windows XP を実行しており、Active Directory ドメインに参加していない場合、SFS をオフにして、HPCA Agent のインストールを許可する必要があります。SFS 設定方法の詳細については、Microsoft サポート技術情報の記事「[Windows XP でファイル共有を設定する方法](#)」を参照してください。

- HPCA Agent は、ほとんどのシン クライアント デバイスにはリモートで配布できません。HPCA メディアの \Media\client\default ディレクトリにある適切なインストール プログラムを使用して、手動でインストールする必要があります。

デバイス

[デバイス] タブには、HPCA にインポートされた全デバイスの表が表示されます。

- ▶ HPCA がインストールされると、ホスト サーバーは自動的にデバイス リストに追加されます。このデバイス定義は、HPCA が必要としており、削除できません。

新しくインポートされた (7 日以内にインポートされた) デバイスは、デバイス名の右に、括弧付きの「新規作成」という単語が表示されるので識別できます。

- ▶ HPCA Agent が配布されるまでは、デバイス リストではデバイス情報の一部しか利用できません。

[デバイス] ツールバーを使用して、デバイスのインポート、HPCA Agent の配布または削除、デバイスの電源オプションの管理、デバイスのリモートコントロール、およびインベントリ、アプリケーション利用状況またはパッチ適用状況の探索ができます。

- ▶ **Console** から HPCA Agent を配布する代わりに、管理するエンドユーザーのマシンに手動でインストールすることもできます。詳細については、81 ページの「**HPCA Agent の手動インストール**」を参照してください。

デバイス リストのカラムの見出しをクリックして、ソート順を変更したり、表の上部にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプしたりできます。

- ▶ お使いの環境にあるコンピュータ名に 15 文字を超える名前がある場合、HPCA を使用して HPCA Agent の配布またはグループの作成を行うと、予期しない結果になる場合があります。コンピュータ名は 15 文字以下にすることを推奨します。詳細については、Microsoft サポート技術情報の記事「**Microsoft NetBIOS コンピュータの命名規則**」を参照してください。

デバイスのリストを絞り込むには、[検索] 機能を使用します。最初の検索ボックスには、常にコンソールの現在のセクションで利用可能なカラムの見出しが表示されます。2 番目のボックスには、クエリをカスタマイズするために使用する検索パラメータを指定します。

クエリ結果を表示すると、[フィルタ結果]  が、表の一番下に表示されます。

表 6 [デバイス] ツールバーのタスク






ボタン	説明
	データのリフレッシュ — デバイス リストを更新します。
	CSV にエクスポート — 開いたり保存したりできる、カンマ区切りのリストを作成します。
	管理対象デバイスのインポート — デバイス インポート ウィザードを起動します。
	管理エージェントの配布 — エージェント配布ウィザードを起動します。

表 6 [デバイス] ツールバーのタスク

ボタン	説明
	管理エージェントの削除 — エージェント削除ウィザードを起動します。
	インベントリの収集: ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索 — ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザードを起動します。 パッチ適用状況の探索 — パッチの適用状況探索ウィザードを起動します。 アプリケーション利用状況の探索 — アプリケーション利用状況収集ウィザードを起動します。
	電源管理 — 電源管理ウィザードを起動します。
	リモート制御 — [リモート制御] インターフェイス ウィンドウを起動します。
	アウトバンドデバイスの詳細を表示 - 選択したデバイスの [アウトバンドデバイスの詳細] ウィンドウを起動します。このオプションは、[アウトバンド管理] が有効になっている場合にのみ利用できます。有効化については、229 ページの「アウトバンド管理」を参照してください。詳細については、『HP Client Automation アウトバンド管理ガイド』を参照してください。
	デバイスを削除 — デバイス リストからデバイスを削除します。デバイス リストからデバイスを削除しても、デバイスのレポート データは削除されないことに注意してください。レポート データは、[設定] を使用して削除する必要があります。詳細については、162 ページの「データベース メンテナンス」を参照してください。


次のタスクが [デバイス] タブから実行できます。

- 69 ページの「デバイスのインポート」
- 69 ページの「[デバイス] タブからの HPCA Agent の配布」
- 70 ページの「HPCA Agent の削除」
- 70 ページの「ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索」

- 71 ページの「パッチ適用状況の探索」
- 71 ページの「アプリケーション利用状況の探索」
- 72 ページの「リモート制御」
- 78 ページの「電源管理」
- 78 ページの「アウトバンド管理」
- 79 ページの「デバイスを削除」
- 79 ページの「デバイスの詳細」

デバイスのインポート

デバイス インポート ウィザードでは、名前または IP アドレスによるデバイスの手動インポートしたり、Active Directory または別の LDAP 準拠ディレクトリ内、あるいはネットワーク ドメイン内に含まれるデバイスを探索したりできます。

- HPCA にデバイスをインポートするには、**[管理対象デバイスのインポート]**  ボタンをクリックします。デバイス インポート ウィザードが起動します。

246 ページの手順に従って、新しいデバイスを HPCA に追加します。

[デバイス] タブからの HPCA Agent の配布


エージェント配布ウィザードを使用して、HPCA Agent をユーザー環境にあるデバイスに配布します。



Windows Vista デバイスへの HPCA Agent の配布

ローカルに定義された管理者に対しては、Windows Vista デバイスの管理共有 (C\$) へのアクセスは無効にされています。このため、Windows Vista デバイスはドメインの一部である必要があり、そのドメインの管理者の認証情報は、HPCA Console による HPCA Agent の配布中に指定する必要があります。デバイスがドメインの一部でない場合、その他の手順を実行し、ローカルの管理者にアクセスを許可する必要があります。Microsoft サポート技術情報の記事「ワークグループのメンバーである別の Windows Vista ベース コンピュータから Windows Vista ベースのコンピュータ上に管理の共有にアクセスしようとすると、エラーメッセージ: ログオン失敗: ユーザーのログオンできません」を参照してください。


HPCA Agent を配布するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、HPCA Agent を配布するデバイスを選択します。
 - **[Management Agent の配布]**  ボタンをクリックして、エージェント配布ウィザードを起動します。
- 2 247 ページのウィザードの手順に従って、選択したデバイスに HPCA Agent を配布します。

HPCA Agent の削除

HPCA データベースにあるデバイスから HPCA Agent を削除するには、エージェント削除ウィザードを使用します。


HPCA Agent を削除するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、HPCA Agent を削除するデバイスを選択します。
- 2 **[Management Agent の削除]**  ボタンをクリックして、エージェント削除ウィザードを起動します。
- 3 248 ページの手順に従って、選択したデバイスから HPCA Agent を削除します。

ソフトウェア / ハードウェア インベントリの探索

ソフトウェア / ハードウェア インベントリ ウィザードを使用して、HPCA データベースにあるデバイスに関するインベントリを探索します。

ソフトウェアおよびハードウェア インベントリを探索するには


- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、インベントリを探索するデバイスを選択します。
- 2 **[インベントリの収集]**  ボタンをクリックして、**[ソフトウェア / ハードウェア インベントリの探索]** を選択し、ソフトウェア / ハードウェア インベントリ ウィザードを起動します。

- 3 ウィザードの手順に従って、選択したデバイスについてインベントリを探索します。
- 4 [レポート]タブを使用して、インベントリ レポートを表示します。

パッチ適用状況の探索

パッチの適用状況探索ウィザードを使用して、HPCA 環境にあるデバイスの適用状況ステータスを判別します。

パッチ適用状況を探るには


- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、パッチ適用状況をクエリするデバイスを選択します。
- 2 **[インベントリの収集]**  ボタンをクリックして、**[パッチ適用状況の探索]** を選択し、パッチの適用状況探索ウィザードを起動します。
- 3 ウィザードの手順に従って、選択したデバイスについてパッチ適用状況を確認します。
- 4 [レポート]タブを使用して、パッチ適用状況レポートを表示します。

アプリケーション利用状況の探索

アプリケーション利用状況収集ウィザードを使用して、HPCA データベース内のデバイスについてアプリケーション利用状況を探るします。ウィザードは、収集エージェントをインストールします。収集エージェントは、作成し有効にしたフィルタが指定する利用状況のデータを返します。さらに、必要な場合には、プライバシーを確保するため、利用状況データを難読化できます。詳細については、239 ページの「[利用状況管理](#)」を参照してください。

利用状況データは、個々のデバイスに対して 1 度だけ返されます。利用状況データを反復して収集できるのは、グループに対してだけです。グループの利用状況データの収集については、96 ページの「[グループのアプリケーション利用状況データの探索](#)」を参照してください。

アプリケーション利用状況を探るには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、アプリケーション利用状況探索の対象とするデバイスを選択します。
- 2 **[インベントリの収集]**  ボタンをクリックして、**[アプリケーション利用状況の探索]** を選択し、アプリケーション利用状況収集ウィザードを起動します。

- 3 ウィザードの手順に従って、選択したデバイスについてアプリケーション利用状況を探査します。
- 4 [レポート] タブを使用して、選択したデバイスに関する利用状況レポートを表示します。

リモート制御

[リモート制御] インターフェイスを使用して、任意のデバイスとのリモートセッションを開始します。インターフェイスにより、次のプログラムのいずれかをインストールし、有効にしているデバイスに接続できます。

- Virtual Network Computing (VNC)
- Windows リモートデスクトッププロトコル (RDP)
- Windows リモートアシスタンス

HPCA では、VNC、RDP またはリモートアシスタンスがリモートシステムにインストールされているかどうか、それぞれポート **5800 (VNC)** および **3389 (RDP およびリモートアシスタンス)** に接続することにより検出されます (123 ページの「**ファイアウォールの考慮事項**」を参照してください)。特定のポートに接続できると、HPCA では関連プログラムがインストールされ実行中であるとみなされ、そのオプションが使用可能なリモート接続方式として表示されます。

Windows リモートデスクトッププロトコル は、Windows クライアントデバイスで利用可能なマルチチャンネル対応のプロトコルです。RDP を使用して、RDP が有効なデバイス (Windows XP など) にリモートで接続できます。HPCA では、リモートデバイス上のポート **3389** に接続することでこのプログラムが検出されます。73 ページの「**Windows リモートデスクトップの要件**」を参照してください。

VNC は、別のコンピュータをリモートで制御するのに使用されるデスクトップ共有システムです。VNC を使用して、VNC がインストールされ有効になっているクライアントデバイスにリモート接続します。73 ページの「**VNC の要件**」を参照してください。

Windows リモートアシスタンス は管理対象クライアントシステムのユーザーに支援を提供できる特殊な接続タイプを作成します。この接続では、ユーザーは「**上級者**」としての役割を果たし、クライアントシステムのユーザーは「**初心者**」としての役割を果たします。クライアントシステムのデスクトップを表示したり、初心者のアクセス許可がある場合は、クライアントをコントロールして問題をリモートで解決できます。75 ページの「**Windows リモートアシスタンスの要件**」を参照してください。

HPCA Console を使用してリモート接続するターゲットデバイスでは、次の要件が満たされている必要があります。

- リモートデバイスの電源がオンになっている。

- ファイアウォールが有効な場合は、リモート デバイス上のリモート アクセスポートが開いている。
- リモート デバイスは、HPCA サーバーとリクエストを開始するクライアントシステムの両方に接続できる。

また、各タイプのリモート アクセスには、特定の要件があります。

Windows リモート デスクトップの要件

この接続タイプを使用してリモート アクセスするすべてのターゲット デバイスで、**Windows** リモート デスクトップを有効にする必要があります。デフォルトでは、この機能は無効です。

Windows リモート デスクトップを使用するには、**Internet Explorer** (バージョン 7.0 以降) を使用して **HPCA Console** にアクセスする必要があります。これは、このタイプの接続がリクエストされたときに **ActiveX** コンポーネントを使用するラッパーをコンソールが起動するためです。



Windows リモート デスクトップを使用すると、**ActiveX** コントロールをインストールするように要求される場合があります。これは、**Windows** リモート デスクトップが適切に機能するのに必要です。また、ローカル デバイスに接続するようにも要求されます。これは必須ではありません。

Windows リモート デスクトップの詳細については、次の **Microsoft** サポート ドキュメントを参照してください。

<http://www.microsoft.com/windowsxp/using/mobility/getstarted/remotaintro.mspx>

関連トピック：

73 ページの「**VNC の要件**」

75 ページの「**Windows リモート アシスタンスの要件**」

VNC の要件

VNC 接続では、ターゲット デバイスで VNC サーバー プロセスを実行する必要があります。このプロセスでは、特定のポートをリスンする必要があります。また、**URL (HTTP)** ベースのリモート制御セッションのサポートが有効である必要があります。

VNC 接続を確立するには、**HPCA Console** でリモート URL をブラウザ内の **Java** アプレットとして起動します。このため、**HPCA Console** にアクセスしているシステム (ブラウザを実行しているシステム) に **Java Runtime Environment (JRE)** バージョン 1.5 (またはそれ以降) がインストールされている必要があります。**JRE** は、**www.java.com** からダウンロードできます。

リモート URL のポート番号は、リモートシステム上の VNC サーバーがリスンしているポートと一致している必要があります。デフォルトでは、このポートは 5800 です。例：

`http://<RemoteSystem>:5800`

この場合、<RemoteSystem> への接続にポート 5800 が使われ、VNC リモート制御アプレットがブラウザで開いて、<RemoteSystem> のリモート制御が可能になります。

HP では、VNC サーバー プログラムを提供していません。ただし、HPCA Console では、Web ベースの統合機能を持つすべての VNC サーバーがサポートされます。この機能は、UltraVNC、RealVNC、および TightVNC で利用できます。通常、VNC サーバーはポート 5800 上で実行され、すべての Web ブラウザからアクセスできます。

関連トピック：

73 ページの「[Windows リモート デスクトップの要件](#)」

75 ページの「[Windows リモート アシスタンスの要件](#)」

Windows リモート アシスタンスの要件

Windows Vista、Windows Server 2008、Windows 7 システムから HPCA Console にアクセスしている場合、作成できる接続は Windows リモート アシスタンスのみです。次のオペレーティング システムを実行しているターゲット デバイスに接続できます。

- Windows XP
- Windows Server 2003
- Windows Vista
- Windows Server 2008
- Windows 7
- Windows Server 2008 Release 2 (R2) x64

ターゲット デバイスへの Windows リモート アシスタンス接続が開始したら、ターゲット デバイスにログオンしているユーザーは接続を許可する必要があります。自動実行のデバイスへの Windows リモート アシスタンス接続は作成できません。

この接続タイプを使用してリモート アクセスするすべてのターゲット デバイス上で、Windows リモート アシスタンスを有効にする必要があります。詳細については、ネットワーク管理者に問い合わせるか、次の Microsoft サポート ドキュメントを参照してください。

<http://support.microsoft.com/kb/305608/en-us>

Windows リモート アシスタンス接続を有効にするには、さらに次の 3 つの要件を満たす必要があります。

- HPCA Console にアクセスしているシステムとターゲット デバイスは同じドメインに参加している必要があります。
- HPCA Console にアクセスしているシステム (Windows リモート アシスタンス操作の上級者側) には、次のソフトウェアがインストールされている必要があります。
 - Java Runtime Environment (JRE) バージョン 5 (またはそれ以降)
 - オペレーティング システムが Windows 2008 Server の場合は、リモート インスタンス機能がインストールされている必要があります。詳細については、次の記事を参照してください。

<http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc753881.aspx>

- すべてのターゲット デバイス上で、[リモート アシスタンスを提供する] グループ ポリシーが有効である必要があります。ターゲット デバイスへのアクセスが許可される「支援者」も指定する必要があります。ユーザーまたはグループのどちらかを支援者として設定できます。支援者は次のように指定します。

domain_name\user_name

domain_name\groupname

ターゲット デバイスへの Windows リモート アシスタンス接続を作成するには、接続するユーザー (またはユーザーが所属するグループ) がこの支援者のリストに含まれている必要があります。

- すべてのターゲット デバイスで、リモート アシスタンスを Windows ファイアウォールの例外として有効にする必要があります。

Windows リモート アシスタンスの詳細については、次の Microsoft のサポートドキュメントを参照してください。

<http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc753881.aspx>

関連トピック：

73 ページの「[Windows リモート デスクトップの要件](#)」

73 ページの「[VNC の要件](#)」

ファイアウォールの考慮事項

HPCA Console をホストするサーバーとリモート デバイスの間にファイアウォールが存在する場合、適切なポートを開く必要があります。

Windows リモート デスクトップ接続では、TCP ポート 3389 を使用します。

デフォルトでは、Windows リモート アシスタンスには、Windows XP または Windows Server 2003 のターゲット デバイスへの接続時に TCP ポート 3389 が必要です。Windows Vista、Windows Server 2008、または Windows 7 のデバイスへの接続時には、ポート 135 (DCOM ポート) が必要です。

VNC の初回接続には、TCP ポート 5800 が必要です。さらに、TCP ポート 5900 (関与するシステムのタイプに応じて必要なポートがさらに増加) が必要です。例:

- Windows システムでは、TCP ポート 5900 のみが必要です。
- Linux システムにおいて、VNC Sever がホスト 1 で実行しているとします。この場合、サーバーとリモート デバイスの間のファイアウォールは TCP ポート 5901 へのアクセス許可が必要となります。

同様に、Java VNC ビューアでは TCP ポート 5800 (関与するシステムのタイプに応じて必要なポートがさらに増加) が必要です。

ファイアウォールと共に VNC を使用方法の詳細については、次を参照してください。

<http://www.realvnc.com/support/faq.html#firewall>


関連トピック :

73 ページの「[Windows リモート デスクトップの要件](#)」

73 ページの「[VNC の要件](#)」


75 ページの「[Windows リモート アシスタンスの要件](#)」

リモート セッションを開始するには

- 1 リストからデバイスを選択して、[**リモート制御**]  ボタンをクリックします。この操作により、[リモート制御] インターフェイス ウィンドウを起動します。
- 2 使用可能なオプションから [**リモート制御方法**] を選択します。HPCA によって検出されたプログラムのみが利用可能です。
- 3 Windows リモート デスクトップを選択する場合、リモート セッション ウィンドウ用に [**解像度**] を選択する必要があります。
- 4 [**接続**] をクリックします。リモート セッションが新しいウィンドウで開始されます。
- 5 [**閉じる**] をクリックして、ウィザードを終了します。
- 6 リモート セッションを終了したら、ウィンドウを閉じてデバイスとの接続を解除します。

電源管理

デバイスの電源をオンにしたり、オフにしたり、デバイスを再起動したりするには、電源管理ウィザードを使用します。

- 管理するデバイスを選択して、[**電源管理**]  ボタンをクリックし、**電源管理ウィザード**を起動します。
ウィザードの手順に従って、選択したデバイスに対して電源管理ジョブを作成します。

アウトバンド管理

HPCA Console にあるアウトバンド管理 (OOBM) 機能を使用すると、システム電源またはオペレーティング システムの状態に関係なく、アウトバンド管理操作を実行できます。


インバンド管理は、コンピュータの電源がオンでオペレーティング システムが稼働しているときに実行される操作を指します。

アウトバンド管理は、コンピュータが次のいずれかの状態のときに実行される操作を指します。

- コンピュータは電源に接続されているが稼働していない (オフ、スタンバイ、休止)
- オペレーティング システムに読み込まれていない (ソフトウェア障害またはブートの失敗)
- ソフトウェア ベースの管理エージェントが使用できない

HPCA Console では、Intel の vPro デバイスおよび DASH 対応デバイスのアウトバンド管理がサポートされます。

デバイスのアウトバンドの詳細を表示するには：

- 1 [管理] タブの [デバイス管理] に移動して、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 操作するデバイスを選択して、[**アウトバンド デバイスの詳細を表示**]  ツールバー アイコンをクリックします。


選択したデバイスの [アウトバンドデバイスの詳細] ウィンドウが開きます。


このオプションは、アウトバンド管理が有効な場合のみ使用できます。詳細については、229 ページの「[アウトバンド管理](#)」を参照してください。詳細については、『[HP Client Automation アウトバンド管理ガイド](#)』を参照してください。

デバイスを削除

HPCA データベースからデバイスを削除するには、[デバイス] ツールバーを使用します。

HPCA からデバイスを削除するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、削除するデバイスを選択します。
- 2 **[デバイスを削除]**  ボタンをクリックして、HPCA からデバイスを削除します。

 デバイス リストからデバイスを削除しても、デバイスのレポート データは削除されません。レポート データは、[設定] を使用して削除する必要があります。詳細については、162 ページの「[データベース メンテナンス](#)」を参照してください。

デバイスの詳細

[デバイス] タブでデバイス名をクリックすると、[デバイスの詳細] ウィンドウが開きます。[デバイスの詳細] ウィンドウには、選択したデバイスに基づく設定モデルが表示されます。

[デバイスの詳細] ウィンドウを使用して、以下を行います。

- デバイスのプロパティの表示
- デバイス グループのメンバーシップの表示と変更
- 付与資格の表示
- レポートの要約の表示
- HPCA Agent の配布
- デバイス管理ジョブの作成

[デバイスの詳細] ウィンドウでは次の領域が利用できます。

全般

[全般] タブは、デバイスに利用可能な共通のタスクを表示します。その他の設定タスクを表示するには、他の管理領域タブをクリックします。

プロパティ

[プロパティ] タブには、デバイス名、オペレーティング システム、シリアル番号、IP アドレス、エージェントのステータス、前回ログオン ユーザー、および作成日と変更日などの情報が表示されます。これらの情報の中には、HPCA Agent が配布されるまで利用できないものがあります。

▶ [前回ログオン ユーザー] では、**Console** ログイン経由でデバイスに最後にログオンしたユーザー アカウントがレポートされます。複数のユーザーがログオンしている場合は、最後にログオンしたユーザーのみが記録されます。[前回ログオン ユーザー] は、リモート デスクトップ接続のログインや、現在のユーザー間の切り替えでは更新されません。

[**詳細プロパティ**] セクションでは、トラブルシューティング時に役立つ可能性のあるその他のデバイス情報が利用可能です。セクションを展開してこの情報を表示するには、[**詳細プロパティ**] タイトル バーの右側にあるアイコンをクリックします。

グループ

[グループ] タブは、現在のデバイスが所属する全グループを表示します。

OS

[OS] タブには、デバイスのグループ メンバーシップに基づいて、デバイスに付与されたオペレーティング システムがすべて表示されます。付属のツールバーを使用して、OS イメージを配布します。

ソフトウェア

[ソフトウェア] タブは、グループ メンバーシップに基づいて、付与されたソフトウェアをすべて一覧表示します。ツールバー ボタンを使用して、現在のデバイスにソフトウェアを配布したり、デバイスからソフトウェアを削除したりします。

パッチ

[パッチ] タブは、グループ メンバーシップに基づいて、付与されたパッチをすべて表示します。ツールバーを使用して、現在のデバイスへパッチを配布します。

▶ パッチは、配布されたら削除できません。

レポート

[レポート] タブには、表示しているデバイスに固有のレポートの要約が表示されます。詳細なレポートを表示するには、メイン **HPCA Console** の [レポート] タブを使用します。

現在のジョブ

[現在のジョブ] には、アクティブなデバイス管理ジョブおよびスケジュールされたデバイス管理ジョブがすべて表示されます。デバイス管理ジョブは、個々のデバイスを対象とし、**HPCA** データベースのデバイスに対して、**HPCA Agent** の配布や削除、およびソフトウェアの管理に使用できます。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更できます。または、表の上部にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプできます。

ジョブ コントロールおよび **Job Status** については、137 ページの「現在のジョブ」(「ジョブ管理」セクション)を参照してください。

過去のジョブ

[過去のジョブ] は、完了したデバイス管理ジョブをすべて表示します。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更できます。または、表の上部にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプできます。



完了したジョブは完了の 1 分後に過去のジョブ リストに移動されます。

HPCA Agent の手動インストール

通常は、**HPCA Console** を使用してターゲット クライアント デバイスに **HPCA Agent** が配布され、これにより **HPCA** でデバイスの管理が可能になります。

一方、ネットワークに常時接続されているとは限らないクライアント デバイスを管理する場合、**HPCA Agent** は手動でインストールできます。そのために、**HPCA** メディアには別のインストール ファイルが収録されています。クライアント デバイスにインストールされた **HPCA Agent** は自動的に **HPCA** データベースに追加されます。

HPCA Agent を手動でインストールするには

- 1 ターゲット デバイスで、HPCA メディアを挿入します。
- 2 コマンドラインを使用して、HPCA メディアの `Media\client\default\win32` ディレクトリに移動します。
 - ▶ ユーザー アクセス制御またはユーザー アカウント制御が有効になっているシステムでは、コマンドプロンプトを管理者モードで実行する必要があります。[スタート]メニューの[コマンドプロンプト]エントリを右クリックして[管理者として実行]を選択すると、管理者モードでコマンドプロンプトを起動できます。
- 3 「`setup-standard.cmd host`」と入力します。この場合の `host` は HPCA Server のホスト名または IP アドレスです。
- 4 **Enter** キーを押します。HPCA Agent がインストールされ、これでデバイスが HPCA で管理できるようになります。

HP シンクライアントでの HPCA Agent のインストール

HP **Registration and Loading Facility (RALF)** (86 ページの「[HP Registration and Loading Facility](#)」を参照) がインストール済みで、HPCA インフラストラクチャに登録されている場合は、HPCA Agent を通常の方法でシンクライアント デバイスに配布できます。69 ページの「[\[デバイス \] タブからの HPCA Agent の配布](#)」または 94 ページの「[グループへの HPCA Agent の配布](#)」を参照してください。

ただし、HPCA Agent を手動でインストールする場合は、HPCA Agent をインストールした後に、(RALF がない場合には) HPCA メディアに収録されているファイルを使用して RALF をインストールする必要があります。

Windows XPE では、HPCA Agent をインストールすると RALF が自動的にインストールされます。その他のシンクライアント デバイスでは、Agent をインストールしてから RALF をインストールします。次のセクションで手順について詳しく説明します。

▶ RALF のインストールでは、「`hpcaserver`」または RALF インストールパラメータを使用して定義したホスト名を、DNS に含める必要があります。Agent を HPCA Console からインストールする場合は、HPCA Server のホスト名も DNS に含める必要があります。

- 83 ページの「[HP シンクライアント デバイスへの Agent の手動インストール](#)」

- 86 ページの「HP Registration and Loading Facility」

HP シン クライアント デバイスへの Agent の手動インストール

Linux ベースのシン クライアントに HPCA Agent を手動でインストールするには

HPCA Agent には、/opt ファイル システム上に最低 5 MB の空き領域が必要です。

- 1 HP シン クライアントのターゲット デバイスに **root** としてログインします。**ThinPro** を実行している場合は、**xterm** 用のカスタム接続の作成が必要になることがあります(下記参照)。
- 2 **/opt/hpca** という名前の新しいディレクトリを作成します。
- 3 HPCA メディアの該当する **Linux** シン クライアントのサブディレクトリから、/tmp ファイル システムの一時ディレクトリにインストール メディアをコピーします。
- 4 作業中のディレクトリを新しい一時ディレクトリに変更して、次のように入力しインストールを実行します。

```
./install -i HPCA_Server
```

この場合の **HPCA_Server** は HPCA Server のホスト名または IP アドレスです。

HPCA Agent がインストールされます。

- 5 デバイスに **RALF** がすでにある場合は、**Agent** のインストールが完了したらデバイスを再起動します。

RALF がない場合は、デバイスに **RALF** をインストールします。86 ページの「Linux (Debian または ThinPro) に **RALF** を手動でインストールするには」を参照してください。

Linux ベースのシン クライアントから HPCA Agent を削除するには

- 1 HP シン クライアントのターゲット デバイスに **root** としてログインします。
- 2 現在のディレクトリを /opt/hpca/agent に変更します。
- 3 「./**uninstall**」と入力し、**Enter** キーを押します。
Agent が削除されます。

xterm 用のカスタム接続を作成するには

ThinPro オペレーティング システムを使用している場合は、xterm 接続を作成するために、カスタム接続の作成が必要になることがあります。

- 1 左下隅の HP メニューで **[シャットダウン]** を選択します。
- 2 **[Thin Client Action]** ドロップ ダウンで **[Switch to admin mode]** を選択し、管理者パスワード (デフォルトのパスワードは **root**) を指定します。注 : **Control Center** の背景が青から赤に変化します。
- 3 **[Control Center]** で **[追加]** ドロップダウン リストをクリックし、**[カスタム]** オプションを選択します。
- 4 **[名前]** を **[xterm]** に設定します。
- 5 **[コマンド]** に次を入力して実行します。

```
sudo xterm -e bash &&
```

- 6 **[完了]** をクリックします。

これで、xterm セッションを開くために使用できる接続ができました。

Windows XPE シン クライアントに HPCA Agent を手動でインストールするには

Windows XPE で **Agent** をインストールすると、**RALF** が自動的にインストールされます。**Agent** のインストールが完了したら、別個に **RALF** をインストールする必要はありません。

デバイスに **RALF** がすでにある場合は、**Agent** のインストールを実行する前に **RALF** サービスを停止します。

- 1 **Windows XPE** シン クライアント デバイスから **HPCA** メディアにアクセスします。
- 2 **HPCA** メディアで、`Media\client\default\win32xpe` に移動します。
- 3 **setup.exe** をダブルクリックします。
- 4 インストールの手順に従います。
- 5 **HPCA Server** の IP アドレスとポート番号の入力を促すメッセージが表示されたら、それらを入力します。

HPCA Agent がインストールされます。

サイレントモードで Windows XPE に Agent をインストールするには、次のコマンドを使用します。

```
Setup.exe NVDOBJZMASTER_ZIPADDR=<server_ip>  
NVDOBJZMASTER_ZDSTSOCK=<server_port> /qn
```

次の任意指定のログパラメータを追加できます。

```
/l*v <log file>
```

Windows XPE シンクライアントから HPCA Agent を削除するには

Windows XPE から HPCA Agent を削除するには、インストールプログラム setup.exe を使用します。

- 1 **setup.exe** をダブルクリックします。
- 2 **[削除]** を選択します。
- 3 **[OK]** をクリックします。

HPCA Agent が削除されます。

Windows CE シンクライアントに HPCA Agent を手動でインストールするには

- 1 Windows CE シンクライアントデバイスから HPCA メディアにアクセスします。
- 2 HPCA メディアで、Media\client\default\win32ce に移動します。
- 3 **Standard.X86.CAB** をダブルクリックします。
- 4 HPCA Server のホスト名または IP アドレスを入力して、**[OK]** をクリックします。
HPCA Agent がインストールされます。
- 5 デバイスに RALF がすでにある場合は、Agent のインストールが完了したらデバイスを再起動します。

RALF がない場合は、Windows CE デバイスに RALF をインストールします。87 ページの「Windows CE 6.0 に RALF をインストールするには」を参照してください。

Windows CE シンクライアントから HPCA Agent を削除するには

- Windows のコントロールパネルアプレット **[プログラムの追加と削除]** を使用して、HPCA Agent を Windows CE から削除します。

HP Registration and Loading Facility

HPCA Registration and Loading Facility (RALF) は、HPCA Core インフラストラクチャで管理されるシンクライアントデバイスに使用できる Agent のコンポーネントです。RALF によって、HPCA インフラストラクチャへのデバイスの自動登録、およびメイン Console から開始される HPCA Agent のインストールの管理が行われます。RALF は HPCA Agent の一部ですが、HP シンクライアントの出荷時イメージにプレインストールされているため、起動時に登録が行われます。使用している出荷時イメージに含まれていない場合は、次の OS 配布で使用されるゴールドイメージでインストールおよび設定ができます。RALF をインストールする場合は、OS 配布の前に HPCA Agent もインストールする必要があります。

RALF の設定と操作

RALF は最新の HP シンクライアントイメージにプレインストールされて出荷されています (ThinConnect を実行しているものを除く)。「hpcaserver」と定義されたデフォルトの HPCA Server のホスト名を使用して設定されます。この名前に合わせて HPCA Server をインストールできますが、実際の HPCA Server ホスト名の定義では、この名前を DNS エイリアスとして使用することの方が一般的です。また、以下で説明するコマンドラインオプションを使用して RALF を再設定し、異なるホスト名を定義することもできます。

インストールすると、RALF は HPCA Server を定期的にプローブする Windows サービスまたは Linux デーモンとして動作します。このプローブは 24 時間行われ、その後 RALF はシャットダウンします。この 24 時間プローブは、再起動後にまた開始されます。Server に接続すると、RALF により HPCA インフラストラクチャにデバイスが登録され、HPCA Agent をインストールするリクエストが受け入れられるまで待機の状態になります。Agent がインストールされると、RALF により定期的に Server に接続され、デバイス登録属性の確認が行われます。

Linux (Debian または ThinPro) に RALF を手動でインストールするには

Linux デバイスに RALF をインストールするには、root 権限が必要です。

- 1 HPCA メディアで、Media\client\default\linuxctc\hpcaralf ディレクトリに移動します。
- 2 インストール メディアを Linux デバイスの /tmp にコピーします。
- 3 現在のディレクトリを /tmp ディレクトリに変更します。
- 4 インストール コマンドを実行します。
 - α Debian デバイスの場合
 - **dpkg -i hpcaralf.deb** を実行します。

b **ThinPro** デバイス (読み取り専用のルート ファイル システムを使用) の場合

- **fsunlock** を実行します (ファイル システムを書き込み可能としてマウントするため)。
- **/usr/share/hpkg/.hpkg_util -i hpcaralf.deb** を実行します。
- **fslock** を実行します (ファイル システムを読み取り専用として再マウントするため)。

5 インストールが完了した後、デバイスを再起動するか、**/etc/init.d/hpcaralf** を実行して、**RALF** を開始し初期化します。

このスクリプト (**/etc/init.d/hpcaralf**) を使用して、デバイスの **RALF** デーモンの開始および停止ができます。

XPE および **WES (Windows Embedded Standard)** に **RALF** を手動でインストールするには

Windows XPE では、**HPCA Agent** をインストールすると **RALF** も同時にインストールされるため、別個に **RALF** をインストールする必要はありません。

- 1 **HPCA** メディアで、**media\client\default\win32xpe\HPCARALF** ディレクトリに移動します。
- 2 **HPCARalf.msi** ファイルを使用して、**Windows XPE** デバイスに **RALF** をインストールします。

サイレント インストールを実行するには、次のコマンドラインを使用します。

```
msiexec /i HPCARalf.msi RALF_HOST=<HOSTNAME>  
RALF_PORT=<portnumber> /qn
```

Windows CE 6.0 に **RALF** をインストールするには

- 1 **HPCA** メディアで、**media\client\default\win32ce\HPCARALF** ディレクトリに移動します。
- 2 **ralf.X86.cab** ファイルを使用して、**Windows CE** デバイスに **RALF** をインストールします。
- 3 **HPCA Server** の IP アドレスとポート番号の入力を促すメッセージが表示されたら、それらを入力します (デフォルトは「**hpcaserver**」と「**3466**」)。

RALF コマンド ライン パラメータ

RALF では、次のコマンド ライン オプションがサポートされます。これらは主に内部的に使用されるため、ここには参照用として記載します。

```
ralf.exe [-probe] [-host <host>] [-port <port>] [-debug]  
[-trace] [-version]
```

[-confinit] (Linux)
[-reginit] (Windows)
[-help]

表 7 **RALF** コマンド ライン オプション

オプション	説明
probe	HPCA プローブを起動します。
host	プローブおよび登録に使用する任意指定の HPCA Server ホストを指定します。
port	プローブおよび登録に使用する任意指定の HPCA Server ポートを指定します。

オプション	説明
reginit	(Windows) テスト環境の RALF アプリケーション レジストリ エントリを定義します。
confinit	(Linux) テスト環境の RALF アプリケーション設定ファイルを定義します。
debug	デバッグ ログ レベルを指定します。
trace	トレース ログ レベルを指定します。
version	RALF のバージョンが表示されます。
help	RALF についての情報が表示されます。

グループ管理

[グループ管理] セクションを使用して、デバイス グループの作成と管理を行います。デバイス グループの作成は、管理を容易にし、管理対象デバイスにソフトウェアおよびパッチを配布するのに必要です。

グループ管理のタブについては、以下のセクションで説明しています。

- 90 ページの「全般」
- 92 ページの「グループ」
- 103 ページの「現在のジョブ」
- 103 ページの「過去のジョブ」

全般

[全般] 領域を使用して、新しいグループの作成、既存のグループの管理、および現在および完了したグループ管理ジョブの表示を行います。

グループには、管理対象デバイスと管理対象外デバイスを含めることができます。

新しいスタティック グループを作成するには

- [共通のタスク] 領域で、[新しいスタティック グループの作成] をクリックし、グループ作成ウィザードを起動します。
ウィザードの手順に従って、新しいデバイス グループを作成します。

新しいダイナミック ディスカバリ グループを作成するには

- [共通のタスク] 領域で、[新しいダイナミック ディスカバリ グループの作成] をクリックし、グループ作成ウィザードを起動します。
ウィザードの手順に従って、新しいデバイス探索グループを作成します。

新しいダイナミック レポート グループを作成するには

- HPCA Console の [レポート] タブを使用してクエリを定義し、次に [新しいダイナミック レポート グループの作成] ボタンをクリックして、グループ作成ウィザードを開始します。

次のセクション「グループ タイプ」では、HPCA 内で利用可能なさまざまなタイプのグループについて説明します。

グループ タイプ

HPCA では、デバイスの管理に次のグループ タイプを使用します。

内部

内部グループは HPCA によって提供されます。たとえば、全デバイス グループには、デフォルトではインポートされた全デバイスが含まれています。

スタティック

個々のデバイスを選択して、スタティック グループを作成します。スタティック グループにデバイスを追加したり、スタティック グループからデバイスを削除するには、[[グループの詳細](#)] ウィンドウを使用して、グループ メンバーシップを手動で変更する必要があります。スケジュールまたはその他のグループ パラメータを使用してスタティック グループのメンバーシップを変更することはできません。

探索

探索グループには、グループ作成ウィザードの実行中に設定したパラメータに従って、外部ソース (LDAP、ネットワーク探索) から得た管理対象および管理対象外デバイスの動的なリストが含まれています。探索されたデバイスは、自動的に HPCA デバイス リストに追加されます。

レポート


レポート クエリで返されたデバイスのリストからレポート グループを作成します。レポート グループは、グループ管理ジョブを使用して、自動的に更新されます。デフォルトでは、HPCA には次のレポート グループがあります。

- 全 Windows Vista デバイス
- 全 Windows XP Professional デバイス
- 全 Windows 2000 Professional デバイス
- 全 TPM 対応デバイス

これらのグループは、毎日更新され、ダイナミック グループの要件に合致した新しい管理対象デバイスが発見されると自動的に追加されます。

グループ

[グループ] タブには、作成された全グループが表示されます。7日以内に作成されたグループは、グループ名の右に、括弧付きの「新規作成」という単語が表示されます。

- グループに特有の情報を表示するには、表示名リンクをクリックします。
- グループ リストをソートするには、カラムの見出しをクリックします。
- グループ内のデバイスについてインベントリ、パッチ、および電源管理ジョブを作成するには、ツールバー ボタンを使用します。
- デバイスのリストを絞り込むには、[検索] 機能を使用します。最初の検索ボックスには、Console の現在のセクションで利用可能なカラムの見出しが表示されます。2 番目のボックスには、クエリをカスタマイズするための検索パラメータを指定します。クエリ結果を表示すると、[フィルタ結果]  が、表の一番下に表示されます。

作成したグループは、デバイスのインベントリ、場所、または指定した他の条件に基づいて、どのデバイスがどのソフトウェアおよびパッチを受け取るかを判断できます。デバイスを追加する前に、必ずグループの作成を計画してください。

表 8 [グループ] ツールバーのタスク









ボタン	説明
	データのリフレッシュ – グループ リストを更新します。
	CSV にエクスポート – 開いたり、表示したり、保存したりできる、カンマ区切りのリストを作成します。
	新しいグループの作成 – グループ作成ウィザードを起動します。
	管理エージェントの配布 – エージェント配布ウィザードを起動します。
	管理エージェントの削除 – エージェント削除ウィザードを起動します。

表 8 [グループ] ツールバーのタスク

ボタン	説明
	<p>インベントリの収集： ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索 – ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザードを起動します。 パッチ適用状況の探索 – パッチの適用状況探索ウィザードを起動します。 アプリケーション利用状況の探索 – アプリケーション利用状況収集ウィザードを起動します。</p>
	<p>電源管理 – 電源管理ウィザードを起動します。</p>
	<p>デバイスを削除 – デバイス リストからデバイスを削除します。デバイス リストからデバイスを削除しても、デバイスのレポート データは削除されないことに注意してください。レポート データは、[設定] を使用して削除する必要があります。詳細については、162 ページの「データベース メンテナンス」を参照してください。</p>


次のタスクが [グループ] タブで実行できます。

- 94 ページの「グループの作成」
- 94 ページの「グループへの HPCA Agent の配布」
- 95 ページの「HPCA Agent のグループからの削除」
- 95 ページの「グループのソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索」
- 96 ページの「グループのパッチ適用状況の探索」
- 96 ページの「グループのアプリケーション利用状況データの探索」
- 97 ページの「電源管理」
- 97 ページの「グループの削除」
- 97 ページの「グループの詳細」
- 99 ページの「[グループの詳細] ウィンドウのタスク」
- 100 ページの「スタティック グループでのデバイスの追加と削除」
- 100 ページの「グループでのソフトウェア資格の追加と削除」

- 101 ページの「グループでのソフトウェアの配布、削除、および同期」
- 102 ページの「グループでのパッチ資格の追加と削除」
- 102 ページの「グループへのパッチの配布」


グループの作成

スタティック グループを作成するには

- **新しいグループの作成**  ボタンをクリックして、[**新しいスタティック グループの作成**] を選択します。グループ作成ウィザードが起動します。グループは、管理対象および管理対象外デバイスについて作成できます。

ウィザードの手順に従って、ソフトウェアとパッチの配布用の新しいスタティック グループを作成します。

ダイナミック ディスカバリ グループを作成するには

- **新しいグループの作成**  ボタンをクリックして、[**新しいダイナミック ディスカバリ グループの作成**] を選択します。グループ作成ウィザードが起動します。

ウィザードの手順に従って、ソフトウェアとパッチの配布用の新しいダイナミック ディスカバリ グループを作成します。


グループへの HPCA Agent の配布

エージェント配布ウィザードを使用して、**HPCA Agent** をグループに配布します。

HPCA Agent の注意事項

- **HPCA Agent** の配布には、デバイスの認証情報（管理者権限を持つユーザー名およびパスワード）が必要です。**HPCA Agent** をグループに配布するには、そのグループ内の全デバイスが、同じ認証情報を共有する必要があります。
- **HPCA Agent** は、ほとんどのシンクライアント デバイスにはリモートで配布できません。**HPCA** メディアの \Media\client\default ディレクトリにある適切なインストールプログラムを使用して、手動でインストールする必要があります。


デバイスのグループに HPCA Agent を配布するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、管理するグループ、または HPCA Agent を再配布するグループを選択します。
- 2 **[Management Agent の配布]**  ボタンをクリックして、エージェント配布ウィザードを起動します。
- 3 ウィザードの手順に従って、HPCA Agent を配布します。

HPCA Agent のグループからの削除

エージェント削除ウィザードを使用して、デバイスのグループから HPCA Agent を削除します。


デバイスのグループから HPCA Agent を削除するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、Agent を削除するグループを選択します。
- 2 **[Management Agent の削除]**  ボタンをクリックして、エージェント削除ウィザードを起動します。
- 3 ウィザードの手順に従って、選択したグループ内の全デバイスから HPCA Agent を削除します。

グループのソフトウェア / ハードウェア インベントリの探索

ソフトウェア / ハードウェア インベントリ ウィザードを使用して、デバイスのグループに対してインベントリを探索します。

デバイスのグループに対してソフトウェア / ハードウェア インベントリを探索するには


- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、インベントリを探索するグループを選択します。
- 2 **[インベントリの収集]**  ボタンをクリックして、**[ソフトウェア / ハードウェア インベントリの探索]** を選択し、ソフトウェア / ハードウェア インベントリ ウィザードを起動します。
- 3 ウィザードの手順に従って、各グループ内のデバイスのインベントリ ステータスを判別します。

- 4 HPCA Console の [レポート] タブを使用して、選択したグループに関するインベントリ レポートを表示します。

グループのパッチ適用状況の探索

パッチ適用状況探索ウィザードを使用して、デバイスのグループに対してパッチ適用状況を探します。


デバイスのグループに対してパッチ適用状況を探するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、パッチ適用状況探索の対象とするグループを選択します。
- 2 **【インベントリの収集】**  ボタンをクリックして、**【パッチ適用状況の探索】** を選択し、エージェント配布ウィザードを起動します。
- 3 ウィザードの手順に従って、選択したグループ内のデバイスのパッチ適用状況を探します。
- 4 HPCA Console の [レポート] タブを使用して、選択したグループに関するパッチ適用状況レポートを表示します。

グループのアプリケーション利用状況データの探索


アプリケーション利用状況収集ウィザードを使用して、HPCA データベース内のデバイスについてアプリケーション利用状況を探します。ウィザードにより収集エージェントがインストールされると、作成し有効にしたフィルタで指定された利用状況のデータが収集エージェントにより返されます。さらに、必要な場合には、プライバシーを確保するため、利用状況データを非表示にできます。詳細については、239 ページの「[利用状況管理](#)」を参照してください。

アプリケーション利用状況を探するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、アプリケーション利用状況探索の対象とするグループを選択します。
- 2 **【インベントリの収集】**  ボタンをクリックして、**【アプリケーション利用状況の探索】** を選択し、アプリケーション利用状況収集ウィザードを起動します。
- 3 ウィザードの手順に従って、選択したグループについてアプリケーション利用状況を探します。
- 4 HPCA Console の [レポート] タブを使用して、利用状況レポートを表示します。

電源管理


デバイスの電源をオンにしたり、オフにしたり、デバイスを再起動したりするには、電源管理ウィザードを使用します。

- 1 管理するグループを選択して、[**電源管理**]  ボタンをクリックし、**電源管理ウィザード**を起動します。
- 2 ウィザードの手順に従って、選択したグループに対して電源管理ジョブを作成します。

グループの削除

[**グループ**] ツールバーを使用して、**HPCA** からグループを削除します。グループを削除しても、そのグループに属するデバイスは削除されません。

HPCA からグループを削除するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、削除するグループを選択します。
- 2 [**グループの削除**]  ボタンをクリックして、**HPCA** からグループを削除します。

グループの詳細

グループ名をクリックして、[**グループの詳細**] ウィンドウを開きます。

[**グループの詳細**] ウィンドウを使用して、グループのプロパティの表示、デバイスのメンバーシップの表示と変更、付与資格の表示と変更、レポートの要約の表示、およびグループ管理ジョブの作成を行います。次の領域が利用可能です。

全般

[**全般**] タブには、グループに利用可能な共通のタスクが表示されます。その他の設定タスクにアクセスするには、他の管理領域タブをクリックします。

プロパティ

[**プロパティ**] タブでは、グループ タイプ、グループ名、および説明に加えて、ダイナミック グループ用のその他のプロパティが表示されます。有効なグループタイプは次のとおりです。

- **スタティック** : [**グループの詳細**] の [**デバイス**] セクションを使用して、手動でデバイスのメンバーシップを更新します。

- **レポートおよび探索**：グループ メンバーシップを更新するには、[現在のジョブ] タブのジョブ制御を使用して、探索ジョブを実行します。
- **内部**：グループ メンバーシップは変更できません。

[**保存**] をクリックして、[グループ プロパティ] セクションに対する変更を適用します。

ダイナミック レポート グループを表示する場合は、[**レポートのフィルタ条件**] セクションに元々グループを作成するのに使用された条件を表示できます。この情報は、読み取り専用です。条件を変更する場合は、ダイナミック レポート グループを新しく作成する必要があります。フィルタ条件は、反復スケジュール、または未実行の後ほど実行するスケジュールを持つグループに対してのみ表示可能であることに注意してください。一度のみ実行するスケジュールを持ち、すでに実行されたグループに対しては、「フィルタ情報は利用できません」と表示されます。

ダイナミック探索グループを表示する場合は、[**探索のプロパティ**] セクションにダイナミック グループのプロパティを表示できます。

デバイス

[**デバイス**] タブに表示されたデバイスは、そのグループの現在のメンバーです。

- スタティック グループのデバイス メンバーシップは手動で編集する必要があります。
- [現在のジョブ] タブのジョブ コントロールを使用して、ダイナミック レポートまたは探索グループのメンバーシップ リフレッシュ スケジュールを変更します。

OS

[**OS**] タブに一覧表示されるオペレーティング システムのイメージは、グループに付与されています。ツールバー ボタンを使用して、グループ固有の OS の付与および配布のタスクを完了します。

ソフトウェア

[**ソフトウェア**] タブに一覧表示されるソフトウェアは、グループに付与されています。ソフトウェア資格の追加または削除は、既存のデバイス メンバーすべておよびグループに追加されるデバイスすべてに影響します。

ツールバー ボタンを使用して、付与資格の追加や削除、ソフトウェアの同期、およびグループのデバイスでのソフトウェアの配布や削除を行います。

- ▶ ソフトウェア資格を削除しても、グループ内のデバイスからソフトウェアが自動的に削除されることはありません。ソフトウェアを削除するには、ターゲット デバイスを選択し、[ソフトウェアの削除] ボタンを使用します。ソフトウェアの削除後、付与資格を削除することで、そのソフトウェアを使用できないようにできます。

パッチ

[パッチ] タブには、グループに付与されているすべてのパッチが表示されます。ツールバー ボタンを使用して、グループに対するパッチ資格の追加や削除、およびグループのデバイスへのパッチの配布を行います。

- ▶ パッチは、配布された後、デバイスから削除できません。

設定プロファイル

[設定プロファイル] タブには、グループに付与するすべての設定プロファイルが表示されます。

ツールバー ボタンを使用して、グループの設定プロファイルの付与資格の追加や削除、およびグループのデバイスへの設定プロファイルの配布を行います。

レポート

[レポート] タブには、グループ別のレポートの要約が表示されます。詳細なレポートを表示するには、メイン **HPCA Console** の [レポート] タブを使用します。

現在のジョブ

[現在のジョブ] タブには、そのグループについて現在アクティブなジョブ、およびスケジュールされているジョブがすべて表示されます。ツールバー ボタンを使用して、利用可能なジョブを管理します。

[グループの詳細] ウィンドウのタスク

[グループの詳細] ウィンドウを使用して、次のタスクを完了します。


- 100 ページの「スタティック グループでのデバイスの追加と削除」
- 100 ページの「グループでのソフトウェア資格の追加と削除」

- 101 ページの「グループでのソフトウェアの配布、削除、および同期」
- 102 ページの「グループでのパッチ資格の追加と削除」
- 102 ページの「グループへのパッチの配布」

スタティック グループでのデバイスの追加と削除


[グループの詳細] ウィンドウを使用して、スタティック グループのメンバーシップを更新します。

スタティック グループにデバイスを追加するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 [デバイスの追加]  をクリックします。
- 3 開いたウィンドウで、追加するデバイスを選択して、[デバイスの追加] をクリックします。

スタティック グループからデバイスを削除するには


グループからデバイスを削除すると、そのグループ メンバーシップのみが削除されます。デバイスは、デバイス リストからは削除されません。

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 削除するデバイスを選択して、[デバイスを削除]  をクリックします。


グループでのソフトウェア資格の追加と削除

グループのデバイスに対してソフトウェア資格を追加および削除するには、[グループの詳細] ウィンドウを使用します。

グループにソフトウェアを付与するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、[ソフトウェア] タブをクリックします。
- 2 [ソフトウェア資格の追加]  をクリックします。[ソフトウェア資格] ウィンドウが開きます。
- 3 グループに資格を付与するソフトウェアを選択して、[ソフトウェア資格の追加] をクリックします。


グループからソフトウェア資格を削除するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、[ソフトウェア] タブをクリックします。
- 2 付与資格を削除するソフトウェアを選択して、[ソフトウェア資格の削除]  をクリックします。


グループでのソフトウェアの配布、削除、および同期

グループのデバイスに対してソフトウェアを配布、削除、および同期するには、[グループの詳細] ウィンドウを使用します。


グループにソフトウェアを配布するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、[ソフトウェア] タブをクリックします。
- 2 配布するソフトウェアを選択して、[ソフトウェアの配布]  をクリックします。
- 3 グループ内の管理対象デバイスにソフトウェアを配布するには、255 ページの「ソフトウェア配布ウィザード」の手順に従います。

グループからソフトウェアを削除するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、[ソフトウェア] タブをクリックします。
- 2 グループ内の管理対象デバイスから削除するソフトウェアを選択して、[ソフトウェアの削除]  をクリックします。
- 3 グループ内の管理対象デバイスからソフトウェアを削除するには、263 ページの「ソフトウェア削除ウィザード」の手順に従います。

ソフトウェアを同期するには



- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、[ソフトウェア] タブをクリックします。
- 2 [ソフトウェアの同期]  をクリックして、ソフトウェア同期ウィザードを起動します。
- 3 ウィザードの手順に従って、そのグループのソフトウェア同期スケジュールを設定します。

これで、付与されたすべてのソフトウェアが、グループの現在のメンバーおよびグループに後で追加されるメンバーに確実にインストールされます。


グループでのパッチ資格の追加と削除

グループのデバイスに対してパッチ資格を追加および削除するには、[グループの詳細] ウィンドウを使用します。

グループに対してパッチを付与するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、[パッチ] タブをクリックします。
- 2 **[パッチ資格の追加]**  をクリックして、[パッチ資格] ウィンドウを起動します。
 付与していないパッチだけが、[パッチ資格] ウィンドウに表示されます。グループにすでに付与されたパッチは表示されません。
- 3 グループに資格を付与するパッチを選択して、**[パッチ資格の追加]** をクリックします。


グループからパッチ資格を削除するには


- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、[パッチ] タブをクリックします。
- 2 付与資格を削除するパッチを選択して、**[パッチ資格の削除]**  をクリックします。

グループへのパッチの配布

グループのデバイスにパッチを配布するには、[グループの詳細] ウィンドウを使用します。

グループにパッチを配布するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、[パッチ] タブをクリックします。
- 2 配布するパッチを選択し、**[パッチの配布]**  をクリックして、**パッチ配布ウィザード**を起動します。
- 3 **261** ページのウィザードの手順に従って、グループ内の管理対象デバイスにパッチを配布します。

 パッチは、配布後はデバイスから削除できません。

現在のジョブ

[現在のジョブ]には、アクティブなグループ管理ジョブおよびスケジュールされたグループ管理ジョブがすべて表示されます。グループ管理ジョブは、特定のグループを対象にし、そのグループのデバイスに配布されたソフトウェアの管理、および作成したダイナミック レポートや探索グループのデバイスのリフレッシュを行います。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更できます。または、表の上部にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプできます。[ジョブ コントロール](#)および [Job Status](#) については、[137](#) ページの「[現在のジョブ](#)」(「ジョブ管理」セクション)を参照してください。

過去のジョブ

[過去のジョブ]は、完了したグループ管理ジョブをすべて表示します。ジョブのステータスをより詳細に表示するには、ジョブの説明をクリックしてください。



完了したジョブは完了の 1 分後に過去のジョブ リストに移動されます。

ソフトウェア管理

ソフトウェア サービスおよびソフトウェア管理ジョブを管理するには、[ソフトウェア管理] 領域を使用します。ソフトウェア資格が管理対象デバイス（または管理対象デバイスのグループ）に設定されてから、**HPCA Console** を使用して管理者によって配布されるか、**Application Self-Service Manager** を使用してエンドユーザーによってインストールされます。

[ソフトウェア管理] セクションには、次のタブがあります。

- 104 ページの「[全般] タブ」
- 105 ページの「[ソフトウェア] タブ」
- 111 ページの「[現在のジョブ] タブ」
- 111 ページの「[過去のジョブ] タブ」



特定のソフトウェア サービスの設定を表示または変更するには、107 ページの「[ソフトウェアの詳細] ウィンドウ ([管理] タブ)」を参照してください。

[全般] タブ

[ソフトウェア管理] ページの [全般] タブでは、次の作業を実行します。

- ソフトウェアをパブリッシュする方法に関する情報を検索する
- 管理対象デバイスにソフトウェアを付与し、配布する
- 現在および過去のソフトウェア管理ジョブを表示する

[要約] セクションには、**HPCA** ソフトウェア ライブラリで現在使用可能なソフトウェア サービスの数および現在のソフトウェア管理ジョブの数が表示されます。

ソフトウェアをパブリッシュするには

Publisher を使用して、ソフトウェアを **HPCA** にパブリッシュします。パブリッシュされたソフトウェアは、ソフトウェア ライブラリに表示されます。

ソフトウェア サービスの選択および設定を行う側のマシンに **Publisher** をインストールします。ソフトウェアを **HPCA** にパブリッシュする方法については、311 ページの「パブリッシュ」を参照してください。

ソフトウェアの付与および配布を行うには

- 1 [共通のタスク] 領域で [配布] をクリックします。ソフトウェア配布ウィザードが起動します。
- 2 ウィザードの手順に従って、管理対象デバイスへソフトウェアの付与および配布を行います。

[ソフトウェア] タブ

[ソフトウェア] タブでは、HPCA にパブリッシュされたソフトウェア アプリケーションをすべて表示します。このタブで使用可能なツールを使用して、1 つ以上のソフトウェア サービスの付与資格を管理対象デバイスのグループに設定したり、ソフトウェアを管理対象デバイスに配布したりします。

詳細については、次のトピックを参照してください。

- 105 ページの「ソフトウェアの配布」
- 106 ページの「グループ資格の追加または変更」




特定のソフトウェア サービスの設定を表示または変更するには、107 ページの「[ソフトウェアの詳細] ウィンドウ ([管理] タブ)」を参照してください。

ソフトウェアの配布

ソフトウェア配布ウィザードを使用して、ソフトウェアを個別の管理対象クライアント デバイスまたはデバイスのグループに配布します。

ソフトウェアの付与および配布を行うには

- 1 配布するソフトウェアを選択し、[ソフトウェアの配布]  をクリックして、ソフトウェア配布ウィザードを起動します。
- 2 ウィザードの手順に従って、管理対象デバイスへソフトウェアの付与および配布を行います。

Windows Vista デバイスのアクティブなセッションでアプリケーションを実行するには

Vista デバイス上でのユーザーの介入を必要とするアプリケーションの配布を許可するには、**runasuser** メソッド修飾子を使用します。

- 1 サービス ID をクリックして、サービスの [ソフトウェアの詳細] ウィンドウを開きます。
- 2 [プロパティ] タブを開きます。

- 3 修飾子 **runasuser** をインストール コマンド ラインの先頭に追加します。例:

```
runasuser setup.exe
```


または、パブリッシュ時にこの修飾子を [方法] プロパティの [リソース インストール メソッド] に追加して含めることもできます。

▶ メソッド修飾子 **runasuser** は修飾子 **hide** と一緒には使用できません。これらは互いに矛盾する修飾子です。

グループ資格の追加または変更

ソフトウェア ライブラリに表示されているすべてのサービスに管理対象デバイスのグループを付与できます。

グループ資格を追加するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、グループ資格を追加する 1 つ以上のソフトウェアを選択します。
- 2 **[グループ資格の追加]**  をクリックして、サービス資格ウィザードを起動します。
- 3 ウィザードの手順に従って、デバイスの 1 つ以上のグループにこのソフトウェアを付与します。

デフォルトのソフトウェア

HPCA には、次のデフォルトのソフトウェア サービスがあります。


▶ これらのデフォルトのサービスは、ソフトウェア ライブラリから削除できません。

- **CCM_PUBLISHER – HP Client Automation Administrator Publisher**
Publisher の別のインストール方法。このサービスを使用して、ソフトウェアのキャプチャおよびパブリッシュ、OS イメージ、BIOS 設定、または HP SoftPaq のパブリッシュを行う元のデバイスに Publisher を配布します。
- **CCM_TPM_ENABLEMENT – TPM Enablement**

このサービスでは、互換性がある HP デバイスの **TPM (Trusted Platform Module)** チップの使用および所有権が初期化されます。その場合、[デバイス管理] セクションの [設定] タブの設定が使用されます。設定オプションについては、**223** ページの「**Trusted Platform Module**」を参照してください。このサービスをインストールすると、次のタスクが実行されます。

- BIOS での TPM チップの有効化
- 指定された BIOS 管理者パスワードの設定
- TPM の所有権および所有者のパスワードのセットアップ
- 緊急復旧トークンおよびパスの初期化
- パスワード リセット トークンとパス、およびバックアップ アーカイブパスの設定

TPM Enablement サービスが配布された後、デバイスは、ユーザー レベルの初期化を実行できます (初期化は、エンド ユーザーが **HP ProtectTools Security Manager** インターフェイスを使用して行います)。

 **TPM セキュリティ チップ** を有効化および初期化するには、**HP ProtectTools** ソフトウェアをデバイスにインストールしておく必要があります。デバイス モデルによっては、このソフトウェアがプレインストールされているものや、ソフトウェアをダウンロードまたは購入する必要があるものがあります。詳細については、ご使用のデバイスの **HP** ドキュメントを参照してください。

[ソフトウェアの詳細] ウィンドウ ([管理] タブ)

特定のソフトウェア サービスの [ソフトウェアの詳細] ウィンドウを開くには、[ソフトウェア] タブに進み、[サービス ID] をクリックします。[ソフトウェアの詳細] ウィンドウから、ソフトウェア プロパティの表示、付与資格の表示や変更、ソフトウェアの配布や削除、電源管理操作の実行、リモート コントロール セッションの開始、またはレポートの要約の表示を行います。

[全般] タブ

[全般] タブには、ソフトウェアに利用可能な共通のタスクが表示されます。次のリンクをクリックすると、[ソフトウェアの詳細] ウィンドウのその他のタブに移動します。

- **108** ページの「[プロパティ] タブ」
- **108** ページの「[グループ] タブ」
- **110** ページの「[デバイス] タブ」
- **111** ページの「[レポート] タブ」

[ソフトウェアの配布] リンクはソフトウェア配布ウィザードを起動します。このウィザードでは次の操作を実行できます。

- 1 1つ以上のグループの管理対象デバイスに対象のソフトウェアを付与します。
- 2 これらのグループにソフトウェアを配布します。

詳細については、255 ページの「ソフトウェア配布ウィザード」を参照してください。



また、[グループ] タブまたは [デバイス] タブを使用してもソフトウェアを配布できます。この場合、前もってグループ (デバイス) にこのソフトウェアが付与されている必要があります。

[プロパティ] タブ

ソフトウェア カテゴリやインストールまたはアンインストール コマンドなど、ソフトウェアに関する情報を表示するには、[プロパティ] タブを使用します。



この場合、この情報は読み取り専用です。[操作] タブの [ソフトウェア管理] 領域を使用すると、これらの設定を変更できます。詳細については、163 ページの「ソフトウェア管理」を参照してください。

[グループ] タブ

[グループ] タブには、ソフトウェアが付与されている管理対象クライアント デバイスのすべてのグループがリストされます。ツールバーのボタンでは、グループ資格の管理、ソフトウェアの配布または削除、データ収集操作の開始、または電源管理操作を実行できます。

表 9 [グループ] タブで実行できるアクション









ボタン	機能	アクション
	データのリフレッシュ	グループのリストをリフレッシュします。
	CSV にエクスポート	グループのカンマ区切りのリストの表を作成します。この表は、開いたり保存したりできます。
	グループ資格の追加	1つ以上のグループの管理対象クライアント デバイスに対象のソフトウェアを付与します。
	グループ資格の削除	このソフトウェアに対するグループ資格を削除します。

表 9 [グループ] タブで実行できるアクション

ボタン	機能	アクション
	ソフトウェアの配布	選択されているデバイス グループに、このソフトウェアを配布します。255 ページの「ソフトウェア配布ウィザード」を参照してください。
	ソフトウェアの削除	選択されているグループから、このソフトウェアを削除します。263 ページの「ソフトウェア削除ウィザード」を参照してください。
	インベントリの収集	<p>選択されているグループに対して、次のいずれかのデータ収集ジョブのスケジュールを設定するウィザードを起動して、レポートを作成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索 249 ページの「ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード」を参照してください。 パッチ適用状況の探索 250 ページの「パッチの適用状況探索ウィザード」を参照してください。 アプリケーション利用状況の探索 272 ページの「アプリケーション利用状況収集ウィザード」を参照してください。
	電源管理	デバイスのグループの電源をオンまたはオフにしたり、再起動したりします。251 ページの「電源管理ウィザード」を参照してください。

[デバイス] タブ

[デバイス] タブには、選択されているソフトウェアに対して現在付与されているデバイスがすべて表示されます。ツールバーのボタンを使用して、デバイスへのソフトウェアの配布またはデバイスからのソフトウェアの削除、データ収集操作の開始、電源管理操作の実行、またはデバイスのリモートからの制御を実行できます。

表 10 [デバイス] タブで実行できるアクション








ボタン	機能	アクション
	データのリフレッシュ	デバイスのリストをリフレッシュします。
	CSV にエクスポート	デバイスのカンマ区切りのリストの表を作成します。この表は、開いたり保存したりできます。
	ソフトウェアの配布	選択されているデバイスに、このソフトウェアを配布します。255 ページの「ソフトウェア配布ウィザード」を参照してください。
	ソフトウェアの削除	選択されているデバイスから、このソフトウェアを削除します。263 ページの「ソフトウェア削除ウィザード」を参照してください。
	インベントリの収集	選択されているデバイスに対して、次のいずれかのデータ収集ジョブのスケジュールを設定するウィザードを起動して、レポートを作成します。 <ul style="list-style-type: none">● ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索 249 ページの「ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード」を参照してください。● パッチ適用状況の探索 250 ページの「パッチの適用状況探索ウィザード」を参照してください。● アプリケーション利用状況の探索 272 ページの「アプリケーション利用状況収集ウィザード」を参照してください。 このレポートは [[レポート] タブ] タブからアクセスできます。

表 10 [デバイス] タブで実行できるアクション

ボタン	機能	アクション
	電源管理	選択されているデバイスの電源をオンまたはオフにしたり、再起動したりします。251 ページの「電源管理ウィザード」を参照してください。
	リモート制御	選択されているデバイスに対するリモート制御セッションを起動します。72 ページの「リモート制御」を参照してください。

[レポート] タブ

[ソフトウェアの詳細] ウィンドウの [レポート] タブには、表示しているソフトウェアに固有のレポートの要約が表示されます。詳細なレポートを表示するには、メイン HPCA Console の [レポート] タブを使用します。

[現在のジョブ] タブ

[現在のジョブ] には、現在アクティブなソフトウェア管理ジョブおよびスケジュールされたソフトウェア管理ジョブがすべて表示されます。ソフトウェア管理ジョブは、HPCA データベースの管理対象デバイスでソフトウェアの付与、配布、および削除を行うために使用します。インベントリ

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更したり、表の一番上にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプしたりすることができます。

ジョブ コントロールおよび Job Status については、137 ページの「現在のジョブ」(「ジョブ管理」セクション)を参照してください。

[過去のジョブ] タブ

[過去のジョブ] は、完了したソフトウェア管理ジョブをすべて表示します。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更したり、表の一番上にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプしたりすることができます。



完了したジョブは完了の 1 分後に ([現在のジョブ] タブから) 過去のジョブ リストに移動されます。

設定管理

設定プロファイルでは、**HPCA** がサポートする特定のソフトウェアの設定を管理および配布できます。設定プロファイルを作成または変更したら、関連するソフトウェアのインストール先であるターゲットシステムにプロファイルを配布できます。設定プロファイルの作成は、**HPCA Console** の [操作] 領域で実行されます。**HPCA Console** の [操作] 領域にアクセスするには、ログインアカウントに適切なロールが設定されている必要があります。

プロファイルの作成および変更方法については、188 ページの「[設定管理](#)」を参照してください。

[管理] 領域の [設定管理] セクションでは、設定プロファイル サービスおよび設定プロファイルの管理ジョブを管理します。管理対象デバイスのグループには、設定プロファイル サービスに付与され、それらのサービスは、管理者によって **HPCA Console** を使用して配布されます。このセクションでは、設定プロファイルを配布したり、設定プロファイルの詳細を表示したり、サービスにグループ資格を追加したりできます。

[設定管理] タブには、次のタブがあります。

- 112 ページの「[全般](#)」
- 113 ページの「[設定プロファイル](#)」
- 115 ページの「[現在のジョブ](#)」
- 115 ページの「[過去のジョブ](#)」

全般





[全般] タブでは、設定プロファイルを配布したり、現在および過去の設定のプロファイル管理ジョブを表示したりできます。

[要約] セクションには、**HPCA** データベースで現在使用可能な設定プロファイル サービスの数およびスケジュール設定されている現在の設定プロファイル管理ジョブの数が表示されます。

設定プロファイル

[設定プロファイル] タブには、HPCA 対応の特定のアプリケーションで使用できるすべての設定プロファイルが表示されます。次の表に、このタブのアイコンの要約を示します。

表 11 [設定管理プロファイル] ツールバーのタスク

ボタン	説明
	データのリフレッシュ – 一覧表示されている設定プロファイルをリフレッシュします。
	CSV にエクスポート – 開いたり、表示したり、保存したりできる、カンマ区切りのリストを作成します。
	設定プロファイルの配布 – 設定プロファイル配布ウィザードを起動します。
	グループ資格の追加 – サービス資格ウィザードを起動します。

[設定プロファイル] タブでは、次のタスクを実行できます。


- 113 ページの「設定プロファイルの配布」
- 114 ページの「グループ資格の追加」

設定プロファイルの配布

設定プロファイルの配布は、HPCA Console の [管理] タブで実行できるタスクです。プロファイルを配布するには、まずこのプロファイルの付与資格をデバイスのグループに設定します。設定プロファイルを付与するデバイスのグループを作成方法については、90 ページの「グループ管理」を参照してください。このグループに設定プロファイルの付与の対象となるデバイスを入力します。

設定プロファイル配布ウィザードでは、デバイス グループに設定プロファイルを配布したり、このグループから設定プロファイルを削除したりできます。


設定プロファイルの付与および配布を行うには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、配布または削除する設定プロファイルを選択します。次に、[**設定プロファイルの配布**]  をクリックして、**設定プロファイル配布ウィザード**を起動します。
- 2 **256** ページのウィザードの手順に従って、使用環境の管理対象デバイスに設定プロファイルを配布したり、このデバイスから設定プロファイルを削除したりします。

グループ資格の追加

デバイスのグループに設定プロファイルを付与できます。

グループ資格を追加するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、グループ資格に関する設定プロファイルを選択します。
- 2 [**グループ資格の追加**]  をクリックして、**サービス資格ウィザード**を起動します。
- 3 ウィザードの手順に従って、ウィザードを使って選択するデバイスのグループに、設定プロファイルを付与します。

設定プロファイルの詳細

設定プロファイルの表示名をクリックすると、[**設定プロファイルの詳細**] ウィンドウが開きます。[**設定プロファイルの詳細**] ウィンドウを使用して、設定プロファイル サービスのプロパティの表示、付与資格の表示や変更、設定プロファイルの配布や削除、およびレポートの要約の表示を行います。

- [**全般**] タブでは、新しく設定されたグループ / デバイスの付与資格を反映する要約情報を確認できます。また、ショートカット リンクを使用すると、よく使用する設定プロファイル管理のタスクに簡単にアクセスできます。
- [**プロパティ**] タブでは、設定プロファイルのプロパティを表示できます。
- [**グループ**] タブでは、設定プロファイルの配布または削除、および付与資格の追加または削除を実行できます。**256** ページの「**設定プロファイル配布ウィザード**」を参照してください。

- [デバイス] タブでは、設定プロファイルを配布または削除できます。
256 ページの「[設定プロファイル配布ウィザード](#)」を参照してください。
- [レポート] タブでは、選択されている設定プロファイルに基づくコンテキスト レポートを表示できます。

現在のジョブ

[現在のジョブ] には、現在アクティブな、スケジュールされているすべての設定プロファイルの管理ジョブが表示されます。設定プロファイル管理ジョブを使用して、HPCA データベースの管理対象デバイスへの設定プロファイルの付与、配布、および管理対象デバイスからの設定プロファイルの削除を行います。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更したり、表の一番上にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプしたりすることができます。

ジョブ コントロールおよびジョブ ステータスの詳細は、81 ページの「[現在のジョブ](#)」を参照してください。

過去のジョブ

[過去のジョブ] には、完了した設定プロファイル管理ジョブがすべて表示されます。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更したり、表の一番上にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプしたりすることができます。



完了したジョブは完了の 1 分後に ([現在のジョブ] タブから) 過去のジョブ リストに移動されます。

パッチ管理

Microsoft パッチ、HP SoftPaq およびパッチ管理ジョブを管理するには、[パッチ管理] 領域を使用します。

Microsoft パッチと HP SoftPaq は、HPCA 管理者によって管理対象デバイスのグループに付与され、配布されます。配布は、管理者が定義した適用状況スケジュールに基づいて自動的に実行できます。224 ページの「[パッチ管理](#)」を参照してください。

Publisher を使用してパブリッシュされた HP SoftPaq は、ソフトウェア ライブラリに格納されています。一方、取得した HP SoftPaq はパッチ ライブラリに格納されています。

[パッチ管理] セクションには、次のタブがあります。

- 119 ページの「[\[全般\] タブ](#)」
- 120 ページの「[\[パッチ\] タブ](#)」
- 123 ページの「[\[現在のジョブ\] タブ](#)」
- 124 ページの「[\[過去のジョブ\] タブ](#)」

▶ 特定のパッチの設定を表示または変更するには、121 ページの「[\[パッチの詳細\] ウィンドウ \(\[管理\] タブ\)](#)」を参照してください。

Microsoft Update Catalog: OS とサービス パックの最低要件

▶ このセクションに記載されているハイパーリンクはすべてこのマニュアルの出版の時点で実行可能な最新のリンクです。

HPCA パッチ管理で利用する **Microsoft Update Catalog** および **Windows Update** テクノロジーに必要なオペレーティング システムとサービス パックの最低要件については、Microsoft の Web サイトを参照してください。このマニユ

アルを作成している時点で、サポートされる Microsoft オペレーティング システムのバージョンと言語については、Microsoft Update ホーム ページ (<http://update.microsoft.com/microsoftupdate/v6/default.aspx>) で確認できます。



より新しい Microsoft セキュリティ パッチをインストールするためには、HPCA Agent マシンに Windows インストーラ バージョン 3.1 が必要です。Windows インストーラ 3.1 の詳細については、Microsoft サポート技術情報の記事「**Windows インストーラ 3.1 v2 (3.1.4000.2435) について**」を参照してください。

Microsoft 自動更新に関する重要な情報

自動更新は Microsoft Windows オペレーティング システムの機能で、ユーザーは必要な更新プログラムまたはパッチがないかどうかを確認するために、自分のシステムをスキャンできます。自動更新では、更新プログラムおよびパッチのダウンロードおよびインストールも行うことができます。この機能では、現在、次の設定オプションを使用できます。

- 更新を自動的にダウンロードするが、インストールは手動で実行する
- 更新を通知するのみで、自動的なダウンロードまたはインストールを実行しない
- 自動更新を無効にする



[自動更新を無効にする] オプションを使用することをお勧めします。



これらの各オプションを使用した場合の影響や結果について理解することが重要です。システムでいずれかのオプションを選択する前に、次のセクションを参照してください。

自動更新についての考慮事項

自動更新と HPCA Patch Manager では、基本の Windows コンポーネントと **Windows Update Agent (WUA)** を使用してデバイスをスキャンし、更新をインストールします。このマニュアルを作成している時点で、複数のパッチ管理製品で WUA を使用している場合に生じる既知の問題があります。そのため、Patch Manager を使用して更新プログラムの配布とインストールを行う場合は、このセクションの情報に従って自動更新を設定してください。この設定を行わない場合、問題が発生する可能性があります。

自動更新を [**更新を通知するのみで、自動的なダウンロードまたはインストールを実行しない**] に設定する場合、HPCA Agent で更新をスキャンおよびインストールしている間、ユーザーは自動更新のダウンロードプロセスを開始できません。自動更新プロセスが手動で開始されると、管理対象デバイスのいずれかのプロセスが更新のダウンロードおよびインストールに失敗します。

これは、Patch Manager に特有の動作ではありません。他のパッチ管理製品が WUA を使用しようとしたときに WUA がすでに使用中の場合も、同じことが起こります。Microsoft は、この問題を修正する予定です。このマニュアルを作成している時点で、関連する Microsoft サポート技術情報の記事は次のとおりです。

- Microsoft サポート技術情報の記事 910748 「**SMS 2003 Inventory Tool for Microsoft Updates....**」
- Microsoft サポート技術情報の記事 931127 「**You receive an error message in the WindowsUpdate.log file...**」
- 企業でウイルス スキャナをインストールし、それを有効にしている場合は、Microsoft サポート技術情報の記事 922358 「**Microsoft Systems Management Server 2003 Inventory Tool for Microsoft Updates cannot run when a McAfee antivirus program is installed on the same computer)**」を参照してください。この記事では、フォルダ %Windir%\SoftwareDistribution をウイルス スキャンの対象から除外する必要性について説明しています。Microsoft のこのドキュメントは特定の Microsoft パッチ管理テクノロジーに言及していますが、Windows Update Agent の同じ制限事項が、Windows Update Agent テクノロジーを利用する HPCAS Patch Manager を使用している企業にも該当します。
- 自動更新がサポートする製品には HPCA でサポートされないものがあるため、[**自動更新を無効にする**] を選択すると、使用可能な更新がまったく通知されないことがあります。

WUA は、Windows の自動更新サービスを使用します。これは、ターゲットデバイスで [**自動**] または [**手動**] に設定する必要があります。Windows の自動更新サービスは、必要に応じて WUA によって起動されるまで停止状態です。自動更新の詳細については、次の Microsoft サポート技術情報の記事を参照してください。

- 「**Windows XP** での自動更新の構成方法および使用方法」
- 「**Windows 2000** で自動更新を設定する方法と使用する方法」

[全般] タブ

[全般] タブを使用して、パッチの取得と配布、現在および過去に完了したパッチ管理ジョブの参照ができます。

[要約] セクションには、HPCA データベースで現在利用可能なパッチおよび現在のパッチ管理ジョブの数が表示されます。

Microsoft のパッチおよび HP SoftPaq は、[設定] タブの [パッチ管理] セクションで指定した情報に基づいて、それぞれのソースから取得されます。詳細については、224 ページの「[パッチ管理](#)」を参照してください。

パッチを取得するには

- [共通のタスク] 領域で **[取得]** をクリックします。

パッチがダウンロードされ、パッチ ライブラリに追加されます。管理者が設定した取得スケジュールに従って、追加のパッチが自動的にダウンロードされます。

パッチは、HPCA Console からのみ管理対象デバイスに配布されます。パッチは、Application Self-Service Manager のソフトウェア カタログでは利用できません。





パッチを配布するには

- 1 [共通のタスク] 領域で、**[配布]** をクリックして、**パッチ配布ウィザード**を起動します。
- 2 ウィザードの手順に従って、選択したグループのデバイスにパッチを配布します。

[パッチ] タブ

パッチ ライブラリには、[設定] タブの [パッチ管理] セクションの設定に基づいて取得されたパッチと HP SoftPaq が含まれています。これらのパッチおよび HP SoftPaq は、管理対象デバイスに付与および配布できます。詳細については、224 ページの「パッチ管理」を参照してください。

表 12 [パッチ ライブラリ] ツールバーのタスク

ボタン	説明
	データのリフレッシュ – パッチ ライブラリをリフレッシュします。
	CSV にエクスポート – 開いたり、表示したり、保存したりできる、カンマ区切りのリストを作成します。
	パッチの配布 – パッチ配布ウィザードを起動します。
	グループ資格の追加 – サービス資格ウィザードを起動します。


[パッチ] タブから次のタスクを実行できます。

- 120 ページの「パッチの配布」
- 121 ページの「グループ資格の追加」
- 121 ページの「[パッチの詳細] ウィンドウ ([管理] タブ)」

パッチの配布

パッチ ライブラリで利用可能なパッチは、管理対象デバイスに配布できます。


パッチを配布するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスを使用して、配布用のパッチを選択します。
- 2 **[パッチの配布]**  ボタンをクリックして、パッチ配布ウィザードを起動します。
- 3 ウィザードの手順に従って、パッチを配布します。

グループ資格の追加

パッチ ライブラリで利用可能なパッチは、デバイスのグループに付与できます。付与資格により、[パッチ配布ウィザード](#)で設定したスケジュールを使用して、パッチ適用状況を強制できます。

グループ資格を追加するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスを使用して、グループ資格用のパッチを選択します。
- 2 **[グループ資格の追加]**  ボタンをクリックして、[サービス資格ウィザード](#)を起動します。
- 3 ウィザードの手順に従って、選択するデバイスのグループに、パッチを付与します。

[パッチの詳細] ウィンドウ ([管理] タブ)

パッチの説明をクリックして、[パッチの詳細] ウィンドウを開きます。[パッチの詳細] ウィンドウを使用して、パッチ サービスのプロパティの表示、付与資格の表示および変更、およびレポートの要約の表示を行います。次の領域が利用可能です。

全般

[全般] タブには、パッチ サービスに利用可能な共通のタスクが表示されます。その他の設定タスクを表示するには、他の管理領域タブをクリックします。

プロパティ



[プロパティ] タブには、ブリティン番号、ブリティンの説明とタイプ、公開日と改訂日、およびベンダー情報のリンクが表示されます。




このタブのこの情報は、読み取り専用です。これらの設定は変更できません。


グループ

[グループ] タブには、選択したパッチに付与されているグループがすべて表示されます。ツールバー ボタンを使用して、各グループ内の管理対象デバイスでパッチの付与資格やインストール状態を変更します。


- グループに資格を付与するには、[**グループ資格の追加**]  をクリックします。
- グループから付与資格を削除するには、グループを選択し、[**グループ資格の削除**]  ボタンをクリックします。

- グループにパッチを配布するには、グループを選択し、[**パッチの配布**]  をクリックします。


パッチ配布ウィザードの手順に従って、選択したパッチを配布します。

- デバイスのグループのソフトウェアおよびハードウェアのインベントリを探索するには、グループを選択して、[**インベントリの収集**]  ボタンをクリックし、[**ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索**] を選択します。


ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザードの手順に従って、ソフトウェアおよびハードウェア インベントリを探索します。

- デバイスのグループのパッチ適用状況を探るには、グループを選択して、[**インベントリの収集**]  ボタンをクリックし、[**パッチの適用状況の探索**] を選択します。

パッチの適用状況探索ウィザードの手順に従って、パッチ適用状況を探ります。

- デバイスのグループのアプリケーション利用状況を探るには、グループを選択して、[**インベントリの収集**]  をクリックし、[**アプリケーション利用状況の探索**] を選択します。


アプリケーション利用状況収集ウィザードの手順に従って、アプリケーション利用状況データを探索します。

- デバイスのグループの電源をオン、オフ、または再起動するには、グループを選択して、[**電源管理**]  ボタンをクリックします。

電源管理ウィザードの手順に従って、デバイスを管理します。

デバイス


[デバイス] タブに一覧表示されるデバイスは、選択したパッチに対して付与されています。ツールバー ボタンを使用して、デバイスにパッチを配布します。

- デバイスにパッチを配布するには、デバイスを選択し、[**パッチの配布**]  ボタンをクリックします。


パッチ配布ウィザードの手順に従って、パッチを配布します。




パッチは、配布されたら削除できません。

- デバイスのソフトウェアおよびハードウェアのインベントリを探索するには、デバイスを選択して、[**インベントリの収集**]  をクリックし、[**ソフトウェア/ハードウェアインベントリの探索**] を選択します。


ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード の手順に従って、ソフトウェアおよびハードウェア インベントリを探索します。

- デバイスのパッチ適用状況を探るには、デバイスを選択して、[**インベントリの収集**]  ボタンをクリックし、[**パッチの適用状況の探索**] を選択します。

パッチの適用状況探索ウィザードの手順に従って、パッチ適用状況を探ります。

- デバイスのアプリケーション利用状況を探るには、デバイスを選択して、[**インベントリの収集**]  ボタンをクリックし、[**アプリケーション利用状況の探索**] を選択します。

アプリケーション利用状況収集ウィザードの手順に従って、アプリケーション利用状況データを探索します。

- デバイスの電源をオン、オフ、および再起動するには、デバイスを選択して、[**電源管理**]  ボタンをクリックします。

電源管理ウィザードの手順に従って、デバイスを管理します。

レポート

[レポート] タブには、表示しているパッチに固有のレポートの要約が表示されます。詳細なレポートを表示するには、メイン HPCA Console の [レポート] タブを使用します。

[現在のジョブ] タブ

デバイスにセキュリティパッチを配布するには、パッチ管理ジョブが使用されます。[現在のジョブ] には、アクティブなジョブおよびスケジュールされたジョブのリストが表示されます。ジョブのステータスをより詳細に表示するには、ジョブの説明をクリックしてください。

ツールバーを使用して、現在スケジュールされているジョブとアクティブなジョブを管理します。

ジョブ コントロールおよび **Job Status** については、137 ページの「現在のジョブ」(「ジョブ管理」セクション)を参照してください。

[過去のジョブ] タブ

[過去のジョブ] は、完了したパッチ管理ジョブをすべて表示します。ジョブのステータスをより詳細に表示するには、ジョブの説明をクリックしてください。



完了したジョブは完了の 1 分後に過去のジョブ リストに移動されます。

OS 管理

[管理] タブの [OS 管理] 領域を使用して、管理対象デバイスが使用するオペレーティング システムを管理します。このセクションのこの領域では、オペレーティング システムを配布し、付与資格を管理できます。

次のセクションでは、OS 管理の各タブについて説明します。

- 125 ページの「[全般] タブ」
- 126 ページの「[オペレーティング システム] タブ」
- 136 ページの「[現在のジョブ] タブ」
- 137 ページの「[過去のジョブ] タブ」



特定のオペレーティング システムの設定を表示または変更するには、133 ページの「[OS の詳細] ウィンドウ ([管理] タブ)」を参照してください。

[全般] タブ

[OS 管理] ページの [全般] タブでは、次の作業を実行します。

- オペレーティング システムをパブリッシュする方法に関する情報を検索する
- 付与資格の管理
- 管理対象デバイスへのオペレーティング システムの配布
- 現在および過去の OS 管理ジョブを表示する

[要約] セクションには、HPCA OS ライブラリで現在使用可能なオペレーティング システム サービスの数および現在の OS 管理ジョブの数が表示されます。

OS イメージをキャプチャしてパブリッシュするには

HPCA では、OS イメージの準備およびキャプチャに使用できるツールを提供しています。詳細については、285 ページの「OS イメージの準備とキャプチャ」を参照してください。

OS イメージを OS ライブラリで使用できるようにするには、まず OS イメージをパブリッシュする必要があります。詳細については、311 ページの「パブリッシュ」を参照してください。

OS イメージを配布するには

- 1 [共通のタスク] 領域で **[オペレーティングシステムの配布]** をクリックします。
OS 配布ウィザードが起動します。
- 2 ウィザードの手順に従って、管理対象デバイスに対してオペレーティングシステムの付与と配布を行います。

ターゲット デバイスの要件や配布シナリオなど、オペレーティングシステムの配布の詳細については、127 ページの「**オペレーティングシステムの配布**」を参照してください。





[オペレーティングシステム] タブ

[オペレーティングシステム] タブには、HPCA にパブリッシュされた使用可能なオペレーティングシステムがすべてリストされます。

提供ツールでは、オペレーティングシステムを管理対象デバイスに配布したり、そのオペレーティングシステムをデバイスのグループに付与したりします。

新しくパブリッシュされた (7 日以内にパブリッシュされた) サービスは、説明の右に、括弧付きの新規作成という単語「(新規作成)」が表示され、識別ができます。

表 13 [OS ライブラリ] ツールバーのアクション

ボタン	説明
	データのリフレッシュ – OS ライブラリのオペレーティングシステムのリストをリフレッシュします。
	CSV にエクスポート – オペレーティングシステムのカンマ区切りのリストの表を作成します。この表は、開いたり、表示したり、保存したりできます。
	オペレーティングシステムの配布 – OS 配布ウィザードを起動します。
	グループ資格の追加 – サービス資格ウィザードを起動します。

[オペレーティングシステム] タブでは、次のタスクを実行できます。

- 127 ページの「**オペレーティングシステムの配布**」
- 130 ページの「**LSB を使用した OS イメージの配布**」

- 130 ページの「[PXE を使用した OS イメージの配布](#)」
- 131 ページの「[サービス CD を使用した OS イメージの配布](#)」
- 132 ページの「[グループ資格の追加](#)」
- 133 ページの「[オペレーティング システムの復元](#)」
- 133 ページの「[\[OS の詳細\] ウィンドウ \(\[管理\] タブ\)](#)」

オペレーティング システムの配布

オペレーティング システムの付与および配布を行うには

- 1 配布するオペレーティング システム サービスを選択して、**[オペレーティング システムの配布]** ボタンをクリックします。OS 配布ウィザードが起動します。
- 2 ウィザードの手順に従って、管理対象デバイスに対してオペレーティング システムの付与と配布を行います。

オペレーティング システムの配布には、有人モードと無人モードがあります。配布モードの選択については、233 ページの「[OS 管理](#)」の [設定] タブを参照してください。

配布シナリオおよび OS 配布のターゲット デバイス要件は、次の情報を参照してください。

配布シナリオ

お使いの環境のデバイスにオペレーティング システムを配布する方法は、いくつかの変数によって異なります。次の表は、複数の OS イメージ配布シナリオおよびデバイスにオペレーティング システムを配布する手順を説明しています。詳細については、『HP Client Automation System Administrator ユーザー ガイド』を参照してください。

表 14 配布シナリオ

デバイスの状態	配布の手順
管理対象 (Agent をインストール済み)	デバイスがすでに管理されている場合 <ul style="list-style-type: none">• デバイスをグループに追加• オペレーティング システムの付与資格をグループに設定する (付与がまだの場合)• OS 配布ウィザードを使用して OS を配布 注意 : OS 配布プロセスの間に LSB を使用する場合、PXE やサービス CD を準備する必要はありません。
非管理対象 (Agent が未インストール)	非管理対象デバイスに OS がインストールされている場合 <ul style="list-style-type: none">• デバイスに HPCA Agent を配布• 上の管理対象デバイスに関する手順を参照 非管理対象デバイスに OS がインストールされていない場合 <ul style="list-style-type: none">• ベアメタル デバイスへの OS の配布については、下記の手順を参照してください。

表 14 配布シナリオ

デバイスの状態	配布の手順
ベアメタル(OSが未インストール)	<p>(ハードディスクの復旧など)デバイスが以前管理されていた場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ● グループ メンバーシップおよび OS の付与資格がまだ有効です。PXE またはサービス CD を使用して OS を配布 ● PXE またはサービス CD でデバイスを起動 <p>MAC アドレスのバリエーションをデバイス名として使用して HPCA にデバイスを追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新しいデバイスを OS 付与資格を持つグループに追加 <p>デバイスが再起動され、サービス CD または PXE が OS の配布を続けます。</p> <p>注意: OS は、全デバイス グループに接続されている場合、自動的にインストールされます。複数の OS が全デバイスに接続されている場合、インストールする OS を選択します。</p> <p>注意: ベアメタル デバイスへの OS の配布には、LSB は使用できません。</p>

ターゲット デバイスの要件

ターゲット デバイスは、オペレーティング システムをインストール、置換、または更新するデバイスです。詳細については、『**HP Client Automation System Administrator ユーザー ガイド**』の「システム要件」の章の「ターゲット デバイス」セクションを参照してください。

シンクライアントの出荷時イメージの配布

サポートされているシンクライアントのオペレーティング システム (Windows XP Embedded (XPe)、Windows CE、または Embedded Linux) の出荷時イメージを配布する場合、OS の後に HPCA Agent をインストールしてデバイスの管理を開始する必要があります。インストールの指示については、82 ページの「**HP シンクライアントでの HPCA Agent のインストール**」を参照してください。


LSB を使用した OS イメージの配布

[ローカル サービスの起動 (LSB)] により、HPCA は、ネットワークから起動されていないデバイスの OS を管理できます。

LSB を使用するとき、既存のマシンは PXE 対応である必要はありません。また、各ターゲット デバイスについて、起動の順序を BIOS でローカルに設定する必要はありません。

OS 配布の前提要件については、128 ページの「配布シナリオ」を参照してください。

ローカル サービスの起動を使用して OS イメージを配布するには

- 1 配布用のイメージを選択し、[オペレーティング システムの配布]  ボタンをクリックして OS 配布ウィザードを起動します。
- 2 ウィザードの指示に従い、配布方法の選択では、[ローカル サービスの起動] を選択します。
- 3 これで、LSB ソフトウェアがターゲット デバイスにインストールされ、次に、選択した OS がインストールされます。複数の OS イメージがデバイスに付与されている場合、インストールする OS を選択するように要求されます。

PXE を使用した OS イメージの配布

PXE ベースの環境により、HPCA は、ネットワークから起動されるターゲット デバイスの OS を管理できます。OS 配布の前提要件については、128 ページの「配布シナリオ」を参照してください。

PXE を使用するには、次の 2 つを使用してネットワークからクライアントを起動できるように DHCP サーバーを構成します。

- ブート イメージ
- これらのファイルを提供する TFTP サーバー




DHCP サーバーおよび TFTP サーバーは、OS 配布に PXE を使用する前に、設定する必要があります。設定の指示は製品のドキュメントを参照してください。

PXE が設定されている場合、ターゲット デバイスがネットワークから起動すること、またはプライマリ ブート デバイスとして PXE が有効になっていることを確認してください。このような設定になるように、必要な設定の調節を行います (たとえば、BIOS の一部のバージョンでは、再起動プロセスの間に **ESC** キーを押して、起動順序設定を変更できます)。

これで、OS イメージを配布する準備ができました。

PXE を使用して OS イメージを配布するには

- 1 PXE が設定されていることを確認します。
- 2 配布用のイメージを選択し、[オペレーティング システムの配布] ボタン  をクリックして **OS 配布ウィザード** を起動します。
- 3 ウィザードの指示に従い、配布方法の選択では、[ローカル CD または PXE サーバー] を選択します。

ウィザードが終了したら、DHCP サーバーで指定した設定を使用して、ターゲット デバイスが再起動されます。

次に、OS イメージが配布され、ターゲット デバイス上にインストールされます。複数の OS イメージがデバイスに付与される場合、インストールする OS を選択するように要求されます。

サービス CD を使用した OS イメージの配布

サービス CD を使用して、まだオペレーティング システムがインストールされていないターゲット デバイス (ベアメタル マシン) をローカルに起動します。

ImageDeploy.iso を使用してサービス CD を作成します。このファイルは、HPCA メディアの \Media\iso\roms\ ディレクトリにあります。

LSB は、まだ OS をインストールしていないデバイスには使用できないため、OS 配布のためベアメタル マシンを起動するには、サービス CD または PXE サーバーのいずれかを使用する必要があります。

サービス CD は、ターゲット デバイスでローカルに作成して利用可能にする必要があります。

OS 配布の前提要件については、128 ページの「配布シナリオ」を参照してください。

サービス CD を使用して OS イメージを配布するには


- 1 ターゲット デバイスにサービス CD を挿入し、CD から起動します。

- 2 入力を要求されたら、**HPCA Server** の IP アドレス (またはホスト名) とポート番号を入力し、**Enter** キーを押して続行します。例：

HPCA.acmecorp.com:3466

HPCA Core および Satellite のインストールでの OS のイメージングと配布用に予約されている HPCA Server ポートは 3466 です。HPCA Classic インストールでは、ポート 3469 がこの目的のために予約されています。

デバイスは、HPCA Server に接続され、MAC アドレスのバリエーションをデバイス名として使用して、デバイス リストに追加されます。サービス CD が HPCA Server に接続されると、「このマシンにローカル OS がないか、OS が無効です。」と「マシンは使用できず、管理者がポリシーを指定して Wake On LAN を実行するまでシャットダウンされます。」というメッセージが表示されます。


- 3 HPCA Console で、[OS 管理] セクションを使用して新しいデバイスをグループに追加します。
- 4 [OS 管理] セクションで、配布用のイメージを選択し、[オペレーティング システムの配布]  ボタンをクリックして OS 配布ウィザードを起動します。
- 5 ウィザードの指示に従い、配布方法の選択では、[ローカル CD または PXE サーバー] を選択します。
- 6 ウィザードが完了したら、再びサービス CD を使用して、ターゲット デバイスを再起動します。この再起動の間に、OS イメージが検出され配布されます。イメージのサイズおよびネットワークのバンド幅により、これには 10 ~ 15 分かかる場合があります (複数の OS イメージがデバイスに付与されている場合、どの OS をインストールするか選択するように指示されます)。
- 7 イメージの配布が終了したら、ターゲット デバイスを再起動し、Windows を起動します。Sysprep プロセスが、新しいイメージを起動し、初期化します。

グループ資格の追加

オペレーティング システムをターゲット デバイスのグループに配布するには、グループに付与してそのオペレーティング システムを使用できるようにする必要があります。

グループ資格を追加するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスを使用して、グループ資格の OS イメージを選択します。

- 2 **【グループ資格の追加】**  ボタンをクリックして、サービス資格ウィザードを起動します。
- 3 ウィザードの手順に従って、ウィザードを使用して選択するデバイスのグループに選択したイメージを付与します。

オペレーティング システムの復元

OS Manager を使用すると、最後の手段としてオペレーティング システムを復元できます。オペレーティング システムを復元するとオペレーティング システムは動作するようになりますが、データがすべて失われるため、コンピュータ名の変更や Agent のインストールなどのカスタマイズを実行することが必要になります。

前提条件および手順についての詳細は、『HPCA OS Manager システム管理者ガイド』の「オペレーティング システムの復元」を参照してください。

[OS の詳細] ウィンドウ ([管理] タブ)

いずれかのオペレーティング システム サービス ID をクリックして、[OS の詳細] ウィンドウを開きます。[OS の詳細] ウィンドウを使用して、OS のプロパティの表示、付与資格の表示や変更、オペレーティング システムの配布、およびレポートの要約の表示を行います。[OS の詳細] ウィンドウには、次の領域があります。

全般

[全般] タブは、その OS サービスに利用可能な共通のタスクを表示します。その他の設定タスクを表示するには、他の管理領域タブをクリックします。

[要約] 領域には、この OS に付与されているグループおよびデバイスの数が表示されます。

プロパティ

[プロパティ] タブを使用して、オペレーティング システムに関する情報を表示します。



この場合、この情報は読み取り専用です。[操作] タブの [OS 管理] 領域を使用すると、これらの設定を変更できます。詳細については、183 ページの「[OS の詳細] ウィンドウ ([操作] タブ)」を参照してください。

グループ

[グループ] タブには、OS に付与されている管理対象クライアント デバイスのすべてのグループが表示されます。ツールバーのボタンを使用して、付与資格の管理、OS の配布、データ収集操作の開始、または電源管理操作を実行できます。

表 15 [グループ] タブで実行できるアクション








ボタン	機能	アクション
	データのリフレッシュ	グループのリストをリフレッシュします。
	CSV にエクスポート	グループのカンマ区切りのリストの表を作成します。この表は、開いたり保存したりできます。
	グループ資格の追加	1 つ以上の追加グループの管理対象クライアント デバイスに、この OS を付与します。
	グループ資格の削除	この OS に対するグループ資格を削除します。
	ソフトウェアの配布	選択されているデバイス グループにこの OS を配布します。265 ページの「OS 配布ウィザード」を参照してください。
	インベントリの収集	<p>選択されているグループに対して、次のいずれかのデータ収集ジョブのスケジュールを設定するウィザードを起動して、レポートを作成します。</p> <ul style="list-style-type: none">● ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索 249 ページの「ソフトウェア / ハードウェア インベントリ ウィザード」を参照してください。● パッチ適用状況の探索 250 ページの「パッチの適用状況探索ウィザード」を参照してください。● アプリケーション利用状況の探索 272 ページの「アプリケーション利用状況収集ウィザード」を参照してください。 <p>このレポートは [[レポート] タブ] タブからアクセスできます。</p>

表 15 [グループ] タブで実行できるアクション

ボタン	機能	アクション
	電源管理	デバイスのグループの電源をオンまたはオフにしたり、再起動したりします。251 ページの「電源管理ウィザード」を参照してください。

[デバイス] タブ

[デバイス] タブには、選択されている OS に対して現在付与されているデバイスがすべて表示されます。ツールバーのボタンを使用して、デバイスへの OS の配布、データ収集操作の開始、電源管理操作の実行、またはデバイスのリモートからの制御を実行できます。

表 16 [デバイス] タブで実行できるアクション







ボタン	機能	アクション
	データのリフレッシュ	デバイスのリストをリフレッシュします。
	CSV にエクスポート	デバイスのカンマ区切りのリストの表を作成します。この表は、開いたり保存したりできます。
	オペレーティングシステムの配布	選択されているデバイスに、このソフトウェアを配布します。265 ページの「OS 配布ウィザード」を参照してください。

表 16 [デバイス] タブで実行できるアクション

ボタン	機能	アクション
	インベントリの収集	<p>選択されているデバイスに対して、次のいずれかのデータ収集ジョブのスケジュールを設定するウィザードを起動して、レポートを作成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索 249 ページの「ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード」を参照してください。 パッチ適用状況の探索 250 ページの「パッチの適用状況探索ウィザード」を参照してください。 アプリケーション利用状況の探索 272 ページの「アプリケーション利用状況収集ウィザード」を参照してください。 <p>このレポートは [[レポート] タブ] タブからアクセスできます。</p>
	電源管理	<p>選択されているデバイスの電源をオンまたはオフにしたり、再起動したりします。251 ページの「電源管理ウィザード」を参照してください。</p>
	リモート制御	<p>選択されているデバイスに対するリモート制御セッションを起動します。72 ページの「リモート制御」を参照してください。</p>

レポート

[レポート] タブでは、そのオペレーティング システム サービスに固有のレポートの要約が表示されます。詳細なレポートを表示するには、メイン HPCA Console の [レポート] タブを使用します。

[現在のジョブ] タブ

[現在のジョブ] は、現在アクティブな OS 管理ジョブまたはスケジュールされた OS 管理ジョブをすべて表示します。OS 管理ジョブは、HPCA データベースの管理対象デバイスでオペレーティング システム サービスの付与と配布を行うために使用します。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更できます。または、表の上部にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプできます。

ジョブ コントロールおよび **Job Status** については、137 ページの「現在のジョブ」(「ジョブ管理」セクション)を参照してください。

[過去のジョブ] タブ

[過去のジョブ] は、完了した OS 管理ジョブをすべて表示します。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更できます。または、表の上部にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプできます。



完了したジョブは完了の 1 分後に ([現在のジョブ] タブから) 過去のジョブ リストに移動されます。

ジョブ管理

[ジョブ管理] セクションを使用して、現在のジョブおよび過去のジョブをすべて表示し、管理します。要約情報で、現在アクティブな管理ジョブおよびスケジュールされている管理ジョブの合計数が表示されます。

ジョブ管理のタブについては、次のセクションで説明しています。

- 137 ページの「全般」
- 137 ページの「現在のジョブ」
- 142 ページの「過去のジョブ」

全般

[全般] タブを使用して、現在および過去の全ジョブの表示、およびアクティブなジョブおよびスケジュールされているジョブの合計数を表示します。

現在のジョブ

[現在のジョブ] は、アクティブなまたはスケジュールされた全ジョブのリストを表示します。ジョブのステータスの詳細を表示するには、ジョブの ID リンクをクリックします。









ツールバー ボタンを使用して、現在スケジュールされているジョブ、またはアクティブなジョブを管理します。次のセクションでは、使用できるジョブ コントロールと詳細ウィンドウについて説明します。

- 138 ページの「ジョブ コントロール」
- 138 ページの「Job Status」
- 141 ページの「ジョブの詳細」

ジョブ コントロール

既存のジョブを管理するには、ジョブ リストの一番上にあるジョブ コントロールを使用します。各コントロールに関する説明は、下の表を参照してください。










表 17 [ジョブ] ツールバーで実行できるアクション

アイコン	説明
	データのリフレッシュ – ジョブ リストを更新します。
	CSV にエクスポート – 開いたり保存したりできる、カンマ区切りのリストを作成します。
	ジョブの開始
	無効になったり一時停止された ジョブの再開
	現在アクティブ、開始を待機中、および停止を待機中の ジョブの一時停止 。ジョブのステータスは [一時停止] に設定されます。
	現在アクティブまたは一時停止の ジョブの停止 。ジョブのステータスは停止を待機中に設定されます。
	ジョブのスケジュール再設定
	ジョブの削除

Job Status

各ジョブに関する情報は、[ステータス] カラムを参照します。次の表は、各ジョブ ステータス メッセージを説明しています。

表 18 ジョブ ステータスの説明

アイコン	ステータス	説明
	エラーで終了	ジョブは完了したが、いくつかエラーが発生した。詳細を表示するには、ジョブ ID リンクをクリックします。
	成功	ジョブは、エラーもなく正常に終了した。
	アクティブ	ジョブが現在実行中。
	一時停止	ジョブは現在、一時停止。
	開始を待機中	ジョブは、スケジュールされ、実行を待機中。
	停止を待機中	ジョブは現在、停止のプロセスの途中。
	失敗	ジョブが正常に終了しなかった。
	無効	ジョブが停止または一時停止された。
	休止状態	ターゲット デバイスがオフライン。ジョブは、デバイスがオンラインに戻ると再開されます。

各ジョブの管理にジョブ コントロールを使用するとき、予想される結果を確認するには、次の表を参照してください。

表 19 ジョブ ステータスと予想されるジョブ コントロールのアクション

	 開始	 再開	 一時停止	 停止	 スケジュール再設定	 削除
 エラーで終了	ステータスが現在アクティブに変化	なし	ステータスが無効化に変化	なし	更新を適用	ジョブの削除
 成功	ステータスが現在アクティブに変化	なし	ステータスが無効化に変化	なし	更新を適用	ジョブの削除
 アクティブ	なし	なし	ステータスが一時停止に変化	ステータスが停止を待機中に変化	更新を適用	なし
 一時停止	なし	ステータスが一時停止ステータスの前の状態に変化	なし	ステータスが停止を待機中に変化	更新を適用	なし
 開始を待機中	ステータスが現在アクティブに変化	なし	ステータスが無効化に変化	なし	更新を適用	ジョブの削除

表 19 ジョブ ステータスと予想されるジョブ コントロールのアクション

	 開始	 再開	 一時停止	 停止	 スケジュール再設定	 削除
 停止を待機中	なし	なし	ステータスが一時停止に変化	なし	更新を適用	なし
 失敗	ステータスが現在アクティブに変化	なし	ステータスが無効化に変化	なし	更新を適用	ジョブの削除
 無効	なし	ステータスが無効化ステータスの前の状態に変化	なし	なし	更新を適用	ジョブの削除

ジョブ コントロールは、[現在のジョブ] タブにあるジョブにしか利用できません。これには、現在アクティブなジョブおよび反復スケジュールを設定したジョブが含まれます。[過去のジョブ] タブにある完了したジョブはコントロールできないため、再び実行する必要がある場合は再作成してください。

ジョブの詳細を表示するには、ジョブ ID リンクをクリックします。新しいウィンドウが開き、それぞれのジョブの詳細が表示されます。

▶ ジョブが一時停止されても、ジョブのアクション(配布、収集など)は、現在対象となっているデバイスについては続行されます。アクションが完了すると、ジョブは、再開されるまで他のデバイスでは実行されません。

ジョブの詳細

ジョブ ID リンクをクリックすると、新しいウィンドウが開き、そのジョブに特有の情報が表示されます。ジョブタイプに応じて、[ジョブの詳細] ウィンドウに下で説明するタブが表示されます。

詳細

[詳細] タブには、すべてのジョブ情報が表示されます。

ターゲット

[ターゲット] タブには、ジョブが作成された全デバイスが表示されます。

サービス

[サービス] タブには、そのジョブのターゲット デバイス用のソフトウェア、パッチ、またはオペレーティング システムがすべて表示されます。

ジョブ メッセージの詳細については、[第 16 章](#)、「[トラブルシューティング](#)」を参照してください。

過去のジョブ

[過去のジョブ] には、完了した管理ジョブがすべて表示されます。ジョブのステータスの詳細を確認するには、ジョブ ID リンクをクリックして[[ジョブの詳細](#)] ウィンドウを開きます。



完了したジョブは完了の 1 分後に過去のジョブ リストに移動されます。

6 レポートの使用

[レポート]領域には、多くの種類のレポートの要約と詳細が表示されます。保有している **HPCA** ライセンスのタイプによって、特定のレポートが使用できます。この章では、次のトピックについて説明します。

- 144 ページの「レポートの概要」
- 145 ページの「レポート間の移動」
- 147 ページの「レポートのタイプ」
- 152 ページの「レポートのフィルタ」
- 155 ページの「ダイナミック レポート グループの作成」

レポートの概要

HPCA Console の [レポート] タブには、147 ページの「レポートのタイプ」に説明されているとおり、レポートの複数の収集に対するリンクが表示されます。

それぞれの収集には、特定のタイプのデータまたは特定の視聴者に焦点を当てたレポートのグループが含まれています。これらのレポートには、ダッシュボードに値を設定するために使用されるデータも表示されます。

次のレポートは、すべてのエディションの HPCA で使用可能です。

レポート パック	レポート タイプ	説明
rpm.kit	パッチ管理	パッチ ポリシーへの準拠デバイスと非準拠デバイス
rim.kit	インベントリ	現在 HPCA で管理されているデバイス



[レポート] セクションのグラフィカル レポートを表示するには、**Java Runtime Environment (JRE)** または **Java Virtual Machine (JVM)** が必要です。詳細については、次のサイトを参照してください。

<http://java.com/en/index.jsp>

レポート間の移動

[レポート] タブをクリックすると、[レポートのホーム ページ] が表示されます。ホーム ページには、インベントリ管理、パッチ管理 (インストールされて有効になっている場合)、および利用状況管理 (有効な場合) に関して、企業のスナップショットが表示されます。

[レポートのホーム ページ] では、次の 3 種類の方法で詳細な情報を見つけることができます。

- クイックリンクを使用して頻繁に要求されるレポートを開く。
- クイック検索を使用して特定のデバイスまたはサービスについてのインベントリ情報を検索する。この機能は、インベントリ レポート (たとえば、管理対象デバイス) のみに適用されます。
- 左のナビゲーション ツリーの [レポート ビュー] セクションにあるリンクを使用して、特定のレポートを開きます。

[レポート ビュー] では、現在のデータ セットで表示するレポート ウィンドウのセットと、各ウィンドウに関連した初期設定 (最小化や最大化、各ウィンドウのアイテム数など) が定義されます。初めてレポートにアクセスするときには、デフォルト ビューが適用されます。現在のビューは、グローバル ツールバーの右に表示されます。[レポート ビュー] は、変更やカスタマイズが可能です。

レポートが表示されているとき、[レポート] ページでは次のアクションを実行できます。

表 20 レポートのアクション














アイコン	説明
	レポート ビュー内を 1 ページ戻る。
	レポートのホーム ページに戻る。
	データをリフレッシュする。リフレッシュは、フィルタを適用または削除するときにも実行されます。
	このレポートをお気に入りのリストに追加する。

表 20 レポートのアクション

アイコン	説明
	このレポートへのリンクを電子メールで送る。
	「クイック ヘルプ」ボックスまたはツール チップが開きます。これは、フィルタにのみ適用されます。
	このレポートを印刷する。
	レポート ビューのデータ部分を折りたたむ。
	レポート ビューのデータ部分を展開する。
	このレポートのグラフィカル ビューを表示する。
	このレポートのグリッド (詳細) ビューを表示する。
	レポートの内容をカンマ区切り値 (CSV) ファイルにエクスポートする。このファイルのデータは、実際にはカンマではなくタブで区切られます。ただし、ファイル拡張子は CSV です。
	レポートの内容を Web クエリ (IQY) ファイルにエクスポートする。

レポートに青色テキストで表示されるアイテムには、さまざまな機能があります。

- 詳細を表示 – このアイテムに関してより詳細な情報まで掘り下げる
- このレポート ビューを起動 – このアイテムに基づいて新しいレポートを開く
- 検索条件に追加 – このアイテムに基づいて、現在のレポートに追加フィルタを適用する
- ベンダーのサイトに移動 – このブリティオンをポストしたベンダーの Web サイトに移動する

マウス カーソルを青色テキストのアイテム上に置くと、そのアイテムをクリックするとどのようなアクションが行われるかがツール チップに表示されます。



デフォルトでは、レポートでグリニッジ標準時 (GMT) が使用されます。個々のレポート パックは、GMT またはローカル時刻のいずれかを使用するように設定できます。

レポートのタイプ

HPCA Console では、次のタイプのレポートを使用できます。

- 147 ページの「[インベントリ管理レポート](#)」
- 149 ページの「[設定管理レポート](#)」
- 150 ページの「[HPCA 管理レポート](#)」
- 150 ページの「[パッチ管理レポート](#)」
- 151 ページの「[利用状況管理レポート](#)」

ここでは、それぞれのレポートについて簡単に説明します。

インベントリ管理レポート

インベントリ管理レポートには、HPCA の全デバイスに関するハードウェアとソフトウェアの情報が表示されます。これには、HP 固有のハードウェア用レポート、詳細と要約のデバイス コンポーネント、ブレード サーバー、TPM チップセットと SMBIOS 情報、S.M.A.R.T. (Self-Monitoring, Analysis, and Reporting Technology) 警告が含まれます。

レポート オプションを表示するには、インベントリ管理レポートのレポートビューを展開します。これらのレポートに含めるには、デバイスは **AUDIT.ZSERVICE.DISCOVER.INVENTORY** に付与されている必要があります。特定のデータを使用するには、HPCA を完全に設定する必要があります。設定の詳細については、221 ページの「[デバイス管理](#)」を参照してください。

一般的な管理対象デバイス レポートには、次のテーブル見出しがあります。

- **詳細** – このデバイスの [デバイスの要約] ページを開く。
- **前回の接続** – デバイスが最後に接続された日時。
- **HPCA Agent ID** – デバイス名。
- **HPCA Agent のバージョン** – 現在インストールされている Management Agent のバージョン。
- **デバイス** – デバイス名。
- **前回ログオン ユーザー** – デバイスへのログオンで使用された最後のユーザーアカウント。複数のユーザーがログオンしている場合は、最後にログオンしたユーザーのみが記録されます。現在ログオンしているユーザーを切り替えても、これには影響しません。

- **IP アドレス** – デバイスの IP アドレス。
- **MAC アドレス** – デバイスの MAC アドレス。
- **オペレーティング システム** – デバイスにインストールされているオペレーティング システム。
- **OS レベル** – 現在のオペレーティング システム レベル (サービス パック 2 など)。

HP ハードウェア レポート

HP ハードウェア レポートは、インベントリ レポートのサブセットで、互換性のある HP デバイスの **HP Client Management Interface (CMI)** でキャプチャされた簡易警告情報が含まれます。

HP ハードウェア レポートは、インベントリ管理レポートの下のハードウェア レポート ビューに配置されます。

選択したレポート ビューに基づいて具体的な警告タイプまたは **BIOS** 設定を検索するには、[レポート] ウィンドウの一番上に表示される追加のデータ フィルタ検索ボックスを使用します。

Windows レポート

Windows Vista および **Windows Experience Index** レポートは、インベントリ レポートのサブセットです。これらのレポートには、システム ステータスの情報が含まれています。

Windows Vista および **Windows Experience Index** レポートは、[即時レポート] の下の [インベントリ レポート] にあります。

Windows Experience Index レポート

Windows Experience Index には、Agent の **Windows System Assessment Tool (WinSAT)** の結果が表示されます。このツールでは、さまざまなカテゴリのスコア (1.0 ~ 7.9) と複合スコアが提供されます。複合スコアは、レポートされるコンポーネントで最も低いスコアになります。

レポートされるコンポーネントの評価状態は、次のようになります。

- 0 = 不明
- 1 = 有効
- 2 = 前回の評価が実行されてからハードウェアが変更されている
- 3 = 評価が実行されたことがない
- 4 = 無効

結果が有効でない場合、レポートを再生成する必要があります。レポートを再生成する前に、Agent の WinSAT に戻って Agent にインベントリ スキャンを実行します。

設定管理レポート

設定管理レポートには、設定プロファイルが配布されているデバイスの設定プロファイル情報が表示されます。設定プロファイルは、使用環境の管理対象デバイスにインストールされている特定のソフトウェアの設定で構成されています。設定プロファイルを作成して配布すると、ソフトウェアの概要レポートを表示できるようになるため、管理者はこのソフトウェアのランタイム データを視覚的に確認できます。

この設定管理レポートでは、提供されるレポートの個々のカラムをクリックして、デバイス、プロファイル サービス ID、およびカテゴリごとに設定プロファイル情報を掘り下げて詳細を表示できます。

レポート オプションを表示するには、[設定管理] レポート ビューを展開します。[設定管理] には、次のレポートがあります。

- **デバイス別プロファイル ステータス** ソフトウェアがインストールされている各デバイスのプロファイルの詳細情報がデバイス順に表示されます。このレポートには、各デバイスのプロファイルの配布ステータスとスケジュールされた配布ジョブの情報が表示されます。
- **サービス別プロファイル ステータス** プロファイルの詳細情報が設定プロファイルのプロファイル サービス ID 順に表示されます。このレポートには、サービスの説明、サービスが配布されているデバイスの数、プロファイルの配布ステータス、スケジュールされた配布ジョブの情報が表示されます。
- **カテゴリ別プロファイル ステータス** プロファイルの詳細情報がソフトウェアのタイプ順に表示されます。このレポートでは、カテゴリのリスト、およびプロファイルの配布ステータスとカテゴリごとのスケジュールされているジョブ配布情報を表示できます。カテゴリとは、ソフトウェア機能の概要です。
たとえば、[HP 電源管理]、[ワイヤレス設定]、および [セキュリティ設定] などがこれに該当します。各カテゴリには、カテゴリの設定の特定の設定であるプロファイルが含まれている場合があります。たとえば、[HP 電源管理] カテゴリには、[低]、[中]、または [高] の電源プロファイル設定があります。
- **取得の詳細** HP Live Network からのコンテンツの更新のステータスが表示されます。

HPCA 管理レポート

HPCA 管理レポートには、さまざまな HPCA 機能の管理情報が表示されます。次のレポート オプションを表示するには、そのビューを展開します。

- **Live Network** – このオプションの下には、取得履歴レポートを表示できます。ここには、取得イベントのリスト、各取得の日付、取得の詳細（別のレポートに表示可能）、取得ソース、および取得ステータスが表示されます。
- **監査** – このオプションの下には、リモート制御レポートを表示できます。ここには、HPCA Console から管理対象クライアント デバイスに対して試みられたリモート制御セッションごとのエントリが含まれています。

パッチ管理レポート

パッチ管理レポートには、管理対象デバイスのパッチ適用状況情報や、パッチおよび Softpaq の取得情報が表示されます。

- **概要レポート** – 概要レポートには、お使いの環境で管理されているデバイスとブリティンのパッチ適用状況のスナップショットを視覚的に示す円グラフまたは棒グラフが表示されます。このレポートでは、すべてのデバイス、パッチ適用状態別のデバイス、ブリティン、およびベンダー別のブリティンの適用状況が要約されます。この要約レポートから、より詳細な適用状況レポートまで掘り下げ、フィルタを追加できます。
- **適用状況レポート** – HPCA Agent は、製品とパッチの情報を HPCA に送ります。この情報は利用可能なパッチと比較され、管理対象デバイスの脆弱性を削除するためパッチを必要とするかどうか調査されます。適用状況レポートには、お使いの環境で検出されたデバイスに該当する情報しか表示されません。
- **パッチ取得レポート** – 取得ベースのレポートには、ベンダーの Web サイトからのパッチ取得プロセスの成功および失敗が表示されます。

- **リサーチレポート** – リサーチベースのレポートには、ソフトウェアベンダーの Web サイトから取得したパッチに関する情報が表示されます。リサーチベースのレポートでは、フィルタバーが利用できます。

パッチ管理レポートの使用方法の詳細については、116 ページの「[パッチ管理](#)」を参照してください。

利用状況管理レポート

利用状況管理レポートには、利用状況収集エージェントがインストールされているデバイスの利用状況の情報が表示されます。[アプリケーション利用状況収集ウィザード](#)を使用して、収集エージェントをインストールし、利用状況データの収集を開始します。

- **概要** – 収集されたデバイスと利用状況がベンダーおよび製品ごとに視覚的に表示されます。
- **デバイス レポートの概要** – アプリケーションを使用しているデバイスおよびユーザーの詳細などの利用状況固有の情報が表示されます。
- **月次利用状況レポート** – ベンダー、製品、製品バージョン、およびアプリケーション別に、月単位の利用状況の情報が表示されます。
- **インベントリ レポート** – ベンダー、製品、製品バージョン、およびアプリケーション別に、インベントリ情報が表示されます。
- **操作レポート** – データが収集されたデバイスの数または過去 30 日間に収集されていないデバイスの数が表示されます。



収集エージェントが配布された後、利用時間の収集がただちに開始されます。集中時の収集は、ユーザーが次回ログインしてから開始されます。



ほとんどの論理フォルダ (**Program Files** など) は、マシンに関連付けられており、個々のユーザーとは関連付けられていません。このため、利用状況管理レポート、デバイス レポート、ユーザー別利用状況レポートでは、[ユーザー名] カラムに [未定義] と表示される場合があります。

[設定] タブの [レポート] セクションで指定した [利用状況の設定] によっては、利用状況データの一部または全部が難読化される場合があります。

詳細な情報への掘り下げ

多くのレポートでは、特定のデバイス、脆弱性、適用状況ベンチマーク、またはセキュリティ製品について、極めて詳細な情報まで掘り下げることができます。

データ グリッドに [詳細] (🔍) アイコンが表示されている場合にはいつでも、クリックして詳細情報を表示できます。

また、一部のレポートでは、特定のカラムのデバイスの数をクリックすることにより、より詳細な情報まで掘り下げられます。

レポートのフィルタ

レポートの多くでは、含まれるデータが膨大な量になります。レポートに 1 つ以上のフィルタを適用することにより、表示されるデータ量を減らすことができます。一度適用されたフィルタは、明示的に削除されるまで有効な状態が維持されます。

フィルタには、次の基本的な 3 つのタイプがあります。



- ディレクトリ / グループ フィルタを適用すると、特定のデバイスまたはデバイス グループのデータを表示できます。
- インベントリ管理フィルタを適用すると、ハードウェア、ソフトウェア、オペレーティング システム、または HPCA 操作ステータスなどの共通の特性とともに、デバイス グループのデータを表示できます。
- レポート固有のフィルタは、特定のレポート ビュー内で利用可能なデータにのみ適用されます。たとえば、パッチ管理フィルタはパッチ管理レポートに対してのみ適用されます。

フィルタは、フィルタ対象のデータ タイプがレポートに含まれる場合にのみ機能します。

現在のレポートのデータに関係しないフィルタの適用を試みても、そのフィルタによる影響は生じません。逆に、レポート内のデータが正しくないように見える場合は、誤ったフィルタが適用されていないことを確認してください。

概要レポートのほとんどは、元々含まれるデータ量が少ないため、フィルタを適用できません。

レポートにフィルタを適用するには

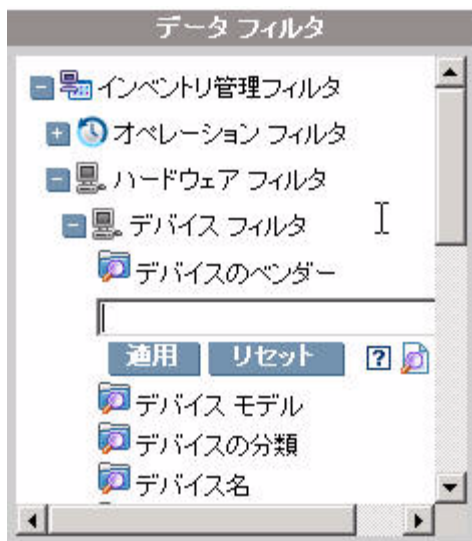
- 1 左のナビゲーション ツリーの [データ フィルタ] セクションで、使用するフィルタ グループを展開します。
- 2 オプション: 適用する特定のフィルタについて、 (表示 / 非表示) ボタンをクリックしてフィルタのコントロールを表示します。
- 3 テキスト ボックスでフィルタ条件を指定するか、 (条件) ボタンをクリックしてリストから条件を選択します (表示された場合。すべてのフィルタでリストが表示されるとは限りません)。

フィルタの作成時には、ワイルドカード文字を使用できます。次の表に、検索文字列の入力時に使用可能な文字の説明を示します。

表 21 特殊文字とワイルドカード




文字	機能	デバイスのベンダーフィルタの例	一致するレコード
* または %	特定のテキスト文字列を含むすべてのレコードに一致する	HP*	「HP」で始まるすべてのレコード
		%HP%	「HP」を含むすべてのレコード
? または _	任意の 1 文字に一致にする	Not?book	「Not」で始まり「book」で終わるすべてのレコード
		Note_ook	「Note」で始まり「ook」で終わるすべてのレコード
!	フィルタを否定する	!HP*	「HP」で始まらないすべてのレコード


たとえば、フィルタに関連付けるデバイスのテキストボックスに「HP%」と指定すると、フィルタはベンダー名に HP を含むすべてのデバイスに一致します。



- 4 **[適用]** ボタンをクリックします。レポートがリフレッシュされます。フィルタを削除するには、**[リセット]** ボタンをクリックします。

フィルタをレポートに適用すると、レポートヘッダーに次のようにフィルタが表示されます。

-  **検索条件:**
 **デバイスフィルタ**
 デバイスのベンダー (HP%)

一度適用されたフィルタは、明示的に削除されるまで有効な状態が維持されます。フィルタ名の左側にある  ([削除] ボタン) をクリックして、現在のレポートからフィルタを削除できます。




また、現在表示されているレポートのデータフィールドをクリックすることにより、「インライン」フィルタを作成することもできます。

ダイナミック レポート グループの作成

ダイナミック レポート グループには、レポート クエリの結果として返されたデバイスが含まれています。ダイナミック レポート グループは、最初にレポート クエリにデバイスのリストを生成し、次に**グループ作成ウィザード**を使用することによって作成できます。

ダイナミック レポート グループを作成するには

- 1 レポート クエリを使用してデバイスのリストを生成します。
たとえば、**[インベントリ管理レポート]**で**[操作レポート]**を展開し、**[管理対象デバイスを表示]**をクリックします。
- 2 デバイス リストをフィルタして、グループに含めるデバイスだけにします。詳細な手順については、152 ページの「**レポートのフィルタ**」を参照してください。
- 3 グループに追加するデバイスのリストがある場合は、**[新しいダイナミック レポート グループの作成]**  ボタンをクリックして、**グループ作成ウィザード**を開始します。
- 4 ウィザードの手順に従って、デバイスのダイナミック グループを作成します。

ダイナミック レポート グループについて

- ダイナミック レポート グループのメンバーシップは、元のリストを作成するため使用したクエリで定義された条件に合うデバイスに依存します。メンバーシップは、グループ作成ウィザードで指定するスケジュールに基づいて更新されます。または、**[グループの詳細]** ウィンドウを使用して変更できます。
- 既存のレポート グループの条件は変更できません。既存のレポート グループと名前は同じけれども異なる条件を持つグループを作成する場合は、まず既存のグループを削除し、新しいデバイス クエリを作成し、グループ作成ウィザードを使用して新しい条件を持つ新しいグループを作成します。

7 オペレーション

[操作] タブでは、インフラストラクチャタスクを管理したり、コンポーネントサービスのステータスを表示したり、一部のパッチ管理タスクを実行したりすることができます。詳細については、次のセクションで説明します。

- 158 ページの「インフラストラクチャ管理」
- 163 ページの「ソフトウェア管理」
- 168 ページの「アウトバンド管理」
- 171 ページの「パッチ管理」
- 180 ページの「OS 管理」
- 184 ページの「利用状況管理」
- 188 ページの「設定管理」

インフラストラクチャ管理

[インフラストラクチャ管理] 操作は、次のセクションで説明します。

- 158 ページの「サポート」
- 162 ページの「データベース メンテナンス」
- 159 ページの「[Live Network](#)」

サポート

[サポート] 領域には、現在インストールされているライセンス情報が表示されます。また、設定ファイル、ログ ファイル、およびオペレーティング システム情報を含む圧縮ファイル (**zip**) を生成したりダウンロードしたりすることもできます。

詳細については、158 ページの「[ログ ファイルのダウンロード](#)」を参照してください。

これらのファイルは、HP サポートでトラブルシューティングに必要なになった場合に使用可能になります。

ログ ファイルのダウンロード

弊社サポート センターに連絡すると、ログ ファイルの提供を求められる場合があります。用意されているリンクを使用して、現在のサーバー ログ ファイルの圧縮ファイルをダウンロードし保存します。

ログ ファイルをダウンロードするには

- 1 [トラブルシューティング] 領域で、**[現在のサーバー ログ ファイルをダウンロード]** リンクをクリックします。新しいウィンドウが開きます。
- 2 ログ ファイルが準備できたら、**[logfiles.zip をダウンロードします]** をクリックします。
- 3 表示メッセージに応じて **[保存]** をクリックし、圧縮ファイルをコンピュータに保存します。
- 4 ファイルを保存する場所を指定して、**[OK]** をクリックします。

- 5 ログファイルがコンピュータにダウンロードされ、1つのZIP形式ファイルで保存されます。

▶ **Internet Explorer** のセキュリティ設定により、これらのファイルをダウンロードできない場合があります。信頼できるサイトに **HPCA Console** の URL を追加するか、またはファイルのダウンロード時にダイアログを表示しないように **Internet Explorer** の設定を変更することをお勧めします。

Live Network

Live Network の設定を使用して、**HP Live Network** のコンテンツを更新する方法と時期を指定します。自動更。新のスケジュールを設定するか、すぐに更新を開始できます。最新のコンテンツが確実に使用されるようにするために、**HPCA** ソフトウェアをインストールまたはアップグレードした後は、必ず更新を実行してください。

第4章、「**HPCA** および **HP Live Network**」を参照してください。

自動更新のスケジュールを選択するか、またはすぐに更新を開始するかどうかにかかわらず、更新のコンテンツの送信元を指定する必要があります。次の中から選択できます。

- **HP Live Network から**

Live Network のコンテンツ ソースは **HP Live Network** のコンテンツ サーバーから取得され、**HPCA** インフラストラクチャにパブリッシュされます。デフォルトでは、このパスは次のとおりです。

```
<InstallDir>\LiveNetwork\lnc\bin\live-network-connector.bat
```

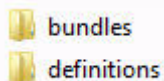
このパスは、**HPCA** によって自動的に設定されます。**HP Live Network** コネクタの新しいコピーをダウンロードして、別の場所にインストールしていない限り、このパスを指定する必要はありません。

このオプションを使用するには、アクティブな **HP Live Network** 登録契約が必要です。これは、**HPCA** ソフトウェアには含まれていません。詳細については、当社の担当にお問い合わせください。

- **ファイル システムから**

Live Network コンテンツのコピーは、**HPCA Core** がインストールされているシステムのファイル システム内の場所からパブリッシュされます。コンテンツが格納されているフォルダのパス名を指定し、更新を開始する前に、**HP Live Network** コンテンツ サーバーからこれらのアイテムを手動でダウンロードする必要があります。

指定されたファイル システム内の場所のフォルダ構造が、次に示すように、**HP Live Network** コネクタがコンテンツをダウンロードするときに作成されたフォルダ構造に正確に一致している必要があります。



また、これらの各フォルダの下にあるサブディレクトリも正確に一致している必要があります。

場合によっては、**HP Live Network** によってコンテンツのサブセットのみが更新されることがあります。この場合は、**Live Network** の更新中に、これらのディレクトリの一部が提供されない可能性があります。


Live Network の自動更新のスケジュール

選択したコンテンツの送信元からの **HP Live Network** の自動更新のスケジュールを確立するには、次の手順を使用します。

HP Live Network のコンテンツの自動更新をスケジュールするには

- 1 [操作] タブで、[インフラストラクチャ管理] 領域を展開し、**[Live Network]** をクリックします。
- 2 **[スケジュールの更新]** タブをクリックします。
- 3 [更新] セクションで、コンテンツの送信元を選択します。
- 4 自動更新のスケジュールを指定します。
 - **スケジュール** — [一度]、[時間単位]、[日単位]、[週単位]、または [なし] を選択します。

[なし] は、たとえば以前にスケジュールされた [一度] のタスクが既に完了している場合など、現在実行対象のスケジュールがないときに **HPCA Console** に表示されます。新しい更新スケジュールがない場合や既存のスケジュールを停止する場合に、[なし] を指定できます。反復スケジュールがある場合は、最後に保存されたスケジュールが表示されます (たとえば、[時間単位]、[日単位]、[週単位] など)。

- b **開始時刻** — 更新を開始する時刻。
- c **開始日** — 自動更新を開始する日付 。(カレンダー) ボタンをクリックし、日付を選択します。

[スケジュールの更新] タブが表示されたとき、時刻と日付のフィールドには、最後に保存されたスケジュールの時刻と日付が表示されます。たとえば、以前にスケジュールされた [一度] の更新が既に完了している場合、スケジュールは [なし] に設定され、[開始時刻] と [開始日] のフィールドには最後の更新の時刻と日付が表示されます。

- d **[スケジュール]** として [時間単位]、[日単位] または [週単位] を選択した場合は、**[間隔]** ボックスに更新の間隔を指定します。

たとえば、[日単位] を選択し、**[間隔]** に **2** を指定すると、2 日ごとに更新が実行されます。

- 5 **[保存]** をクリックして、変更内容を実装します。



このタブから離れると、**[保存]** をクリックする前に入力した情報はすべて失われます。情報を保存する場合は、必ず **[保存]** をクリックしてください。

[リセット] ボタンを使用して、最後に保存された設定を復元できます。

HP Live Network コンテンツを今すぐ更新する

HP Live Network のコンテンツを今すぐ更新するには、次の手順を使用します。これは、自動更新用に設定したスケジュールには影響しません。

HP Live Network のコンテンツを直ちに更新するには

- 1 [操作] タブで、[インフラストラクチャ管理] 領域を展開し、**[Live Network]** をクリックします。
- 2 **[すぐに更新]** タブをクリックします。
- 3 この更新のためのコンテンツの送信元を選択します。これは、現在スケジュールされている自動更新には影響しません。
- 4 **[すぐに更新]** ボタンをクリックします。指定したコンテンツの送信元からコンテンツを更新するためのリクエストが発行されます。

更新は、完了するまでにある程度の時間が必要な非同期のプロセスです。取得レポートを使用すると、更新の結果を表示したり、そのステータスをチェックしたりできます。

更新の結果またはステータスの表示


HPCA レポートを使用すると、HP Live Network コンテンツの更新ステータスをチェックできます。この情報を表示するレポートには、次のいずれかの方法でアクセスできます。

- [操作]>[インフラストラクチャ管理]>[Live Network] から [レポート] タブをクリックします。これは、この場所からコンテンツ更新のステータスを確認する最も便利な方法です。
- HPCA Console の [レポート] タブをクリックします。[HPCA 管理]>[Live Network]>[取得履歴] へ進みます。

データベース メンテナンス

[データベース メンテナンス] 領域には、HPCA にレポート データが格納されているすべてのデバイスが表示されます。[メンテナンス] ツールバーを使用して、データベースに既に存在しない可能性のあるデバイスのレポート データをクリーンアップします。

デバイスのレポート データを削除するには

- 1 [メンテナンス] 領域で、レポート データを削除するデバイスを選択します。
- 2 [レポート データの削除]  ボタンをクリックします。
- 3 レポート データがデータベースから削除されます。

デバイスのレポート データが削除されると、そのデータはレポートの生成に利用できなくなります。

- ▶ アクティブに管理されているデバイスのレポート データを削除する場合、レポート データの矛盾を避けるため、削除してから、そのデバイスに **Management Agent** を再配布します。






ソフトウェア管理

[操作] タブのソフトウェア管理ツールを使用して、管理対象クライアント デバイスに配布できるソフトウェア サービス (アプリケーション) のカタログを管理します。ソフトウェア サービスが **HPCA** ソフトウェア ライブラリに追加されると、クライアント デバイスのエンドユーザーは **Application Self-Service Manager** の使用によって付与されているソフトウェアのインストール、更新、または削除を実行できます。

[ソフトウェア ライブラリ] ページには、**HPCA** にパブリッシュされたソフトウェア サービスがリストされます。このページのツールを使用して、ソフトウェア サービスをインポート、エクスポート、または削除できます。このインポートおよびエクスポートのツールは、たとえばサービスをテスト環境からプロダクション環境に移動するなど、ソフトウェア サービスを **1** つの **HPCA** サーバーから別の **HPCA** サーバーに移動する場合に便利です。

- ▶ 特定のソフトウェア サービスの設定を表示または変更するには、**166** ページの「[ソフトウェアの詳細] ウィンドウ ([操作] タブ)」を参照してください。

表 22 ソフトウェア ライブラリ ツール

ボタン	説明
	データのリフレッシュ – [ソフトウェア ライブラリ] テーブルのデータをリフレッシュします。
	CSV にエクスポート – 開いたり、表示したり、保存したりできる、カンマ区切りのソフトウェア サービスのリストを作成します。
	サービスのインポート – ソフトウェア サービスを HPCA にインポートします。164 ページの「ソフトウェア サービスのインポート」を参照してください。 ソフトウェア サービスをインポートしたら、グループまたは特定の管理対象クライアント デバイスをそのサービスに付与できます。次にサービスをこうしたデバイスに配布できます。
	サービスのエクスポート – パブリッシュされたソフトウェア サービスをサービス デッキと呼ばれるバイナリ ファイル形式でエクスポートします。165 ページの「ソフトウェア サービスのエクスポート」を参照してください。 ソフトウェア サービスをエクスポートしたら、そのサービス デッキを別の HPCA サーバーにコピーしてから、そのサービスをインポートできます。
	ソフトウェアの削除 – 選択したサービス (複数も可) を HPCA ソフトウェア ライブラリから削除します。166 ページの「ソフトウェア サービスの削除」を参照してください。

ソフトウェア サービスのインポート


HPCA ではソフトウェア サービスをソフトウェア ライブラリにインポートできます。サービスをインポートするには、サービス インポート デッキが HPCA Server の ServiceDecks ディレクトリに格納されている必要があります。デフォルトでは、このディレクトリは次の場所にあります。

`InstallDir\Data\ServiceDecks`

これは、テスト環境を構築してある場合に便利です。テスト環境で特定のサービスを承認したら、プロダクション環境の HPCA Server の ServiceDecks ディレクトリにそのサービスをエクスポートします (「ソフトウェア サービスのエクスポート」を参照してください)。

ポート」を参照してください)。次に、サービス インポート ウィザードを使用して、そのサービスをプロダクション環境のソフトウェア ライブラリにインポートして、管理対象デバイスに配布します。

サービスをインポートするには

- 1 **[サービスのインポート]**  をクリックしてサービス インポート ウィザードを起動します。
- 2 ウィザードの手順に従って、サービスをソフトウェア ライブラリにインポートします。



ServiceDecks フォルダにある、名前に **SOFTWARE** という単語が含まれるサービスのみをインポートできます。例：

PRIMARY.SOFTWARE.ZSERVICE.ORCA


ソフトウェア サービスのエクスポート

パブリッシュされたソフトウェア サービスは、**HPCA Server** の ServiceDecks ディレクトリにエクスポートできます。デフォルトでは、このディレクトリは次の場所にあります。

InstallDir\Data\ServiceDecks

エクスポートされたサービスは、別の **HPCA Server** にコピーして、そのサーバーのソフトウェア ライブラリにインポートできます(「ソフトウェア サービスのインポート」を参照してください)。


サービスをエクスポートするには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、サービスとしてエクスポートするソフトウェアを選択します。
- 2 **[サービスのエクスポート]**  をクリックして、サービス エクスポート ウィザードを起動します。
- 3 ウィザードの手順に従って、そのサービスを **HPCA Server** マシンの ServiceDecks ディレクトリにエクスポートします。

ソフトウェア サービスの削除

HPCA ソフトウェア ライブラリからソフトウェアを削除するには、[ソフトウェア] ツールバーを使用します。このツールバーを使用してソフトウェア サービスを削除し、そのサービスに設定されているすべての付与資格を削除します。

ソフトウェア ライブラリからソフトウェアを削除するには

- 1 削除するソフトウェア サービス (複数も可) を選択します。
- 2 [ソフトウェアの削除]  ボタンをクリックします。

[ソフトウェアの詳細] ウィンドウ ([操作] タブ)

ソフトウェア ライブラリで任意のソフトウェア サービスのサービス ID をクリックして、[ソフトウェアの詳細] ウィンドウを開きます。[ソフトウェアの詳細] ウィンドウを使用して、特定のソフトウェア サービスの設定を表示または変更します。

[ソフトウェアの詳細] ウィンドウでは、次の設定を使用できます。

- **表示名**
ソフトウェア サービスの名前です。これは HPCA Console で使用される「簡略」名です。これは必須のフィールドです。
- **ソフトウェア カテゴリ**
ソフトウェアのタイプを定義するためのカテゴリを指定します。ソフトウェア カテゴリは、ソフトウェア ライブラリに表示され、ソート オプションとして利用できます。
- **カタログの表示**
管理対象クライアント デバイスのカタログにこのソフトウェアを表示するかどうかを指定します。カタログにソフトウェアを表示すると、エンドユーザーは、そのソフトウェアをインストール、更新、または削除できます。
- **再起動の設定**
ソフトウェアがインストールされた後、管理対象クライアント デバイスの再起動が必要かどうか、およびエンドユーザーに再起動を要求するかどうかを指定します。
- **作成者**
ソフトウェアの作成者 (たとえば、Hewlett-Packard など)。
- **ベンダー**
ソフトウェアのベンダー (たとえば、Hewlett-Packard など)。

- **Web サイト**
ソフトウェアについての情報を参照できる URL。
- **事前アンインストール コマンドライン**
ソフトウェアがデバイスから削除される前に実行するコマンド。たとえば、ソフトウェア削除のコマンドを実行する前に、いくつかのレジストリ キーを削除する必要がある場合があります。
- **インストール コマンドライン**
ソフトウェアをインストールするために実行するコマンド。
- **アンインストール コマンドライン**
ソフトウェアがデバイスから削除された後に実行するコマンド。



ソフトウェアの設定に変更を加えた後は、必ず **[保存]** をクリックしてください。



[管理] タブから [ソフトウェアの詳細] ウィンドウを開く場合、これらの設定は読み取り専用の形式で表示されます。サービスの設定を変更する場合は、必ず [操作] タブから [ソフトウェアの詳細] ウィンドウを開いてください。

ただし、[管理] タブから [ソフトウェアの詳細] ウィンドウを開いた場合、その他の機能は使用可能です。107 ページの「[\[ソフトウェアの詳細\] ウィンドウ \(\[管理\] タブ\)](#)」を参照してください。

アウトバンド管理

アウトバンド (OOB) 管理は、[設定] タブを使用して有効にします。OOB 管理の設定については、193 ページの「設定」を参照してください。

OOB 管理の使用方法の詳細については、『HPCA アウトバンド管理ユーザー ガイド』を参照してください。

次のセクションでは、コンソールで実行できる OOB 管理タスクについて説明します。

- 168 ページの「プロビジョニングと設定情報」
- 169 ページの「デバイス管理」
- 170 ページの「グループ管理」
- 171 ページの「警告の通知」

プロビジョニングと設定情報


vPro デバイスや DASH デバイスを検出したり管理したりできるようにするには、事前にそれらのデバイスをプロビジョニングする必要があります。vPro デバイスが、最初にネットワークに接続されたときに自動的にプロビジョニングされなかった場合は、HPCA Console からこれらのデバイスをプロビジョニングできます。

HPCA Console からの vPro デバイスのプロビジョニングは、『HPCA アウトバンド管理ユーザー ガイド』の「vPro デバイスのプロビジョニング」の章で説明されています。DASH デバイスのみを管理することを選択した場合、このオプションはこのタイプのデバイスに関連しないため、[アウトバンド管理] の下にある [操作] タブには表示されません。

詳細については、『HPCA アウトバンド管理ユーザー ガイド』の「vPro デバイスのプロビジョニング」の章を参照してください。

DASH 設定関連ドキュメント

ここでは、DASH 対応デバイスがこれらのデバイスに付随するドキュメントに従って既にプロビジョニングされていることを前提にしています。DASH 設定の情報は、「Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet Plus NIC」のホワイトペーパーに記載されています。このホワイトペーパーは、この NIC をサポートする各製品の [マニュアル] のセクションにあります。

 この情報は、当社の DASH 対応デバイスにのみ関連しています。

このドキュメントにアクセスするには

- 1 <http://www8.hp.com/jp/ja/home.html> に移動します。
- 2 [サポート & ドライバ] > [製品マニュアル、トラブルシューティング、修理など] を選択します。
- 3 この NIC をサポートする製品 (たとえば、**dc5850**) を入力します。
- 4 **dc5850** モデルの 1 つを選択します。
- 5 [マニュアル] を選択します。
- 6 「Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet Plus NIC」のホワイト ペーパーを選択します。

DASH 設定ユーティリティ

DASH 設定ユーティリティ (BMCC アプリケーション) は、この NIC をサポートする各製品のドライバ セクションにある **Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet Plus NIC** ドライバ Softpaq の一部です。

このユーティリティにアクセスするには

- 1 <http://www8.hp.com/jp/ja/home.html> に移動します。
- 2 [サポート & ドライバ] > [ドライバ & ソフトウェア ダウンロード] を選択します。
- 3 この NIC をサポートする製品 (たとえば、**dc7900**) を入力します。
- 4 **dc7900** モデルの 1 つを選択します。
- 5 オペレーティング システムを選択します。
- 6 [ドライバ - ネットワーク] セクションまでスクロールし、**NetXtreme Gigabit Ethernet Plus NIC** ドライバを選択してダウンロードします。

デバイス管理

[デバイス管理] 領域では、複数の OOB デバイスおよび個々の OOB デバイスを管理できます。

[操作] タブの [アウトバンド管理] の下で、[デバイス管理] をクリックします。
[デバイス管理] ウィンドウが表示されます。デバイス テーブルのツールバーにあるアイコンから、複数のデバイスに次のタスクを実行できます。

- データのリフレッシュ
- デバイス情報のリロード
- デバイスの探索
- デバイスの電源オン/オフおよび再起動
- vPro 警告のサブスクライブ
- vPro デバイスに関する共通ユーティリティの管理
- 選択された vPro デバイスへのシステム防御ポリシーの配布
- 選択された vPro デバイスへのヒューリスティック ワーム封じ込め情報の配布
- 選択された vPro デバイスへのエージェント ウォッチドッグの配布
- 選択された vPro デバイスへのエージェント ソフトウェア リストとシステムメッセージの配布

個々の OOB デバイスを管理するには、デバイス テーブル内のホスト名のリンクをクリックします。管理ウィンドウが開き、左側のナビゲーション ペインにいくつかのオプションが表示されます。使用可能なオプションは、選択した管理対象デバイスのタイプによって異なります。

詳細については、『HPCA アウトバンド管理ユーザー ガイド』の「グループ管理」の章を参照してください。

グループ管理

[グループ管理] オプションでは、**Client Automation** ソフトウェアで定義された vPro デバイスのグループを管理できます。vPro デバイスを含む **Client Automation** グループに対して OOB 操作を実行できます。vPro デバイスのグループを管理することにより、さまざまな検出、自己回復、および保護タスクを実行できます。これには、電源管理、警告の登録契約のほか、システム防御ポリシー、エージェント ウォッチドッグ、ローカルのエージェント ソフトウェア リスト、およびヒューリスティックの配布が含まれます。

[操作] タブの [アウトバンド管理] の下で、[グループ管理] をクリックします。
[グループ管理] ウィンドウが表示されます。グループ テーブルのツールバーにあるアイコンから、複数のグループに対して次のタスクを実行できます。

- データのリフレッシュ
- グループ情報のリロード
- グループの電源オン/オフおよび再起動
- vPro 警告のサブスクライブ
- 選択された vPro グループへのエージェント ソフトウェア リストとシステムメッセージの配布
- vPro デバイス グループのプロビジョニング
- 選択された vPro デバイスへのシステム防御ポリシーの配布および回収
- 選択された vPro グループへのエージェント ウォッチドッグの配布および回収
- 選択された vPro グループへのヒューリスティック ワーム封じ込め情報の配布および回収

掘り下げてグループ内の個々のデバイスを管理するには、テーブルの [説明] 列の下にあるグループ名のリンクをクリックします。[デバイス管理] ウィンドウが開き、選択されたグループに属するデバイスの一覧が表示されます。グループ内の複数のデバイスまたは個々のデバイスを管理できます。「デバイスの管理」を参照してください。

詳細については、『HPCA アウトバンド管理ユーザー ガイド』の「グループ管理」の章を参照してください。

警告の通知

vPro デバイスの場合、デバイスに警告のサブスクリプションを割り当てていれば、プロビジョニング済みの vPro デバイスによって生成された警告を表示できます。警告の通知を監視すると、ネットワーク上のデバイスの状態についての適切な情報が得られます。

詳細については、『HPCA アウトバンド管理ユーザー ガイド』の「警告の通知」の章を参照してください。

パッチ管理

[操作] タブのパッチ管理ツールを使用して、管理対象デバイスに配布できるパッチブリティンのカタログを管理します。






パッチ ライブラリの操作

[パッチ ライブラリ] ページには、HPCA にパブリッシュされたブリティンがリストされます。このページのツールを使用して、ブリティンをインポート、エクスポート、または削除できます。このインポートおよびエクスポートのツールは、たとえばパッチをテスト環境からプロダクション環境に移動するなど、パッチを1つのHPCA サーバーから別のHPCA サーバーに移動する場合に便利です。



特定のパッチの設定を表示または変更するには、175 ページの「[パッチの詳細] ウィンドウ ([操作] タブ)」を参照してください。

表 23 パッチ ライブラリのツール

ボタン	説明
	データのリフレッシュ – [パッチ ライブラリ] テーブルのデータをリフレッシュします。
	CSV にエクスポート – 開いたり、表示したり、保存したりできる、カンマ区切りのパッチのリストを作成します。
	サービスのインポート – パッチを HPCA にインポートします。172 ページの「 パッチ サービスのインポート 」を参照してください。 パッチをインポートしたら、グループまたは特定の管理対象クライアント デバイスをそのサービスに付与できます。次に、パッチをこうしたデバイスに配布できます。
	サービスのエクスポート – パブリッシュされたパッチを サービス デッキ と呼ばれるバイナリ ファイル形式でエクスポートします。173 ページの「 パッチ サービスのエクスポート 」を参照してください。 パッチをエクスポートしたら、その サービス デッキ を別の HPCA サーバーにコピーしてから、そのパッチをインポートできます。
	パッチの削除 – 選択したパッチ (複数も可) を HPCA パッチ ライブラリから削除します。174 ページの「 パッチ サービスの削除 」を参照してください。

パッチ サービスのインポート

HPCA では、パッチをパッチ ライブラリにインポートできます。パッチをインポートするには、デッキ (つまり xpi ファイルと xpc ファイルと xpr ファイル) および zip ファイルを HPCA Server の ServiceDecks ディレクトリに配置する必要があります。また、PRIMARY.PATCHMGR.ZSERVICE.DISCOVER_PATCH.* ファイルもコピーします。これらには、カタログと Agent 情報が格納されていま


す。これらのファイルがコピーされないか、古いファイルがあると、「インポートが失敗しました - ブリティンが最近エクスポートされ、最新の PRIMARY.PATCHMGR.ZSERVICE.DISCOVER_PATCH.* ファイルがコピーされていることを確認してください。」というメッセージが表示されてブリティンのインポートは失敗します。

デフォルトでは、このディレクトリは次の場所にあります。

`InstallDir\Data\ServiceDecks`

これは、テスト環境を構築してある場合に便利です。テスト環境で特定のパッチを承認したら、プロダクション環境の **HPCA Server** の ServiceDecks ディレクトリにそのブリティンをエクスポートします（「[パッチ サービスのエクスポート](#)」を参照してください）。次に、サービス インポート ウィザードを使用して、そのパッチをプロダクション環境のパッチ ライブラリにインポートして、管理対象デバイスに配布します。

パッチをインポートするには

- 1 **[サービスのインポート]**  をクリックして **サービス インポート ウィザード** を起動します。これで、ServiceDecks ディレクトリにある xpi ファイルのリストが表示されます。
- 2 ウィザードの手順に従って、サービスをパッチ ライブラリにインポートします。




PRIMARY.PATCHMGR.ZSERVICE.DISCOVER_PATCH.xpi を明示的に選択する必要はありません。インポートするブリティンを選択すると、默示的に選択されます。**Agent** ファイルまたはカタログ ファイルのみをインポート先サーバーに移動する必要がある場合、PRIMARY.PATCHMGR.ZSERVICE.DISCOVER_PATCH.xpi を選択できます。

パッチ サービスのエクスポート

パブリッシュされたブリティンは、**HPCA Server** の ServiceDecks ディレクトリにエクスポートできます。デフォルトでは、このディレクトリは次の場所にあります。

`InstallDir\Data\ServiceDecks`

パッチをエクスポートするには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、サービスとしてエクスポートするブリティンを選択します。グリッド オプションを使用して、タイプ、名前などに基づいてブリティンを検索します。
- 2 **[サービスのエクスポート]**  をクリックして、**サービス エクスポート ウィザード** を起動します。

- 3 ウィザードの手順に従って、そのブリティンを **HPCA Server** マシンの `ServiceDecks` ディレクトリにエクスポートします。

これで、エクスポートされた各ブリティンについて、サーバーの `ServiceDecks` ディレクトリに次のファイルが作成されます。

- `PRIMARY.PATCHMGR.ZSERVICE.[BULLETIN NAME].xpi`
- `PRIMARY.PATCHMGR.ZSERVICE.[BULLETIN NAME].xpr`
- `PRIMARY.PATCHMGR.ZSERVICE.[BULLETIN NAME].xpc`
- `PRIMARY.PATCHMGR.ZSERVICE.[BULLETIN NAME].zip`
- `PRIMARY.PATCHMGR.ZSERVICE.DISCOVER_PATCH.xpi`
- `PRIMARY.PATCHMGR.ZSERVICE.DISCOVER_PATCH.xpr`
- `PRIMARY.PATCHMGR.ZSERVICE.DISCOVER_PATCH.xpc`
- `PRIMARY.PATCHMGR.ZSERVICE.DISCOVER_PATCH.zip`

メタデータ ベースのパッチ配布モデルでは、この `zip` ファイルにはゲートウェイ キャッシュにあるバイナリと一部のメタデータ情報が格納されます。これらのバイナリは、エクスポートやインポートの操作中にインポート先サーバーに移動することもできます。**Agent** とカタログの情報は `PRIMARY.PATCHMGR.ZSERVICE.DISCOVER_PATCH.*` ファイルにあります。これらのファイルも明示的にインポート先マシンに移動する必要があります。サービスをエクスポートすると、最新の **Agent**、カタログなど、探索プロセスに必要な関連ファイルが自動的にエクスポートされます。

インポートの場合、`PRIMARY.PATCHMGR.ZSERVICE.[BULLETIN NAME]` という語幹を持つすべてのファイルを


`PRIMARY.PATCHMGR.ZSERVICE.DISCOVER_PATCH.*` とともに別の **HPCA Server** にコピーして、そのサーバーのパッチ ライブラリにインポートする必要があります。172 ページの「パッチ サービスのインポート」を参照してください。

パッチ サービスの削除

HPCA パッチ ライブラリからパッチを削除するには、[パッチ ライブラリ] ツールバーを使用します。このツールバーを使用してパッチを削除し、そのパッチに設定されているすべての付与資格を削除します。これにより、ゲートウェイ キャッシュの関連バイナリもすべて消去できます。

パッチ ライブラリからパッチを削除するには

- 1 削除するパッチ (複数も可) を選択します。

- 2 **[パッチの削除]**  ボタンをクリックします。

[パッチの詳細] ウィンドウ ([操作] タブ)

パッチ ライブラリで任意のパッチのブリティン名をクリックして [パッチの詳細] ウィンドウを開きます。[パッチの詳細] ウィンドウを使用して、特定のパッチの次のプロパティを表示します。

- **ブリティンタイプ**
パッチのタイプ (セキュリティ更新など)。
- **ベンダー**
ソフトウェア ベンダー (Microsoft など)。
- **ブリティン**
ベンダーによって割り当てられたブリティン名。一般的にはシーケンス コードです。
- **説明**
ベンダーがそのブリティンに含めた説明テキスト。
- **ベンダーの公開日**
このブリティンがベンダーによって最初に公開された日付。
- **ベンダーの改訂日**
このブリティンがベンダーによって改訂された最新の日付。
- **ブリティン情報**
ベンダーの Web サイトにあるこのブリティンに関する情報の URL。
- **その他の情報**
ベンダーの Web サイトにある関連情報の URL。



このウィンドウに表示される情報は読み取り専用であり、変更できません。



[管理] タブから [パッチの詳細] ウィンドウを開いた場合、その他の機能は使用可能です。121 ページの「[パッチの詳細] ウィンドウ ([管理] タブ)」を参照してください。

取得

[**スケジュール**] タブを使用して、パッチの取得またはパッチ取得スケジュールの設定を行います。



最新のパッチを効率的に取得するため、パッチ取得スケジュールを 1 日に 1 度だけオフピーク時に実行するよう設定することを推奨します。

[**現在のスケジュール**] は、現在設定されているパッチ取得スケジュールを示します。

パッチを取得するには

- [**パッチを今すぐ取得**] をクリックして、現在のパッチ取得設定に基づき、パッチを取得します。パッチがダウンロードされ、パッチ ライブラリに保管されます。
- [**パッチ管理**] の [[**パッチ**] タブ] タブで取得したパッチを確認します。

パッチ取得スケジュールを設定するには

- 1 付属のツールを使用して、取得スケジュールを設定します。
 - **実行** : 時間、日、週など一定の間隔でパッチを探索するかどうかを設定します。
 - **間隔** : 具体的な間隔 (時間、日、または週) を選択します。
 - **開始日** : ドロップダウン リストを使用して、パッチ適用状況を探索する日を選択します。
 - [**現在のサーバー時刻**] は、HPCA Server の現在の時刻を表示します。
- 2 終了したら、[**保存**] をクリックして、変更を適用します。

[**現在のスケジュール**] の後に、新しいスケジュールが表示されます。

[**設定**] タブを使用して、取得する Windows パッチおよび HP Softpaq の取得設定を設定します。パッチは、HP および Microsoft から取得します。Softpaq は、HP インスタント サポート 技術を活用して取得します。

必須のフィールドにはアスタリスク (*) が付いています。

パッチ取得設定を行うには

- 1 [**Microsoft プリティン**] 領域に入力します。

- **[有効]** ドロップダウン リストで **[はい]** を選択して **Microsoft** プリティンを取得します。


▶ メタデータを使用したパッチ管理は、デフォルトで **Microsoft** パッチで有効になっています。この機能によって、パッチを取得するためにかかる時間や **Core Configuration Server** に対する全体的な負荷が削減されます。詳細については、**第 10 章、「メタデータを使用したパッチ管理」** を参照してください。

- **[取得するプリティン]** テキスト ボックスに、各探索期間にダウンロードするプリティンを入力します。プリティンの範囲を指定するには、ワイルドカード文字を使用します (**MS05*** など)。複数のプリティン検索を同時に行うには、カンマで区切ります (**MS05*, MS06*** など)。
- **[取得する言語]** テキスト ボックスに、ダウンロードするパッチに利用可能な各言語バージョンの言語コードを入力します。次の表を使用して、適切な言語コードを確認します。複数の言語コードはスペースを入れずにカンマで区切ります (**en,fr,ja** など)。コードは大文字と小文字を区別します。

表 24 言語コード

言語 = コード	言語 = コード	言語 = コード
アラビア語 = ar	フランス語 = fr	ノルウェー語 (ブックモール) = no
中国語 (香港特別行政区) = zh-hk	ドイツ語 = de	ポーランド語 = pl
中国語 (簡体字) = zh-cn	ギリシャ語 = el	ポルトガル語 (ブラジル) = pt-br
中国語 (繁体字) = zh-tw	ヘブライ語 = he	ポルトガル語 (ポルトガル) = pt-pt
チェコ語 = cs	ハンガリー語 = hu	ロシア語 = ru
デンマーク語 = da	イタリア語 = it	スペイン語 = es
オランダ語 = nl	日本語 = ja	スウェーデン語 = sv
英語 = en	日本語 (NEC) = ja-nec	トルコ語 = tr
フィンランド語 = fi	韓国語 = ko	

- **[強制]** ドロップダウン リストで次の場合に **[はい]** を選択します。
 - 前回はある言語をフィルタして取得を実行し、今回は別の言語のプリティンを取得する必要がある場合。

- 以前に 1 つの製品を指定して取得を実行しており、今回は別の製品に関して同じブリティンを取得する必要がある場合。たとえば、ネットワークに最初は **Windows 2000** のコンピュータしかなく、そのオペレーティング システムに関するブリティンを取得したものの、今回は **Windows XP** のコンピュータもあるため、この新しいオペレーティング システムに関しても同じブリティンを取得するには、**[強制]** を **[はい]** に設定して、製品 {**Windows XP***,**Windows 2000***} に関して再び取得を実行する必要があります。このオプションのデフォルト値は **[いいえ]** である点に注意してください。
 - **[置換]** ドロップダウン リストで **[はい]** を選択すると、bulletins パラメータで指定した古いブリティンを削除してから、それらを再度取得します。このオプションは、**[強制]** オプションで指定した値より優先されます。つまり、**[置換]** を **[はい]** に設定すると、**[強制]** が **[はい]** または **[いいえ]** のいずれかに設定されていても、その取得について指定したブリティンが削除されて再取得されます。
 - **[アーキテクト]** ドロップダウン リストで、**Microsoft** パッチの取得のアーキテクチャを選択します。サポートされるアーキテクチャは次のとおりです。
 - x86 は 32 ビット Intel アーキテクチャ用です
 - x64 は AMD64 または Intel EM64T 用です
 - x86 および x64 は、32 ビット Intel アーキテクチャおよび AMD64 または Intel EM64T 用です
- 2 **[HP Softpaq]** 領域に入力します。
- **[有効]** ドロップダウン リストで **[はい]** を選択して HP Softpaq を取得します。
 - **[HP システム ID]** テキスト ボックスで、どのデバイス関連 HP SoftPaq を取得するか決定します。これには、テキスト ボックスに HP システム ID のリストを入力するか、またはテキスト ボックスの右にある **[データの取得]** ボタン  をクリックして、HPCA のデバイスに基づいたシステム ID のリストを自動的に作成します。
- 3 必要な場合は、**[接続の設定]** 領域に入力します。
- ブリティンの取得元の **[Proxy Server のアドレス]** を入力します (**http://proxyserver:8080/** など)。

- パッチを取得するときに使用する **[プロキシのユーザー ID]** および **[プロキシのパスワード]** を入力します。

▶ パッチ取得は、基本認証で設定されたプロキシ サーバーからしか行えません。

4 **[保存]** をクリックして、変更を適用します。

▶ 最初のパッチ取得は、長時間かかる場合があります。

現在と過去の取得ジョブのステータスを表示するには、**[操作]** タブの **[パッチ管理]** 領域にある **[取得ジョブの表示]** ページに移動します。

同期を実行

この操作によって、パッチ ライブラリに格納されているパッチ情報が SQL データベース内のパッチ情報と同期されます。

この同期は、パッチ取得後、および通常の HPCA 操作で自動的に実行されます。

ただし、カスタマー サポートから手動で同期を実行するように指示される場合があります。手動で同期を実行する必要がある場合があります。

HPCA Core Console を使用して、手動でデータベースを同期できます。

データベースを同期するには

- 1 **[操作]** タブから、**[パッチ管理]** タスクを展開し、**[同期を実行]** をクリックします。
- 2 **[サブミット]** をクリックします。

取得履歴

以前の取得の詳細を表示するには、パッチ取得ステータス ページを選択します。

OS 管理

[操作] タブの OS 管理ツールを使用して、管理対象デバイスに配布できるオペレーティング システムのカタログを管理します。

[OS ライブラリ] ページには、HPCA にパブリッシュされたオペレーティング システムがリストされます。このページのツールを使用して、オペレーティング システムをインポート、エクスポート、または削除できます。ライブラリでは、任意のオペレーティング システムについて配布可能な CD (または DVD) を作成することもできます。

このインポートおよびエクスポートのツールは、たとえば OS をテスト環境からプロダクション環境に移動するなど、オペレーティング システムを 1 つの HPCA サーバーから別の HPCA サーバーに移動する場合に便利です。



特定のオペレーティング システムの設定を表示または変更するには、183 ページの「[OS の詳細] ウィンドウ ([操作] タブ)」を参照してください。

表 25 OS ライブラリのツール







ボタン	説明
	データのリフレッシュ – [OS ライブラリ] テーブルのデータをリフレッシュします。
	CSV にエクスポート – 開いたり、表示したり、保存したりできる、カンマ区切りのオペレーティング システムのリストを作成します。
	サービスのインポート – オペレーティング システムを HPCA にインポートします。181 ページの「OS サービスのインポート」を参照してください。 オペレーティング システムをインポートしたら、グループまたは特定の管理対象クライアント デバイスをその OS に付与できます。次に、OS をこうしたデバイスに配布できます。

表 25 OS ライブラリのツール

ボタン	説明
	サービスのエクスポート – パブリッシュされたオペレーティング システムを サービス デッキ と呼ばれるバイナリ ファイル形式でエクスポートします。182 ページの「 OS サービスのエクスポート 」を参照してください。 オペレーティング システムをエクスポートしたら、そのサービス デッキを別の HPCA サーバーにコピーしてから、その OS をインポートできます。
	CD 配布メディアの作成 – OS イメージをダウンロードして、オペレーティング システム配布用の DVD に保存できます。182 ページの「 配布メディアの作成 」を参照してください。
	OS の削除 – 選択したオペレーティング システムを HPCA OS ライブラリから削除します。182 ページの「 OS サービスの削除 」を参照してください。


OS サービスのインポート

HPCA では、オペレーティング システムを OS ライブラリにインポートできます。サービスをインポートするには、サービス インポート デッキが HPCA Server の ServiceDecks ディレクトリに格納されている必要があります。デフォルトでは、このディレクトリは次の場所にあります。

`InstallDir\Data\ServiceDecks`

これは、テスト環境を構築してある場合に便利です。テスト環境で特定のサービスを承認したら、プロダクション環境の HPCA Server の ServiceDecks ディレクトリにそのサービスをエクスポートします（「**OS サービスのエクスポート**」を参照してください）。次に、サービス インポート ウィザードを使用して、そのサービスをプロダクション環境の OS ライブラリにインポートして、管理対象デバイスに配布します。

サービスをインポートするには

- 1 **[サービスのインポート]**  をクリックしてサービス インポート ウィザードを起動します。
- 2 ウィザードの手順に従って、サービスを OS ライブラリにインポートします。



ServiceDecks フォルダにある、名前に OS という単語が含まれるサービスのみをインポートできます。例：

`PRIMARY.OS.ZSERVICE.WIN732`


OS サービスのエクスポート

パブリッシュされたオペレーティング システムは、**HPCA Server** の **ServiceDecks** ディレクトリにエクスポートできます。デフォルトでは、このディレクトリは次の場所にあります。

`InstallDir\Data\ServiceDecks`

エクスポートされたサービスは、別の **HPCA Server** にコピーして、そのサーバーの **OS** ライブラリにインポートできます(「**OS サービスのエクスポート**」を参照してください)。


サービスをエクスポートするには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、サービスとしてエクスポートする **OS** を選択します。
- 2 **[サービスのエクスポート]**  をクリックして、**サービス エクスポート ウィザード** を起動します。
- 3 ウィザードの手順に従って、そのサービスを **HPCA Server** マシンの **ServiceDecks** ディレクトリにエクスポートします。

OS サービスの削除

[**OS**] ツールバーを使用して、**HPCA OS** ライブラリから **OS** を削除します。このツールバーを使用してオペレーティング システムを削除し、そのサービスに設定されているすべての付与資格を削除します。

OS ライブラリから OS を削除するには

- 1 削除するオペレーティング システム (複数も可) を選択します。
- 2 **[OS の削除]**  ボタンをクリックします。


配布メディアの作成


CD 配布メディアの作成ツールを使用すると、イメージをダウンロードしてオペレーティング システムの配布用の **DVD** に保存できます。

OS ライブラリには、**HPCA** にパブリッシュされたすべてのオペレーティング システムがリストされます。

DVD 配布のためにオペレーティング システム イメージをダウンロードするには

- 1 **[操作]** タブで、**[OS 管理]** > **[CD ライブラリ]** に移動します。

- 2 OS ライブラリからオペレーティング システムを選択します。
- 3 **[CD 配布メディアの作成]**  ボタンをクリックして CD 配布ウィザードを起動します。
- 4 要約情報を確認し、**[ダウンロード]** をクリックします。OS イメージのダウンロードがバックグラウンドで開始されます。
- 5 **[閉じる]** をクリックします。

ダウンロードの進行状況が **[OS ライブラリ]** に表示されます。現在のステータスを **[CD 作成ステータス]** カラムに表示するには、**[リフレッシュ]**  ボタンをクリックします。

ダウンロードが完了すると、OS イメージはデフォルトで次のディレクトリに格納されます。

`InstallDir\Data\ServiceDecks\CDDeployment`

このディレクトリが空の場合は、リストにあるオペレーティング システムの **[CD 作成ステータス]** カラムが空白です。

 この機能は、通常は複数のイメージを格納するために、DVD で使用するためのものです。複数の CD-ROM または DVD-ROM を同時に使用して、リソースをスパンしないでください。


 DVD-ROM は Joliet 形式である必要があります。

[OS の詳細] ウィンドウ ([操作] タブ)

OS ライブラリで任意のオペレーティング システムのサービス ID をクリックして、**[OS の詳細]** ウィンドウを開きます。**[OS の詳細]** ウィンドウを使用して、特定のオペレーティング システムの設定を表示または変更します。

[OS の詳細] ウィンドウでは、次の設定を使用できます。

- **表示名**
[OS ライブラリ] ページに表示される OS の名前。これは必須のフィールドです。
- **作成者**
OS の作成者。
- **ベンダー**
OS のベンダー。
- **Web サイト**
OS についての情報を参照できる URL。

 OS の設定に変更を加えた後は、必ず **[保存]** をクリックしてください。



[管理] タブから [OS の詳細] ウィンドウを開く場合、これらの設定は読み取り専用の形式で表示されます。サービスの設定を変更する場合は、必ず [操作] タブから [OS の詳細] ウィンドウを開いてください。

ただし、[管理] タブから [OS の詳細] ウィンドウを開いた場合、その他の機能は使用可能です。107 ページの「[ソフトウェアの詳細] ウィンドウ ([管理] タブ)」を参照してください。

利用状況管理

[利用状況管理] セクションを使用して、利用状況収集フィルタを設定します。

収集フィルタ

[利用状況の収集] ページを使用して、利用状況収集フィルタの作成および管理を行います。



アプリケーション利用状況データを収集するには、**HP Client Automation Standard** または **HP Client Automation Enterprise** が必要です。

利用状況収集フィルタは、利用状況収集エージェントがどの利用状況データをレポートに利用できるようにするかを決定します。利用状況収集エージェントがデバイスに配布されると、全アプリケーションの全利用状況データが収集されローカルに保存されます。作成して有効にした利用状況フィルタによって、**HPCA** に送信するローカルの利用状況データが決定します。

利用状況収集エージェントがすでに配布された後にフィルタを有効にすると、フィルタで指定され、収集されてローカルに保存されていた利用状況データがすべて **HPCA** にレポート用に送信されます。

たとえば、利用状況収集エージェントが 5 月に配布され、フィルタが **Microsoft Word** に対して有効になると、**Microsoft Word** の利用状況データのすべてが、指定したスケジュールに基づいて **HPCA** に送信されます。さらに 6 月に、**Microsoft Excel** に対して新しいフィルタを作成し、有効にすると決めました。次回利用状況データが **HPCA** に送信される時、5 月に初めて利用状況収集エージェントがインストールされた日から 6 月の現在の日付までの、収集されローカルに保存されていた **Excel** 利用状況データもすべて送信されます。その後、両方のアプリケーションについて、利用状況の送信が続きます。

利用状況データは、12 か月の間、管理対象デバイスでローカルに保存されます。

利用状況収集フィルタの設定手順は、次を参照してください。

- 185 ページの「[利用状況収集フィルタの設定](#)」
- 186 ページの「[利用状況条件の定義](#)」

利用状況収集エージェントを配布し、収集スケジュールを指定する方法については、[アプリケーション利用状況収集ウィザード](#)を参照してください。

利用状況収集フィルタの設定


HPCA にはデフォルトで、あらかじめ設定された収集フィルタが備えられています。これらの収集フィルタは、新しいフィルタを作成する場合にモデルとして使用したり、ニーズに合うように変更したりできます。

[利用状況収集フィルタ作成ウィザード](#)を使用して、新しい利用状況収集フィルタを作成します。既存のフィルタを変更するには、[フィルタの詳細] ウィンドウを使用してください。




ワイルドカード文字を使用して利用状況データを収集するフィルタを設定すると、大量のデータが収集されることになる場合があります。この場合、データベースのサイズが大きくなるにつれて、レポートのパフォーマンスに重大な問題が生じる可能性があります。HP では、利用状況情報が必要なアプリケーションについてのみ、データを収集するフィルタを作成することを強くお勧めします。すべてのアプリケーションの利用状況データを収集するのは避けてください。

収集フィルタを作成するには

- 1 [収集フィルタ] ページで **[新しいフィルタの作成]**  ツールバー ボタンをクリックします。[利用状況収集フィルタ作成ウィザード](#)が起動します。
- 2 ウィザードの手順に従って、新しい収集フィルタを作成し有効にします。

収集フィルタを有効にするには

- 1 フィルタ リストで、フィルタの説明の左にあるボックスをクリックし、有効にするフィルタを選択します。
- 2 **[選択したアイテムの有効化]**  ツールバー ボタンをクリックします。
- 3 **[OK]** をクリックして、選択したフィルタを有効にします。ステータス ダイアログに結果が表示されます。
- 4 **[閉じる]** をクリックして、ステータス ダイアログを閉じます。

既存のフィルタを変更するには

- 1 フィルタ リストで、フィルタの説明リンクをクリックして、[フィルタの詳細] ウィンドウを開きます。
- 2 [フィルタ条件] 領域に、利用状況データを収集するときに使用する具体的なフィルタ条件を入力します。選択する条件を決定するには、186 ページの「[利用状況条件の定義](#)」を参照してください。
- 3 [保存] をクリックします。

利用状況条件の定義

利用状況収集エージェントは、ローカルの各実行可能ファイルのファイルヘッダー情報を使用して、そのアプリケーションが定義されたフィルタ条件に適合するか判断します。フィルタを定義するときに、ファイルヘッダー情報を使用して、どの条件を使用するか決定できます。

ファイルヘッダー情報を決定するには

- 1 システムの実行可能ファイルを右クリックします。
- 2 ショートカットメニューから [プロパティ] を選択します。
- 3 [プロパティ] ウィンドウで [バージョン] タブをクリックします。



[項目] および **[値]** ボックスに含まれる情報は、利用状況収集エージェントが、利用可能な利用状況データをフィルタするために使用します ([言語] および [内部名] の各項目は、現在サポートされていないため除外されます)。



すべての実行可能ファイルで、ファイルヘッダーに格納された値のサポートや、正しい取得が行われるわけではありません。

次の例は、特定のアプリケーションについて検索するフィルタの作成方法を説明しています。

notepad.exe の利用状況データにフィルタを設定するには

- 1 利用状況収集フィルタ作成ウィザードを起動して、新しい利用状況フィルタを作成します。

- 2 [プロパティ]の手順で、次のフィルタ条件を定義します。
 - 説明: Notepad
 - 有効: Yes
 - ファイル/アプリケーション名: notepad.exe
- 3 利用状況収集エージェントを 1 つ以上の管理対象デバイスに配布します。詳細については、272 ページの「アプリケーション利用状況収集ウィザード」を参照してください。

利用状況データが毎週 HPCA に送信されます。これには利用状況収集エージェントがインストールされている全デバイスに対するメモ帳の利用状況データのすべてが含まれます。

設定管理

[設定管理]セクションを使用して、設定プロファイルを作成、変更、削除します。設定プロファイルを使用して、使用環境で管理対象デバイスにインストールされているソフトウェアの設定のグループを作成できます。設定プロファイルは、デバイスのカスタマイズした設定で構成されています。これには、アプリケーション、オペレーティングシステム、およびハードウェアに関連する設定が含まれています。設定プロファイルを作成または変更することで、目的の製品の設定の制御データを分析およびパラメータ化できます。

設定プロファイルを作成または変更すると、関連するソフトウェアがインストールされている管理対象システムに配布できます。HPCA Standard では、設定プロファイルはコンソールの [管理] タブの [設定管理] 領域を使用して管理対象マシンに配布する必要があります。112 ページの「設定管理」を参照してください。

設定プロファイルを作成して配布すると、ソフトウェアの概要レポートを表示できるようになるため、管理者はこのソフトウェアのランタイムデータを視覚的に確認できます。

このセクションは、次のトピックで構成されています。

- 189 ページの「設定テンプレート」
- 189 ページの「新規プロファイルの作成」
- 190 ページの「既存のプロファイルの変更」
- 191 ページの「プロファイルの削除」

設定テンプレート

設定テンプレートを使用して、設定プロファイルのインスタンスを作成します。設定テンプレートの最新コンテンツは、**HP Live Network** サイトからダウンロードできます。**HPCA** および **HP Live Network** を参照してください。



提供されている任意の設定テンプレートを選択して、追加のプロファイルを作成したり、既存のプロファイルを変更したりできます。**HPCA Console** の [操作] タブには [設定管理] の下に [設定テンプレート] 領域があり、システムで設定可能なプロファイルを持つソフトウェアを確認できます。

新規プロファイルの作成

システムには、設定可能なプロファイルが含まれるソフトウェアの追加プロファイルを作成できます。設定テンプレートは、この目的で提供されています。テンプレートを使用して、関連するソフトウェアの設定プロファイルのインスタンスを作成できます。空白のプロファイルで開始することも、作成するプロファイルと似ているものがあれば既存のプロファイルを複製することもできるため、実行手順は簡単です。

新しい設定プロファイルを作成するには

- 1 [操作] タブで左側のナビゲーションペインの [設定管理] を展開し、[**設定テンプレート**] リンクをクリックします。プロファイル設定が可能なソフトウェアは、右側のコンテンツエリアに表示されます。
- 2 [**表示名**] カラムで、新しいプロファイルを作成するソフトウェアの名前をクリックします。ウィンドウが開き、次のタブが表示されます。
 - **プロファイル**: 選択したソフトウェアの既存のプロファイルを表示します。このタブで、設定プロファイルを作成、表示、変更、および削除できます。山かっこ (<>) で囲まれて表示されるプロファイル名は、**HP** が提供するプロファイルです。
 - ▶ これらのプロファイルを変更した場合、次回 **HP Live Network** サイトから設定コンテンツを更新すると、変更内容が失われることにご注意ください。
 - **詳細**: テンプレートの目的と使用方法に関する情報が表示されます。

- 3 [プロフィール] タブで、[設定プロフィール] テーブルにあるツールバーの **[プロフィールの新規作成]**  をクリックします。設定プロフィール作成ウィザードが開きます。
別の方法として、コピーする既存のプロファイルの隣にあるチェック ボックスをオンにして **[選択したプロフィールをコピー]**  をクリックします。この場合、設定プロフィールのコピーおよび変更ウィザードが開きます。このウィザードでは、選択した既存のプロファイルを複製できます。既存のプロファイルのコピーするように選択すると、プロフィールの [表示名] を除き、すべてのフィールドには選択した既存のプロファイルの値が入力されます。
- 4 どちらのウィザードでも、次の情報を指定します。
 - **表示名** : プロファイルの名前を入力します
 - **説明** : プロファイルの説明を入力します
- 5 **[次へ]** をクリックします。ウィザードの次のページが開くと、特定のソフトウェアに固有のプロパティを入力できます。コピーの場合、これらのフィールドは最初から入力されています。必要に応じて、これらのフィールドを変更します。
ソフトウェアのマニュアルを参照して、関連するプロパティ設定の詳細を確認してください。
- 6 ウィザードに従って、**[作成]** または **[コピー]** をクリックします。新規作成されたプロフィールは、[プロフィール] タブの [設定プロフィール] テーブルにリストされます。[操作] 領域のプロファイルの数も、最新の追加を反映して更新されます。

既存のプロファイルの変更

設定可能なプロフィールがあるソフトウェアのプロパティ設定は、表示して変更できます。

設定プロフィールを変更するには


- 1 [操作] タブで左側のナビゲーション ペインの [設定管理] を展開し、**[設定テンプレート]** リンクをクリックします。プロフィール設定が可能なソフトウェアは、右側のコンテンツ エリアに表示されます。
- 2 **[表示名]** カラムで、プロフィールを変更するソフトウェアの名前をクリックします。ウィンドウが開き、[プロフィール] タブで選択したソフトウェアの既存のプロファイルが表示されます。

- 3 **[表示名]** カラムの **[プロフィール]** タブで、変更するプロフィールの名前をクリックします。**[要約]** タブと **[プロパティ]** タブがあるウィンドウが開き、選択したプロフィールのすべてのプロパティが表示されます。
- 4 必要に応じて、両方のタブでプロパティの値を変更します。
- 5 **[保存]** をクリックして、変更を保存します。

プロフィールの削除

必要なくなったソフトウェアの設定プロフィールは削除できます。

設定プロフィールを削除するには

- 1 **[操作]** タブで左側のナビゲーションペインの **[設定管理]** を展開し、**[設定テンプレート]** リンクをクリックします。プロフィール設定が可能なソフトウェアは、右側のコンテンツエリアに表示されます。
- 2 **[表示名]** カラムで、プロフィールを削除するソフトウェアの名前をクリックします。ウィンドウが開き、**[プロフィール]** タブで選択したソフトウェアの既存のプロフィールが表示されます。
- 3 **[プロフィール]** タブで、削除するプロフィール名の隣にあるチェックボックスをオンにします。
- 4 ツールバーで **[設定プロフィールの削除]**  をクリックします。ポップアップの確認ウィンドウが開きます。
- 5 続行する場合は **[はい]** をクリックします。ウィンドウが開き、操作のステータスが表示されます。
- 6 **[閉じる]** をクリックして、ステータス ウィンドウを閉じます。削除されたプロフィールは、そのアプリケーションの **[設定プロフィール]** テーブルにリストされません。**[操作]** 領域のプロフィールの数は、最新の削除を反映して更新されます。

8 設定

[設定] 領域では、コンソールへのユーザー アクセスの管理、インフラストラクチャ サーバーの定義と設定、パッチ取得のスケジュールと設定の管理、ハードウェアの管理、および ODBC の設定を行うことができます。



[設定] タブは、管理者ロール グループに属している ユーザーのみ使用できます。

[設定] タブの左側にあるナビゲーション領域のリンクを使用して、さまざまな設定オプションにアクセスします。これらのオプションについては、次のセクションで説明します。

Core の設定オプション

- 194 ページの「[ライセンス](#)」
- 195 ページの「[Core コンソールのアクセス制御](#)」
- 202 ページの「[インフラストラクチャ管理](#)」
- 221 ページの「[デバイス管理](#)」
- 224 ページの「[パッチ管理](#)」
- 229 ページの「[アウトバンド管理](#)」
- 233 ページの「[OS 管理](#)」
- 240 ページの「[ダッシュボード](#)」
- 239 ページの「[利用状況管理](#)」

Satellite の設定オプション

- 194 ページの「[ライセンス](#)」
- 194 ページの「[アップストリーム ホスト](#)」
- 203 ページの「[SSL](#)」
- 198 ページの「[Satellite コンソールのアクセス制御](#)」


- 200 ページの「設定」
- 201 ページの「データ キャッシュ」
- 233 ページの「OS 管理」

ライセンス

機能的な HPCA 環境を実現するには、HP によって発行された有効なライセンスが必要です。コンソールのこの領域でライセンス ファイルが保存され、インストールされているライセンスのエディション (Starter、Standard、または Enterprise) が表示されます。このセクションを使用して HPCA ライセンスを確認および更新することもできます。

新しいライセンスを適用するには

- 1 新しい license.nvd ファイルからライセンス情報をコピーして、**[ライセンス データ]** テキスト ボックスに貼り付けます。

 ライセンス ファイルからライセンス情報をコピーする場合、**[MGR_LICENSE]** という行より前のテキストは含めないでください。含めた場合、ライセンス情報がコンソールから読み取れなくなります。

- 2 **[保存]** をクリックします。更新されたライセンス情報が、**[現在のライセンス]** の後に表示されます。

アップストリーム ホスト

アップストリーム ホスト サーバーの情報を編集するには、Satellite コンソールの **[設定]** タブにある **[アップストリーム ホスト]** 領域を使用します。アップストリーム サーバーは、この Satellite が同期を取り、サービスが無効またはリソースが使用不可の場合にリクエストの情報をフェッチするサーバーです。このサーバー間通信には SSL を使用できますが、使用するには、アップストリーム サーバーが SSL リクエストを受信する必要があります。

アクセス制御

このパネルの管理制御は、**Core** コンソールと **Satellite** コンソールで異なります。

- HPCA 管理者は、**Core** コンソールのアクセス制御を使用してコンソールへのユーザー アクセスを設定および管理できます。195 ページの「**Core** コンソールのアクセス制御」を参照してください。
- HPCA 管理者は、**Satellite** コンソールのアクセス制御を使用して認証メソッドを選択および設定できます。198 ページの「**Satellite** コンソールのアクセス制御」を参照してください。

Core コンソールのアクセス制御

[アクセス制御] セクションを使用して、一意のカスタム **ID** とパスワードを持つコンソール **ユーザー** (195 ページの「[ユーザー] パネル」を参照) のインスタンスを作成します。次に、**ロール** (197 ページの「[ロール] パネル」を参照) をユーザーに割り当てて、ユーザーがアクセスできるコンソールの領域と許可されている管理タスクを管理します。

[ユーザー] パネル

[ユーザー] パネルで、ユーザー インスタンスを作成してロールを各インスタンスに割り当てます。ロールによって、各ユーザーがアクセスできるコンソールの領域が決まります。ユーザーを削除したり、そのロールを変更したりできます。



管理ジョブには、ジョブを作成するため使用されたユーザー **ID** を表示する、[作成者] フィールドがあります。表示されるユーザー **ID** は、この領域で作成されたユーザー **ID** です。

- デフォルトでは、インストール後のデフォルトのコンソール ユーザーは **admin** の 1 人だけで、デフォルトのパスワードは **secret** です。この「フェイルセーフ」ユーザー アカウントにはコンソールへの完全なアクセス権があり、削除できません。
- HPCA Console ユーザーは、次で説明するように**内部**または**外部**のいずれかになります。

— 内部ユーザー

[ユーザー] パネルで作成するユーザーは、すべて「内部」ユーザーとして作成されます。これらのユーザーは、**Core** コンソールを使用して削除および更新できます。


— 外部ユーザー

Enterprise Edition の場合、HPCA 管理者は外部ディレクトリ (LDAP や Active Directory など) を使用してユーザーを追加したり、アクセス許可や認証情報を設定したりできます。これらの「外部」ユーザーは、Core コンソールでは作成、削除、または更新できません。これを行うには、管理者は LDAP/AD ツールを使用する必要があります。ただし、HPCA 管理者は認証用のディレクトリ ソースを設定できます。このソースは [ユーザー] パネルに表示されます。[ソース] カラムでは、ユーザーの取得元のディレクトリが参照されます。

- 現在アクティブなユーザーも削除できません。現在アクティブなユーザーを削除するには、ログアウトして、別のユーザーとしてログインしなおす必要があります。これで、以前にアクティブだったユーザーを削除できます。

次のセクションでは、[ユーザー] パネルで実行できる管理タスクの詳細について説明します。

コンソール ユーザーを作成するには

- 1 [新しいユーザーの作成] ボタン  をクリックして、ユーザー作成ウィザードを起動します。
- 2 ウィザードの手順に従って、コンソール ユーザーを追加します。



ユーザー ID の考慮事項

ユーザー ID には、スペース、スラッシュ (/)、またはバックスラッシュ (\) を含むことはできません。

- スペースまたはバックスラッシュが含まれている場合、「作成できません」というエラーメッセージが表示されます。
- スラッシュが含まれている場合、ユーザー ID が生成されるときに自動的に削除されます。たとえば、ユーザー ID が **jdoue/1** の場合、jdoue1 になります。

パスワードの考慮事項

- パスワードの作成時は、ASCII 文字のみを使用してください。
- 現在のユーザーのパスワードを変更する場合、自動的にログアウトされます。そのユーザーとして新しいパスワードでログインします。

- 3 ユーザーを作成すると、次のことが可能になります。
 - 別のユーザーを作成する (このセクションの手順 1 を参照)。
 - ユーザー ID をクリックしてユーザーのプロパティを表示および変更する (次のセクションを参照)。

- ユーザーにロールを割り当てる（このセクションの 197 ページの「[ロール] パネル」を参照）。


ユーザーのプロパティを表示および変更するには

このセクションの手順は「内部」ユーザーにのみ該当します。「外部」ユーザーのプロパティは Core コンソールでは変更できません。

- 1 内部ユーザーのユーザー ID をクリックして、そのプロパティを表示します。
- 2 [ユーザー プロパティ] ウィンドウで表示名や説明などのユーザーのプロパティを変更して、[パスワードの変更] ウィンドウにアクセスします。
- 3 **[保存]** をクリックし、変更を確定して保存します。
- 4 これにより、次のことが可能になります。
 - 別のユーザーを作成する（前のセクションの手順 1 を参照）
 - 別のユーザー ID をクリックしてそのプロパティを表示および変更する（このセクションの手順 1 を参照）
 - ユーザーにロールを割り当てる（このセクションの 197 ページの「[ロール] パネル」を参照）。

コンソール ユーザーを削除するには


このセクションの手順は「内部」ユーザーにのみ該当します。「外部」ユーザーのプロパティは Core コンソールでは変更できません。

- リストからユーザー ID を選択して、**[ユーザーの削除]**  をクリックします。
 - ▶ *現在のユーザーは削除できません。*
このユーザー ID を削除するには、ログアウトして、別の管理者としてログインしなおしてから削除を実行する必要があります。

[ロール] パネル

さまざまなレベルの管理者権限（**ロール**）をユーザーに割り当てることができます。ユーザーに付与するアクセスおよび管理のアクセス許可に基づいて、ロールをユーザーに割り当てます。コンソール ユーザーのロールは次のとおりです。

- **管理者**：このユーザーには **Core** コンソールへの無制限のアクセス権限があり、すべての管理機能を実行できます。これは、「スーパーセット」ロールで、オペレータ ロールとレポーター ロールのすべての機能と権限が含まれています。
- **オペレータ**：このユーザーは、**Core** コンソールで管理タスク、操作タスク、およびレポート関連タスクを実行できます。このユーザーは [設定] タブにはアクセスできません。このロールには、レポーター ロールの機能と権限が含まれています。
- **レポーター**：このユーザーのアクセス許可では、**Core** コンソールでレポートデータの表示、コンパイル、および印刷のみを行うことができます。このユーザーは、[レポート] タブと [ダッシュボード] タブにのみアクセスできます。

 ユーザーには複数のロールを割り当てることができます。

ユーザーへのロールの割り当て

コンソールでは、次の 2 つのいずれかの方法で、ユーザーにロールを割り当てることができます。

- [ロール] パネルで、次の手順を実行します。
 - テーブルのロールをクリックして [ロール プロパティ] ウィンドウを呼び出します。このウィンドウには、該当のロールに割り当てられているユーザーのリストが表示されます。
 - ツールバーのボタンを使用して、ユーザーをロールに追加したり、ユーザーをロールから削除したりします。
- [ユーザー] パネルで、次の手順を実行します。
 - テーブルのユーザー ID をクリックして [ユーザー プロパティ] ウィンドウを呼び出します。
 - [ロール] タブをクリックします。
 - ツールバーのボタンを使用して、ユーザーをロールに追加したり、ユーザーをロールから削除したりします。

Satellite コンソールのアクセス制御

HPCA 管理者は、**Satellite** コンソールの [アクセス制御] セクションで、コンソールのアクセス認証メソッド (ローカル アカウントまたはディレクトリ サービス アカウント) を選択してその設定を行うことができます。

[アクセス制御] セクションの [要約] 領域には、現在有効になっている認証メソッドが表示されます。デフォルト (ローカル アカウント) が表示されます。

認証メソッドを選択および設定するには

- 1 **[認証の設定]** をクリックします。認証ウィザードが開きます。
- 2 **[サーバー認証タイプの設定]** 領域で、**[認証メソッド]** ドロップダウンを使用して次のいずれかを選択します。
 - **ローカル アカウント** – このメソッドでは、管理者は **Satellite** コンソールの **管理者** および **オペレータ** ログオン認証情報を設定できます。これらの認証情報によって、コンソールのさまざまな部分へのアクセスが制限されます。これがデフォルトとなります。設定情報については、**199** ページの「**ローカル アカウントを使用するには**」セクションを参照してください。
 - **ディレクトリ サービス アカウント** – このメソッドでは、環境内のディレクトリ サービス アカウント (**Active Directory** など) を使用して管理者認証ができます。設定情報については、**199** ページの「**ディレクトリ サービス アカウントを使用するには**」を参照してください。
- 3 **[次へ]** をクリックして **[設定]** 領域に進み、選択したアクセスメソッドの設定を指定します。

ローカル アカウントを使用するには

ローカル アカウントを使用して **Satellite** コンソールへのアクセスの安全性を確保する場合、**Satellite Server** をインストールしたらすぐにパスワードを変更します。

- a 適切な領域で管理者またはオペレータのコンソールへのアクセスを設定します。
 - **管理者** のアクセス許可では、ユーザーはコンソールのすべての領域にアクセスできます。
 - **オペレータ** のアクセス許可では、ユーザーのアクセスはコンソールの **[操作]** 領域に制限されます。
- b **[次へ]** をクリックします。
- c 設定が完了したら、**[閉じる]** をクリックします。

次にローカル アカウントを使用して **Satellite** コンソールにログインするときには、新しいパスワードを使用します。

ディレクトリ サービス アカウントを使用するには

外部ディレクトリ サービス アカウントを使用して、**Satellite** コンソールへのユーザー アクセスを認証できます。

- a [ディレクトリ サービスの設定] 領域で、次の設定パラメータを指定します。
- **ディレクトリ ホスト** : 認証に使用する外部ディレクトリ サーバーのホスト名または IP アドレスです。
 - **ディレクトリ ポート** : 外部ディレクトリ サーバーにアクセスするために使用するポートです。デフォルトは **389** です。
 - **ベース DN** : ユーザーのクエリ時に検索を開始するディレクトリのベース オブジェクトです。
たとえば、**dc=europe, dc=acme, dc=com** のようになります。
 - **アクセス グループ DN** : 管理者権限で **Core** コンソールにアクセスできるすべてのメンバーを含むグループ DN です。
 - **ディレクトリ ユーザー ID** : ディレクトリ サーバーにアクセスできる有効なユーザー ID です。**Core** にログオンするユーザーが上記のグループ DN のメンバーであることを検証するために使用されます。デフォルトは **administrator** です。
 - **ディレクトリ パスワード** : 上記のユーザー ID に関連付けられているパスワードです。
- b [LDAP グループ ユーザーのテスト] 領域で、テスト ユーザーの認証情報を入力します。
- **ユーザー名** : 既存のアクセス グループ DN ユーザーのユーザー名です。
 - **パスワード** : 上記のユーザー名に関連付けられているパスワードです。
- c [次へ] をクリックします。
- d 設定が完了したら、[閉じる] をクリックします。
- これで管理者は、ディレクトリ サービス アカウントの認証情報を使用して **Satellite** コンソールにサインインできます。

設定

[設定] 領域は **Satellite** コンソールでのみ使用できます。

設定サービスは、それぞれの付与資格に基づいて HPCA Agent に「モデル」とサービス情報を提供します。エージェントはサーバーに接続して、この情報を取得し、変更内容を反映させます。このサービスが **Satellite Server** で無効になっている場合、HPCA Agent は別のサーバーを使用して、リクエストした情報を取得する必要があります。この「フォールバック サーバー」の指定は、**Configuration Server Database** の **CLIENT.SAP** インスタンスに設定されているユーザーのインフラストラクチャ モデルに組み込む必要があります。

- 設定サービスを有効にするには、**[有効]** チェック ボックスをオンにして **[保存]** をクリックします。

データ キャッシュ

[データ キャッシュ] 領域は **Satellite** コンソールでのみ使用できます。

データ キャッシュ サービスは、基本となる HPCA キャッシュ管理サービスを制御します。HPCA キャッシュ管理サービスは、**Satellite** が同期されているアップストリーム ホストからデータ (ソフトウェア、パッチ、セキュリティ、および監査など) を取得するために使用されます。このページでは、次のことができます。

- この **Satellite** のデータ キャッシュ サービスを有効または無効にする。
- リソース データ キャッシュの制限をメガバイト単位で設定する。

データ キャッシュを設定するには

- 1 [設定] タブで、**[データ キャッシュ]** をクリックします。
- 2 次のオプションを設定します。
 - **[有効]** (チェック ボックスがオン) は、データ サービスがこの **Satellite** で有効になっていることを示します。これはデフォルトで、これによって、この **Satellite** に接続されている HPCA Agent が **Satellite** からソフトウェアやパッチを受信できるようになります。
 - **[有効]** (チェック ボックスがオフ、つまり**無効**) は、データ サービスがこの **Satellite** で無効になっていることを示します。
 - アップストリーム ホストと同期しても、ソフトウェアやパッチのデータ キャッシュはこの **Satellite** に送信されません。
 - この **Satellite** に接続されている HPCA Agent によって、データのリクエストがアップストリーム ホストに渡されます。

- **[データ キャッシュの制限 (MB)]** をリソース キャッシュの最大サイズ (メガバイト) に設定します。デフォルトは **40000 MB** です。

3 **[保存]** をクリックして、変更内容を実装します。

[操作] タブがリフレッシュされると、このサービスのステータスが [要約] の下に表示されます。

インフラストラクチャ管理

[インフラストラクチャ管理] セクションでは、**HPCA** インフラストラクチャのさまざまな設定を行うことができます。詳細については、次のセクションを参照してください。

- 202 ページの「[プロキシ設定](#)」
- 203 ページの「[SSL](#)」
- 204 ページの「[データベース設定](#)」
- 205 ページの「[Live Network](#)」
- 208 ページの「[Satellite 管理](#)」

プロキシ設定

HPCA Core Server と外部のデータ ソースまたは受信者間の、インターネットベースの通信に使用するプロキシ サーバーの設定を指定するには、[プロキシ設定] 設定ページを使用します。

HTTP 通信と **FTP** 通信で別々のプロキシ設定を確立できます。**HTTP** プロキシサーバーは、**Patch Manager** の取得、**HP Live Network** のコンテンツの更新、および特定のダッシュボード ペインで使用される **Real Simple Syndication (RSS)** フィードに使用されます。これらの **HTTP** プロキシ設定がないと、たとえば **Patch Manager** の取得が失敗した場合に、ブリティン、パッチ、および **Windows Update Agent (WUA)** ファイルなどの関連項目をダウンロードできなくなります。

FTP プロキシサーバーは、**HP Softpaq** 取得を実行するために **Patch Manager** によって使用されます。

プロキシを設定するには

- 1 [設定] タブで、[インフラストラクチャ管理] 領域を展開し、[プロキシ設定] をクリックします。
- 2 設定するプロキシサーバーのタブ ([HTTP] または [FTP]) を選択します。
- 3 [有効] ボックスをオンにします。
- 4 プロキシサーバーに関する次の情報を入力します。
 - **ホスト**: プロキシサーバーのネットワーク アドレスの名前
 - **ポート**: プロキシサーバーがリスンするポート
 - **ユーザー ID**: プロキシサーバーで認証が必要な場合のユーザー ID
 - **パスワード**: プロキシサーバーで認証が必要な場合のプロキシユーザーのパスワード
- 5 [保存] をクリックして、変更内容を実装します。
- 6 [閉じる] をクリックして、ダイアログを確認します。

SSL

SSL を有効にすると、Core コンソールへのアクセスが保護されます。SSL を有効にすると、コンソールに接続している間に作成されるトランザクションが暗号化されます。

SSL を有効にしてサーバーとクライアントの証明書を定義するには、[SSL] セクションを使用します。

- 203 ページの「[SSL サーバー](#)」
- 204 ページの「[SSL クライアント](#)」

SSL サーバー

SSL サーバーの証明書は、HPCA Server のホスト名に基づいています。これにより、サーバーで SSL 接続が許可されます。これは、Verisign など既知の認証局によって署名される必要があります。

HPCA Server の SSL の有効化および設定を行うには

- 1 [SSL を有効化] の後にあるチェック ボックスをオンにします。
- 2 [既存の証明書を使用] または [新しい証明書のアップロード] のいずれかを選択します。

- 3 **[保存]** をクリックします。

SSL クライアント

認証局のファイルには、信頼された認証局の署名入り証明書が含まれています。これにより、**HPCA Server** は他の **SSL** 対応サーバーに接続するときに **SSL** クライアントとして機能できます。サーバーのインストールには、信頼された認証機関のデフォルトのセットが含まれています。これはほとんどの組織において十分な権限を持ちます。

CA 証明書ファイルを定義するには

- 1 **[ブラウズ]** をクリックして移動し、**CA 証明書ファイル** を選択します。
- 2 この証明書ファイルを既存の証明書に追加するのか、または既存の証明書をこの新しいファイルで置き換えるのかを選択します。
- 3 **[保存]** をクリックします。

データベース設定

Core Server オブジェクトの **SQL** データベースへの **ODBC** 接続を設定するには、**[データベース設定]** を使用します。

前提条件

Core データベースを作成し、そのデータベースの **ODBC** 接続を定義する必要があります。詳細については、製品マニュアルのインストール手順を参照してください。

メッセージングを設定するには

- 1 **[設定]** タブで、**[インフラストラクチャ管理]**、**[データベース設定]** の順にクリックします。
- 2 次のオプションを設定します。
 - **ODBC DSN:** **Core** データベースの **DSN** を選択します。
 - **ODBC のユーザー ID:** **DSN** のユーザー **ID** を指定します。
 - **ODBC のパスワード:** **ODBC** ユーザー **ID** に関連付けられているパスワードを指定します。
 - **サーバーのホスト:** データベースをホストするサーバーの名前を指定します。

— **サーバーのポート** :サーバーのポート (デフォルトは 1433) を指定します。

3 **[保存]** をクリックします。

Live Network

HP Live Network コンテンツ サーバーとの通信に必要な Live Network 設定は、[設定] タブの [インフラストラクチャ管理] 領域で設定します。205 ページの「[HP Live Network サーバーへの接続の設定](#)」を参照してください。

Live Network の更新は、[操作] タブの [インフラストラクチャ管理] 領域で設定します。159 ページの「[Live Network](#)」を参照してください。

HP Live Network サーバーへの接続の設定

HP Live Network から最新のコンテンツを自動的にダウンロードするために使用する接続を設定するには、Live Network 設定 これには、次の項目が含まれています。

- 最新のスキャナおよびデータをダウンロードするために使用する **HP Live Network** コンテンツ サーバーの URL

HP Passport ログイン認証情報です。保存する前に設定情報をテストできます。テストをリクエストすると、HPCA Console は HP Live Network コンテンツ サーバーへの接続を試行します。接続に成功すれば、設定情報は有効です。詳細については、206 ページの「[Live Network の設定のテスト](#)」を参照してください。

HP Live Network の接続設定を指定するには

- 1 [設定] タブで、[インフラストラクチャ管理] 領域を展開し、**[Live Network]** をクリックします。
- 2 次の情報を指定します。アスタリスク (*) の付いているパラメータはすべて必須です。
 - **HP Live Network ユーザー ID** — HP Passport のユーザー ID です。
 - **HP Live Network パスワード** — HP Passport のパスワードです。

- **HP Live Network コンテンツの URL** — 脆弱性定義とスキャナの HP Live Network コンテンツ サーバーの場所です (URL はデフォルトで設定されています)。
- **HP Live Network コネクタ** — HPCA Core をホストするシステムの Live Network コネクタ実行可能ファイルへのパスです (パスはデフォルトで設定されています)。

詳細については、59 ページの「[HP Live Network コネクタのダウンロード](#)」を参照してください。

- 3 指定した設定をテストするには、**[テスト]** をクリックします。詳細については、206 ページの「[Live Network の設定のテスト](#)」を参照してください。
- 4 **[保存]** をクリックして、変更内容を実装します。

- ▶ テストが成功しても、その設定は HPCA Console では自動的に保存されません。設定を保存するには、**[保存]** ボタンをクリックする必要があります。
- ▶ このページから離れると、**[保存]** をクリックする前にテキスト ボックスに入力した情報はすべて失われます。情報を保存する場合は、必ず **[保存]** をクリックしてください。
- ▶ **[リセット]** ボタンを使用して、最後に保存した設定に戻すことができます。

Live Network の設定のテスト

Live Network を設定する場合、保存する前に、設定が機能するかどうかをテストできます。

テストを実行するには、ページの右下隅にある **[テスト]** ボタンをクリックします。HPCA Console では、まず必要なすべての設定が指定されていることと、すべての設定の形式が正しいことが確認されます。その後で、次のアクションを実行します。

HPCA Console から HP Live Network コンテンツ サーバーへの接続を試行して、指定されているユーザー名とパスワードを使用してログインします。**[インフラストラクチャ管理]** 設定領域の **[プロキシ設定]** ページに表示されるプロキシ情報が使用されます。

ネットワーク トラフィックやその他のパラメータによって異なりますが、このテストは最大で 3 分かかります。テストを続行するかどうかを確認するダイアログ ボックスが表示されます。続行する場合、[はい] をクリックします。

テストが完了すると、[テスト結果] ダイアログ ボックスにテストの結果が表示されます。次の表に、表示される結果と各結果の意味を示します。

表 26 Live Network の設定のテスト結果

アイコン	結果	説明と推奨アクション
✓	テストは成功しました。	すべての設定が有効です。設定を保存してください。
✗	テストに失敗しました。	<p>テストが失敗する一般的な理由を次にいくつか挙げます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要な設定が見つからない。 無効な形式で設定が指定されている（無効な URL またはパス名など）。 設定のスペルに誤りがある。 HP Live Network コンテンツ サーバーのログイン認証情報が無効（登録の期限切れなど）。
?	不明	<p>この結果は、必ずしも設定情報が無効であることを意味しているわけではありません。これは、テストを完了できなかったということだけを表しています。</p> <p>たとえば、HPCA Console が HP Live Network コンテンツ サーバーに 3 分以内に接続できず、テストがタイムアウトした場合などが該当します。これは、次のような理由で発生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> サーバーが使用できない。 ネットワーク トラフィックによって接続が妨げられる。 ファイアウォールによって接続がブロックされる。 <p>また、接続がプロキシサーバー経由の場合に指定したプロキシ情報が正しくなかったり、プロキシサーバーによって接続がブロックされていたりすると、この結果となることがあります。</p>

失敗または不明瞭なテスト結果のトラブルシューティングを行うには、タブですべての設定のスペルおよび形式を確認します。エラーがないかどうか `vms-server.log` ファイルも確認します。



テストが成功していても、設定を保存するには **[保存]** ボタンをクリックする必要があります。設定は **HPCA Console** によって自動的に保存されません。

Satellite 管理

[設定] タブにある [インフラストラクチャ管理] の [Satellite 管理] 領域では、**HPCA Console** から **Satellite Server** を配布および管理できます。**Satellite Server** を使用すると、管理対象デバイスにデータ キャッシングなどのリモート サービスを提供することにより、バンド幅を最適化し、ネットワーク パフォーマンスを向上させることができます。

HPCA Standard Edition および **Starter Edition** の場合、簡素 (標準) 配布モードのみを使用できます。配布モードの詳細については、『**HPCA Core** および **Satellite 入門** および **コンセプト ガイド**』の「**Satellite 配布モデル**」を参照してください。

Satellite Server を定義および設定するために必要な手順は次の 3 つです。

- 1 デバイスを **HPCA Satellite Server** グループに追加します。
 - 211 ページの「**Satellite Server の追加**」を参照してください。

デバイスを **HPCA Satellite Server** グループに追加するには、まずそのデバイスを **HPCA デバイス リポジトリ** にインポートする必要があります。詳細については、69 ページの「**デバイスのインポート**」を参照してください。
 - 2 **Satellite Server** コンポーネントをこれらのデバイスに配布します。これにより、データ キャッシングなどのリモート サービスがこれらのデバイスで有効になります。
 - 212 ページの「**Satellite Server コンポーネントの配布**」を参照してください。
- 3 サブネット ロケーションを作成し、**Satellite Server** に割り当てます。

218 ページの「サブネット ロケーション」を参照してください。

管理対象デバイスは、サブネットの割り当てに基づいて **Satellite Server** に接続されます。たとえば、デバイスがサブネット **208.77.1.0** にあり、そのサブネットが **Satellite Server A** に割り当てられている場合、このデバイスは **HPCA Core Server** に接続する前に **Server A** からリソースを取得します。

[Satellite 管理] 領域には、次の 2 つのタブがあります。

- 209 ページの「**Satellite Server**」
- 218 ページの「サブネット ロケーション」

Satellite Server は、オペレーティング システム イメージを除く、リクエストされたデータをすべて自動的にキャッシュします。同期機能を使用して、**HPCA Core Server** のすべてのデータを事前に入力することもできます。詳細については、216 ページの「**Satellite Server の同期**」を参照してください。









- ▶ **Satellite Server** は、**HPCA Core Server** からのみ定義および設定できます。別の **Satellite Server** から行うことはできません。
- ▶ ポリシー解決は、**HPCA Core Server** でのみサポートされています。**Satellite Server** ではサポートされていません。

Satellite Server

HPCA Satellite Server グループにデバイスを追加してから、それらのデバイスに **Satellite Server** コンポーネントを配布して、**Satellite Server** を定義できます。サーバーの追加が終了したら、各サーバーにサブネット ロケーションを割り当てる必要があります。詳細については、218 ページの「サブネット ロケーション」を参照してください。

[Satellite Server] ツールバーには、使用環境の Satellite Server の定義および設定に使用できるボタンがあります。

表 27 [Satellite Server] ツールバー ボタン

ボタン	説明
	データのリフレッシュ - サーバーのリストをリフレッシュします。
	CSV にエクスポート - 開いたり保存したりできる、カンマ区切りのサーバーのリストを作成します。
	Satellite Server の追加 - HPCA Satellite Server グループにデバイスを追加します。
	Satellite Server の削除 - HPCA Satellite Server グループからデバイスを削除します。
	Satellite Server の配布 - Satellite 配布ウィザードを起動し、選択したデバイスに Satellite Server をインストールします。
	Satellite Server の削除 - Satellite 削除ウィザードを起動し、選択したデバイスから Satellite Server をアンインストールします。
	選択された Satellite Server のサービス キャッシュの同期 - 選択した Satellite Server のサービス キャッシュを HPCA Core Server と同期させます。
	デバイスの削除 - HPCA データベースからデバイスを削除します。

Satellite Server は、HPCA Satellite Server デバイス グループに追加されたデバイスで、Satellite Server コンポーネントがインストールされています。

次のセクションでは、Satellite Server の定義と設定の方法を説明しています。

Satellite Server の考慮事項

Satellite Server として追加するデバイスを選択する場合、次の事項を考慮してください。

- デバイスには、パブリッシュされたサービスを保管するのに十分な領域が必要です。

- デバイスには、高性能の高速ネットワーク カード (データ転送速度 100 MB または 1 GB) が必要です。
- デバイスは、そのネットワークへのダウンロードトラフィックをローカライズするサブネット上に存在する必要があります。

ツールバーを使用して、**Satellite Server** グループでのデバイスの追加および削除を行います。



使用する **Satellite Server** のいずれかでファイアウォールが有効になっている場合は、次のポートを除外する必要があります。

- **TCP 139、445、3463、3464、3465、および 3466**

注: デフォルトの **HPCA** ポートは **3466** です。 **HPCA** のインストール時にこのポートをカスタマイズしている場合、使用しているポートが開いていることも確認します。


- **UDP 137 および 138**

Windows ファイアウォールのユーザーは、ファイルとプリンタの共有を選択し、**TCP** ポート **139** と **445**、および **UDP** ポート **137** と **138** を除外できます。

Satellite Server の追加

Satellite Server コンポーネントを配布するには、まずデバイスを **HPCA Satellite Server** デバイス グループに追加する必要があります。

Satellite Server を追加するには

- 1 **[Satellite Server]** ツールバーで、**[デバイスの追加]**  ツールバー ボタンをクリックします。
[HPCA Satellite Server グループ メンバーシップ] ウィンドウが開き、**HPCA** にインポートされた全デバイスのリストが表示されます。
- 2 リストから 1 つ以上のデバイスを選択して、**[デバイスの追加]** をクリックします。
- 3 **[閉じる]** をクリックして、ダイアログ ボックスを閉じます。
- 4 **[閉じる]** をクリックして、**[グループ メンバーシップ]** ウィンドウを閉じます。
追加したデバイスが **Satellite Server** リストに表示されます。


Satellite Server の削除

デバイスを **Satellite Server** として管理しない場合、そのサーバーを **HPCA Satellite Server** デバイス グループから削除できます。



Satellite Server コンポーネントがインストールされているデバイスを **HPCA Satellite Server** デバイス グループから削除する場合、**Satellite Server** コンポーネントを明示的に削除するまで、このデバイスは **Satellite Server** として機能し続けます。また、このデバイスは **HPCA Satellite Server** デバイス グループのメンバーのままです。デバイスから **Satellite Server** コンポーネントを削除するまで、デバイス グループからデバイスを削除できません。214 ページの「**Satellite Server** コンポーネントの削除」を参照してください。

HPCA Satellite Server デバイス グループからサーバーを削除するには

- 1 **[Satellite Server]** ツールバーで、**HPCA Satellite Server** デバイス グループから削除するデバイスを選択します。
- 2 **[デバイスの削除]**  ツールバー ボタンをクリックします。
- 3 **[閉じる]** をクリックして、ダイアログ ボックスを閉じます。
選択したデバイスがグループから削除されます。

Satellite Server コンポーネントの配布

HPCA Satellite Server グループにデバイスを追加したら、そのデバイスに **Satellite Server** コンポーネントを配布できます。これを行うには、データキャッシングなどのリモート サービスをそのサーバーで有効にする必要があります。

HPCA Console から **Satellite Server** コンポーネントをデバイスに配布する場合、次の処理が実行されます。

- **HPCA Core Server** によって、入力した認証情報を使用してデバイスへの接続が確立されます。
これらの認証情報で、リモート システムの **IPC\$** 共有への管理者アクセスを提供する必要があります。このアクセス レベルが使用環境で使用できない場合、**HPCA Console** で配布する代わりに、**Satellite Server** コンポーネントを手動でインストールします。
- **HPCA Management Agent** がデバイスにまだインストールされていない場合はインストールされます。

- **Management Agent** によって **Satellite Server** コンポーネントが **Core Server** からダウンロードされ、デバイスにインストールされます。
- **Management Agent** によって、初回セットアップ ウィザードがデバイスで自動的に実行され、[**ホスト デバイス**] フィールドに **Core Server** の名前が設定されます。
- **Satellite Server** が **Core Server** に登録されます。



また、**HPCA** インストール メディアを使用して **Satellite Server** コンポーネントを手動でインストールすることもできます。手動でインストールした **Satellite Server** と **HPCA Console** から配布した **Satellite Server** の両方を **HPCA Core Server** に登録します。


関連する **CLIENT.SAP** と **POLICY.USER** インスタンスは、この **Satellite** 登録プロセスで自動的に管理されます。**SAP/USER** の変更が必要なときなどに **Satellite** データを変更する場合、この変更は **HPCA** によって自動的に行われます。

HPCA 管理者は、`rmp.cfg` のオプション **ENABLE_SAP_MANAGEMENT** を **0** に設定して、この自動管理プロセスを無効にできます。デフォルトでは、このオプションはオンになっていて、`rmp.cfg` にはありません。注意：このオプションを無効にすると、**Satellite** 管理の **UI** を操作できない状態になり、使用できなくなります。



これは、高度な配布のみが対象になります。経験豊富な **HPCA** 管理者でない限り、`rmp.cfg` の設定は変更しないでください。

Satellite Server コンポーネントを配布するには

- 1 左のカラムのチェック ボックスを使用して、**Satellite Server** リストから 1 つ以上のデバイスを選択します。
- 2 **[Satellite Server の配布]**  ツールバー ボタンをクリックして、**Satellite Server** 配布ウィザードを起動します。
- 3 ウィザードの手順に従って、選択したデバイスに **Satellite Server** コンポーネントを配布します。**Satellite Server** が次の場所にインストールされます。



Satellite Server を各デバイスに手動でインストールできます。ネットワークトラフィックを削減する場合などにこの方法を選択します。

インストール手順については、『**HPCA Core** および **Satellite** 入門およびコンセプトガイド』を参照してください。

Satellite Server を手動でインストールすると、その **Satellite Server** が **Satellite Server** リストに表示されます。ただし、サブネットロケーションを割り当てるまで **Satellite Server** はクライアントデバイスとして機能しません。


サービスは、同期機能を使用して **Satellite Server** に事前に読み込みます。詳細については、216 ページの「**Satellite Server** の同期」を参照してください。

Satellite Server の作成が終了したら、サブネットロケーションを定義し、その後、**Satellite Server** をこれらのロケーションに割り当てる必要があります。詳細については、218 ページの「サブネットロケーション」を参照してください。

Satellite Server コンポーネントの削除

デバイスを **HPCA Satellite Server** として機能させない場合、**Satellite Server** コンポーネントをそのデバイスから削除する必要があります。

Satellite Server コンポーネントを削除するには

- 1 左のカラムのチェック ボックスを使用して、**Satellite Server** リストからデバイスを選択します。
- 2 **[Satellite Server の削除]**  ツールバー ボタンをクリックして、**Satellite Server** 削除ウィザードを起動します。
- 3 ウィザードの手順に従って、選択したデバイスから **Satellite Server** コンポーネントを削除します。

[管理] タブの [ジョブ管理] 領域で、**Satellite Server** の削除ジョブの進捗状況を確認できます。このジョブが完了したら、このデバイスに **Satellite Server** コンポーネントがインストールされていないことが **Satellite Server** リストに示されます。

[サーバーの詳細] ウィンドウ

[サーバーの詳細] ウィンドウにアクセスするには、**Satellite Server** リストから任意のサーバー名のリンクをクリックします。

[サーバーの詳細] ウィンドウからは、**Satellite Server** の詳細情報を表示したり、さまざまなサーバー管理タスクを実行したりできます。

全般

[全般] タブでは、サーバーに関する情報を表示したり、**Satellite Server** の配布や設定、またはサービス キャッシュの同期化などのタスクを実行したりできます。

[要約] 領域には、サーバーに割り当てられているサブネット ロケーションの数、および更新のためにそのサーバーに接続しているデバイスの数が表示されます。ステータスには、**Satellite Server** コンポーネントのインストールの有無、およびサーバーのサービス キャッシュと **HPCA Server** とが前回いつ同期されたかが表示されます。

プロパティ

[プロパティ] タブを使用して、デバイスの使用可能なすべての情報を表示します。その他の詳細情報を表示するには、[詳細プロパティ] セクションを展開します。

キャッシュ

[キャッシュ] タブでは、**Satellite Server** のサービス キャッシュに格納されるサービスの種類を選択できます。詳細については、**216** ページの「**Satellite Server** の同期」を参照してください。

サブネット ロケーション

[サブネット ロケーション] タブでは、サーバーに割り当てるサブネットを定義します。サブネットの追加および割り当ての詳細については、**218** ページの「サブネット ロケーション」を参照してください。

デバイス

[デバイス] タブには、サーバーに現在割り当てられているすべてのデバイスが表示されます。このリストは、各デバイスの前回接続に基づいており、デバイスのサブネットが変更されたら、変化する場合があります。

レポート

[レポート] タブを使用して、サービスの事前読み込み要約を表示します。事前に読み込まれたサービスのみが表示されます。(デバイスの要求後に)自動的にキャッシュされたサービスは表示されません。各事前読み込みステータスの詳細については、**216** ページの「**Satellite Server** の同期」を参照してください。

オペレーション

このタブでは、該当の **Satellite Server** の **HPCA Satellite** コンソールの [操作] タブが開きます。このタブには、設定可能な **Satellite** サービスのステータスと状態が表示されます (**193** ページの「**Satellite** の設定オプション」を参照)。また、アップストリーム ホストなど、サーバーの基本プロパティも表示されます。このタブから、**Satellite** を同期したり、そのキャッシュをフラッシュしたりできます。このタブにアクセスするには、該当の **Satellite Server** の有効な **HPCA Console** ログイン認証情報を入力する必要があります。

設定

このタブでは、193 ページの **Satellite** の設定オプションのサブセットを設定できます。このタブにアクセスするには、該当の **Satellite Server** の有効な **HPCA Console** ログイン認証情報を入力する必要があります。

Satellite Server の同期

Satellite Server のローカル キャッシュで使用できないリソースをデバイスがリクエストするたびに、データが **HPCA Core Server** から取得され、**Satellite Server** の動的キャッシュに格納されて、クライアント デバイスに提供されます。

Satellite Server のサービス キャッシュには、管理対象デバイスによって要求されるデータを事前に入力できます。通常、**Satellite Server** は、クライアント デバイスから要求されると、オペレーティング システム イメージを除くデータを自動的にキャッシュします。同期機能を使用することで、**HPCA Core Server** 上の使用可能なすべてのデータを **Satellite Server** のキャッシュに事前に読み込みます。

(**Satellite Server** が配布された後に) [サーバーの詳細] ウィンドウの [キャッシュ] タブを使用して、どのデータを事前に読み込むかを選択できます。



事前読み込みには、大規模なバイナリ ファイルのダウンロードが含まれるため、ネットワークの全体的なパフォーマンスに影響を及ぼす可能性があります。可能な限り、最適なネットワーク パフォーマンスが優先事項とされない空き時間に同期を実行するようにしてください。

各サーバーの現在の同期ステータスを表示するには、**Satellite Server** のリストにある [前回の同期] カラムを確認するか、[サーバーの詳細] ウィンドウの [一般] タブの [要約] セクションを参照してください。[前回の同期] では、同期機能がサーバー上で最後にいつ開始されたかが記録されます。



Satellite Server の最初の同期が行われると、**HPCA Agent ID** である **RPS_<DEVICENAME>** を使用して、管理対象デバイス レポートに新しいエントリが追加されます。このエントリは、特に **Satellite Server** のサービスの事前読み込みのステータスを表示するために存在し、関連デバイスの詳細なハードウェア情報は含まれていません。


Satellite Server から事前読み込みまたは削除されたサービスに関する情報は、その **Satellite Server** の [サーバーの詳細] ウィンドウにある [レポート] タブの [事前に読み込まれたサービス] にあります。

どのデータを事前に読み込むかを選択するには

- 1 **Satellite Server** の配布後に、**Satellite Server** のリストの中からサーバーのリンクをクリックし、[サーバーの詳細] ウィンドウを開きます。

- 2 **[キャッシュ]** タブをクリックします。
- 3 ドロップダウン リストを使用して、**HPCA Core Server** から事前に読み込めるようにするサービスの有効/無効を切り替えます。デフォルトでは、事前読み込みはすべてのサービスに対して無効になっています。
- 4 **[保存]** をクリックして、変更を適用します。
- 5 **[同期]** をクリックし、使用可能なデータを使用して **Satellite Server** を即時に事前読み込みします。

Satellite Server を同期するには

- 1 **[設定]** タブで、**[インフラストラクチャ管理]** の **[Satellite 管理]** 領域に移動します。
- 2 **[サーバー]** タブで、同期するサーバーを選択します。
- 3 **[選択された Satellite Server のサービス キャッシュの同期]**  ツールバー ボタンをクリックし、HPCA Server の最新データを使用して、選択したすべてのサーバーを更新します。各サーバーに事前に読み込まれている特定のサービスは、各サーバーの **[サーバーの詳細]** ウィンドウの **[キャッシュ]** タブの設定内容に依存します。



[サーバーの詳細] ウィンドウから **Satellite Server** を同期することもできます。

Satellite Server のキャッシュ内の事前に読み込まれたサービスの要約を表示するには

[サーバーの詳細] ウィンドウを開き、**[レポート]** タブをクリックします。

[レポート] タブにキャッシュ内で利用できる事前に読み込まれたサービスおよびそれぞれのステータスが表示されます。

[イベント] カラムでは、次のような現在のステータスが説明されます。

- **更新 (事前読み込み)** - サービスは、前回のキャッシュ同期で更新されました。
- **インストール (事前読み込み)** - サービスが正常に事前読み込みされました (初期事前読み込み)。
- **アンインストール (事前読み込み)** - サービスが事前読み込みキャッシュから削除されました。
- **修復 (事前読み込み)** - サービス用のキャッシュは、ファイルが不明であるか無効なファイルを含んでおり、前回の同期で修復されました。






レポートには、事前に読み込まれたサービスのみが表示されます。デフォルトのメソッド(管理対象デバイスによって要求された際に自動的にキャッシュされる)によって **Satellite Server** に格納されているサービスは、表示されません。

サブネット ロケーション

[サブネット ロケーション] タブを使用して、既存のサブネット ロケーションを表示したり、新しいロケーションを追加したりします(このロケーションには、**Satellite Server** を後から割り当てることができます)。管理対象デバイスは、サブネットの割り当てに基づいて **Satellite Server** に接続されます。

[サブネット ロケーション] ツールバーには、使用環境のサブネット ロケーションの定義および設定に使用できるボタンがあります。

表 28 [サブネット ロケーション] ツールバー ボタン

ボタン	説明
	データのリフレッシュ - ロケーション(サブネット)のリストをリフレッシュします。
	CSV にエクスポート - 開いたり保存したりできる、カンマ区切りの場所のリストを作成します。
	新しいサブネット ロケーションの作成 - インフラストラクチャ ロケーションの作成ウィザードを起動します。
	インベントリ データに基づくサブネット ロケーションの自動作成 - 管理対象デバイスからのインベントリ データに基づいて、ロケーションのリストを作成します。
	ロケーションの削除 - 選択したロケーションを削除します。


サブネット ロケーションのリストには、追加された各サブネット ロケーションの情報が含まれています。たとえば、割り当てられているサーバーやサブネット内に存在するデバイスの数などの情報です。任意の **[サブネット アドレス]** をクリックして、**[[サブネット ロケーションの詳細] ウィンドウ]** ウィンドウを開きます。

HPCA に格納されているインベントリ データに基づいて、新しいサブネット ロケーションを手動で作成するか、自動的に作成することができます。必要なインベントリ データを取得するには、**HPCA Agent** が配布されている必要があります。


新しいサブネット ロケーションの作成

サブネット ロケーションを作成する方法は2つあります。サブネット アドレスを明示的に指定するか、既存の HPCA インベントリ データに基づいてロケーションを生成できます。

新しいサブネット ロケーションを手動で作成するには

- 1 **【新しいサブネット ロケーションの作成】**  ツールバー ボタンをクリックして、サブネット ロケーション作成ウィザードを起動します。
- 2 ウィザードの手順に従って、新しいサブネット ロケーションを作成します。

インベントリ データに基づいて新しいロケーションを作成するには

- 1 **【インベントリ データに基づくサブネット ロケーションの自動作成】**  をクリックします。
- 2 **[OK]** をクリックします。
- 3 **[閉じる]** をクリックします。

サブネット ロケーションのリストが更新されます。このメソッドでは、見つかった新しいサブネットごとに1つのロケーションが作成されます。

サブネット ロケーションを追加したら、**Satellite Server** をそのロケーションに割り当てることができます。


Satellite Server へのサブネット ロケーションの割り当て

サブネット ロケーションを **Satellite Server** に割り当てると、そのサブネットのすべての管理対象クライアント デバイスが該当の **Satellite Server** を介して HPCA と通信するようになります。

▶ サブネット ロケーションを **Satellite Server** に割り当てるまで、そのサブネットのすべての管理対象クライアントは **HPCA Core Server** と直接通信します。


サブネット ロケーションを Satellite Server に割り当てるには

- 1 **【サーバー】** タブをクリックします。
- 2 サブネット ロケーションを割り当てるサーバーをクリックします。【サーバーの詳細】ウィンドウが開きます。
- 3 **【サブネット ロケーション】** タブをクリックします。

- 4 **[Add Subnet Locations]**  ツールバー ボタンをクリックします。[サブネット ロケーション] ウィンドウが開きます。
- 5 **Satellite Server** に割り当てるサブネット ロケーションを選択し、**[ロケーションの追加]** をクリックします。
- 6 **[閉じる]** をクリックします。
- 7 サブネット ロケーションの追加が完了したら、**[閉じる]** を再度クリックし、[サーバーの詳細] ウィンドウを閉じます。

以上の手順が完了すると、サブネット ロケーションが **Satellite Server** に割り当てられ、定義されたサブネット内で接続を行うデバイスは、リソースのニーズに応じてそのサーバーに振り分けられます。

Satellite Server に割り当てられているサブネット ロケーションを削除するには

- 1 **[サーバー]** タブをクリックします。
- 2 サブネット ロケーションを削除するサーバーをクリックします。[サーバーの詳細] ウィンドウが開きます。
- 3 **[サブネット ロケーション]** タブをクリックします。
- 4 削除するサブネット ロケーションをリストから選択して、**[サブネット ロケーションの削除]**  ツールバー ボタンをクリックします。
- 5 **[閉じる]** をクリックします。
- 6 サブネットロケーションの削除が完了したら、**[閉じる]** を再度クリックし、[サーバーの詳細] ウィンドウを閉じます。

[サブネット ロケーションの詳細] ウィンドウ

[サブネット ロケーション] テーブルで、サブネット アドレスをクリックして [サブネット ロケーションの詳細] ウィンドウを開きます。

- **[プロパティ]** タブを使用して、このサブネット ロケーションの説明を変更します。
変更後、**[保存]** をクリックします。
- **[デバイス]** タブを使用して、このサブネット内に存在するすべてのデバイスをリストします。

デバイス管理

[デバイス管理] セクションを使用して、警告オプションおよび **Trusted Platform Module (TPM)** を設定します。

次のセクションでは、利用可能なデバイス管理オプションについて説明します。

- 221 ページの「警告中」
- 223 ページの「**Trusted Platform Module**」

警告中

[警告中] セクションを使用して、**CMI** と **S.M.A.R.T.** の警告およびレポート オプションを設定します。

- 221 ページの「**CMI**」
- 222 ページの「**S.M.A.R.T.**」

CMI

CMI Softpaq は、**HPCA Agent** 配布の一部として、各 **HP** ターゲット デバイスにインストールされます。**HP Client Management Interface(CMI)** は、企業管理者や **IT** プロフェッショナルに、**HP** ビジネスクラス デスクトップ、ノートブックおよびワークステーションに対する高レベルの管理システムを提供します。

CMI のハードウェア固有の情報がキャプチャされ、レポートに利用できます。**[レポート]** タブの **[表示オプション]** セクションで **[HP 固有のレポート]** レポートビューを使用して、**CMI** ハードウェア関連レポートを作成します。(CMI 関連のレポート オプションを表示するには、**[インベントリ管理レポート]**、**[ハードウェア レポート]**、**[HP 固有のレポート]** の順で選択します)。

CMI に関する詳細は、次を参照してください。

<http://h20331.www2.hp.com/Hpsub/cache/284014-0-0-225-121.html>

[CMI] タブを使用して、**HP CMI** 設定を変更します。変更した設定は、管理対象のクライアントが次に **HPCA** インフラストラクチャに接続したときに、有効になります。



CMI は、特定の **HP** デバイス モデルでしか互換性がありません。互換性に関する情報は、デバイスの説明を参照してください。

CMI を設定するには

- 1 HPCA Console で、**[設定]** タブをクリックし、**[デバイス管理]** を選択します。
- 2 **[CMI]** タブをクリックします。
- 3 管理対象 HP デバイスからキャプチャしたクライアント警告についてレポートするには、**[クライアント警告のレポート]** ドロップダウン リストから **[有効]** を選択します。警告レポートはデフォルトでは無効になっています。**[有効]** を選択すると、**[レポートする最低の重大度]** ドロップダウン リストが使用できるようになります。
- 4 レポートする最低の警告重大度を選択します。
- 5 管理対象 HP デバイスのクライアント警告を有効にするには、**[クライアント警告の表示]** ドロップダウン リストから **[有効]** を選択します。警告はデフォルトでは無効です。**[有効]** を選択すると、**[表示する最低の重大度]** ダイアログと **[警告ウィンドウのタイムアウト]** ダイアログが使用できるようになります。
- 6 クライアント デバイスに表示する最低の警告重大度を選択します。
- 7 警告をクライアント デバイスに表示する秒数を入力します。デフォルトでは、警告は 5 秒間表示されます。
- 8 **[保存]** をクリックします。

S.M.A.R.T.

Self-Monitoring, Analysis, and Reporting Technology (S.M.A.R.T.) とは、コンピュータのハードディスクの監視システムで、信頼性のさまざまなインジケータについて検出およびレポートを行い、ドライブの問題に対する早期警告システムとして働きます。これらのイベントの検出は、**Client Automation Management Agent** の一部として、表示とレポートの両方の目的で有効化することができます。**[設定]** タブの **[ハードウェア管理]** 領域を使用して、**S.M.A.R.T.** 監視設定を設定します。**S.M.A.R.T.** 監視は、デフォルトでは無効です。

S.M.A.R.T. 監視の有効化および設定を行うには

- 1 HPCA Console で、**[設定]** タブをクリックし、**[ハードウェア管理]** を選択します。
- 2 **[S.M.A.R.T.]** タブをクリックします。
- 3 **[S.M.A.R.T. 監視の有効化]** ドロップダウン リストを使用し、**[有効]** を選択します。**S.M.A.R.T.** 監視は、デフォルトでは無効です。

- 4 **【クライアント警告の表示】** ドロップダウンリストを使用して、S.M.A.R.T. クライアント警告の有効/無効を切り替えます。警告はデフォルトでは無効です。クライアント警告を有効化すると、管理対象デバイスでドライブに関する問題が検出されると、そのデバイス上に警告ウィンドウが表示されます。
- 5 **【クライアント警告のレポート】** ドロップダウンリストを使用して、S.M.A.R.T. クライアント警告レポートの有効/無効を切り替えます。有効化されると、クライアント警告がキャプチャされ、レポートの目的で利用できるようになります。レポートはデフォルトでは無効になっています。
- 6 **【保存】** をクリックします。

【S.M.A.R.T. 監視の有効化】 および **【クライアント警告のレポート】** を有効にした後は、HPCA Console の **【レポート】** 領域を使用して、S.M.A.R.T. レポートを作成します。警告レポートは、インベントリ管理レポートのレポート ビューに含まれています。S.M.A.R.T. 警告レポートを表示するには、**【インベントリ管理レポート】**、**【ハードウェア レポート】**、**【詳細 レポート】** の順で選択します。

Trusted Platform Module

【TPM】 タブを使用して、互換性がある HP デバイスに Trusted Platform Module チップを設定します。CCM_TPM_ENABLEMENT サービスを配布して、TPM の所有権を初期化し、これらの設定を適用します。ソフトウェア配布に関する情報については、105 ページの「**ソフトウェアの配布**」を参照してください。



TPM セキュリティ チップを有効化および初期化するには、HP ProtectTools ソフトウェアをデバイスにインストールしておく必要があります。デバイスモデルによっては、このソフトウェアがプレインストールされているものや、別途ソフトウェアをダウンロードまたは購入する必要があるものがあります。詳細は、ご使用のデバイス モデルの HP ドキュメントを参照してください。

TPM は、HP ビジネス PC のマザーボードに取り付けられたハードウェア セキュリティ チップです。これは、HP ProtectTools Embedded Security の一部です。

詳細は、次を参照してください。

<http://h20331.www2.hp.com/hpsub/cache/292199-0-0-225-121.html>

TPM を設定するには

- 1 HPCA Console で、**【設定】** タブをクリックし、**【ハードウェア管理】** を選択します。
- 2 **【TPM】** タブをクリックします。

- 3 BIOS Admin パスワードおよび TPM Owner パスワードを入力します。
- 4 緊急復旧トークンおよびパスワード リセット トークンを入力します。
- 5 [再起動の設定]を選択します。TPM チップが有効になった後で、デバイスが再起動されます。この設定は、エンドユーザーが行う対話のレベルを決定します。
 - 許可のみ – 再起動の後、ユーザーは有効化を許可する必要があります。
 - 許可または拒否 – 再起動の後、ユーザーは有効化を許可または拒否できません。
 - サイレント – ユーザーは、再起動の後に有効化の確認を求められません。
- 6 バックアップ アーカイブ、緊急復旧アーカイブ、および TPM パスワード リセット アーカイブのファイルパスを入力します。
- 7 [保存]をクリックします。

パッチ管理

パッチ管理を有効にして、パッチ データベースの ODBC パラメータを定義するには、[パッチ管理]リンクを使用します。

Starter および **Standard** ユーザーは、このセクションを使用して、**Microsoft** パッチおよび **HP Softpaq** の取得、パッチ取得スケジュールの設定、およびパッチ取得設定の定義を行うこともできます。

ユーザー環境でパッチの配布および付与を行う方法の詳細については、[261 ページの「パッチ配布ウィザード」](#)を参照してください。

パッチ管理のオプションについては、次のセクションで説明します。

- [225 ページの「データベース設定」](#)
- [225 ページの「エージェント オプション」](#)

データベース設定

コンソールの [パッチ管理] 領域とパッチ取得機能を使用するには、パッチを有効にする必要があります。

パッチ管理サービス (HPCA Patch Manager) を開始して、パッチ ライブラリに保存された情報と SQL データベースの情報を同期する機能を有効にするには、[データベース設定] 領域を使用します。

前提条件

- パッチ データベースを作成し、そのデータベースの ODBC 接続を定義する必要があります。詳細については、『HPCA Core および Satellite Servers 入門およびコンセプト ガイド』を参照してください。

パッチの有効化および設定を行うには

- 1 **[有効]** を選択します (これにより、HPCA Patch Manager サービスが開始します)。
- 2 パッチの [ODBC 設定] 領域で、次のオプションを設定します。
 - **ODBC DSN: Patch SQL** データベースの DSN を選択します。
 - **ODBC のユーザー ID:** DSN のユーザー ID を指定します。
 - **ODBC のパスワード:** ODBC ユーザー ID に関連付けられているパスワードを指定します。
- 3 **[保存]** をクリックします。
- 4 パッチの ODBC 設定を変更した場合、確認メッセージに従って Patch Manager サービスを再開します。

エージェント オプション

これらのエージェント オプションは、Microsoft デバイスのパッチにのみ適用されます。

Microsoft デバイスにパッチを適用するための Patch Manager Agent のオプションを有効化および設定するには、[設定] タブ > [パッチ管理] 領域からアクセスできる [エージェント オプション] を使用します。

Patch Agent が次に HPCA Server に接続するときに、これらのパネルで指定した設定の変更が受信されます。

- 226 ページの「[Download Manager オプション](#)」
- 227 ページの「[Patch Manager のエージェント オプション](#)」

Download Manager オプション

次の表を参考にして、**Download Manager** オプションを設定します。

ネットワーク利用、スクリーンセーバーモードでのネットワーク利用、初期化後の遅延、およびダウンロード完了後のパッチ適用の有無を指定するオプションを設定します。

表 29 Patch Agent の Download Manager オプション

オプションと有効な値	説明
ネットワーク利用 値 = 0 ~ 100 % デフォルトは 0	デバイスがアクティブな場合にパッチファイルのダウンロードに使用できるネットワークの最大バンド幅の割合を指定します。値が 0 の場合、使用可能なネットワークのバンド幅でダウンロードが行われます。 例 : 25 を指定すると、使用可能なバンド幅の 25% 以下でパッチのダウンロードプロセスが行われます。

表 29 Patch Agent の Download Manager オプション

オプションと有効な値	説明
スクリーンセーバー モードでのネットワーク利用 値 = 0 ~ 100 % デフォルトは 0	スクリーンセーバーのネットワーク利用のオプションです。スクリーンセーバーがオンの場合にパッチファイルのダウンロードに使用できるネットワークの最大バンド幅の割合を指定します。通常、このオプションの値はスクリーンセーバーがオフの場合よりも大きな割合になります。 値が 0 の場合、スクリーンセーバーがオンのときに使用可能なネットワークのバンド幅でダウンロードが行われます。 例: 80 を指定すると、スクリーンセーバーがオンのときにパッチファイルをダウンロードするために使用するバンド幅が 80% に増加します。
遅延初期化 値 = 0 ~ 999 秒 デフォルトは 0	初期化してからパッチのダウンロードを開始または再開するまでの遅延時間 (秒) を指定します。これにより、他のプロセスを起動してからパッチのダウンロードを再開できます。 例: 15 に設定すると初期化が 15 秒遅延します。 値が 0 の場合は遅延はありません。
ダウンロード完了後にパッチを適用 値 = [はい] または [いいえ] (デフォルト)	[はい] に設定すると、ダウンロードの完了後に Patch Agent 接続を起動してパッチを適用します。[はい] に設定することをお勧めします。 デフォルトの [いいえ] のままにしておくと、Patch Agent 接続が次に実行されたときにパッチが適用されます。

[保存] をクリックして、これらの設定オプションを設定します。Patch Agent が次に HPCA Server に接続するときに、新しい設定が受信されます。

Patch Manager のエージェント オプション

次のエージェント オプションを使用して Microsoft デバイスにパッチを適用できます。

- **自動更新を無効化:** ドロップダウン ボックスから [はい] または [いいえ] を選択します。自動更新が有効になっていることが原因で Patch Agent のスキャンまたは配布が中断される問題に対応するには、このオプションを使用します。
- **はい:** Patch Agent によって各スキャンまたは配布の前に Microsoft 自動更新が無効化されます。パッチのスキャンと配布が実行されたら、自動更新は元の状態に戻ります。

— **いいえ**:(デフォルト) **Patch Agent** によって各スキャンまたは配布の前に自動更新が無効化されません。

- **ソフトウェア配布フォルダの削除**: ドロップダウン ボックスから [はい]、[バックアップ]、または [いいえ] を選択します。このオプションは、次の問題の対応に使用できます。

— ソフトウェア配布フォルダのサイズの大幅な増加

— ソフトウェア配布フォルダの破損

— パッチ接続時に **Configuration Server** にかかる負荷の増加



[ソフトウェア配布フォルダの削除] を [はい] または [バックアップ] に設定すると、**Microsoft** 自動更新とバックグラウンドインテリジェント転送サービス (BITS) のサービスが自動的に再起動されます。サービスの再起動によって環境に問題が発生する場合、特に共存するパッチソリューションとして **HPCA** パッチ管理と自動更新の両方を使用しているとき、このオプションの設定には注意が必要です。

このオプションを [はい] または [バックアップ] に設定すると、フォルダサイズ、破損、またはインフラストラクチャの負荷に問題がある場合に **Patch Manager** のパフォーマンスが向上します。

— **はい**: **Patch Agent** によって、各パッチのスキャンの前にソフトウェア配布フォルダの内容が削除されます。サービスの再起動に関する警告(上記)を参照してください。

— **バックアップ**: **Patch Agent** によって、各パッチのスキャンの前にソフトウェア配布フォルダの内容がバックアップされてから削除されます。サービスの再起動に関する警告(上記)を参照してください。

— **いいえ**:(デフォルト) ソフトウェア配布フォルダに対して何も行われません。

- **-mib (インストール済みのブリティンを管理する)**: ドロップダウン ボックスから [なし]、[いいえ]、または [はい] を選択します。このオプションは、ターゲット デバイスにインストール済みのブリティンの処理方法を制御します。

— **なし**:(デフォルト) **Patch Manager** によってインストールされたブリティンのみを管理します。別の方法でインストールされたブリティンのサービス ライブラリまたはバイナリ リソースは確認しません。これはデフォルトの動作です。脆弱性または再パッチに関してクライアント エージェントは何も影響を受けず、高いパフォーマンスを得られるためです。

— **いいえ**: **Patch Manager** によってインストールされたブリティンのみを管理します。外部ソースによってインストールされたブリティンは管理しません。

— **はい**: **Patch Manager** または外部ソースのどちらでインストールされたかに関係なく、すべてのインストール済みブリティンを管理します。このオプションはリソースを大きく消費します。

[保存] をクリックして、設定オプションを設定します。Patch Agent が次に HPCA Server に接続するときに、新しい設定が受信されます。

は、デフォルトで除外されています。

アウトバンド管理

[設定] タブの [アウトバンド (OOB) 管理] 領域を使用して、OOB 管理を設定します。アウトバンド管理の使用の詳細については、『HP Client Automation アウトバンド管理ユーザー ガイド』を参照してください。次に示す各セクションで利用可能な設定オプションを説明します。

- 229 ページの「使用可能性」
- 230 ページの「デバイス タイプの選択」
- 231 ページの「vPro システム保護の設定」

使用可能性

vPro または DASH デバイスでサポートされるアウトバンド管理機能を有効または無効にするには、[アウトバンド管理の有効化] 領域を使用します。

- アウトバンド管理機能を有効にするには、[有効化] チェックボックスをオンにします。

OOB 管理オプションを表示するには、[操作] タブの「アウトバンド管理」セクションを参照してください。

アウトバンド管理を有効にすると、通常の HPCA Console の Wake on LAN 機能に加えて、vPro または DASH デバイスに OOB 管理リモート操作機能を使用して接続できるようになります。

アウトバンド管理の使用の詳細については、『HP Client Automation アウトバンド管理ユーザー ガイド』を参照してください。

デバイス タイプの選択

アウトバンド管理を有効にしたら、[デバイス タイプの選択] 領域を使用して、管理する OOB デバイスのタイプを選択します。

デバイス タイプごとに 3 つの選択肢からいずれかを選択できます。これらの選択肢について、次に示す各セクションで説明します。

- 230 ページの「**DASH** デバイス」
- 230 ページの「**vPro** デバイス」
- 230 ページの「両方」

選択したデバイス タイプに応じて、**HPCA Console** には、選択内容に関連するインターフェイスが表示されます (231 ページの「**デバイス タイプの選択**によって決まる設定および操作オプション」を参照)。

アウトバンド管理の使用法の詳細については、『**HP Client Automation** アウトバンド管理ユーザー ガイド』を参照してください。

DASH デバイス

DASH を選択した場合、**DASH** 管理者がすべてのデバイスに同じユーザー名とパスワードを設定していれば、**DASH** デバイスに共通の認証情報を入力することができます。

認証情報の入力を間違えたり、内容に変更があったりした場合は、次回このウィンドウにアクセスしたときに認証情報を変更できます。

vPro デバイス

vPro デバイスを選択した場合、**vPro** デバイスにアクセスするための **SCS** ログイン認証情報、および **SCS** サービスとリモート設定の **URL** を入力する必要があります。

認証情報の入力を間違えたり、内容に変更があったりした場合は、次回このウィンドウにアクセスしたときに認証情報を変更できます。

両方

両方のタイプのデバイスを選択した場合、**DASH** デバイスの共通認証情報を入力できます。また、**vPro** デバイスにアクセスするために必要な **SCS** ログイン認証情報、および **SCS** サービスとリモート設定の **URL** を入力する必要があります。

詳細については、『HPCA アウトバンド管理ユーザー ガイド』の管理タスクでのデバイス タイプの選択に関する章を参照してください。

デバイス タイプの選択によって決まる設定および操作オプション

デバイス タイプを選択したら、[設定] タブと [操作] タブに選択内容を反映したオプションが表示されます。次の表に、オプションの要約を示します。

表 30 設定と操作のオプション

	DASH	vPro
設定	追加オプションなし	vPro システム保護の設定
オペレーション	デバイス管理	vPro デバイスのプロビジョニング グループ管理 警告の通知

▶ デバイス タイプを選択したり、選択内容を変更したりしたときに、[設定] タブと [操作] タブのナビゲーション パネルにデバイス タイプ関連のオプションを表示するには、HPCA Console からログアウトし、再度ログインする必要があります。

vPro システム保護の設定

vPro デバイスおよびデバイス グループのシステム防御機能を管理するには、[vPro システム保護の設定] を定義する必要があります。

▶ この設定オプションは、vPro デバイス タイプを選択した場合にのみ表示されます。システム防御設定は、DASH デバイスには適用されません。

- **システム防御フィルタの管理**
vPro デバイスでは、システム防御フィルタを作成、変更、および削除できます。システム防御フィルタにより、ネットワーク上のパケットの流れが監視され、フィルタ条件が一致するとパケットのドロップやパケットレートの制限が可能になります。フィルタは、システム防御ポリシーに割り当てられ、ポリシーを有効化してネットワークを保護することができます。

- **システム防御ポリシーの管理**

vPro デバイスでは、システム防御ポリシーを作成、変更、および削除し、そのポリシーをネットワーク上の複数の vPro デバイスに配布できます。システム防御ポリシーによって、ネットワークを選択的に分離し、vPro デバイスを悪意のあるソフトウェアの攻撃から保護することができます。

- **システム防御ヒューリスティック情報の管理**

vPro デバイスでは、ヒューリスティック仕様を作成、変更、および削除して、そのヒューリスティックをネットワーク上の複数の vPro デバイスに配布できます。これらのヒューリスティックにより、ワームの侵入を示す状況が検出され、他のデバイスが感染しないようにそのデバイスが制御されることで、ネットワーク上のデバイスが保護されます。

- **システム防御ウォッチドッグの管理**

vPro デバイスでは、エージェント ウォッチドッグを作成、変更、および削除して、そのウォッチドッグをネットワーク上の複数の vPro デバイスに配布できます。エージェント ウォッチドッグは、vPro デバイス上のローカルエージェントが存在しているかどうかを監視します。ローカルエージェントの状態に変更があった場合にエージェント ウォッチドッグが取るアクションを指定できます。

詳細については、『HPCA アウトバンド管理ユーザー ガイド』の管理タスクでの vPro システム防御の設定に関する章を参照してください。

HPCA Console で vPro デバイスのシステム防御機能を管理できるようにするために [設定] タブで実行する管理タスクはこれで終わりです。オペレータまたは管理者ロールのユーザーは、[操作] タブに移動して、ネットワークの OOB デバイスの管理を始めることができます(「[オペレーション](#)」の章を参照)。

OS 管理

オペレーティング システムの配布に関連するオプションを設定するには、[オペレーティング システム] 領域を使用します。

- 233 ページの「設定」
- 234 ページの「配布」

OS 管理の詳細については、HPCA リファレンス ライブラリの『OS Manager ガイド』を参照してください。

設定

オペレーティング システム サービスを使用すると、エージェントが HPCA Server に接続し、OS の付与資格およびプロビジョニング情報を取得できます。Core でこのサービスが無効になっている場合、この情報をリクエストする Satellite またはエージェントはこの情報を使用できません。

- オペレーティング システム サービスを有効にするには、[有効] ボックスをオンにして [保存] をクリックします。

OS 配布中、ネットワーク内のデバイスのブートを計画している場合は、最初に Core と一緒にインストールされた Boot Server (PXE/TFTP) を有効にする必要があります。これにより、Core Server で、Boot Server (PXE) と Boot Server (TFTP) という 2 つの Windows サービスが開始されます。

- Boot Server (PXE/TFTP) を有効にするには、[Boot Server の有効化] ボックスをオンにして [保存] をクリックします。

HPCA バージョン 7.9 から、HPCA Boot Server (PXE) と DHCP サーバーの両方を同じマシン上でホストできます。

OS 管理の詳細については、HPCA リファレンス ライブラリの『OS Manager ガイド』を参照してください。

配布

[配布] ページを使用して、すべてのオペレーティング システム配布操作のグローバル デフォルト設定を行います。OS 配布ウィザードを使用して特定の配布をスケジュールするときに、これらの設定を上書きできます。



このページで行った変更は、すべての新規およびスケジュール済み OS 配布ジョブに影響を与えます。

OS 配布のデフォルト設定を設定するには

- 1 [設定] タブで、[OS 管理] セクションを展開し、[配布] ページを選択します。
- 2 [配布動作] タブで次の操作を実行します。
 - a 配布動作の基本プロパティを指定します。
 - b 配布動作の詳細プロパティを指定します。
- 3 [パーティション作成方法] タブで次の操作を実行します。
 - a パーティション作成方法の基本プロパティを指定します。
 - b パーティション作成方法の詳細プロパティを指定します。

オペレーティング システムの配布の詳細については、125 ページの「OS 管理」を参照してください。

配布動作の基本プロパティ

[配布動作] タブの [基本プロパティ] 領域では、デフォルトの OS 配布モードと言語設定を指定できます。注：これらの言語設定は配布プロセス中のみ適用され、オペレーティング システムがターゲット デバイスにインストールされた後は適用されません。

OS 配布動作の基本プロパティを指定するには

- 1 [OS の再インストール時] ドロップダウン メニューを使用して、配布モードを指定します。
 - ユーザーに確認する (有人) — 配布プロセスを続行するには、オペレーティング システムの配布中にユーザーがターゲット デバイスがある場所にいる必要があります。

- **ユーザーに確認しない (無人)** – オペレーティング システムの配布中に、ターゲット デバイスではダイアログ ウィンドウが表示されません。ユーザーとの対話は必要ありません。



オペレーティング システム イメージを配布すると、ターゲット デバイスのハード ドライブおよびパーティションの数によっては、既存のデータが上書きされる場合があります。[**ユーザーに確認しない (無人)**] を選択する場合、新しいオペレーティング システムを配布する前に、既存のデータを必ずバックアップしてください。

- 2 [**Service OS メッセージの表示言語**] メニューを使用して、Service OS のインストール時にターゲット デバイスに表示されるメッセージの言語を選択します。
- 3 [**Service OS のキーボード レイアウト**] メニューを使用して、OS のインストール時にターゲット デバイスで入力が必要な場合に使用するキーボード レイアウトを選択します。
- 4 [**保存**] をクリックして、変更を適用します。

次の手順: [配布動作の詳細プロパティ](#) を指定します。

配布動作の詳細プロパティ

[配布動作] タブの [詳細プロパティ] 領域では、OS イメージの最大ダウンロード速度を制御したり、配布中のさまざまな特殊ケースをどのように処理するかを決定したりできます。

OS 配布動作の詳細プロパティを指定するには

- 1 [**OS イメージの最大ダウンロード速度**] を指定します。これは、ネットワークトラフィックを管理する場合に便利です。ターゲット デバイスへの OS イメージのダウンロード中に、業務上重要なアプリケーションのための十分なネットワーク バンド幅を確保しておくことができます。値を指定しない場合、HPCA によってネットワークの最大速度でイメージがダウンロードされます。最大ダウンロード速度を指定する場合、[単位] も指定してください。
- 2 [**インストールする OS の選択をユーザーに許可する**] メニューを使用して、複数の OS がターゲット デバイスに割り当てられている場合にターゲット デバイスのユーザーがインストールする OS を選択できるようにするかどうかを指定します。

HPCA OS Manager によってすでに管理されているデバイスと同じ OS サービスを再インストールする場合、**[いいえ]**を選択すると、OS インストールの管理フェーズでそれ以上の確認メッセージが無効になります。

- 3 **[管理対象デバイスのハード ディスクに障害が発生した場合]** メニューを使用して、完全に管理されているデバイスのハード ディスクに障害が発生した場合の HPCA の応答方法を指定します。
 - 管理者がアクションを実行する必要がある (ターゲット デバイスの管理者が OS の再インストールを許可しない限り何もしない)
 - OS を自動的に再インストールする
- 4 **[保存]** をクリックして、変更を適用します。

次の手順: パーティション作成方法の基本プロパティを指定します。

パーティション作成方法の基本プロパティ

[配布] ページの [パーティション作成方法] タブにある [基本プロパティ] では、OS イメージをターゲット デバイスにインストールするときに HPCA でどのようにハード ディスクのパーティションを作成するかを指定できます。注: サポートされるパーティション作成方法はオペレーティング システムによって異なります。



オペレーティング システムを配布すると、ターゲット デバイスのハード ドライブおよびパーティションの数によっては、既存のデータが上書きされる場合があります。無人配布モードを使用している場合、新しいオペレーティング システムを配布する前に、ターゲット デバイスの既存のデータを必ずバックアップしてください。

パーティション作成方法の詳細については、『OS Manager ガイド』の「内容の準備」の章を参照してください。

OS 配布のパーティション作成方法の基本プロパティを指定するには

- 1 [パーティション作成方法] ボックスで、使用する方法を選択します。

方法	説明
既存のパーティションを削除して 1 つの OS パーティションをインストールする	ターゲット デバイスのデータを保持する必要がない場合にこのオプションを使用します。 HPCA によってターゲット デバイスの既存のパーティションが削除され、システム予約パーティション (サポートされている場合) と OS パーティションが作成されます。 重要: ターゲット デバイスの既存のデータはすべて失われます。

方法	説明
<p>既存のデータパーティションを保持して1つのOSパーティションを作成する</p>	<p>既存のデータを保持しておく必要のあるマシン上のOSを置換(更新)する場合にこのオプションを使用します。</p> <p>HPCAによって既存のOSパーティションが削除され(存在する場合は「システム予約」パーティションも削除される)、システム予約パーティション(サポートされている場合)とOSパーティションが作成されます。既存のデータパーティションは対象外になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> インストールするパーティションが既に定義されているパーティションより大きい場合、インストールは失敗します。 ターゲットドライブに既存のパーティション(ベアメタルなど)がない場合は、1つのOSパーティションのオプションと同じ結果になります。 <p>注意: このオプションは移行用に使用します。</p>
<p>既存のパーティションを削除して1つのOSパーティションをインストールし、OSをローカルにキャッシュする</p>	<p>ターゲットドライブの最後に、隠しバックアップパーティションを作成する場合にこのオプションを使用します。</p> <p>パーティションのサイズは、OSのインストールイメージのサイズによって、動的に決められます。OSを再インストールするために必要なすべてのファイルが、(圧縮状態で)このパーティションに保存されます。</p> <p>重要: ターゲットデバイスの既存のデータはすべて失われます。</p>
<p>既存のデータパーティションとOSパーティションのデータ復元ディレクトリを保持してOSをインストールする</p>	<p>新しいオペレーティングシステムのインストール中にターゲットデバイス内のファイルとフォルダを保持し、OSのインストール後に復元する場合にこのオプションを使用します。このオプションを使用すると、HPCAによってディスクのパーティションの再分割は行われません。</p> <p>注意: これには、OSの配布方法にImageXを使用する必要があります。その他の配布方法を使用すると、エラーが発生します。</p> <p>注意: ターゲットデバイスにOSパーティション以外に「システム予約」パーティションがある場合、このオプションは使用できません。</p>

2 **【保存】** をクリックして、変更を適用します。

次の手順: [パーティション作成方法の詳細プロパティ](#) を指定します。

パーティション作成方法の詳細プロパティ

[配布] ページの [パーティション作成方法] タブにある [詳細プロパティ] では、オペレーティング システムをインストールする前に、ターゲット デバイスのハード ディスクのシステム パーティションと未パーティション領域のサイズを指定できます。



これらの設定は、Windows 7 と Windows Server 2008 R2 の配布にのみ関連しています。

OS 配布のパーティション作成方法の詳細プロパティを指定するには

1 **【Windows 7/2008 R2 のシステム パーティションのサイズ】** ボックスで、システム予約パーティションのサイズ (MB) を指定します。

5 桁の非負数を指定できます。指定する値が大きすぎる場合、赤色で警告が表示されます。0 (ゼロ) の値を指定すると、システム予約パーティションは作成されません。

2 **【ディスク先頭の未パーティション領域のサイズ】** ボックスで、残しておくディスク先頭の未パーティション領域の容量 (MB) を指定します。この領域は、後で復旧パーティションの作成などに使用できます。

0 (ゼロ) の値を指定すると、システム予約パーティションは作成されません。

3 **【保存】** をクリックして、変更を適用します。

OS 配布操作を実行する方法については、125 ページの「[OS 管理](#)」を参照してください。

利用状況管理

利用状況データベース接続設定と利用状況データ収集設定を設定するには、[利用状況管理] セクションを使用します。

- 239 ページの「データベース設定」
- 240 ページの「設定」

HPCA を使用した利用状況データの収集および分析の詳細については、『Application Usage Manager ユーザー ガイド』を参照してください。

データベース設定

利用状況データベース接続設定は、[データベース設定] ページを使用して設定できます。

利用状況データベース接続設定を設定するには

- 1 [設定] タブで、[利用状況管理]、[データベース設定] の順にクリックします。
- 2 次の Open Database Connection (ODBC) の情報を指定します。
 - DSN (データ ソース名)
 - ユーザー ID
 - パスワード

これらの設定は Client Automation サーバーのシステム ODBC DSN の設定と一致する必要があります。指定したデータベースがまだ初期化されていない場合、これらの設定を保存するときに初期化されます。

- 3 [保存] をクリックします。

設定

利用状況データは、利用状況収集エージェントが配布されたときに収集されます。利用状況の設定は、収集スケジュールの間に既存のクライアント デバイスに適用されます。必要な場合には、プライバシーを確保するため、利用状況データを難読化できます。



難読化は、利用状況収集エージェントを配布する前に有効にしておく必要があります。このエージェントを配布してから有効にすると、レポート データの一部が、難読化された形式や難読化されていない形式で表示されます。

利用状況データを難読化するには

- 1 ドロップダウン リストを使用して、次のどの利用状況データ情報を非表示にするかを選択します。
 - **コンピュータ** - コンピュータ関連の情報を非表示にします。コンピュータ名はランダムな英数字列としてレポートされます。
 - **ユーザー** - ユーザー固有の情報を非表示にします。ユーザー名は [AnyUser] としてレポートされます。
 - **ドメイン** - ドメイン情報を非表示にします。ドメイン名はランダムな英数字列としてレポートされます。
 - **利用状況** - 利用回数および利用時間を非表示にします。実行ファイルの利用時間および起動回数はすべてゼロ値とレポートされます。利用状況レポート内で難読化する利用状況情報の隣にある **[有効]** を選択します。
- 2 **[保存]** をクリックして、変更を適用します。

利用状況収集エージェントを配布し、収集スケジュールを指定する方法については、[アプリケーション利用状況収集ウィザード](#)を参照してください。

ダッシュボード

ダッシュボードを設定するには、次に示す [設定] タブの [ダッシュボード] 領域を使用します。

HPCA 操作ダッシュボードでは、一定期間に発生したクライアント接続数とサービス イベント数に関する情報が提供されます。

パッチ管理ダッシュボードでは、企業内のクライアント デバイスのパッチ ポリシー適用状況に関するデータが提供されます。

デフォルトでは、有効になるのはダッシュボード ペインの一部です。管理者権限のあるユーザーは、すべてのペインを有効または無効にできます。

HPCA 操作

HPCA 操作ダッシュボードには、企業内で HPCA が実行中の作業が表示されます。また、2 つの期間のクライアント接続およびサービス イベントの指標が表示されます。エグゼクティブ ビューには、最新の 12 か月が表示されます。[操作] ビューには、最新の 24 時間が表示されます。どちらのビューにも、次の情報ペインが含まれます。

43 ページの「[クライアント接続](#)」

44 ページの「[サービス イベント](#)」


エグゼクティブ ビューには、次のペインも含まれます。

46 ページの「[ドメイン別 12 か月サービス イベント](#)」

デフォルトではこれらのペインがすべて表示されます。設定を使用して、ダッシュボードに表示するペインを指定できます。これらのペインの詳細については、42 ページの「[HPCA 操作ダッシュボード](#)」を参照してください。

HPCA 操作ダッシュボードを設定するには次の手順を実行します。

- 1 [設定] タブで、[[ダッシュボード](#)] をクリックします。
- 2 [ダッシュボード] の下で、[[HPCA 操作](#)] をクリックします。

デフォルトではこのダッシュボードが有効になっています。無効にするには、[[HPCA 操作ダッシュボードの有効化](#)] ボックスをオフにし、[保存] をクリックします。
- 3 [[HPCA 操作](#)] の下で、[[エグゼクティブ ビュー](#)] または [[操作ビュー](#)] をクリックします。
- 4 ダッシュボードに表示するペインのボックスを選択します。ペインごとに必要な関連 HPCA 設定に関する情報を表示するには、 アイコンを使用します。
- 5 [保存] をクリックして、変更内容を実装します。

パッチ管理

パッチ管理ダッシュボードには、ネットワーク内の管理対象デバイスで検出された任意のパッチ脆弱性に関する情報が表示されます。デフォルトでは、パッチ管理ダッシュボードは無効になっています。

パッチ管理ダッシュボードのエグゼクティブ ビューには、次の 2 つの情報ペインがあります。

- 48 ページの「ステータス別デバイス適用状況」
- 50 ページの「ブリティン別デバイス適用状況」

操作ビューには、次の情報ペインがあります。


- 52 ページの「ステータス別デバイス適用状況」
- 53 ページの「Microsoft セキュリティ ブリティン」
- 54 ページの「最も脆弱性の高い製品」

設定を使用して、ダッシュボードに表示するペインを指定できます。これらのペインの詳細については、48 ページの「パッチ管理ダッシュボード」を参照してください。

パッチ管理ダッシュボードを設定するには

- 1 [設定] タブで、[ダッシュボード] をクリックします。
- 2 [ダッシュボード] の下で、[パッチ管理] をクリックします。

デフォルトでは、このダッシュボードは無効になっています。このダッシュボードを有効にするには、[パッチ管理ダッシュボードの有効化] ボックスをオンにして、[保存] をクリックします。

- 3 [パッチ管理] の下で、[エグゼクティブ ビュー] または [操作ビュー] のいずれかをクリックします。
- 4 ダッシュボードに表示するペインのボックスを選択します。ペインごとに必要な関連 HPCA 設定に関する情報を表示するには、 アイコンを使用します。

次のペインには追加情報が必要です。

— [Microsoft セキュリティ ブリティン] (操作ビュー)

- o Microsoft セキュリティ ブリティン RSS フィードの URL を指定します。

通常、有効なデフォルト URL が指定されています。また、[コンソール設定] ページでプロキシサーバーを有効にする必要がある場合もあります。

- 5 [保存] をクリックして、変更内容を実装します。

9 ウィザード

HPCA Console の使用中は、多くのウィザードを使用してさまざまな管理機能を実行します。このセクションでは、各ウィザードの個別の手順について説明します。



ウィザードには、コントロールパネルの複数の領域から起動できるものがあります。

- 246 ページの「デバイス インポート ウィザード」
- 247 ページの「エージェント配布ウィザード」
- 248 ページの「エージェント削除ウィザード」
- 249 ページの「ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード」
- 250 ページの「パッチの適用状況探索ウィザード」
- 251 ページの「電源管理ウィザード」
- 252 ページの「グループ作成ウィザード」
- 255 ページの「ソフトウェア配布ウィザード」
- 256 ページの「設定プロファイル配布ウィザード」
- 259 ページの「サービス インポート ウィザード」
- 260 ページの「サービス エクスポート ウィザード」
- 261 ページの「ソフトウェア同期ウィザード」
- 261 ページの「パッチ配布ウィザード」
- 263 ページの「サービス資格ウィザード」
- 263 ページの「ソフトウェア削除ウィザード」
- 265 ページの「OS 配布ウィザード」
- 272 ページの「アプリケーション利用状況収集ウィザード」
- 273 ページの「利用状況収集フィルタ作成ウィザード」
- 274 ページの「**Satellite Server** 配布ウィザード」

- 275 ページの「[Satellite Server 削除ウィザード](#)」
- 276 ページの「[サブネット ロケーション作成ウィザード](#)」




ウィザードを実行したり警告を表示したりするときに、**HPCA Console** が別のブラウザ インスタンスを開くことがあります。これらのウィザードや警告にアクセスするには、ブラウザのポップアップブロック設定で [許可されたサイト] にこのコンソールを含める必要があります。

デバイス インポート ウィザード

デバイス インポート ウィザードを使用して、**HPCAS** データベースでのデバイスの探索および追加を行います。デバイスは、インポートされると、247 ページの「[エージェント配布ウィザード](#)」を使用して管理の対象とすることができます。

デバイス インポート ウィザードを使用してデバイスをインポートするには


- 1 ウィザードを起動するには、[[デバイス管理](#)] セクションの [[全般](#)] タブにある [[インポート](#)] をクリックするか、[[デバイス](#)] タブの [[管理対象デバイスのインポート](#)]  ツールバー ボタンをクリックします。
- 2 ドロップダウン リストから [[デバイス ソース](#)] を選択します。
 - **手動インポート** — 表示されたボックスに、デバイスのホスト名または IP アドレスのリストを入力するか貼り付けます。
 - **LDAP/Active Directory** — **Active Directory** や他の **LDAP** 互換ディレクトリ サービスからデバイスを自動的にインポートするには、**LDAP** ホスト、ポート、ユーザー **ID**、パスワード (必要な場合)、およびクエリする **DN** を入力します。
また、クエリに適用する、範囲、詳細フィルタ、またはデバイスの制限を選択します。
 - **ドメイン** — インポートするデバイスのネットワーク ドメインをスキャンするには、ドメイン名 (たとえば、**ABC** ドメインの完全ドメイン スキャンには **ABC** と入力) またはドメイン名の一部とワイルドカード文字 (**ABC*** とすると、**ABC** で始まるドメインから全デバイスが返されます) を入力します。ドメインの特定のデバイスを含めるには、「ドメイン \ デバイス」という構文を使用します。たとえば、**Sales\WS*** は、**Sales** ドメインの **WS** で始まるデバイスのみを返します。

ドメインの特定のデバイスを除外するには、感嘆符 (!) を使用します。
たとえば、Sales,!Sales\WS* は、WS で始まるデバイスを除く、Sales
ドメインの全デバイスを返します。

- 3 **[インポート]** をクリックします。
- 4 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。
インポートされたデバイスは、**[デバイス]** タブに表示されます。

エージェント配布ウィザード

エージェント配布ウィザードを使用して、HPCAS データベースのデバイスに
Management Agent を配布します。

 **Management Agent** をデバイスに配布する前に、ページのファイアウォール設定の規則を参照して、必要なファイアウォールの規則が使用されていることを確認してください。

エージェント配布ウィザードを使用して **Management Agent** を配布するには

- 1 ウィザードを起動するには
 - **[デバイス管理]** にある **[全般]** タブの **[配布]** をクリックします。
 - **[デバイス管理]** にある **[デバイス]** タブの **[Management Agent の配布]** ツールバー ボタンをクリックします。
 - **[グループ管理]** にある **[グループ]** タブの **[Management Agent の配布]** ツールバー ボタンをクリックします。
- 2 **[次へ]** をクリックして、ウィザードを開始します。
- 3 利用可能なデバイスがすべて表示されます。**Management Agent** を配布する各デバイスを選択して、**[次へ]** をクリックします。デバイスのリストの範囲を絞り込むには、**[検索]** 機能を使用します。
- 4 選択したデバイスに関する必要な情報を入力して、**[次へ]** をクリックします。
- 5 **[実行: 今すぐ]** を選択してウィザードが完了した直後に **Agent** を配布するか、**[実行: 後で]** を選択して **Agent** を配布する日付と時刻を入力します。

- 6 **[その他のパラメータ]** セクションで、**[はい]** (デフォルト) を選択してエージェントをサイレントでインストールするか、**[いいえ]** を選択し、インストールプロセスでターゲット デバイス上にインストール UI を表示します。

▶ **Management Agent** は、Windows Vista および Windows Server 2008 デバイスには、**[その他のパラメータ]** が選択されているかどうかにかかわらず、サイレントモードでのみ配布されます。


- 7 **[次へ]** をクリックします。
- 8 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。エージェント配布ジョブが作成されました。
- 9 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

エージェント削除ウィザード

HPCAS データベースにあるデバイスから **Management Agent** を削除するには、エージェント削除ウィザードを使用します。

▶ **Management Agent** を削除すると、ソフトウェアやパッチを配布したり、そのデバイスの最新のインベントリ情報を収集したりすることができなくなります。管理対象でないデバイスは、グループまたは HPCAS から削除されるまで、それぞれのグループに存在し、配布済みのすべてのソフトウェアを保持します。

エージェント削除ウィザードを使用して **Management Agent** を削除するには


- 1 **[デバイス管理]** の **[デバイス]** タブ、または **[グループ管理]** の **[グループ]** タブからウィザードを起動します。
- 2 **Management Agent** を削除するデバイスまたはグループを選択して、**[Management Agent の削除]**  ツールバー ボタンをクリックします。
- 3 **[次へ]** をクリックして、ウィザードを開始します。
- 4 **[実行：今すぐ]** を選択してウィザードが完了した直後に **Agent** を削除するか、**[実行：後で]** を選択して **Agent** を削除する日付と時刻を入力します。
- 5 **[次へ]** をクリックします。

- 6 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。エージェント配布ジョブが作成されました。
- 7 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

ソフトウェア / ハードウェア インベントリ ウィザード

ソフトウェア / ハードウェア インベントリ ウィザードを使用して、選択したデバイスについてソフトウェアとハードウェア インベントリを探索する、インベントリ監査ジョブを作成します。

ソフトウェア / ハードウェア インベントリ ウィザードを使用してインベントリを探索するには

- 1 [デバイス管理] の [デバイス] タブ、または [グループ管理] の [グループ] タブからウィザードを起動します。
 - **[インベントリの収集]**  ツールバー ボタンをクリックして、**[ソフトウェア / ハードウェア インベントリの探索]** を選択します。
- 2 **[実行: 今すぐ]** を選択してウィザードが完了した直後にインベントリを探索するか、**[実行: 後で]** を選択してインベントリを探索する日付と時刻を入力します。反復スケジュールを設定するには、**['x' 時間ごと]**、**['x' 日ごと]**、または **['x' 週ごと]** を選択して、ドロップダウン リストから **[間隔]** を選択します。
 - ▶ 反復ジョブ スケジュール オプション (['x' 日ごと] など) は、グループ関連のジョブを作成するときだけ利用できます。
- 3 デバイスの電源をオンにする場合に選択します。ドロップダウン リストで **[はい]** を選択すると、HPCAS は、必要な場合、デバイスの電源をオンにしてインベントリを探索します。
- 4 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。
- 5 ジョブが正常に作成されました。**[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。


保留中の管理ジョブをすべて表示するには、**[現在のジョブ]** タブを使用します。

パッチの適用状況探索ウィザード

パッチ適用状況探索ウィザードを使用して、選択したデバイスおよびグループに対するパッチ適用状況スケジュールを設定します。

パッチ適用状況を探索するには

- 1 [デバイス管理] の [デバイス] タブ、または [グループ管理] の [グループ] タブからウィザードを起動します。

— [インベントリの収集]  ツールバー ボタンをクリックして、[パッチ適用状況の探索] を選択します。

- 2 [実行: 今すぐ] を選択してウィザードが完了した直後にジョブを実行するスケジュールを設定するか、[実行: 後で] を選択してジョブを開始する日付と時刻を入力します。反復スケジュールを設定するには、['x' 時間ごと]、['x' 日ごと]、または ['x' 週ごと] を選択して、ドロップダウン リストから [間隔] を選択します。

▶ 反復ジョブ スケジュール オプション (['x' 日ごと] など) は、グループ関連のジョブを作成するときだけ利用できます。

- 3 デバイスの電源をオンにするかどうかを選択します。ドロップダウン リストで [はい] を選択すると、HPCAS は、必要に応じてデバイスの電源をオンにします。
- 4 要約情報を確認し、[サブミット] をクリックします。
- 5 ジョブが正常に作成されました。[閉じる] をクリックして、ウィザードを終了します。


終了したら、[レポート] タブを使用して、選択したデバイスまたはグループに関する適用状況レポートを表示します。

電源管理ウィザード

選択したデバイスの電源をオンにしたり、オフにしたり、デバイスを再起動するには、電源管理ウィザードを使用します。

- ▶ リモートからデバイスの電源をオンにするには、コンピュータに **Wake-On-LAN** 機能が内蔵されている必要があります。**Wake-On-LAN** は、**HPCA Server** がネットワークにパケットを送信して、管理対象デバイスの電源をリモートからオンにできる管理ツールです。デバイスに、リモートの起動機能を有効にするよう **BIOS** を設定する必要があります。詳細は、ハードウェアのドキュメントを参照してください。**HP** デバイスの **BIOS** 設定は、**HPCA** を使用して変更および配布できます。
- ▶ アウトバンド管理が有効になっている場合は、**HPCA Console** の通常の **Wake on LAN** 機能に加えて、**OOB** 管理のリモート操作機能を使用して **vPro** または **DASH** デバイスに接続できます。
- ▶ **Windows XPe** デバイスで電源オフ機能を選択すると、電源がオフになる前に、1 度デバイスが再起動します。これは、**XPe** デバイスの内部キャッシュをクリアするために必要な、通常の動作です。

リモートからデバイスの電源オン、オフ、および再起動を行うには

- 1 **[電源管理]**  ツールバー ボタンをクリックして、**[デバイス管理]** の **[デバイス]** タブ、または **[グループ管理]** の **[グループ]** タブからウィザードを起動します。
- 2 ドロップダウン リストから電源管理機能を選択します。選択したデバイスの電源オン、オフ、または再起動が行えます。
 - **起動** — 選択したデバイスの電源をオンにします
 - **停止** — 選択したデバイスの電源をオフにします
 - **再起動** — 選択したデバイスを再起動します
- 3 このジョブの実行スケジュールを設定します。**[実行：今すぐ]** を選択してすぐにジョブを実行するスケジュールを設定するか、**[実行：後で]** を選択してジョブを開始する日付と時刻を入力します。反復スケジュールを設定するには、**['x' 時間ごと]**、**['x' 日ごと]**、または **['x' 週ごと]** を選択して、ドロップダウン リストから **[間隔]** を選択します。
 - ▶ 反復ジョブ スケジュール オプション (**['x' 日ごと]** など) は、グループ関連のジョブを作成するときだけ利用できます。
- 4 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。

- 5 ジョブが正常に作成されました。**[閉じる]**をクリックして、ウィザードを終了します。


保留中の管理ジョブをすべて表示するには、**[現在のジョブ]** タブを使用します。

グループ作成ウィザード

データベースにある管理対象デバイスのグループに、ソフトウェアまたはパッチを配布する必要があります。グループ作成ウィザードを使用して、指定したデバイス、探索したデバイス、またはレポート クエリの一部として返されたデバイスに基づき、デバイス グループを定義します。


グループ作成ウィザードの手順は、作成するグループのタイプにより異なります。

スタティック グループを作成するには

- 1 ウィザードを起動するには、次のいずれかを実行します。
 - **[グループ管理]** の **[全般]** タブから、**[新しいスタティック グループの作成]** をクリックします。
 - **[グループ]** タブから、**[新しいスタティック グループの作成]** ツールバー ボタン  をクリックします。
- 2 **[次へ]** をクリックして、グループの作成を開始します。
- 3 グループの名前および説明を入力します。
- 4 **[次へ]** をクリックします。
- 5 グループに含めたいデバイスを選択するには、該当する各デバイスの最初のカラムのボックスをチェックします。必要な場合、デバイスのリストの範囲を絞り込むには、**[検索]** 機能を使用できます。
- 6 **[次へ]** をクリックします。
- 7 要約情報を確認します。選択したデバイスの数が、**[デバイス数]** 要約と一致することを確認します。グループを変更する必要がある場合、**[前へ]** をクリックします。
- 8 **[作成]** をクリックします。グループが正常に作成されました。
- 9 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

ダイナミック ディスカバリ グループを作成するには

探索グループ メンバーシップは、LDAP クエリまたはドメイン スキャンの間に発見されたデバイスをベースにしています。

- 1 ウィザードを起動するには
 - [グループ管理] の [全般] タブから、[新しいディスカバリ グループの作成] をクリックします。
 - [グループ] タブから、新しいグループの作成  ツールバー ボタンをクリックし、[新しいダイナミック ディスカバリ グループの作成] を選択します。
- 2 [次へ] をクリックして、グループの作成を開始します。
- 3 グループの名前および説明を入力します。
- 4 [次へ] をクリックします。
- 5 探索ソースを選択します。
 - **LDAP/Active Directory** — LDAP ホストおよびポート番号、ユーザー ID、パスワード (必要な場合)、およびクエリする DN を入力します。
また、クエリに適用する、範囲、詳細フィルタ、またはデバイスの制限を選択します。
 - **ドメイン** — インポートするデバイスのネットワーク ドメインをスキャンするには、ドメイン名 (たとえば、ABC ドメインの完全ドメイン スキャンには ABC と入力) またはドメイン名の一部とワイルドカード文字 (ABC* とすると、ABC で始まるドメインから全デバイスが返されます) を入力します。ドメインの特定のデバイスを含めるには、「ドメイン \ デバイス」という構文を使用します。たとえば、Sales\WS* は、Sales ドメインの WS で始まるデバイスのみを返します。
ドメインの特定のデバイスを除外するには、感嘆符 (!) を使用します。たとえば、Sales,!Sales\WS* は、WS で始まるデバイスを除く、Sales ドメインの全デバイスを返します。
- 6 [次へ] をクリックします。
- 7 ダイナミック グループのリフレッシュ スケジュールを設定します。
 - **実行**: 時間、日、週など、一定の間隔でダイナミック グループ メンバーシップを更新するかどうかを選択します。
 - **間隔**: 具体的な間隔 (時間、日、または週) を選択します。
 - **開始日**: ドロップダウン リストを使用して、グループがリフレッシュするデータを選択します。


— [現在のサーバー時刻] は、HPCAS Server の現在の時刻を表示します。

- 8 [次へ] をクリックします。
- 9 要約情報を確認し、[作成] をクリックします。
- 10 [閉じる] をクリックして、ウィザードを終了します。

探索グループは、LDAP クエリまたはドメイン スキャンの間に発見されたデバイスを含むように作成されます。発見されたデバイスがすでに HPCAS の一部でなかった場合、自動的にデバイス リストに追加されます。このグループのデバイス メンバーシップは、設定したリフレッシュ スケジュールに基づいて更新されます。

ダイナミック レポート グループを作成するには



レポート グループは、レポート クエリで返されたデバイスを使用して、作成されます。


- 1 [レポート] 領域のアクションバーからウィザードを起動するには、[新しいダイナミック レポート グループの作成]  をクリックします。
- 2 [次へ] をクリックして、ウィザードを開始します。
- 3 グループの名前および説明を入力します。
- 4 [次へ] をクリックします。
- 5 ダイナミック グループのリフレッシュ スケジュールを設定します。
 - **実行:** 時間、日、週など、一定の間隔でダイナミック グループ メンバーシップを更新するかどうかを選択します。
 - **間隔:** 具体的な間隔 (時間、日、または週) を選択します。
 - **開始日:** ドロップダウン リストを使用して、グループがリフレッシュするデータを選択します。
- [現在のサーバー時刻] は、HPCAS Server の現在の時刻を表示します。
- 6 [次へ] をクリックします。
- 7 要約情報を確認し、[作成] をクリックします。
- 8 レポート クエリの現在のデバイスを含む、レポート グループが作成されます。このグループのデバイス メンバーシップは、設定したリフレッシュ スケジュールに基づいて更新されます。
- 9 [閉じる] をクリックして、ウィザードを終了します。

ソフトウェア配布ウィザード

ソフトウェア配布ウィザードを使用して、お使いの環境にある管理対象デバイスにソフトウェアの付与と配布を行います。

ソフトウェア配布ウィザードを使用してソフトウェアの付与と配布を行うには

- 1 ウィザードを起動する方法には、次の3つがあります。
 - [ソフトウェア管理] の [全般] タブから、[配布] をクリックします。
 - [ソフトウェア管理] の [[ソフトウェア] タブ] タブで配布するソフトウェアを選択して [ソフトウェアの配布]  ボタンをクリックします。
 - [ソフトウェアの詳細] ウィンドウ (または [グループの詳細] ウィンドウ) で、[全般] タブの [ソフトウェアの配布] リンクをクリックします。
[ソフトウェアの詳細] ウィンドウは、[管理] タブの [ソフトウェア管理] ページの [ソフトウェア] タブまたは [操作] タブの [ソフトウェアライブラリ] ページから開くことができます。リストされている任意のソフトウェア サービスのサービス ID をクリックして、[ソフトウェアの詳細] ウィンドウを開きます。
- 2 [次へ] をクリックしてウィザードを起動します。
- 3 [ソフトウェア管理] の [全般] タブからウィザードを起動した場合は、次の手順を実行します。
 - a 付与と配布を行うソフトウェアを選択するには、最初のカラムのチェックボックスを1つ以上オンにします。
 - b [次へ] をクリックします。
- 4 付与して配布の対象とするグループを選択するには、最初のカラムのチェックボックスを1つ以上オンにします。
- 5 [次へ] をクリックします。
- 6 ソフトウェア配布ジョブの実行スケジュールを設定します。
 - [実行: 今すぐ] を選択すると、ソフトウェアがすぐに配布されます。
 - [実行: 後で] を選択すると、ソフトウェア配布の日付と時刻をスケジュール設定できます。
 - 反復スケジュールを設定するには、['x' 時間ごと]、['x' 日ごと]、または ['x' 週ごと] を選択して、ドロップダウンリストから [間隔] を選択します。 反復ジョブ スケジュール オプション (['x' 日ごと] など) は、グループ関連のジョブを作成する場合にのみ使用できます。


- 7 リストされているその他のパラメータを指定します。特定のパラメータについての詳細を確認するには、ツールチップ  アイコンにマウスカーソルを移動してください。
- 8 **[次へ]** をクリックします。
- 9 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。ジョブが正常に作成され、現在のジョブに追加されました。
- 10 現在のソフトウェア配布ジョブを表示するには、**[現在のジョブ]** タブをクリックします。
- 11 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

設定プロファイル配布ウィザード

設定プロファイル配布ウィザードを使用して、付与された設定プロファイルを使用環境の管理対象デバイスに配布したり、管理対象デバイスから付与されていない設定プロファイルを削除したりします。

設定プロファイル配布ウィザードを使用して設定プロファイルを配布または削除するには

- 1 **[管理]** タブで **[設定管理]** をクリックします。**[設定管理]** ウィンドウが表示されます。

[設定プロファイル] タブには、HPCA で配布または削除できる設定プロファイルが表示されます。付与されたグループの数と、各プロファイルに関連してインストールされているデバイスの数が表示されます。
- 2 配布するプロファイルの表示名の隣にあるボックスをオンにします。選択したプロファイルは、「手順 4」で説明した手順に従って選択した配布方法に関係なく、(まだ付与されていなければ)自動的に付与されます。
- 3 ツールバーで **[設定プロファイルの配布]**  をクリックします。設定プロファイル配布ウィザードが開きます。このウィザードでは、デバイスグループにプロファイルを配布したり、デバイスグループからプロファイルを削除したりできます。

- **手動選択** - このオプションは、選択したプロファイルターゲット デバイスに 1 回だけ配布します。手動選択オプションは、一度に 1 つのプロファイルをすぐに削除するための便宜的な方法です。



ターゲット デバイスでプロファイルを自動的に管理 (配布または削除) するには、[プロファイルの強制] オプションを使用してください。ターゲット デバイスで使用中のプロファイル設定を管理するには、反復ジョブをスケジュール設定する方法が最良です。

- 4 **[次へ]** をクリックします。[グループ] ウィンドウが開き、使用可能なグループが表示されます。
- 5 設定プロファイルを付与して配布するグループ名の隣にあるボックスをオンにします。これは、特にこの付与資格用に作成したグループ (複数も可) になります。
- 6 **[次へ]** をクリックして続行します。[スケジュール] ウィンドウが開きます。
- 7 設定プロファイルの配布についてジョブ スケジュール情報を指定します。
- 8 **[次へ]** をクリックして続行します。[要約] ウィンドウが表示されます。
- 9 要約ウィンドウ内の情報を確認します。
- 10 内容が正しければ **[サブミット]** をクリックします。[完了] ウィンドウが開き、進捗に関する情報が表示されます。
- 11 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。
- 12 [現在のジョブ] タブを選択して、スケジュール設定した配布ジョブのステータスを確認します。最終的には、正常なステータスがレポートされ、配布ジョブが正常にスケジュール設定されたことを確認できます。
- 13 [設定プロファイル] タブを選択して、付与されたグループの数と、新しく配布された設定プロファイルに関連してインストールされているデバイスの数を確認します。これらの数は、配布の選択を反映して適宜更新されます。
- 14 新しく配布された設定プロファイルの **[表示名]** をクリックします。[設定プロファイルの詳細] ウィンドウが開きます。

- [全般] タブでは、新しく設定されたグループ/デバイスの付与資格を反映する要約情報を確認できます。
- [プロパティ] タブでは、設定プロファイルのプロパティを表示できます。
- [グループ] タブでは、設定プロファイルの配布または削除、および付与資格の追加または削除を実行できます。
- [デバイス] タブでは、設定プロファイルを配布または削除できます。
- [レポート] タブでは、選択されている設定プロファイルに基づくコンテキスト レポートを表示できます。

▶ プロファイルを配布し、後からそのプロファイルの設定を変更した場合、再配布する必要があります。再配布を容易にするため、反復プロファイル配布ジョブを使用して、定期的に設定を再適用できます。反復プロファイル配布ジョブをスケジュール設定するには、[プロファイルの強制] の配布方法を選択する必要があります。

▶ デバイスからプロファイルを削除する場合、次の手順に従います。

- そのデバイスのプロファイルの付与資格を解除します
- そのデバイスを対象とした配布ジョブを ([プロファイルの強制] の方法を指定して) スケジュール設定します


そのジョブが実行されると、付与資格を解除されたプロファイルはターゲットデバイスから削除されます。

サービス インポート ウィザード

サービス インポート ウィザードを使用して、HPCA Server の ServiceDecks ディレクトリからソフトウェア、パッチ、OS ライブラリにサービスをインポートします。デフォルトでは、このディレクトリは次の場所にあります。

`InstallDir\Data\ServiceDecks`

サービス インポート ウィザードを使用してサービスをインポートするには

- 1 [操作] タブで、次のいずれかのページから [サービスのインポート]  ツールバー ボタンをクリックします。

— [ソフトウェア管理] > [ソフトウェア ライブラリ]

— パッチ管理 > [パッチ] タブ

— OS 管理 > [オペレーティング システム] タブ

これにより、ウィザードが起動します。

- 2 インポートするサービスを選択します。HPCA Server の ServiceDecks ディレクトリにあり、次の単語が含まれるすべてのサービス デッキが、使用可能なサービスのリストに表示されます。

ライブラリ	サービス デッキ名に含まれる単語	HPCA ドメイン
ソフトウェア	SOFTWARE	SOFTWARE
パッチ	PATCH	PATCHMGR
OS	OS	OS

デフォルトでは、ServiceDecks ディレクトリは次の場所にあります。

`InstallDir\Data\ServiceDecks`

各サービスのファイル名の 4 番目の部分に、そのソフトウェア サービス、パッチ、または OS のわかりやすい名前が含まれています。たとえば、Orca ソフトウェア アプリケーション用のサービス デッキは次のような名前になります。


`PRIMARY.SOFTWARE.ZSERVICE.ORCA`

- 3 要約情報を確認し、[インポート] をクリックします。サービスがインポートされ、該当する (ソフトウェア、パッチ、OS) HPCA ライブラリで使用可能になります。
- 4 [閉じる] をクリックして、ウィザードを終了します。

サービス エクスポート ウィザード

サービス エクスポート ウィザードを使用して、HPCA ソフトウェア、パッチ、または OS ライブラリから、HPCA Server マシンの ServiceDecks ディレクトリにサービスをエクスポートします。

サービス エクスポート ウィザードを使用してサービスをエクスポートするには

- 1 [操作] タブで、次のいずれかのページから [サービスのエクスポート]  ツールバー ボタンをクリックします。

— [ソフトウェア管理] > [ソフトウェア ライブラリ]

— パッチ管理 > [パッチ] タブ

— OS 管理 > [オペレーティング システム] タブ

これにより、ウィザードが起動します。

- 2 エクスポートするサービスを選択します。
- 3 要約情報を確認し、[エクスポート] をクリックします。サービスが HPCA Server の ServiceDecks ディレクトリにエクスポートされます。デフォルトでは、このディレクトリは次の場所にあります。

`InstallDir\Data\ServiceDecks`

サービス デッキには複数のファイルが含まれていて、そのすべてに同じファイル名のプレフィックスが付いています。たとえば、Orca ソフトウェア アプリケーション用のサービス デッキ名は次のようになります。

`PRIMARY.SOFTWARE.ZSERVICE.ORCA`


サービス デッキの各ファイル名の 4 番目の部分に、エクスポートされたソフトウェア、パッチ、または OS のわかりやすい名前が含まれています。

- 4 [閉じる] をクリックして、ウィザードを終了します。

ソフトウェア同期ウィザード

ソフトウェア同期ウィザードを使用して、ソフトウェア同期ジョブを作成します。このジョブは、ソフトウェアをインストールしていないグループメンバーに、付与されたソフトウェアをすべて自動的に配布します。また、ソフトウェア同期ジョブは、新しいグループメンバーが全員、付与されたソフトウェアをすべて受信するようにします。

ソフトウェア同期ジョブを作成するには


- 1 [グループの詳細] ウィンドウの [ソフトウェア] タブで、[ソフトウェアの同期] ツールバー ボタンをクリックして、ウィザードを起動します。
- 2 ソフトウェア同期ジョブの実行スケジュールを設定してください。**[実行: 今すぐ]** を選択してすぐにジョブの実行をスケジュール設定するか、**[実行: 後で]** を選択してジョブの日付と時刻をスケジュール設定します。反復スケジュールを設定するには、**[x' 時間ごと]**、**[x' 日ごと]**、または **[x' 週ごと]** を選択して、ドロップダウン リストから **[間隔]** を選択します。
 反復ジョブ スケジュール オプション (**[x' 日ごと]** など) は、グループ関連のジョブを作成するときだけ利用できます。
- 3 [起動] ドロップダウン リストを使用して、グループのデバイスに対して **Wake-on-LAN** を有効にします。これにより、**HPCA** は、必要なジョブアクションを実行するためにデバイスの電源をオンにできます。
- 4 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。
- 5 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

パッチ配布ウィザード

パッチ配布ウィザードを使用して、お使いの環境にある管理対象デバイスにパッチの付与と配布を行います。

パッチ配布ウィザードを使用してパッチの付与と配布を行うには

- 1 ウィザードを起動するには、次のいずれかを実行します。
 - [全般] タブ の [パッチ管理] で **[配布]** をクリックします

— [パッチの詳細] ウィンドウ、または [グループの詳細] ウィンドウの [パッチ ライブラリ] 領域から、**[パッチの配布]**  ツールバー ボタンをクリックします。

2 **[次へ]** をクリックして、ウィザードを開始します。

3 配布方法を選択します。

適用状況の強制 — どのパッチがターゲット デバイスに適用可能か判断するには、この方法を選択します。適用可能なパッチのみがインストールされます。新しいパッチがデバイスに付与されると、このジョブが次回実行されるたびに、そのパッチがインストールされます。継続的にパッチ適用状況を強制するには、反復スケジュールを作成する必要があります。

手動選択 — ターゲット デバイスにパッチを配布するには、この方法を選択します。パッチがデバイスに適用できない場合、ジョブはエラーにより終了することがあります。反復適用状況スケジュールを作成せずに、1 度だけターゲット デバイスにパッチを配布するには、この方法を使用します。


4 付与と配布を行うパッチを選択するには、最初のカラムのボックスをチェックします。

5 **[次へ]** をクリックします。

6 付与され配布の対象となるグループを選択するには、最初のカラムのボックスをチェックします。

7 **[次へ]** をクリックします。

8 このジョブの実行スケジュールを設定します。**[実行: 今すぐ]** を選択してすぐにジョブの実行をスケジュール設定するか、**[実行: 後で]** を選択してジョブの日付と時刻をスケジュール設定します。反復スケジュールを設定するには、**[x' 時間ごと]**、**[x' 日ごと]**、または **[x' 週ごと]** を選択して、ドロップダウンリストから **[間隔]** を選択します。


 **[適用状況の強制]** 配布方法を選択した場合だけ、反復スケジュールが利用できます。

9 **[次へ]** をクリックします。

10 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。ジョブが正常に作成され、現在のジョブに追加されました。

11 現在のパッチ配布ジョブを表示するには、**[現在のジョブ]** タブをクリックします。


12 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

 パッチは、配布された後、デバイスから削除できません。

サービス資格ウィザード

サービス資格ウィザードは、デバイスのグループにソフトウェア、オペレーティング システム、およびパッチ サービスを付与します。

サービス資格ウィザードを使用してグループ資格を追加するには


- 1 [管理] タブで、次のいずれかのページから **[グループ資格の追加]**  ツールバー ボタンをクリックします。
 - [ソフトウェア管理] > [ソフトウェア] タブ
 - [パッチ管理] > [[パッチ] タブ] タブ
 - [OS 管理] > [[オペレーティング システム] タブ] タブこれにより、ウィザードが起動します。
- 2 サービス (複数も可) への付与資格を受けるグループを選択するには、左のカラムのチェック ボックスをオンにします。
- 3 **[次へ]** をクリックします。
- 4 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。

ジョブが正常に作成され、現在のジョブに追加されました。ステータスと進捗を確認するには、**[現在のジョブ]** タブをクリックします。
- 5 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

ソフトウェア削除ウィザード

ソフトウェア削除ウィザードは、選択したデバイスまたはグループからソフトウェアをアンインストールします。

ソフトウェア削除ウィザードを使用してソフトウェアを削除するには

- 1 [ソフトウェアの詳細] ウィンドウまたは [グループの詳細] ウィンドウから、削除するソフトウェアを選択します。
- 2 **[ソフトウェアの削除]**  ツールバー ボタンをクリックして、ウィザードを起動します。
- 3 **[次へ]** をクリックして、ウィザードを開始します。

- 4 ソフトウェア削除ジョブの実行スケジュールを設定します。**[実行:今すぐ]**を選択してソフトウェアをすぐに削除するか、**[実行:後で]**を選択してソフトウェアを削除する日付と時刻をスケジュール設定します。
- 5 **[次へ]**をクリックします。
- 6 要約情報を確認し、**[サブミット]**をクリックします。ジョブが正常に作成され、現在のジョブに追加されました。
- 7 現在のソフトウェア削除ジョブを表示するには、**[現在のジョブ]**タブをクリックします。
- 8 **[閉じる]**をクリックして、ウィザードを終了します。

OS 配布ウィザード

OS 配布ウィザードでは、オペレーティング システムを管理対象デバイスに配布できます。オペレーティング システムの配布には、有人モードと無人モードがあります。配布モードの詳細については、233 ページの「OS 管理」を参照してください。

例については、272 ページの「同じ OS をサイレントに再インストールする方法」を参照してください。

OS 配布ウィザードを使用してオペレーティング システムを配布するには

- 1 [OS 管理] セクションの [管理] タブから、[全般] タブをクリックします。
- 2 [共通のタスク] の下で [オペレーティング システムの配布] をクリックします。OS 配布ウィザードが開始されます。
- 3 ウィザードの手順に従って、OS 配布ジョブをセットアップします。

手順 1 – イントロダクション

Windows XPe、Windows CE、または Embedded Linux を配布する場合は、[シンクライアントの配布] を選択します。それ以外の場合は、このボックスをオンにしないでください。

[次へ] をクリックして続行します。

手順 2 – オペレーティング システム

OS 選択リストから配布するオペレーティング システムを選択して [次へ] をクリックします。

このリストには、HPCA データベースにパブリッシュされたすべてのオペレーティング システムが含まれます。詳細については、317 ページの「オペレーティング システム イメージのパブリッシュ」を参照してください。

手順 3 – グループ

リストからターゲット デバイスのグループを 1 つ以上選択して [次へ] をクリックします。

[設定] タブの [グループ] ページを使用してスタティック グループを作成することも (90 ページの「グループ管理」を参照)、[レポート] タブでダイナミック グループを作成することも (155 ページの「ダイナミック レポート グループの作成」を参照) できます。

OS 配布用に作成するグループは、同様の互換性のあるハードウェアで構成されている必要があります。

手順 4 – 配布動作

このページでは、OS 配布を実行する方法を決定する設定を指定します。これらの設定は、[設定] タブの [OS 管理] 領域で指定されたグローバル デフォルト設定よりも優先されます。

OS 配布方法の設定

— 配布メソッド

OS を配布するために LSB をインストールする場合、[ローカル サービスの起動 (LSB)] を選択します。ローカル サービスの起動には、既存のマシンは PXE 対応である必要がなく、各ターゲットデバイスについて、ブートの順序を BIOS でローカルに設定する必要がないという利点があります。

デバイスにオペレーティング システムをインストールするために PXE サーバーまたはサービス CD を使用する場合は、[ローカル CD または PXE サーバー] を選択します。

— ユーザー データと設定の移行

手順 1 で [シンクライアントの配布] を選択した場合、このオプションは使用できません。

OS 配布の前にユーザー データと設定をバックアップし、後でそれらを復元するには、[はい] を選択します。オペレーティング システムの配布中に、HPCA Personality Backup サービスがサイレントに実行され、ユーザー データがバックアップされます。

新しいオペレーティング システムがインストールされた後に、ユーザー データを復元する方法は 3 つあります。

- 管理対象デバイスのユーザーは、HPCA Personality Backup and Restore Utility を実行できます。この場合、[オペレーティング システムの移行からの復元] オプションをオンにする必要があります。
- 管理対象デバイスで pbr.exe コマンドを実行できます。
- HPCA Personality Restore サービスをソフトウェア ライブラリから管理対象デバイスに配布できます。このサービスは、ユーザー データの復元を 1 回実行します。



Personality Backup は、Windows XP、Vista、または Windows 7 を実行する移行元コンピュータでのみサポートされています。

Personality Restore は、Windows XP、Vista、または Windows 7 を実行する移行先コンピュータでのみサポートされています。

さらに、現在のオペレーティング システムと配布されるオペレーティング システム イメージには、USMT 3.0.1 または USMT 4.0 のインストールが含まれている必要があります (353 ページの「[Personality Backup and Restore](#)」を参照)。

— OS を再インストールする場合

[**ユーザーに確認する (有人)**] を選択すると、配布プロセスを続行するには、オペレーティング システムの配布中にユーザーが管理対象デバイスがある場所にいる必要があります。

[**ユーザーに確認しない (無人)**] を選択すると、オペレーティング システムの配布中に、管理対象デバイスではダイアログ ウィンドウが表示されません。ユーザーとの対話は必要ありません。



オペレーティング システム イメージを配布すると、ターゲット デバイスのハード ドライブおよびパーティションの数によっては、既存のデータが上書きされる場合があります。[**ユーザーに確認しない (無人)**] を選択する場合、新しいオペレーティング システムを配布する前に、既存のデータを必ずバックアップしてください。

その他の OS 設定

— OS イメージの最大ダウンロード速度

これは、ネットワーク トラフィックを管理する場合に便利です。ターゲット デバイスへの OS イメージのダウンロード中に、業務上重要なアプリケーションのための十分なネットワーク バンド幅を確保しておくことができます。値を指定しない場合、HPCA によってネットワークの最大速度でイメージがダウンロードされます。

— 単位

ダウンロードの最高速度を指定する場合、正しい単位も指定してください。

— Service OS メッセージの表示言語

OS 配布中にメッセージを表示するために使用する言語を選択します。

— Service OS キーボード レイアウト

OS 配布中に入力が必要な場合に使用されるキーボード レイアウトを選択します。

手順 5 – パーティション作成

このページでは、OS 配布よりも前にターゲット デバイスのハード ディスクがどのようにパーティション作成されるかを指定します。



手順 1 で **[シンクライアントの配布]** を選択した場合、パーティション作成の設定は変更できません。手順 6 に進んでください。

基本プロパティ

— パーティション作成方法

方法	説明
既存のパーティションを削除して 1 つの OS パーティションをインストールする	ターゲット デバイスのデータを保持する必要がない場合にこのオプションを使用します。 HPCA はターゲット デバイスの既存のパーティションを削除し、システム予約済み (サポートされる場合) パーティションと OS パーティションを作成します。 重要: ターゲット デバイスの既存のデータはすべて失われます。

方法	説明
<p>既存のデータ パーティションを保持して 1 つの OS パーティションを作成する</p>	<p>既存のデータを保持しておく必要のあるマシン上の OS を置換 (更新) する場合にこのオプションを使用します。</p> <p>HPCA によって既存の OS パーティションが削除され (存在する場合は「システム予約」パーティションも削除される)、システム予約パーティション (サポートされている場合) と OS パーティションが作成されます。既存のデータ パーティションは対象外になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • インストールするパーティションが既に定義されているパーティションより大きい場合、インストールは失敗します。 • ターゲット ドライブに既存のパーティション (ベア メタルなど) がない場合は、1 つの OS パーティションのオプションと同じ結果になります。 <p>注意: このオプションは移行用に使用します。</p>
<p>既存のパーティションを削除して 1 つの OS パーティションをインストールし、OS をローカルにキャッシュする</p>	<p>ターゲット ドライブの最後に、隠しバックアップ パーティションを作成する場合にこのオプションを使用します。</p> <p>パーティションのサイズは、OS のインストール イメージのサイズによって、動的に決められます。OS を再インストールするために必要なすべてのファイルが、(圧縮状態で) このパーティションに保存されます。</p> <p>重要: ターゲット デバイスの既存のデータはすべて失われます。</p>

方法	説明
<p>既存のデータ パーティションと OS パーティションのデータ復元ディレクトリを保持して OS をインストールする</p>	<p>新しいオペレーティング システムのインストール中にターゲット デバイス内のファイルとフォルダを保持し、OS のインストール後に復元する場合にこのオプションを使用します。このオプションを使用すると、HPCA によってディスクのパーティションの再分割は行われません。</p> <p>注意: これには、OS の配布方法に ImageX を使用する必要があります。その他の配布方法を使用すると、エラーが発生します。</p> <p>注意: ターゲット デバイスに OS パーティション以外に「システム予約」パーティションがある場合、このオプションは使用できません。</p> <p>注意: このオプションを選択した場合、[詳細プロパティ] の下の 2 つの設定は変更できません。手順 6 に進んでください。</p>

詳細プロパティ

— Windows 7/2008 R2 のシステム パーティションのサイズ

システム予約パーティションのサイズ (MB) を指定します。

5 桁の非負数を指定できます。指定する値が大きすぎる場合、赤色で警告が表示されます。0 (ゼロ) の値を指定すると、システム予約済みパーティションは作成されません。

— ディスク先頭の未パーティション領域のサイズ

残しておくディスク先頭の未パーティション領域の容量 (MB) を指定します。この領域は、後で復旧パーティションの作成などに使用できます。

0 (ゼロ) の値を指定すると、未パーティション領域は予約されません。

手順 6 – スケジュール

このページでは、この OS 配布を実行する HPCA ジョブをいつ開始するかを指定します。配布は 1 回だけ実行することも定期的に行うこともできます。

— ジョブスケジュール

[**実行: 今すぐ**] を選択して OS をすぐに配布するか、[**実行: 後で**] を選択して OS 配布の日付と時刻をスケジュール設定します。

反復スケジュールを設定するには、[**'x' 時間ごと**]、[**'x' 日ごと**]、または [**'x' 週ごと**] を選択して、ドロップダウンリストから [**間隔**] を選択します。



反復ジョブ スケジュール オプションは、グループに関連したジョブを作成する場合にのみ使用できます。

— その他のパラメータ


HPCA でアウトバンド管理機能 (有効な場合) を使用してターゲット デバイスの電源をオンにする場合、[**電源オン**] メニューで [**はい**] を選択します。[**いいえ**] を選択すると Wake-On-LAN が使用されます。

手順 7 – 要約

この OS 配布の設定を確認します。設定を変更するには、該当するウィザード ページが表示されるまで [**前へ**] ボタンをクリックします。続行する準備ができたなら、[**サブミット**] をクリックします。

手順 8 – 完了

このページには、OS 配布ジョブが正常に HPCA にサブミットされたかどうかが表示されます。

[**現在のジョブ**] タブでジョブのステータスを確認できます。ジョブがすぐに表示されない場合、[**リフレッシュ**]  ボタンをクリックしてください。

同じ OS をサイレントに再インストールする方法

次の各条件を満たしている場合、既存のオペレーティング システムをサイレントに再インストールできます。

- ターゲット デバイスがすでに HPCA によって管理されている場合。
- 既存の OS が HPCA によってインストールされた場合。
- 前にインストールされたものとまったく同じ OS サービスをインストールする場合。

これらの条件を満たし、次の手順に従って配布オプションを設定すれば、HPCA Console からの OS の再インストールを制御でき、ターゲット デバイスでユーザーが操作する必要はありません。



同じ OS イメージをサイレントに再インストールするには

- 1 [設定] タブで、[OS 管理] > [配布] ページに移動します。
- 2 [配布動作] タブで次の各項目を指定します。
 - [OS の再インストール時] で [ユーザーに確認しない (無人)] を選択します。
 - [インストールする OS の選択をユーザーに許可する] で、[いいえ] を選択します。
- 3 [保存] をクリックします。
- 4 OS 配布ウィザードを起動します (265 ページの「OS 配布ウィザード」を参照)。
- 5 配布動作の手順で、[OS の再インストール時] が [ユーザーに確認しない (無人)] に設定されていることを確認します。
- 6 OS 配布ウィザードの残りの手順を完了します。

アプリケーション利用状況収集ウィザード

アプリケーション利用状況収集ウィザードを使用して、ターゲット デバイスまたはグループのアプリケーション利用状況データを収集します。アプリケーション利用状況収集ウィザードは、ターゲット デバイスに利用状況収集エージェントをインストールして、ユーザーが作成し有効にしたフィルタに基づいて利用状況データを返します (273 ページの「利用状況収集フィルタ作成ウィザード」を参照)。


アプリケーション利用状況データを探索するには

- 1 [管理] タブで [デバイス] または [グループ] をクリックします。
- 2 [インベントリの収集]  ツールバー ボタンをクリックして、[アプリケーション利用状況の探索] を選択します。ウィザードが開きます。
- 3 次のいずれかのオプションを選択します。
 - [実行: 今すぐ] を選択して、ウィザードが完了した直後のジョブ実行をスケジュール設定します。
 - [実行: 後で] を選択して、ジョブを開始する日付と時刻を入力します。
反復スケジュールを設定するには、[x' 時間ごと]、[x' 日ごと]、または [x' 週ごと] を選択して、ドロップダウンリストから [間隔] を選択します。
 反復ジョブ スケジュール オプション ([x' 日ごと] など) は、グループ関連のジョブを作成する場合にのみ使用できます。
週ごとのアプリケーション利用状況データの収集を推奨します。
- 4 デバイスの電源をオンにする場合、ドロップダウンリストから [はい] を選択してください。これにより、必要に応じて HPCA はデバイスの電源をオンにできます。
- 5 要約情報を確認し、[サブミット] をクリックします。
これで、ターゲット デバイスに利用状況収集エージェントをインストールするジョブを作成して、ターゲット デバイスから利用状況情報を収集できます。保留中のすべてのジョブは、[ジョブ] 領域の [現在のジョブ] をクリックして確認できます。
- 6 [閉じる] をクリックして、ウィザードを終了します。

利用状況収集フィルタ作成ウィザード

利用状況収集フィルタ作成ウィザードを使用して、新しい利用状況収集フィルタを作成します。

新しい収集フィルタを作成するには

- 1 [利用状況] タブで [新しいフィルタの作成]  ツールバー ボタンをクリックします。ウィザードが開きます。

- 2 フィルタ パラメータを設定するには、各テキスト ボックスにフィルタ条件を入力します。

利用状況データのフィルタを適用するフィールドにのみ値を入力します。空のテキスト ボックスは無視され、フィルタ条件として使用されません。

入力した値が、ソフトウェアの実行可能ファイルのファイル ヘッダーと比較され、収集された利用状況データがフィルタ条件に合致するか判断されます。特定のソフトウェアにフィルタを適用する方法を決めるには、240 ページの「ダッシュボード」を参照してください。


▶ 50 を超えるアプリケーションについてデータを収集し、報告するようにフィルタを設定すると、大量のデータが収集され、結果的にレポートのパフォーマンスに重大な問題が生じる可能性があります。

- 3 **[作成]** をクリックします。
- 4 **[閉じる]** をクリックします。
新しいフィルタが、収集フィルタ リストに追加されます。

Satellite Server 配布ウィザード

Satellite Server 配布ウィザードを使用して **Satellite Server** をインストールし、データ キャッシングなどのリモート サービスを有効にできます。

Satellite Server を配布するには

- 1 **[設定]** タブで **[Satellite 管理]** 領域の **[インフラストラクチャ管理]** に進みます。
- 2 **[サーバー]** タブをクリックします。
- 3 **Satellite Server** のリストでデバイスを 1 つ以上選択します。
- 4 **[Satellite Server の配布]**  ツールバー ボタンをクリックして、ウィザードを起動します。
- 5 配布に使用する **[ユーザー ID]** と **[パスワード]** を入力して **[次へ]** をクリックします。

- 6 **インストール ドライブ**と**データ ドライブ**を選択します。


HPCA Standard Edition および Starter Edition の場合、簡素（標準）配布モードのみを使用できます。配布モードの詳細については、『HPCA Core および Satellite 入門およびコンセプトガイド』の「Satellite 配布モデル」を参照してください。

- 7 **[次へ]**をクリックします。
- 8 配布ジョブの実行スケジュールを指定します。**[実行：今すぐ]**を選択して **Satellite Server** をすぐに配布するか、**[実行：後で]**を選択して配布の日付と時刻をスケジュール設定します。
- 9 **[次へ]**をクリックします。
- 10 要約情報を確認し、**[サブミット]**をクリックします。
Satellite Server 配布ジョブが作成されます。
Satellite Server ダウンロード ファイルは、サイズが大きいファイルです。ネットワーク トラフィック量が多い場合、配布に時間がかかる場合があります。ジョブのステータスは **[管理]** タブ の **[ジョブ管理]** 領域で確認できます。
- 11 **[閉じる]**をクリックして、ウィザードを終了します。

Satellite Server 削除ウィザード

Satellite Server 削除ウィザードを使用して、HPCA Satellite Server グループから 1 つ以上の **Satellite Server** をアンインストールします。

Satellite Server をアンインストールするには



- 1 **[設定]** タブで **[Satellite 管理]** 領域の **[インフラストラクチャ管理]** に進みます。
- 2 **[サーバー]** タブをクリックします。
- 3 **Satellite Server** のリストでデバイスを 1 つ以上選択します。
- 4 **[インフラストラクチャ サービスの削除]**  ツールバー ボタンをクリックします。
- 5 **[実行：今すぐ]**を選択してウィザードが完了した直後に **Satellite Server** をアンインストールするか、**[実行：後で]**を選択してアンインストールする日付と時刻を入力します。
- 6 **[次へ]**をクリックします。

- 7 要約情報を確認し、**[サブミット]**をクリックします。
Satellite Server 削除ジョブが作成されます。ジョブのステータスは **[管理]** タブの **[ジョブ管理]** 領域で確認できます。
- 8 **[閉じる]**をクリックして、ウィザードを終了します。

サブネット ロケーション作成ウィザード

サブネット ロケーション作成ウィザードを使用して、Satellite Server を割り当てることができる新しいサブネット ロケーションを追加します。

新しいサブネット ロケーションを追加するには

- 1 **[設定]** タブで **[Satellite 管理]** 領域の **[インフラストラクチャ管理]** に進みます。
- 2 **[サブネット ロケーション]** タブをクリックします。
- 3 明示的にサブネット アドレス (複数も可) を指定して新しいサブネット ロケーションを作成するには、次の手順に従います。
 - a **[新しいサブネット ロケーションの作成]**  ツールバー ボタンをクリックします。
サブネット ロケーション作成ウィザードが開きます。
 - b サブネット ロケーションの説明を入力します。
 - c このサブネット ロケーションの一部として含めるサブネット アドレスを指定します。複数のサブネット アドレスはカンマで区切ります。
どのサブネット アドレスを使用すればよいかわからない場合、サブネット アドレス計算機を使用してください。
 - d **[作成]** をクリックします。既存のインベントリ データに基づいてサブネット ロケーションを自動的に作成するには、次の手順に従います。
 - a **[サブネットのロケーションの自動作成 (インベントリ データに基づき)]**  ツールバー ボタンをクリックします。
 - b **[OK]** をクリックします。

- c **【閉じる】**をクリックして結果ダイアログ ボックスを閉じます。
- 4 **【閉じる】**をクリックして、サブネット ロケーション作成ウィザードを終了します。

この時点でサブネット ロケーションは作成されますが、検証はされておらず、**Satellite Server** にマップされてはいません。詳細については、**219** ページの「**Satellite Server** へのサブネット ロケーションの割り当て」を参照してください。

10 メタデータを使用したパッチ管理

HPCA では、パッチの更新を取得して Agent デバイスに配信するための軽量モデルが採用されています。このモデルではメタデータのみを使用してエージェントのパッチ スキャンを行うため、メタデータを使用したパッチ管理と呼ばれています。

この章では、メタデータを使用したパッチ管理を活用するために必要な概念、設定、および実装の詳細について説明します。

メタデータを使用したパッチ管理は、次の環境でのみ実行できます。

- Microsoft Update Catalog データ フィードを使用する Microsoft オペレーティング システム
- HPCA Core および Satellite の Enterprise レベルと Standard レベルの環境

概要

現在、メタデータを使用したパッチ管理の軽量モデルは、Microsoft デバイスのパッチ適用に使用でき、それには Microsoft Update Catalog フィードを使用する必要があります。

このモデルには、281 ページの [図 14](#) で示すように次のような利点があります。

メタデータ パッチ管理モデルは、次の点で従来の HPCA パッチ適用モデルと異なります。

- 1 Core Server の Configuration Server Database (CSDB) には、実際のパッチ バイナリではなく、ブリティンのメタデータ情報のみが格納されます。

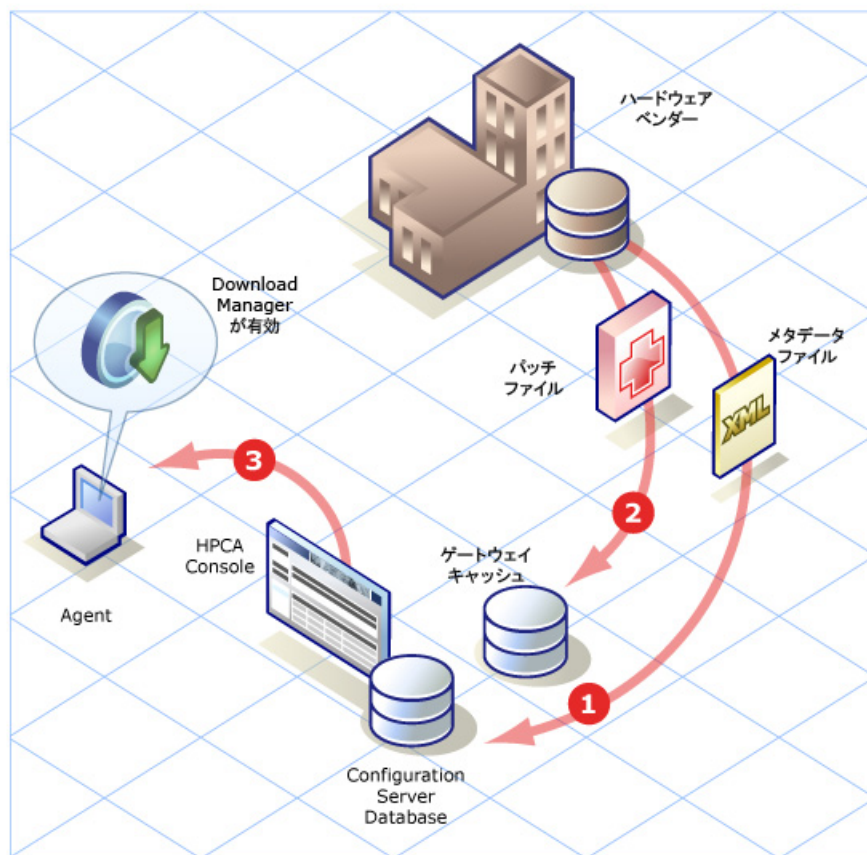
このモデルではパッチ取得の実行速度が向上し、またエージェントのパッチ探索および HPCA Server の同期では、インフラストラクチャ トラフィックの負荷も軽減されます。

- 2 実際のパッチ バイナリは、**Core Server** と **Satellite Server** の両方のコンポーネントであるパッチ ゲートウェイにダウンロードおよびキャッシュされます。ゲートウェイでは、エージェント マシンから最初のリクエストを受信するとパッチ バイナリがダウンロードされ、他のエージェント マシンが使用できるようにキャッシュされます。また、必要に応じて、パッチ ゲートウェイでは、ユーザーが取得を実行するときにパッチ バイナリを事前に読み込みます。
- 3 メタデータ モデルを使用する場合、スキャン フェーズの最後に、適用可能なパッチ バイナリのリクエストによってパッチ ゲートウェイに接続できるようにするためには、エージェントの **Download Manager** が有効になっている必要があります。

Download Manager では、エージェントへのパッチ ファイルの受動転送が処理されます。ファイルの転送が完了すると、パッチをインストールするためにエージェント接続が起動されます。

281 ページの [図 14](#) に、メタデータを使用したパッチ管理モデルを示します。比較のために、282 ページの [図 15](#) には従来のパッチ管理モデルを示します。

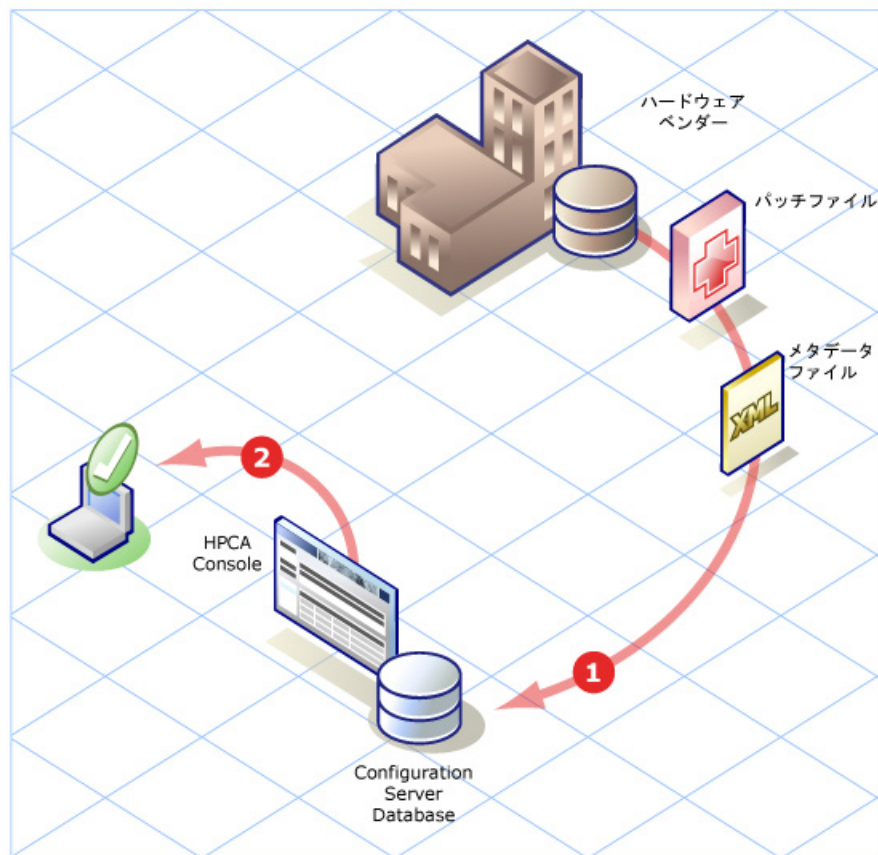
図 14 メタデータを使用したパッチ管理モデル



凡例:

- 1 パッチ取得により、パッチのメタデータファイルのみがベンダーからダウンロードされます。パッチメタデータは Core CSDB にパブリッシュされ、管理対象エージェントからリクエストされるパッチファイルの正確なリストを検出するために使用されます。
- 2 エージェントからの（または任意で選択できる事前読み込みでの）リクエスト、パッチゲートウェイがベンダーからパッチファイルをダウンロードし、他のエージェントが使用できるようにキャッシュします。パッチファイルを CSDB にパブリッシュする必要はありません。
- 3 Patch Agent では Download Manager を有効にする必要があります。Download Manager では、エージェントへの必要なパッチファイルの受動ダウンロードがバックグラウンドプロセスで処理されます。

図 15 パッチ管理モデル - 従来



凡例：

- 1 従来のパッチ取得では、ブリティンのメタデータとすべての関連パッチファイルがベンダーからダウンロードされます。これらのファイルは、企業内のエージェントに必要なかどうかは関係なく、すべて Core CSDB にパブリッシュされます。
- 2 Patch Agent では、Download Manager オプションを使用しても使用しなくてもパッチを適用できます。使用しない場合は、エージェント接続によって、必要なパッチファイルのダウンロードがフォアグラウンドプロセスで処理されます。一方、Download Manager では、エージェントへの必要なパッチファイルの受動ダウンロードがバックグラウンドプロセスで処理されます。

パッチ ゲートウェイの設定

ゲートウェイは **Patch Manager Server** のコンポーネントで、エージェントにリクエストされるパッチ バイナリ データをダウンロードし、キャッシュします。これは、**Satellite Server**。

Satellite での有効化

Satellite Server でパッチ ゲートウェイを有効にするには

- 1 **Satellite** コンソールで、[設定] タブを選択して [**パッチ管理**] をクリックします。このオプションにより、パッチ ゲートウェイを有効または無効にできます。

パッチ ゲートウェイを無効にすると、**Satellite Server** によってパッチ バイナリのリクエストがアップストリーム サーバーに転送されます。これは、このオプションのデフォルトの設定です。

パッチ ゲートウェイを有効にすると、**Satellite Server** によってパッチ バイナリがインターネットから直接取得されます。バイナリを取得する場合、この方法をお勧めします。

- 2 パッチ ゲートウェイを有効にする場合、追加オプションを設定する必要があります。
- 3 [保存] をクリックして、設定を保存します。

11 OS イメージの準備とキャプチャ

この章は、次のトピックで構成されています。

- 286 ページの「プロセスの概要」
- 287 ページの「紹介」
- 287 ページの「デスクトップ OS イメージの準備とキャプチャ」
- 296 ページの「シンクライアント OS イメージの準備とキャプチャ」
- 308 ページの「OS イメージのパブリッシュおよび配布」

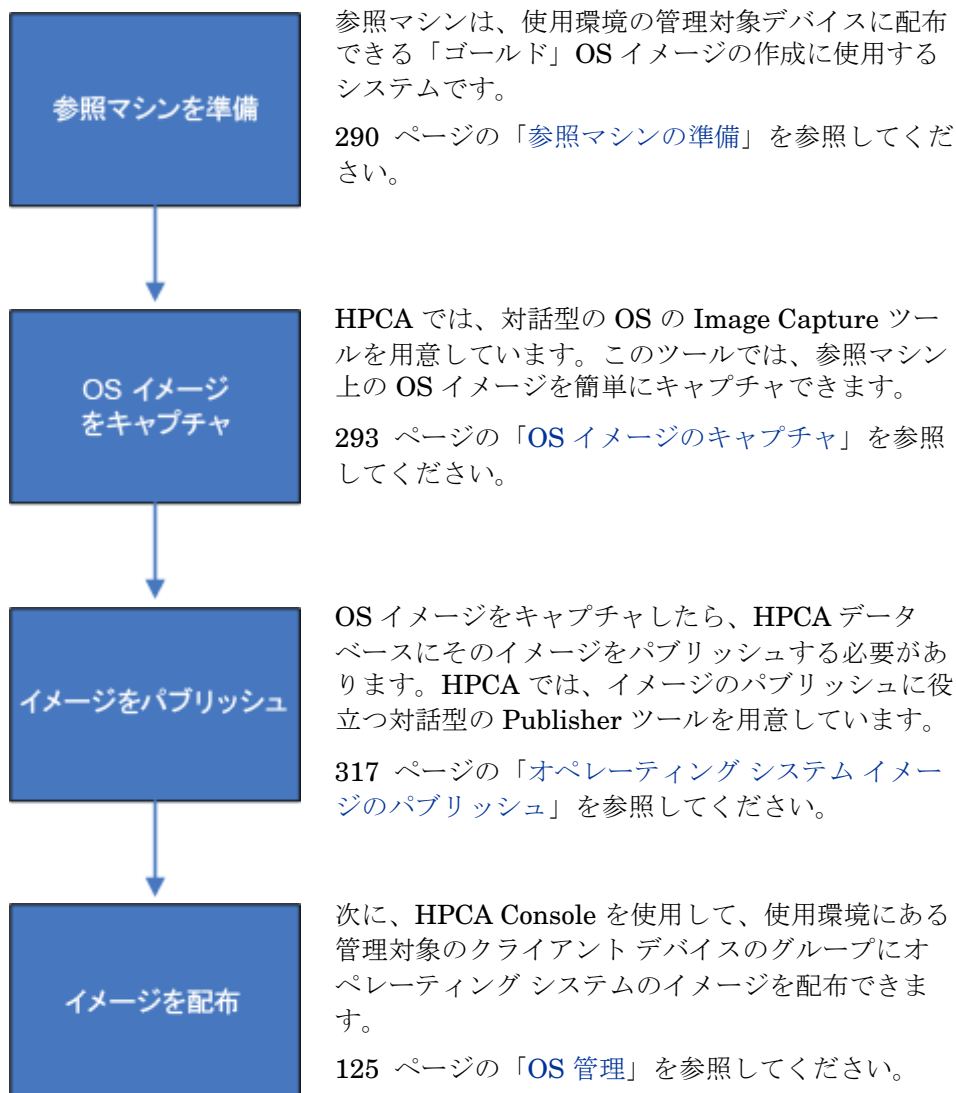


OS イメージのキャプチャを試みる *前*に Windows Automated Installation Kit (AIK) が HPCA Core Server にインストールされていることを確認します。

詳細については、『HPCA Core および Satellite 入門およびコンセプト ガイド』の「HPCA を使用して Windows オペレーティング システムを管理する」を参照してください。

プロセスの概要

HPCA では、オペレーティング システムの管理プロセスに次の 4 つの手順があります。



この章では、OS イメージの準備およびキャプチャに焦点を当てています。パブリッシュおよび配布については、この概要で示した章で説明します。

紹介

この章では、使用環境で、次のオペレーティング システムのイメージを準備またはキャプチャし、管理対象のクライアント デバイスに配布する方法について説明します。

- Windows 7
- Windows Server 2008 R2 (x64)
- Windows Vista
- Windows Server 2008

古いオペレーティング システムのイメージをキャプチャするには、[425 ページ](#)の「[Windows XP および Windows Server 2003 の OS イメージのキャプチャ](#)」を参照してください。



既存の OS WIM イメージ (これには、Microsoft Windows OS インストールメディアにある OS .WIM ファイルが含まれる) を使用しているか、または Microsoft Windows Automated Installation Kit (AIK) で OS WIM イメージを作成する場合は、イメージを準備またはキャプチャする必要はないため、次の章に進んでください。

デスクトップ OS イメージの準備とキャプチャ

このセクションの情報は、デスクトップ、ラップトップ、ノートブック、ネットブック、およびワークステーションのクライアント デバイスに関するものです。シンクライアント デバイスについては、[296 ページ](#)の「[シンクライアント OS イメージの準備とキャプチャ](#)」を参照してください。

前提条件



HPCA OS Image Capture ツールで OS イメージのキャプチャを試行する前に、Microsoft Windows Automated Installation Kit (AIK) が HPCA Core Server にインストールされていることを確認します。

- HPCA Core Server のインストール前に Windows AIK をインストールした場合、必要な操作はありません。
- HPCA Core のインストール後に Windows AIK をインストールした場合、HPCA Core を再起動する必要があります。

Windows AIK は Microsoft ダウンロード センター (<http://www.microsoft.com/downloads>) からダウンロードして入手できます。通常の Windows インストールには含まれていません。

使用しているオペレーティング システムに適したバージョンが次のデフォルトの場所にインストールされていることを確認してください。

C:\Program Files\Windows AIK

詳細については、『HPCA Core および Satellite 入門およびコンセプト ガイド』を参照してください。



Microsoft .NET Framework バージョン 2.0 (またはそれ以降) が参照マシンにインストールされていることを確認します。.NET Framework は、次の Microsoft ダウンロード センターから入手できます。

<http://www.microsoft.com/downloads>

どのバージョンの .NET Framework が参照マシンに存在しているのかを確認するには、次のディレクトリのフォルダを表示します。

%SYSTEMROOT%/Microsoft.NET/Framework

OS Image Capture ツールについて

HPCA OS Image Capture ツールは、次のタスクを実行します。

- 1 参照マシンに関する情報 (ハードウェア機能と OS 機能についての情報) を収集して格納します。

- 2 Microsoft Sysprep を実行します。
- 3 参照マシンを (適切なメディアから起動された) Service OS で再起動します。実行した Service OS でイメージと関連ファイルが収集されます。
- 4 ファイルを作成し、HPCA server の次のディレクトリにコピーします。

`InstallDir\Data\OSManagerServer\upload`

アップロードされるファイルは、次のとおりです。

- `ImageName.WIM`
このファイルには参照マシンの一連のファイルとファイル システムが含まれています。
- `ImageName.EDM`
このファイルにはインベントリ情報を含むオブジェクトが含まれています。



OS Image Capture ツールでは、Microsoft .NET Framework バージョン 2.0 (またはそれ以降) が必要になります。これは、次の Microsoft ダウンロードセンターから入手できます。

<http://www.microsoft.com/downloads>

どのバージョンの .NET Framework が参照マシンに存在しているのかを確認するには、次のディレクトリのフォルダを表示します。

`%SYSTEMROOT%\Microsoft.NET\Framework`

参照マシンの準備

参照マシンの準備プロセスは、キャプチャするオペレーティングシステムによって若干異なります。詳細な手順については、次のトピックを参照してください。


- 290 ページの「**Windows 7 または Windows Server 2008 R2 x64**」
- 292 ページの「**Windows Vista または Windows Server 2008**」

Windows 7 または Windows Server 2008 R2 x64


単一パーティションまたはデュアルパーティションいずれかの OS セットアップからキャプチャできます。デュアルパーティションの OS セットアップの場合、システム予約パーティションにはブートマネージャと HPCA Service OS (SOS) のファイルが格納されます。OS パーティションには Boot Loader および OS 自体が格納されます。

- 1 オリジナル製品メディアから、オペレーティングシステムをインストールします。参照マシンは、インストール対象のオペレーティングシステムを実行できる必要があります。参照マシンが DHCP を使用していることを確認します。
 - インストールの種類を求められたら、**[カスタム (高度)]** オプションを選択します。
 - Windows 7 をインストールする場所の指定を求められたら、**[ドライブ オプション (高度)]** を選択します。
- 2 **[新規作成]** をクリックして、Windows 7 を格納する新しいパーティションを作成します。
- 3 **[サイズ]** ボックスで、最大値を選択します。
- 4 **[適用]** をクリックします。ダイアログボックスが開き、Windows が追加パーティションを作成する可能性があることを警告します。**[OK]** をクリックして、ダイアログボックスを閉じ、操作を続行します。
- 5 **単一パーティション** インストールを作成するには、次の手順を実行します。
 - a 小さいシステム予約パーティションを選択し、**[削除]** をクリックします。ダイアログボックスが開き、このパーティションに格納されているすべてのデータが失われることを警告します。
 - b **[OK]** をクリックして、ダイアログボックスを閉じて、操作を続行します。
 - c 残りのパーティションを選択して、**[次へ]** をクリックします。その後、Windows 7 のインストールを続行します。

デュアルパーティションインストールを作成するには、次の手順を実行します。

- a 手順 4 で作成されたパーティションを選択し、**[削除]** をクリックします。ダイアログ ボックスが開き、このパーティションを削除すると、パーティションに格納されているすべてのデータが失われることを警告します。
 - b **[OK]** をクリックして、ダイアログ ボックスを閉じて、操作を続行します。
 - c システム予約パーティションを選択し、**[拡張]** をクリックします。
 - d **[サイズ]** ボックスで、**1,024 MB** を指定します。
 - e **[適用]** をクリックします。再度、ダイアログ ボックスが開き、パーティションの拡張は元に戻せない操作であることを警告します。
 - f **[OK]** をクリックして、ダイアログ ボックスを閉じ、操作を続行します。
 - g 手順 4 で作成されたパーティションを再度選択し、**[新規作成]** をクリックします。
 - h **[サイズ]** ボックスで、最大値を選択します。
 - i **[適用]** をクリックします。再度、ダイアログ ボックスが開き、Windows が追加パーティションを作成する可能性があることを警告します。
 - j **[OK]** をクリックして、ダイアログ ボックスを閉じ、操作を続行します。
 - k **[次へ]** をクリックします。その後、**Windows 7** のインストールを続行します。
- 6 コンピュータの場所の選択を求められた場合は、**[作業ネットワーク]** を選択します。
 - 7 必要に応じて **OS** をカスタマイズします。これには、基本的なまたは必要な複数のアプリケーションのインストールが含まれる場合があります。**OS** とアプリケーションの最新のサービス パック、およびイメージの配布先となるデバイスに必要なドライバが含まれることを確認してください。
 参照マシンへの **HPCA Agent** のインストールは推奨されません。
HPCA Agent は、**OS** が配布されるときにインストール (インストール済みである場合はアップグレード) されます。
 - 8 **HPCA Server** へのアップロード プロセスが終了するまで、キーボードやマウスによる操作が数分間行われなくても、デバイスの電源が切れないように、**BIOS** の電源管理を設定してください。
 - 9 **[コントロールパネル]** で、ユーザー アクセス制御のレベルを **[通知しない]** に設定します。


- 10 .WIM ファイルのサイズを抑えるために、ファイル システムのサイズをできるだけ小さくします。

 **Windows** セットアップ配布メソッドを使用してイメージを正常にキャプチャするには、参照マシンの **OS** パーティションに十分な空きディスク領域がある必要があります。たとえば、**7 GB** のイメージをキャプチャするには、**50 ~ 60 GB** の空きディスク領域が必要です。


- a ファイル システムから、必須ではないファイルとディレクトリを削除します。
 - b システムの復元を無効にします。
- 11 **Windows 7** および **Windows Server 2008 R2 x64** のキャプチャ プロセスの一部として、システムがローカル ディスクから再起動する場合、キャプチャ モードで起動するようにシステムが設定されます。**CD** またはネットワークに **Image Capture** メディアを保持する必要はありません。

Windows Vista または Windows Server 2008


- 1 オリジナル製品メディアから、オペレーティング システムをインストールします。参照マシンは、インストールするオペレーティング システムを実行できる必要があります。参照マシンが **DHCP** を使用していることを確認します。

 **OS** は **C:** ドライブに格納してください。**C:** ドライブ以外はキャプチャされません。

必要に応じて **OS** をカスタマイズします。これには、基本的なまたは必要な複数のアプリケーションのインストールが含まれる場合があります。**OS** とアプリケーションの最新のサービス パック、およびイメージの配布先となるデバイスに必要なドライバが含まれることを確認してください。

 参照マシンへの **HPCA Agent** のインストールは推奨されません。**HPCA Agent** は、**OS** が配布されるときにインストール (インストール済みである場合はアップグレード) されます。

- 2 **HPCA Server** へのアップロードプロセスが終了するまで、キーボードやマウスによる操作が数分間行われなくても、デバイスの電源が切れないように、**BIOS** の電源管理を設定してください。
- 3 **User Access Control** を無効にします。


- 4 .WIM ファイルのサイズを抑えるために、ファイル システムのサイズをできるだけ小さくします。
 -  Windows 7 より前の Windows オペレーティング システムの場合、プライマリ ブート ドライブのプライマリ ブート パーティションへのイメージの配布がサポートされます。
 -  Windows セットアップ配布メソッドを使用してイメージを正常にキャプチャするには、参照マシンの OS パーティションに十分な空きディスク領域がある必要があります。たとえば、7 GB のイメージをキャプチャするには、50 ~ 60 GB の空きディスク領域が必要です。
 - a ファイル システムから、必須ではないファイルとディレクトリを削除します。
 - b システムの復元を無効にします。
- 5 Vista および Windows Server 2008 のキャプチャ プロセスの一部として、システムがローカル ディスクから再起動する場合、キャプチャ モードで起動するようにシステムが設定されます。CD/DVD またはネットワーク上に ImageCapture メディアを保持する必要はありません。

OS イメージのキャプチャ

OS Image Capture ツールで参照マシンのイメージをキャプチャし、HPCA Server にイメージをアップロードできます。その後、そのイメージをパブリッシュして、使用環境の管理対象デバイスに配布できます。

Image Capture ツールは、次のオペレーティング システムで使用できます。


- Windows Vista
- Windows Server 2008
- Windows 7
- Windows Server 2008 R2 (64 ビット)

 OS Image Capture ツールでは、Windows Preinstallation Environment (Windows PE) ベースのキャプチャのみをサポートしています。シンクライアント キャプチャを実行するには、296 ページの「シンクライアント OS イメージの準備とキャプチャ」を参照してください。古い OS イメージをキャプチャするには、425 ページの「Windows XP および Windows Server 2003 の OS イメージのキャプチャ」を参照してください。

OS Image Capture ツールにアクセスするには

- 1 管理者権限のあるアカウントを使用して参照マシンにログオンします。
- 2 **ImageCapture** メディアの CD を参照マシンに挿入します。
このメディアを入手する場所についての詳細は、『**HPCA OS Manager** システム管理者ガイド』の「製品メディア」を参照してください。
- 3 **ImageCapture** CD で、次のフォルダを参照します。
image_preparation_wizard\win32
- 4 `oscapture.exe` を実行します。

OS Image Capture ツールが開きます。[ようこそ] ページに参照マシンのハードウェアおよびオペレーティング システムについての情報が表示されます。

 参照マシンのオペレーティング システムが前述のオペレーティング システムより古い場合は、代わりに、**HPCA Image Preparation Wizard** が開きます。詳細については、425 ページの「**Windows XP** および **Windows Server 2003** の OS イメージのキャプチャ」を参照してください。

- 5 [**次へ**] をクリックして続行します。[**イメージ オプション**] ページが開きます。

イメージ オプション

[**イメージ オプション**] ページでは、次の情報を指定します。

- [**イメージ メソッド**] - **ImageX** または **Windows** セットアップを選択します。
 - **ImageX** では **Windows PE** や **ImageX** ユーティリティで配布される .WIM フォーマットでイメージをキャプチャします。
 - **Windows** セットアップでは、**Windows PE** や **Windows** セットアップで配布される .WIM フォーマットでイメージをキャプチャします。

Windows セットアップでは、インストールをより適切に制御できます。**ImageX** では、単純なファイル抽出と同様の操作で実行できます。いずれかの方法でキャプチャしたイメージを使用して、無人インストールまたはアップグレードを実行できます。

ImageX および **Windows** セットアップについての詳細は、<http://technet.microsoft.com> で入手できる **Windows** ドキュメントを参照してください。

- **[イメージ名]**- このイメージ用に選択する名前。HPCA Server にアップロードされ、このイメージの配布に使用するファイルがこの名前を使用します。イメージ名に入力できる文字数は、半角で 8 文字までです。大文字と小文字は区別されません。
- **[イメージの説明]**- ユーザーが提供する説明情報。イメージをパブリッシュするとき、HPCA Server で使用可能なオペレーティング システム イメージの一覧にこの情報が表示されます。
イメージの説明に入力できる文字数は、半角で 80 文字までです。
- **[移行先サーバー]**- キャプチャ後のこのイメージのアップロード先の HPCA Server のホスト名または IP アドレス。
Image Capture ツールでは、キャプチャ後イメージをアップロードできるようにするために、HPCA Server への接続を試行します。接続できない場合は、エラーメッセージが表示されます。参照マシンのシステム プロキシ設定およびファイアウォール設定でサーバーと通信できることを確認します。
- **[ポート]**- 前述の項目で指定した HPCA Server がリスンするポート番号。デフォルトポートは 3466 です。

[次へ] をクリックして、[要約] ページに進みます。

要約

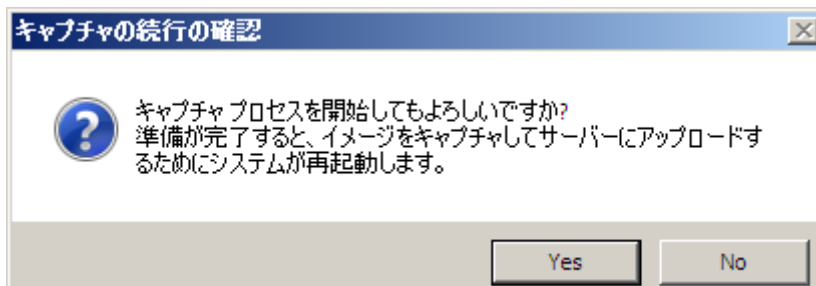
[要約] ページには、指定した名前、イメージの推定サイズなどキャプチャ対象のイメージに関する情報が表示されます。

このキャプチャで指定したパラメータのいずれかを変更するには、[戻る] ボタンをクリックして、[イメージ オプション] ページに戻ります。

イメージをキャプチャして指定の HPCA Server にアップロードするには、[キャプチャ] をクリックします。

次の処理が実行されます。

- 1 次のダイアログ ボックスが表示されます。



- 2 マシンの準備や再起動をしたり、イメージをキャプチャしたりするには、[はい]をクリックします。

このキャプチャには 15 ~ 20 分かかります。処理時間はイメージのサイズによって異なります。キャプチャ中は、Service OS の画面にステータス情報が表示されます。詳細については、308 ページの「[Windows PE Service OS 画面について](#)」を参照してください。

- 3 イメージのキャプチャ後、OS Image Capture ツールがネットワークに接続されて HPCA Server の次のディレクトリにそのイメージが格納されます。

`InstallDir\Data\OSManagerServer\upload`

- 4 アップロードプロセスが完了すると、マシンを再起動するかどうかを確認されます。

次に、イメージを HPCA データベースにパブリッシュします。HPCA Console のオンライン ヘルプの「パブリッシュ」を参照してください。

シンクライアント OS イメージの準備とキャプチャ

次の各セクションでは、サポートされているシンクライアントオペレーティングシステムのイメージを準備しキャプチャする方法を説明します。

- 296 ページの「[Windows XPe イメージおよび WES OS イメージ](#)」
- 300 ページの「[Windows CE OS イメージ](#)」
- 303 ページの「[Embedded Linux OS イメージ](#)」

Windows XPe イメージおよび WES OS イメージ

次のセクションでは、Windows XPe および Windows Embedded Standard (WES) シンクライアントオペレーティングシステムのイメージを準備してキャプチャする方法を説明します。

- 297 ページの「[Windows XPe または WES 参照マシンの準備](#)」

- 297 ページの「[Image Preparation Wizard の実行](#)」



XPe または WES シン クライアント デバイスのイメージをキャプチャし、その後、キャプチャしたイメージを容量の大きなフラッシュ ドライブを持つ XPe または WES シン クライアント デバイスに配布できます。これは、リリース ノートのドキュメントに記述されているような一定の制限に従う必要があります。

タスク 1: Windows XPe または WES 参照マシンの準備

イメージのキャプチャのため Windows XPe または WES シン クライアントを準備するには、次のものがが必要です。

- HPCA メディア
- XP Embedded Feature Pack 2007 メディア
- イメージ準備 CD-ROM

Windows XPe または WES イメージをキャプチャする前に、次の操作を行う必要があります。

- 1 Windows XPe または WES に管理者としてログインします。
- 2 XP Embedded Feature Pack 2007 メディアから、etprep.exe を C:\Windows にコピーします。
- 3 XP Embedded Feature Pack 2007 メディアから、fbreseat.exe を C:\Windows\fbfa にコピーします。
- 4 イメージをキャプチャする前に、HPCA Agent を Windows XPe または WES デバイスにインストールする必要があります。詳細については、82 ページの「[HP シン クライアントでの HPCA Agent のインストール](#)」を参照してください。

タスク 2: Image Preparation Wizard の実行

Image Preparation Wizard は以下のタスクを実行します。

- 1 マシンに十分な空きディスク領域があるかどうかをチェックし、HPCA agent がインストールされていることを確認します。十分な空きディスク領域がない場合、Image Preparation Wizard はメッセージを表示して終了します。
- 2 参照マシンに関する情報（ハードウェアおよび BIOS の機能など）を含むオブジェクトを作成します。
- 3 参照マシンを、作成した Image Preparation CD から起動したサービス オペレーティング システムから再起動します。Image Preparation Wizard の Linux ベースの部分が実行され、イメージとその関連ファイルが収集されます。

4 次のファイルを作成し、OS Manager Server の

InstallDir\Data\OSManagerServer\upload にコピーします。

— ImageName.IBR

このファイルにイメージが含まれます。シンクライアントイメージファイルは、参照マシンのフラッシュドライブと同じサイズです。

Windows XPe または WES のイメージは、同等以上のサイズのフラッシュドライブを備えたコピー先マシンに配布できます。このファイルには、イメージがインストールされるときにアクセス可能な組み込みファイルシステムが含まれています。

— ImageName.EDM

このファイルにはインベントリ情報を含むオブジェクトが含まれています。



これらのファイルが転送される間は、ネットワーク速度は最大速度より遅くなります。

イメージが配布された後、包括的なログ (*machineID.log*) は

InstallDir\Data\OSManagerServer\upload ディレクトリで利用できます。

Image Preparation Wizard を使用するには

- 1 作成した Image Preparation Wizard CD-ROM を参照マシンの CD-ROM ドライブに挿入します (シンクライアントデバイスには、USB CD-ROM ドライブが必要です)。この CD は、お使いの HPCA メディアの Media\iso\roms ディレクトリにある ImageCapture.iso を使用して作成されます。
- 2 自動実行が有効な場合、HPCA OS の準備とキャプチャ CD のウィンドウが開きます。
- 3 \image_preparation_wizard\win32 ディレクトリを参照します。
- 4 **prepwiz.exe** をダブルクリックします。
Image Preparation Wizard では、続行する前に、etprep.exe および fbreseal.exe が利用できるかどうかを確認されます。[ようこそ] ウィンドウが表示されます。
- 5 **[次へ]** をクリックします。
[エンドユーザー ライセンス契約] ウィンドウが表示されます。
- 6 **[同意する]** をクリックします。
- 7 HPCA server の IP アドレスまたはホスト名およびポートを入力します。これは、次の形式で指定する必要があります。

xxx.xxx.xxx.xxx;port

HPCA Core および Satellite インストールで OS のイメージングと配布用に使用される HPCA server ポートは 3466 です。HPCA Classic インストールでは、ポート 3469 がこの目的のために予約されています。

Image Preparation Wizard が HPCA server サーバーに接続できない場合は、メッセージが表示され、次の手順を実行する必要があります。


- [はい] をクリックして続行します。
 - [いいえ] をクリックして、ホスト名または IP アドレスを変更します。
 - [キャンセル] をクリックして、Image Preparation Wizard を終了します。
- 8 [次へ] をクリックします。
[イメージ名] ウィンドウが開きます。
 - 9 イメージファイルの名前を入力します。これは、HPCA server の \upload ディレクトリに格納されるイメージ名です。
 - 10 [次へ] をクリックします。
イメージの説明を入力するウィンドウが開きます。
 - 11 イメージファイルの説明を入力します。
 - 12 [次へ] をクリックします。
[オプション] ウィンドウが表示されます。
 - 13 適切なオプションを選択します。


OS のインストール後にクライアント接続を実行する


OS のインストール後に HPCA server に接続し、OS が正しくインストールされたことを確認するには、このチェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスをオンにしない場合は、OS がインストールされた後、OS 接続は自動的に実行されません。

- 14 デフォルトを受け入れて、[次へ] をクリックします。
[要約] ウィンドウが表示されます。
- 15 [開始] をクリックします。
- 16 [完了] をクリックします。
ウィザードがイメージを準備します。
- 17 [OK] をクリックします。

デバイスは、CD-ROM ドライブの **Image Preparation Wizard CD** から起動されます。このような動作になるように必要な設定の調整します（たとえば、BIOS のバージョンによっては、再起動プロセスの間に **F10** キーを押して、設定内の起動順序を変更できます）。

 デバイスが CD を起動せずに **Windows XPe** を起動する場合は、**297** ページの「**Windows XPe または WES 参照マシンの準備**」からプロセスをやり直す必要があります。

 イメージのアップロードは、長時間かかるように感じられる場合があります。転送速度は、プロセッサの速度やネットワーク環境により異なる場合があります。

 必要に応じて取得できるように、\upload ディレクトリに格納するファイルのコピーを作成できます。

キャプチャ中は、**Service OS** の画面にステータス情報が表示されます。詳細については、**308** ページの「**Windows PE Service OS 画面について**」を参照してください。

18 OS Image Preparation Wizard でネットワークに接続し、OS Manager Server の \upload ディレクトリにイメージが格納されます。

アップロードプロセスが完了すると、次のメッセージが表示されます。

OS イメージが正常に OS Manager Server へ送信されました。

**** CD を挿入している場合、CD を取り出して再起動します。

19 参照マシンを再起動して、必要な場合は起動設定を再調整し、元のオペレーティングシステムに戻ります。

次に、イメージを **HPCA database** にパブリッシュします。**311** ページの「**パブリッシュ**」を参照してください。

Windows CE OS イメージ

次のセクションでは、**Windows CE** シンクライアントオペレーティングシステムのイメージを準備し、キャプチャする方法を説明します。

- **300** ページの「**CE 参照マシンの準備**」
- **301** ページの「**Image Preparation Wizard の実行**」

タスク 1: CE 参照マシンの準備

- 製品メディア

- イメージ準備 CD-ROM

イメージをキャプチャする前に、HPCA Agent を Windows CE デバイスにインストールする必要があります。詳細については、82 ページの「[HP シンクライアントでの HPCA Agent のインストール](#)」を参照してください。

Local Service Boot (LSB) を使用して OS を Windows CE デバイスに配布する場合は、LSB サービスをインストールおよび抽出するデバイスに十分なディスク容量が必要です。デバイスを再起動しても Linux Service OS (SOS) を起動できなかった場合は、デバイスに割り当てられている「ストレージメモリ」の量が十分でない可能性があります。少なくとも 10 MB が必要です。

Windows CE デバイスで次の手順を実行します。

- 1 [開始] をクリックします。
- 2 [設定] > [コントロールパネル] を選択します。
- 3 [システム] アイコンをクリックします。
- 4 [メモリ] タブを選択します。
- 5 左にあるスライダを使用して、[ストレージメモリ] を 10 MB 以上に増やします。

タスク 2: Image Preparation Wizard の実行

Image Preparation Wizard は以下のタスクを実行します。

- 1 参照マシンに関する情報 (ハードウェアおよび BIOS の機能など) を含むオブジェクトを作成します。
- 2 参照マシンを ImageCapture メディアから起動されたサービスオペレーティングシステムで再起動します。Image Preparation Wizard の Linux ベースの部分が実行され、イメージとその関連ファイルが収集されます。
- 3 次のファイルを作成し、HPCA server の `InstallDir\Data\OSManagerServer\upload` にコピーします。

ImageName.IBR

このファイルにイメージが含まれます。シンクライアントイメージファイルは、参照マシンのフラッシュドライブと同じサイズです。

Windows CE のイメージは、同等のサイズのフラッシュドライブを備えたコピー先マシンに配布できます。このファイルには、イメージがインストールされるときにアクセス可能な組み込みファイルシステムが含まれています。

ImageName.EDM

このファイルにはインベントリ情報を含むオブジェクトが含まれています。

- ▶ これらのファイルが転送される間は、ネットワーク速度は最大速度より遅くなります。
イメージが配布された後、包括的なログ (machineID.log) は `InstallDir\Data\OSManagerServer\upload` ディレクトリで利用できます。

Image Preparation Wizard を使用するには

- 1 作成した **Image Preparation Wizard CD-ROM** を参照マシンの **CD-ROM** ドライブに挿入します (シンクライアントデバイスには、**USB CD-ROM** ドライブが必要です)。この CD は、お使いの HPCA メディアの `Media\iso\roms` ディレクトリにある `ImageCapture.iso` を使用して作成されます。
- 2 自動実行が有効な場合、HPCA OS の準備とキャプチャ CD のウィンドウが開きます。
- 3 CD で、`\image_preparation_wizard\WinCE` ディレクトリを参照します。
- 4 **prep wiz.exe** をダブルクリックします。Image Preparation Wizard が開始されます。
- 5 HPCA server の IP アドレスまたはホスト名およびポートを入力します。これは、次の形式で指定する必要があります。


`xxx.xxx.xxx.xxx:port`


HPCA Core および Satellite インストールで OS のイメージングと配布用に使用される HPCA server ポートは 3466 です。HPCA Classic インストールでは、ポート 3469 がこの目的のために予約されています。


Image Preparation Wizard が HPCA server に接続できない場合は、メッセージが表示され、次の手順を実行する必要があります。

- **[はい]** をクリックして続行します。
 - **[いいえ]** をクリックして、ホスト名または IP アドレスを変更します。
 - **[キャンセル]** をクリックして、Image Preparation Wizard を終了します。
- 6 **[OK]** をクリックします。
ウィザードがイメージを準備します。

デバイスは、CD-ROM ドライブの **Image Preparation Wizard CD** から起動されます。このような動作になるように必要な設定の調整します（たとえば、BIOS のバージョンによっては、再起動プロセスの間に **F10** キーを押して、設定内の起動順序を変更できます）。

 デバイスが CD を起動せずに **Windows CE** を起動する場合は、**300** ページの「**CE 参照マシンの準備**」からプロセスをやり直す必要があります。

 イメージのアップロードは、長時間かかるように感じられる場合があります。転送速度は、プロセッサの速度やネットワーク環境により異なる場合があります。

 必要に応じて取得できるように、\upload ディレクトリに格納するファイルのコピーを作成できます。

キャプチャ中は、**Service OS** の画面にステータス情報が表示されます。詳細については、**308** ページの「**Windows PE Service OS 画面について**」を参照してください。

- 7 **Image Preparation Wizard** でネットワークに接続し、**OS Manager Server** の \upload ディレクトリにイメージが格納されます。

アップロードプロセスが完了すると、次のメッセージが表示されます。

OS イメージが正常に OS Manager Server へ送信されました。

**** CD を挿入している場合、CD を取り出して再起動します。

- 8 参照マシンを再起動して、必要な場合は起動設定を再調整し、元のオペレーティングシステムに戻ります。

次に、イメージを **Configuration Server DB** にパブリッシュする場合、**311** ページの「**パブリッシュ**」を参照してください。

Embedded Linux OS イメージ

次のセクションでは、**Embedded Linux** オペレーティングシステムのイメージを準備しキャプチャする方法を説明します。

- **304** ページの「**Embedded Linux 参照マシンの準備**」
- **305** ページの「**Image Preparation Wizard の実行**」

タスク 1: Embedded Linux 参照マシンの準備

イメージキャプチャのため Embedded Linux シンクライアントを準備するには、以下のものがが必要です。

- HPCA メディア
- イメージ準備 CD-ROM

イメージをキャプチャする前に、HPCA Agent を Embedded Linux デバイスにインストールする必要があります。詳細は、82 ページの「[HP シンクライアントでの HPCA Agent のインストール](#)」を参照してください。



HPCA Registration and Loading Facility (RALF) が参照マシンに事前にインストールされていない場合は、HPCA Agent のインストール後にインストールする必要があります。詳細については、83 ページの「[HP シンクライアントデバイスへの Agent の手動インストール](#)」を参照してください。

xterm 用のカスタム接続を作成するには

ThinPro オペレーティングシステムを使用している場合は、xterm 接続を作成するために、カスタム接続の作成が必要になることがあります。

- 1 左下隅の HP メニューで [**シャットダウン**] を選択します。
- 2 [Thin Client Action] ドロップダウンで [**Switch to admin mode**] を選択し、管理者パスワード (デフォルトのパスワードは root) を指定します。

注 : Control Center の背景が青から赤に変化します。

- 3 [Control Center] で [**追加**] ドロップダウンリストをクリックし、[**カスタム**] オプションを選択します。
- 4 [名前] を [**xterm**] に設定します。
- 5 [コマンド] に次を入力して実行します。

```
sudo xterm -e bash &
```

- 6 [**完了**] をクリックします。

これで、xterm セッションを開くために使用できる接続ができました。

タスク 2: Image Preparation Wizard の実行

Image Preparation Wizard は以下のタスクを実行します。

- 1 マシンに十分な空きディスク領域があるかどうかをチェックし、HPCA agent がインストールされていることを確認します。十分な空きディスク領域がない場合、Image Preparation Wizard はメッセージを表示して終了します。
- 2 参照マシンに関する情報（ハードウェアおよび BIOS の機能など）を含むオブジェクトを作成します。
- 3 参照マシンを、作成したイメージ準備 CD から起動したサービス オペレーティング システムから再起動します。OS Manager の Image Preparation Wizard の Linux ベースの部分が動作して、イメージおよび関連ファイルを収集します。
- 4 次のファイルを作成し、HPCA server の `InstallDir\Data\OSManagerServer\upload` にコピーします。

- ImageName.DD

このファイルにイメージが含まれます。シンクライアントイメージファイルは、参照マシンのフラッシュ ドライブと同じサイズです。

Linux ベースのイメージは、サイズが同じフラッシュ ドライブを備えたコピー先マシンにしか配布できません。このファイルには、イメージがインストールされる時にアクセス可能な組み込みファイル システムが含まれています。

- ImageName.EDM

このファイルにはインベントリ情報を含むオブジェクトが含まれています。

▶ これらのファイルが転送される間は、ネットワーク速度は最大速度より遅くなります。

イメージが配布された後、包括的なログ (`machineID.log`) は `InstallDir\Data\OSManagerServer\upload` ディレクトリで利用できます。

Image Preparation Wizard を使用するには

- 1 作成した **Image Preparation Wizard CD-ROM** を参照マシンの **CD-ROM** ドライブに挿入します (シンクライアントデバイスには、**USB CD-ROM** ドライブが必要です)。この CD は、**HPCA** メディアの `Media\iso\roms` ディレクトリにある `ImageCapture.iso` を使用して作成されます。



Linux シンクライアントモデルでは、**CD-ROM** が実行されないように、マウント時にデフォルトで `noexec` オプションが設定される場合があります。これにより、**Image Preparation Wizard** を実行しようとする、アクセス許可のエラーが起こったり、実行に失敗したりします。この問題を解決するには、`noexec` オプションを設定せずに **CD-ROM** を再マウントしてください。

- 2 **Image Preparation CD** で、`/image_preparation_wizard/linux` に移動し、`./prep wiz.` を実行します。

[ようこそ] ウィンドウが表示されます。

- 3 **[次へ]** をクリックします。

[エンドユーザー ライセンス契約] ウィンドウが表示されます。

- 4 **[同意する]** をクリックします。

- 5 **HPCA server** の IP アドレスまたはホスト名およびポートを入力します。これは、次の形式で指定する必要があります。

`xxx.xxx.xxx.xxx:port`

HPCA Core および **Satellite** インストールで OS のイメージングと配布用に使用される **HPCA server** ポートは **3466** です。**HPCA Classic** インストールでは、ポート **3469** がこの目的のために予約されています。

Image Preparation Wizard が **HPCA server** に接続できない場合は、メッセージが表示され、次の手順を実行する必要があります。

— **[はい]** をクリックして続行します。

— **[いいえ]** をクリックして、ホスト名または IP アドレスを変更します。

— **[キャンセル]** をクリックして、**Image Preparation Wizard** を終了します。

- 6 **[次へ]** をクリックします。

[イメージ名] ウィンドウが開きます。

- 7 イメージファイルの名前を入力します。これは、**HPCA server** の `\upload` ディレクトリに格納されるイメージ名です。

- 8 **[次へ]** をクリックします。
イメージの説明を入力するウィンドウが開きます。
- 9 イメージ ファイルの説明を入力します。
- 10 **[次へ]** をクリックします。
[オプション] ウィンドウが表示されます。
- 11 適切なオプションを選択します。

OS のインストール後にクライアント接続を実行する

OS のインストール後に HPCA server に接続し、OS が正しくインストールされたことを確認するには、このチェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスをオンにしない場合は、OS がインストールされた後、OS 接続は自動的に実行されません。

- 12 デフォルトを受け入れて、**[次へ]** をクリックします。
[要約] ウィンドウが表示されます。
- 13 **[開始]** をクリックします。
- 14 **[完了]** をクリックします。
ウィザードがイメージを準備します。
- 15 **[OK]** をクリックします。

デバイスは、CD-ROM ドライブの Image Preparation Wizard CD から起動されます。このような動作になるように必要な設定の調整します(たとえば、BIOS のバージョンによっては、再起動プロセスの間に F10 キーを押して、設定内の起動順序を変更できます)。



デバイスが CD を起動せずに Linux を起動する場合は、304 ページの「[Embedded Linux 参照マシンの準備](#)」からプロセスをやり直す必要があります。



イメージのアップロードは、長時間かかるように感じられる場合があります。転送速度は、プロセッサの速度やネットワーク環境により異なる場合があります。



必要に応じて取得できるように、\upload ディレクトリに格納するファイルのコピーを作成できます。

- 16 Image Preparation Wizard でネットワークに接続し、OS Manager Server の \upload ディレクトリにイメージが格納されます。
アップロードプロセスが完了すると、次のメッセージが表示されます。
OS イメージが正常に OS Manager Server へ送信されました。

**** CD を挿入している場合、CD を取り出して再起動します。

- 17 参照マシンを再起動して、必要な場合は起動設定を再調整し、元のオペレーティングシステムに戻ります。

次に、管理対象デバイスに配布するため、イメージを HPCA database にパブリッシュします。311 ページの「パブリッシュ」を参照してください。

OS イメージのパブリッシュおよび配布

イメージをキャプチャしたら、Publisher を使用して HPCA データベースにそのイメージをパブリッシュします。手順については、311 ページの「パブリッシュ」を参照してください。

HPCA に OS イメージをパブリッシュしたら、[操作] タブの [OS ライブラリ] ページを更新して、新しいイメージを表示します。HPCA Console ツールバーを使用して、選択したデバイスにイメージを配布します。

Windows PE Service OS 画面について

Service OS は Linux や Windows PE のような軽量のオペレーティングシステムに基づくインストール前環境です。Service OS が次のことを行います。

- 1 ターゲット ハードウェアの起動
- 2 ハードウェアを正しく機能させるために、必要なすべてのドライバを読み込みます。
- 3 HPCA プログラムをダウンロードして実行します。つまり、OS イメージをダウンロードしてインストールします。

Service OS を使用して次のタイプの操作を実行します。

- ターゲット デバイスのハードウェアに対する操作 (BIOS の更新またはハードウェアの設定など)
- ターゲット デバイスのプロビジョニング (OS の配布など)
- OS イメージのキャプチャ

Service OS を起動するたびに、関連デバイスで [Service OS] 画面が表示されます。OS イメージのキャプチャ中は、参照マシンで [Service OS] 画面が表示されます。OS の配布中は、ターゲット デバイスで [Service OS] 画面が表示されます。

Windows PE の [Service OS] 画面では操作の状況を示します。図 16 にイメージキャプチャの操作中に表示される画面の例を示します。

図 16 Windows PE の [Service OS] 画面の例



Windows PE の [Service OS] 画面の右側には、実行手順のログがスクロール表示されます。

- 緑のチェックマーク アイコンは、特定の手順が進行中であるか、正常に完了したことを示します。
- 黄色の三角のアイコンは、問題が発生している可能性があることを示す警告です。

- 赤い **X** アイコンは、キャプチャまたは配布のこの手順が失敗したことを示します。
- 青い疑問符 (?) アイコンは、入力が必要であることを示します。

現在の手順に関する情報は、常にメッセージ一覧の下部に表示されます。メッセージをすべて表示する十分な領域がない場合は、右端にスクロールバーが表示されます。

操作が完了すると、詳細な手順がある場合は、[Service OS] 画面の左側に緑のチェックマークが表示されます。操作が正常でない場合は、この場所に赤い **X** が表示され、失敗の原因に関する情報を表示します。

操作が失敗した場合は、スクロールバーを使用して検出されたハードウェアに関する情報を表示し、プロセスで失敗が発生した場所を特定できます。

12 パブリッシュ

HPCA Publisher を使用して HP Client Automation (HPCA) に次の項目をパブリッシュします。

- ソフトウェア
- BIOS 設定
- HP Softpaq
- OS イメージ

パブリッシュされたソフトウェアは、メイン HPCA Console の [操作] タブにある [ソフトウェア ライブラリ] にあります。パブリッシュされたオペレーティングシステムは、[オペレーティングシステム] タブの [OS ライブラリ] にあります。



Publisher は HPCA Core のインストール時に自動的にインストールされます。マシンに HPCA Agent がすでにインストールされている場合、Publisher は Agent のフォルダにインストールされます。別の場所にインストールする場合は、製品メディアの HP Client Automation Administrator インストール ファイルを使用するか、ソフトウェア ライブラリの HPCA Administrator Publisher サービスを使用できます。詳細については、『HP Client Automation Core および Satellite 入門およびコンセプトガイド』の「HPCA Administrator の手動インストール」を参照してください。

ソフトウェアはパブリッシュした後、使用環境の管理対象デバイスへ付与と配布を行う必要があります。

Publisher を起動するには

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [HP Client Automation Administrator] → [HP Client Automation Administrator Publisher] に移動します。
- 2 Publisher にログインするには、HPCA Administrator のユーザー名とパスワードを使用します。デフォルトでは、ユーザー名は **admin**、パスワードは **secret** です。



パブリッシュ オプションは、ターゲット デバイスおよびインストールしている HPCA ライセンスによって異なります。

312 ページの表 31 に、3 種類のライセンス レベルごとに選択可能なパブリッシュ オプションを示します。

表 31 各 HPCA ライセンスで選択可能なパブリッシュ オプション

パブリッシュ オプション	Starter	Standard	Enterprise
コンポーネントの選択	いいえ	はい	はい
ハードウェア設定	いいえ	いいえ	はい
HP BIOS 設定	はい	はい	いいえ
HP Softpaq	はい	はい	いいえ
OS ADDON/ 追加 POS ドライバ	いいえ	はい	はい
OS イメージ	いいえ	はい	はい
Windows インストーラ	いいえ	はい	はい
シンクライアントのコンポーネントの選択	はい	はい	はい
シンクライアントの OS イメージ	はい	はい	はい

次の各セクションでは、ライセンスに応じたパブリッシュ オプションで **Publisher** を使用する方法を説明します。シンクライアントパブリッシュ オプションを選択する場合は、次の該当するセクションの手順に従ってください。

- 313 ページの「ソフトウェアのパブリッシュ」
- 317 ページの「オペレーティング システム イメージのパブリッシュ」
- 325 ページの「OS ADDON および追加 Production OS (POS) ドライバのパブリッシュ」
- 326 ページの「HP Softpaq のパブリッシュ」
- 328 ページの「BIOS 設定のパブリッシュ」

ソフトウェアのパブリッシュ

パブリッシュするソフトウェアのタイプにより、2つのパブリッシュ オプションの1つを使用します。ログイン画面で、[Windows インストーラ]を使用して Windows インストーラ ファイル(.msi)をパブリッシュするのか、[コンポーネントの選択]を使用して Windows 以外のインストーラ ファイルをパブリッシュするのかを選択します。次のセクションでは、各ファイルタイプをパブリッシュする手順を説明します。

- 313 ページの「Windows インストーラ ファイルのパブリッシュ」
- 315 ページの「[コンポーネントの選択]を使用したパブリッシュ」

Windows インストーラ ファイルのパブリッシュ

Windows インストーラは、MSI ファイルを使用して、オペレーティング システムにソフトウェア サービスを配布します。Publisher では、このファイルによりサービスが作成され、そのサービスが HPCA にパブリッシュされます。ソフトウェア サービスが HPCA に格納されると、お使いの環境の管理対象デバイスに配布する準備が整います。

Windows インストーラ ファイルをパブリッシュするには

- 1 Publisher を起動します(311 ページの「Publisher を起動するには」を参照)。
- 2 ログオン画面で、管理者ユーザー ID およびパスワードを入力して、[OK] をクリックします。
 - ▶ HPCA のユーザー名とパスワードを使用して、Publisher にログインします。デフォルトでは、ユーザー名は **admin**、パスワードは **secret** です。
- 3 [パブリッシュ オプション] 領域で、[Windows インストーラ]を選択して、[OK] をクリックします。
- 4 左ペインの Windows インストーラ ファイルへ移動します。右ペインには、選択した MSI ファイルで利用可能な情報が表示されます。
- 5 [次へ] をクリックします。
- 6 使用できるパブリッシュ オプションを確認します。
 - 管理オプション
管理インストール ポイント (AIP) を作成するには、[setup を使用] または [msiexec を使用] を選択します。
 - ▶ AIP のパスは、一時的な場所であり、パブリッシュ セッションが完了したら、削除されます。

— 変換

Windows インストーラ ファイルに関連付けられた変換ファイルのアプリケーションを選択し、順序を変更します。

— 追加のファイル

AIP の一部として追加のファイルを含めます。

- リストに表示された利用可能なファイルをすべて選択するには、[すべて選択] をクリックします。
- すべてのファイルの選択を解除するには、[選択なし] をクリックします。

— プロパティ

msi ファイルのプロパティを表示して変更します。Windows インストーラ ファイルには、正しく配布するために追加のコマンドラインパラメータが必要な場合があります。たとえば、アプリケーションはインストール中にシリアル番号を渡すカスタム プロパティを必要とすることがあります。[プロパティ] ダイアログを使用して、パラメータを追加します。

- 新しいプロパティを追加するには [追加] をクリックします。
- 既存のプロパティを削除するには [削除] をクリックします。
- プロパティの [名前] または [値] を変更するには、変更するアイテムをクリックして新しい値を入力します。

パブリッシュ オプションの編集が終わったら、[次へ] をクリックします。

- 7 [アプリケーションの情報] セクションでソフトウェア サービスの情報を入力します。
- 8 [パッケージを適用する対象システム] セクションを使用して、特定のオペレーティング システムまたはハードウェアへのサービスを制限します。いずれかのリンクをクリックして、設定可能なオプションを表示します。
- 9 [次へ] をクリックします。
- 10 [要約] セクションで、前の手順で指定したサービス情報を確認します。情報を確認したら、[パブリッシュ] をクリックします。
- 11 パブリッシュ プロセスが完了したら、[完了] をクリックして Publisher を終了します。

これで、Windows インストーラ サービスを企業へ配布する準備が整いました。

変換ファイルを使用してその他のパラメータを適用するには


- 1 Orca や他の MSI エディタを使用して変換を作成します。変換は、必ず Windows インストーラ ファイルがパブリッシュされるディレクトリと同じディレクトリに保存します。

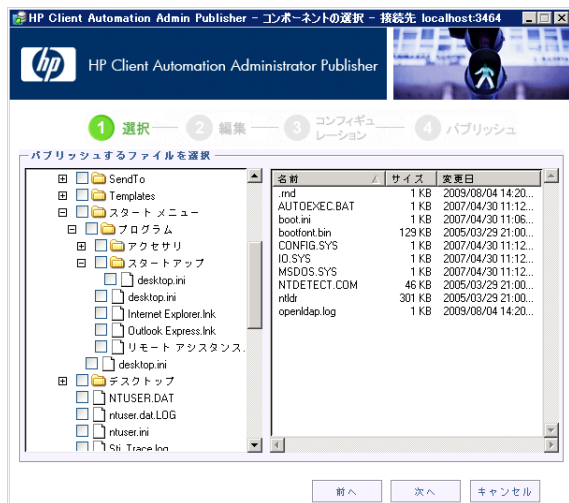
- 2 **Windows** インストーラのパブリッシュ セッションを開始します。詳細は、上記の指示に従います。
- 3 編集手順で **[変換]** をクリックします。
- 4 利用可能な変換ファイルを選択して、パブリッシュ セッションを続けます。
ソフトウェア サービスが配布されると、変換ファイルが適用され、追加の
コマンド ライン パラメータが指定されます。

[コンポーネントの選択] を使用したパブリッシュ

Windows インストーラ ファイル以外のソフトウェアをパブリッシュするには、**[コンポーネントの選択]** オプションを使用して、パブリッシュするソフトウェアを選択します。

[コンポーネントの選択] を使用してパブリッシュするには

- 1 **Publisher** を起動します (311 ページの「**Publisher** を起動するには」を参照)。
- 2 ログオン画面で、管理者ユーザー ID およびパスワードを入力して、**[OK]** をクリックします。
 **HPCA** のユーザー名とパスワードを使用して、**Publisher** にログインします。デフォルトでは、ユーザー名は **admin**、パスワードは **secret** です。
- 3 **[パブリッシュ オプション]** 領域で以下の操作を実行します。
 - シンクライアントへパブリッシュしている場合は、**[シンクライアントのパブリッシュ]** を選択します。
 - ドロップダウン リストから **[コンポーネントの選択]** を選択します。
- 4 **[OK]** をクリックします。**[パブリッシュするファイルを選択]** ウィンドウが開きます。



- 5 パブリッシュするファイルを選択して、**[次へ]**をクリックします。

- ▶ ソフトウェアがある（パブリッシュ元の）ディレクトリパスは、ソフトウェアが配布されるターゲットデバイスのディレクトリパスになります。
- ▶ ネットワーク共有が表示されますが、配布中に利用できなくなる場合があるためソフトウェアのパブリッシュには使用しません。

[ターゲットパス] ウィンドウが開きます。

- 6 シンクライアントへパブリッシュしている場合、インストールポイントを選択します。次の図を参照してください。



- 7 コマンドを入力して、アプリケーションのインストールおよびアンインストールを実行します。たとえば、インストールを実行するコマンドは、`C:\temp\installs`
`\install.exe /quietmode /automatic c:\mydestination`です。

アンインストールを実行するコマンドは、C:\temp\installs
\uninstall.exe /quietmode /automatic です。

▶ ファイルを右クリックして、インストールまたはアンインストール
コマンドとして設定できます。

- 8 **[次へ]** をクリックします。[アプリケーションの情報] ウィンドウが表示されます。
- 9 [アプリケーションの情報] セクションでソフトウェア サービスの情報を入力します。
- 10 **[パッケージを適用する対象システム]** セクションを使用して、特定のオペレーティング システムまたはハードウェアへのサービスを制限します。いずれかのリンクをクリックして、設定可能なオプションを表示します。
- 11 **[次へ]** をクリックします。
- 12 [要約] セクションで、前の手順で指定したサービス情報を確認します。設定を終了したら、**[パブリッシュ]** をクリックします。
- 13 パブリッシュ プロセスが完了したら、**[完了]** をクリックして **Publisher** を終了します。

これで、ソフトウェア サービスを企業へ配布する準備が整いました。

オペレーティング システム イメージのパブリッシュ

Image Preparation Wizard を使用して作成されるオペレーティング システム イメージは、**HPCA Server** の次のディレクトリに格納されます。

`InstallDir\Data\OSManagerServer\upload`

Publisher を使用して、管理対象デバイスに配布するオペレーティング システム イメージ ファイルをパブリッシュできます。必要なファイルは、使用する配布方法によって異なります (318 ページの表 32 を参照)。

参照マシンから OS イメージをキャプチャする場合、キャプチャ プロセスで生成されるファイルが必要になります。詳細については、285 ページの「OS イメージの準備とキャプチャ」を参照してください。

▶ .WIM イメージをパブリッシュする場合は、319 ページの「.WIM イメージのパブリッシュの前提条件」を参照してからパブリッシュ プロセスを開始してください。

表 32 OS イメージのパブリッシュに必要なファイル

配布メソッド	必要なファイル	参照先
DVD から直接	DVD WIM ファイル HPCA unattend-dvd.xml	320 ページの「DVD から直接パブリッシュする場合の前提条件」
Microsoft ImageX	ImageName.WIM ImageName.EDM HPCA unattend-capture.xml	319 ページの「.WIM イメージのパブリッシュの前提条件」
Windows セットアップ	ImageName.WIM ImageName.EDM HPCA unattend-capture.xml	319 ページの「.WIM イメージのパブリッシュの前提条件」
レガシー	ImageName.IMG ImageName.MBR ImageName.EDM ImageName.PAR WinXPe または Windows CE の場合 ImageName.IBR ImageName.EDM Linux の場合 ImageName.DD ImageName.EDM	322 ページの「OS イメージのパブリッシュ」

▶ 表 32 の unattend ファイルの名前は、Image Capture ISO によって提供されるファイルを表しています。このファイル名は適切な名前に変更できます。

unattend ファイルのカスタマイズの詳細については、411 ページの「Windows 応答ファイルのカスタマイズ」を参照してください。

.WIM イメージのパブリッシュの前提条件



このセクションの情報は、次の Windows オペレーティング システムに関連しています。

- Windows XP SP2/SP3
- Windows 2003 SP1/SP2
- Windows Vista
- Windows Server 2008
- Windows 7
- Windows Server 2008 リリース 2 (R2)

これらのバージョンの Windows の .WIM イメージをパブリッシュする場合は、次の条件を満たしている必要があります。

- HPCA メディアの Media\client\default フォルダにアクセスできること。

このフォルダは、.WIM ファイルを初めてパブリッシュするとき、または更新したエージェントパッケージをパブリッシュする場合にのみ必要になります。HPCA Agent は個別のパッケージとしてパブリッシュされます。これにより、それ以降のすべての .WIM ファイルの配布では、必ず使用可能な最新の Agent が自動的に受信されます。

- Windows Vista、Windows Server 2008、または Windows 7 の場合

Windows セットアップを使用して配布する場合、.WIM ファイルの取得または作成に使用した Windows インストール メディアから、イメージのパブリッシュ先のデバイス上の \sources フォルダにアクセスできる必要があります。

Windows XP または Windows 2003 の .WIM ファイルには適用されません。

- イメージのパブリッシュ先のデバイスに Windows Automated Installation Kit (AIK) for Windows 7 をインストールします。Windows AIK は、Microsoft Web サイトからダウンロードできます。



Windows 7 バージョンの Windows AIK がインストールされていることを確認します。このバージョンは、前のリストのすべてのオペレーティング システムで機能します。

次のデフォルトの場所に Windows AIK をインストールします。

C:\Program Files\Windows AIK

- 既存の filename.wim を使用している場合、イメージのパブリッシュ先のデバイスにそのファイルをコピーします。

- **Image Preparation Wizard** を使用して **.WIM** ファイルを準備およびキャプチャした場合、*filename.wim* および *filename.edm* を **HPCA server** の `\upload` ディレクトリ (*InstallDir*\Data\OSManagerServer\upload) からイメージのパブリッシュ先デバイスにコピーします。

ファイルがスパンされている場合、*filename.swm* や *filename2.swm* などを `\upload` ディレクトリからコピーします。ファイルは *filename.wim*、*filename.002*、*filename.003* などのようにパブリッシュされます。

- **HPCA** には、無人インストールで使用できる **Windows** セットアップ応答ファイルが用意されています。**Publisher** を実行するときに、**HPCA** が提供する応答ファイルを使用する（推奨メソッド）のか、独自のファイルを作成するのを選択できます。詳細については、**321** ページの「**Windows セットアップの応答ファイルの指定**」を参照してください。

HPCA が提供する応答ファイルは *unattend.xml* と呼ばれます。各オペレーティングシステムおよびアーキテクチャ (**32** ビットまたは **64** ビットなど) には、独自の *unattend.xml* ファイルがあります。これらのファイルは、次のサブディレクトリにあります。

InstallDir\Data\OSManagerServer\capture-conf

HP が提供する *unattend.xml* ファイルを使用する場合、使用環境に合わせて変更してから **Publisher** を実行する必要があります。最低でも、パブリッシュするイメージの **ProductKey** は指定する必要があります。

TimeZone や **RegisteredOrganization** など、このファイルの他の設定も変更できます。詳細については、**411** ページの「**Windows 応答ファイルのカスタマイズ**」を参照してください。



このディレクトリ内のファイルやフォルダが読み取り専用には設定されていないことを確認してください。読み取り専用には設定されていると、イメージは配布できません。

DVD から直接パブリッシュする場合の前提条件

DVD から直接 OS イメージをパブリッシュする方法が、最も簡単な使用方法です。これは、**Windows** セットアップを使用して配布が行われることを意味します。イメージを直接配布する場合、**Image Preparation Wizard** を使用して、配布方法として **ImageX** を選択する必要があります。

DVD から直接 OS イメージをパブリッシュする準備をするには

- 1 イメージをパブリッシュするデバイスのローカルフォルダに DVD の *install.wim* ファイルをコピーします。
- 2 **Image Capture ISO** をマウントします。

Windows セットアップの応答ファイルの指定

バージョン 7.90 より前の HPCA では、HPCA で使用するファイルとその名前を手動で変更して、特定の OS イメージの無人インストールをサポートする必要がありました。

このバージョンでは、**Publisher** の実行時にこの情報のソースを指定できます。この新しいメソッドは、手動の場合に比べてはるかに簡単でエラーが発生しにくくなります。これは、この情報を指定する場合に推奨されるメソッドです。

下位互換性のために、このガイドの付録で古いメソッドについて説明します。

411 ページの「[Windows 応答ファイルのカスタマイズ](#)」を参照してください。

OS イメージのパブリッシュ

次のセクションでは、**Publisher** を使用してオペレーティング システム イメージをパブリッシュする方法を説明します。次の 4 つの基本手順があります。

- OS イメージの選択
- 無人インストールで使用する Windows 応答ファイルの選択 (必要な場合)
- パッケージ オプションの指定
- パブリッシュ

次の手順で詳しく説明します。注: 手順は、選択するオプションによって変わります。



Publisher を起動する前に「**.WIM イメージのパブリッシュの前提条件**」または 320 ページの「**DVD から直接パブリッシュする場合の前提条件**」を満たしていることを確認します。

オペレーティング システム イメージをパブリッシュするには

- 1 **Publisher** を起動します。311 ページの「**Publisher を起動するには**」を参照してください。
- 2 [パブリッシュ オプション] 領域で以下の操作を実行します。
 - シンクライアントへパブリッシュしている場合は、[**シンクライアントのパブリッシュ**] を選択します。
 - ドロップダウン メニューから、[**OS イメージ**] を選択します。
- 3 [**OK**] をクリックします。[OS イメージ ファイルの選択] ページが開きます。
- 4 パブリッシュする OS イメージ ファイルを選択します。

Image Preparation Wizard を使用して作成されるイメージは、HPCA server の次のフォルダに格納されます。

`InstallDir\Data\OSManagerServer\upload`

- 5 続行する前に、[**説明**] 領域を使用して、正しいファイルを選択していることを確認します。説明に情報を追加することもできます。
- 6 [**次へ**] をクリックします。
- 7 **手順 4** で .WIM ファイルを選択しなかった場合 (たとえば、シンクライアント イメージをパブリッシュする場合など) は、**手順 13** に進みます。

- 8 このイメージの *.subs および *.xml ファイルを手動で作成した場合、**手順 10**に進んでください。この方法は推奨しません。詳細については、**411** ページの「**Windows 応答ファイルのカスタマイズ**」を参照してください。
- 9 ディレクトリ ツリーで、無人インストールで使用する **Windows 応答ファイル** (unattend.xml) を選択します。
詳細については、**319** ページの「**.WIM イメージのパブリッシュの前提条件**」を参照してください。
- 10 **[次へ]** をクリックします。
- 11 次の操作 **1** または操作 **2** のいずれかを実行します。

操作 1: ImageX を配布するために **Image Preparation Wizard** メソッドを使用して作成された .WIM ファイルを選択した場合

- a **[配布方法]** ドロップダウン メニューで、**[Microsoft ImageX]** を選択します。
- b **[送信元]** ボックスは無視します。

または

操作 2: Windows セットアップを配布するために **Image Preparation Wizard** を使用して作成された .WIM ファイルを**手順 4**で選択した場合、または .WIM ファイルを **DVD** メディアからパブリッシュする場合

- a **[配布方法]** ドロップダウン メニューで、**[Microsoft セットアップ]** を選択します。
- b **[送信元]** ボックスで、**[ブラウズ]** ボタンを使用して **Windows インストール メディア DVD** の \sources ディレクトリを選択します。この **DVD** は、**Image Preparation Wizard** を使用してキャプチャした参照マシンをセットアップするために使用されたものです。



64 ビットのイメージファイルのパブリッシュする場合でも、必ず **32** ビットの **Windows インストール メディア DVD** の \sources ディレクトリを使用してください。

- 12 残りのフィールドに適切なアプリケーション情報を入力します。
- 13 **[次へ]** をクリックします。**[要約]** ウィンドウが表示されます。
- 14 **[要約]** 情報を確認して、前の手順で指定したパッケージおよびサービスの情報を検証します。情報を確認したら、**[パブリッシュ]** をクリックします。
- 15 パブリッシュ プロセスが完了したら、**[完了]** をクリックして **Publisher** を終了します。

これで、企業内の管理対象デバイスへサービスを配布する準備が整いました。

パブリッシュされたオペレーティング システム イメージ サービスは、[オペレーション] タブの [OS ライブラリ] で確認できます。

OS ADDON および追加 Production OS (POS) ドライバのパブリッシュ

- ▶ このプロセスについての詳細は、『HPCA OS Manager システム管理者ガイド』の「終了ポイントを使用しデバイス ドライバを追加しての OS 配布のカスタマイズ」を参照してください。

イメージが新しいローカルパーティションにインストールされた後に配布される **デルタ パッケージ** を作成することにより、以前に準備したイメージにドライバを追加できます。この操作は、**Microsoft Windows** セットアップおよび **ImageX** の配布方法に限定されます。

前提条件

- OS サービスをパブリッシュします。Publisher により、このサービスの下に `OS.ADDON.ServiceName_*` という接続が自動的に作成されます。
- OS ドライバをパブリッシュする場合
 - 次のディレクトリを作成します。
`C:\MyDrivers\osmgr.hlp\drivers`
 - パブリッシュする各ドライバをこのディレクトリに格納します。

デルタ パッケージをパブリッシュするには

- 1 [スタート] > [すべてのプログラム] > [HP Client Automation Administrator] > [HP Client Automation Administrator Publisher] に移動します。ログオン画面が表示されます。
- 2 HPCA Administrator のユーザー ID とパスワード (デフォルトでは **admin** と **secret**) を入力します。
- 3 [パブリッシュ オプション] ウィンドウで、ドロップダウン リストから [OS アドオン/追加 POS ドライバ] を選択します。
- 4 [OK] をクリックします。
- 5 [ドライバのディレクトリの選択] ウィンドウを使用して、次の各項目を指定します。
 - ディレクトリ ツリーで、`C:\MyDrivers` ディレクトリを選択します。
ディレクトリ以下のすべてが再帰的にスキャン、組み込み、パブリッシュされます。

- b **[ADDON タイプ]** ドロップダウン リストから、**OS ドライバ** ファイルを選択します。
- c **[ターゲット サービスの選択]** ドロップダウン リストから、これらのドライバまたは ADDON に追加する **OS サービス** を選択します。
- d 任意指定の **[サフィックス]** テキスト ボックスには、パッケージの追跡に使用可能な番号を入力できます。たとえば、**VISTA_PDD** というインスタンスの場合にこのテキスト ボックスに「0」と入力すると、新しい ADDON インスタンス名は **VISTA_PDD_0** となります。

[ADDON インスタンス名] テキスト ボックスには、選択した OS サービス名に基づいて、インスタンス名があらかじめ設定されます。この名前はそのままにすることをお勧めします。

この名前はそのままにすることをお勧めします。この名前を修正すると、自分で接続を作成しない限り、OS サービスと ADDON インスタンスの間の接続がなくなります。

- 6 **[次へ]** をクリックします。
- 7 要約画面の内容を確認し、**[パブリッシュ]** をクリックします。

HP Softpaq のパブリッシュ

HP Softpaq は、サポート ソフトウェアの集合です。これには、デバイス ドライバ、設定プログラム、フラッシュ可能な ROM イメージなど、デバイスを最新の状態に保ち、最善のパフォーマンスを発揮させるのに利用可能なユーティリティが含まれます。

SoftPaq は、実行可能 (.EXE) ファイルとして使用できます。

Publisher を使用して、管理対象デバイスに配布するため HP SoftPaq を HPCA へパブリッシュします。

Softpaq をパブリッシュするには

- 1 Publisher を起動します (311 ページの「**Publisher を起動するには**」を参照)。

- 2 ログオン画面で、管理者ユーザー ID およびパスワードを入力して、**[OK]** をクリックします。

▶ **HPCA** のユーザー名とパスワードを使用して、**Publisher** にログインします。デフォルトでは、ユーザー名は **admin**、パスワードは **secret** です。

- 3 [パブリッシュ オプション] 領域で、**[HP SoftPaq]** を選択して、**[OK]** をクリックします。[選択] ウィンドウが開きます。
- 4 パブリッシュする **Softpaq** ファイルを選択します。
 - [要約] セクションには、**Softpaq** が **SSM** 準拠であるかないかなど、選択した **Softpaq** の情報が表示されます。選択した **Softpaq** が **SSM** 準拠でなく、**Softpaq** の一部としてサイレントインストールが含まれていない場合、**Softpaq** の内容を展開して、付属のドキュメントを読む必要があります。必要なファイルをパブリッシュして、指示に従ってインストール方法をセットアップします。
 - [システム情報] ダイアログ ボックスには、選択した **Softpaq** がサポートするすべてのハードウェアが表示されます。
- 5 **[次へ]** をクリックします。[アプリケーションの情報] ウィンドウが表示されます。
- 6 **Softpaq** 情報を表示し、必要な場合は変更します。アプリケーション情報は、**Softpaq** ファイルから利用できる情報に基づいて、あらかじめ決まっています。
- 7 **[次へ]** をクリックします。[要約] ウィンドウが表示されます。
- 8 要約情報を確認し、それで良ければ、**[パブリッシュ]** をクリックします。
- 9 パブリッシュ プロセスが完了したら、**[完了]** をクリックして **Publisher** を終了します。

SoftPaq が **HPCA** にパブリッシュされ、管理対象デバイスへの配布に利用できるようになります。パブリッシュされた **SoftPaq** を、**HPCA Console** の [ソフトウェア管理] にある [ソフトウェア ライブラリ] で確認します。配布された **Softpaq** は、**Application Self-Service Manager** または管理対象デバイスの **HP Softpaq** カテゴリ グループ内にあります。


BIOS 設定のパブリッシュ

Publisher を使用して、クライアント デバイスへ配布するために、BIOS 設定 ファイルをサービスとしてパブリッシュします。設定ファイルを使用して、BIOS 設定 (起動順序など) の更新や変更、またはクライアント デバイスの BIOS パスワードの変更ができます。

BIOS 設定ファイルのサンプル (Common HP BIOS Settings.xml) は、**Publisher** のインストールに組み込まれており、デフォルトでは C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent\BIOS にあります。このファイルを使用して、ターゲット デバイスの BIOS 設定を変更します。

BIOS 設定ファイルのサンプルに必要なオプションが含まれていない、または特定のデバイス用の設定ファイルを作成する場合は、329 ページの「**BIOS 設定ファイルの作成**」を参照してください。

BIOS 設定をパブリッシュするには

- 1 **Publisher** を起動します (311 ページの「**Publisher を起動するには**」を参照)。
- 2 ログオン画面で、管理者ユーザー ID およびパスワードを入力して、**[OK]** をクリックします。
 **HPCA** のユーザー名とパスワードを使用して、**Publisher** にログインします。デフォルトでは、ユーザー名は **admin**、パスワードは **secret** です。
- 3 [パブリッシュ オプション] 領域で、**[HP BIOS 設定]** を選択して、**[OK]** をクリックします。[選択] ウィンドウが開きます。
- 4 パブリッシュする BIOS 設定ファイルを選択します。BIOS 設定ファイルのサンプル (Common HP BIOS Settings.xml) は、デフォルトでは C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent\BIOS にあります。
- 5 必要な場合は、[現在の BIOS 管理パスワード] 領域に BIOS パスワードを入力して確認します。ターゲット デバイスに BIOS パスワードがある場合、設定を変更するにはこれが必要です。
- 6 現在の BIOS パスワードを変更する場合、**[BIOS パスワードの変更]** を選択し、新しいパスワードを入力して確認します。これが必要なのは、クライアント デバイスの BIOS パスワードを変更する場合だけです。
- 7 **[次へ]** をクリックします。**[BIOS オプション]** ウィンドウが表示されます。

- 8 パブリッシュする BIOS 設定を選択するには、BIOS 設定名の左にあるチェック ボックスをクリックします。
- 9 BIOS 設定の値を変更する必要がある場合、設定名をクリックして、必要に応じて使用可能なオプションを調整します。
- 10 **[次へ]** をクリックします。[アプリケーションの情報] ウィンドウが表示されます。
- 11 アプリケーション情報を表示し、必要な場合は変更します。アプリケーション情報は、設定ファイルから利用できる情報に基づいて、あらかじめ決まっています。
- 12 **[次へ]** をクリックします。[要約] ウィンドウが表示されます。
- 13 要約情報を確認し、それで良ければ、**[パブリッシュ]** をクリックします。
- 14 パブリッシュ プロセスが完了したら、**[完了]** をクリックして **Publisher** を終了します。

BIOS 設定サービスは、HPCA Console のソフトウェア ライブラリで利用できます。

BIOS 設定ファイルの作成

HPCA に付属のファイル以外の BIOS 設定ファイルを使用する場合は、HP System Software Manager(SSM) の BIOS 設定ユーティリティを使用して独自の設定ファイルを生成できます。

SSM は、HPCA Agent (C:\Program Files Hewlett-Packard\SSM) と一緒にインストールされます。または、HP のサポート サイトからダウンロードできます。

BIOS 設定ファイルを作成するには

- 1 コマンド プロンプトを開き、SSM BIOS 設定ユーティリティがあるディレクトリ (デフォルトでは C:\Program Files Hewlett-Packard\SSM) に移動します。
- 2 次のように入力します。

```
BiosConfigUtility.exe /  
GetConfig:"C:\tmp\MyBIOSconfig.xml" /Format:XML
```

このコマンドにより、MyBIOSconfig.xml という名前の XML ファイルが生成され、C:\tmp に格納されます。

XML ではなくテキスト ファイルを作成する場合は、次のように入力します。

```
BiosConfigUtility.exe /  
GetConfig:"C:\tmp\MyBIOSconfig.txt" /Format:REPSET
```

このコマンドにより、MyBIOSconfig.txt という名前のテキスト ファイルが生成され、C:\tmp に格納されます。

- 3 BIOS 設定をパブリッシュする準備ができたなら、328 ページの「**BIOS 設定をパブリッシュするには**」の手順 6 でこのファイルを選択します。

パブリッシュされたサービスの表示

[管理] タブの [ソフトウェア管理] 領域で、パブリッシュされたソフトウェアを確認します。

パブリッシュされたオペレーティング システムは、[オペレーティング システム] 領域に保存されます。

HP Client Automation Administrator Agent Explorer

HP Client Automation Administrator の一部として、**Publisher** と一緒にインストールされる、**Agent Explorer** は、トラブルシューティングや問題解決に役立ちますが、HP サポートからの直接の指示がない場合は使用しないでください。

13 Application Self-Service Manager の使用

HP Client Automation Application Self-Service Manager (Self-Service Manager) は、クライアントに常駐し、ユーザーが追加で利用できるアプリケーションをインストール、削除、および更新できるようにする製品です。それらのアプリケーションは、HPCA 管理者がユーザーに付与する必要があります。Self-Service Manager では、ユーザーに付与されたアプリケーションのカタログが表示され、ユーザーは、それらのアプリケーションのインストール、削除、および更新を自分で管理できます。Self-Service Manager は、Management Agent がクライアント デバイスに配布されたときにそのデバイスにインストールされます。

次の各セクションで、Self-Service Manager ユーザー インターフェイスの使用方法を説明します。

- 332 ページの「[Application Self-Service Manager へのアクセス](#)」
- 332 ページの「[Application Self-Service Manager の概要](#)」
- 336 ページの「[Application Self-Service Manager ユーザー インターフェイスの使用](#)」
- 343 ページの「[ユーザー インターフェイスのカスタマイズ](#)」
- 349 ページの「[HPCA System Tray アイコン](#)」

Application Self-Service Manager へのアクセス

Self-Service Manager ユーザー インターフェイスには、次のいずれかの方法でアクセスできます。

ユーザー インターフェイスにアクセスするには

- **[スタート]>[プログラム]>[HP Client Automation Agent]>[Client Automation Application Self-Service Manager]** へと移動します。

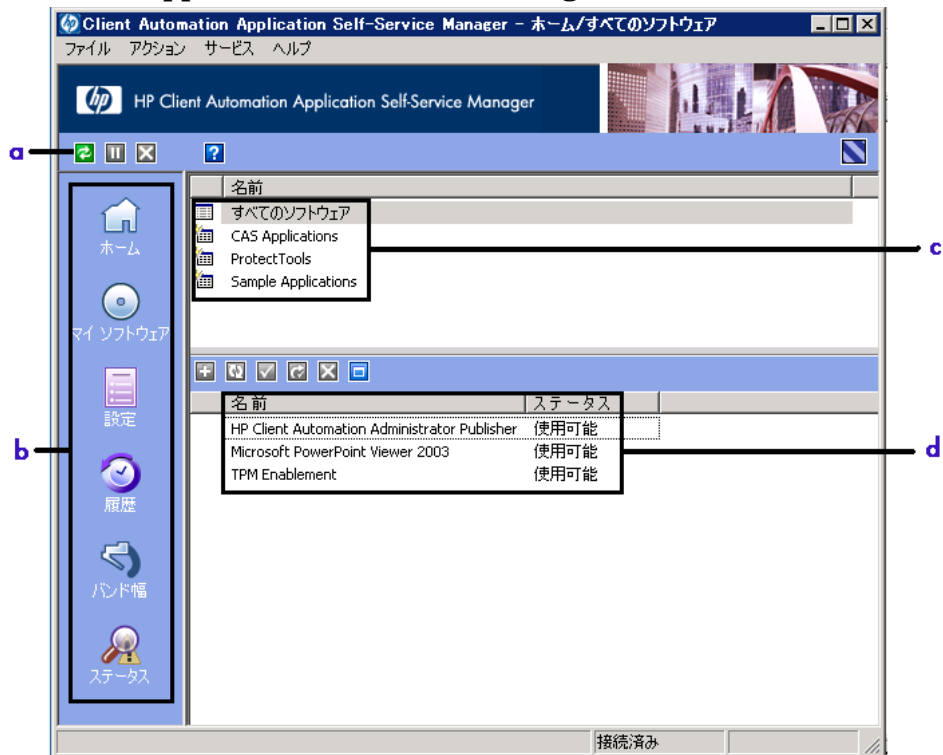
または

- **[Client Automation Application Self-Service Manager]** デスクトップ ショートカットをダブルクリックします。

Application Self-Service Manager の概要

Self-Service Manager インターフェイス (333 ページの [図 17](#) を参照) には、4 つの主要なセクションがあります。各セクションでは、利用可能なアプリケーションの管理、カタログにあるソフトウェアの情報やステータスの表示、ユーザー インターフェイス表示のカスタマイズができます。

図 17 Application Self-Service Manager ユーザー インターフェイス



凡例

- a グローバル ツールバー — カタログのリフレッシュや、現在のアクションの一時停止または取り消しができます。
- b メニュー バー — Application Self-Service Manager を使用するときに表示可能なメニューの選択肢が表示されます。
- c カタログ リスト — 使用できるさまざまなソフトウェア カタログの一覧が表示されます。
- d サービス リスト — 付与されているアプリケーションの一覧が表示されます。

次に示すセクションでは、ユーザー インターフェイスの各セクションを詳細に説明します。


- グローバル ツールバー (この後のセクション)
- 334 ページの「メニュー バー」
- 335 ページの「カタログ リスト」
- 335 ページの「サービス リスト」

グローバル ツールバー



グローバル ツールバーでは、カタログのリフレッシュ、現在のアクションの一時停止、または現在のアクションの取り消しができます。アクションを一時停止すると、[一時停止] ボタンを再度クリックしてアクションを再開するか、[キャンセル] ボタンをクリックして一時停止したアクションをキャンセルするまで、他のアクションを実行できません。

[グローバル ツールバー] のボタンのうち、現在のアクションで使用できないボタンは、グレー表示になります。


カタログをリフレッシュするには

- 選択したカタログをリフレッシュするには、グローバル ツールバーの [リフレッシュ]  をクリックします。

現在のアクションを一時停止または再開するには

- 現在のアクションを停止するには、グローバル ツールバーの [一時停止]  をクリックします。
- 停止したアクションを再開するには、[再開]  をクリックします。(アクションを一時停止すると、[一時停止] ボタンがこのボタンに変わります)。

現在のアクションをキャンセルするには

- 現在のアクションをキャンセルするには、グローバル ツールバーの [キャンセル]  をクリックします。

メニュー バー

メニュー バーを使用して、Application Self-Service Manager の設定およびカスタマイズを行います。次のセクションでは、メニュー バーの各アイコンについて説明します。

ホーム : このボタンをクリックすると、ホーム カタログにアクセスできます。

マイ ソフトウェア : このボタンをクリックすると、インストールしたアプリケーションだけが表示されます。

設定 : このボタンをクリックすると、Self-Service Manager のさまざまな表示オプション、アプリケーション リスト オプション、および接続オプションにアクセスできます。

このセクションの右上隅にある [OK]、[適用]、または [キャンセル] をクリックして、いつでも変更内容を保持または無視できます。

カタログ リスト

[カタログ リスト] セクションには、使用可能なソフトウェア カタログおよび仮想カタログの一覧が表示されます。

カタログを選択するには

- [カタログ リスト] で、[サービス リスト] セクションに表示するカタログをクリックします。カタログをリフレッシュするには、カタログの名前を右クリックして、ショートカットメニューから **[リフレッシュ]** を選択します。

仮想カタログ

仮想カタログは、HPCA の [ソフトウェアの詳細] で管理者が定義した、デフォルトのカタログのサブセットです。カタログ グループの値が同じサービスは、1 つの仮想カタログにグループ化されます。次のイメージは、いくつかのサンプルのカタログを表示しています。






	名前
	すべてのソフトウェア
	CAS Applications
	ProtectTools
	Sample Applications

サービス リスト

[サービス リスト] セクションには、利用可能なアプリケーションが一覧表示されます。インストール済みのアプリケーションの横には、チェック マークが表示されます。カラムの見出しは、必要に応じて変更できます。詳細については、

334 ページの「設定: このボタンをクリックすると、Self-Service Manager のさまざまな表示オプション、アプリケーション リスト オプション、および接続オプションにアクセスできます。」を参照してください。

表 33 [サービス リスト] セクションのボタン

ボタン	アクション	説明
	インストール	選択したサービスをマシンにインストールします。
	検証	選択したサービスのファイルを検証します。
	修復	選択したサービスを修復します。
	削除	選択したサービスをマシンから削除します。
	展開 / 折りたたむ	選択したサービスを展開したり、折りたたんだりします。



[サービス リスト] セクションのボタンは、選択したアプリケーションに対して使用できない場合、グレー表示になります。

Application Self-Service Manager ユーザー インターフェイスの使用

ユーザー インターフェイスを使用して、ソフトウェアのインストールと削除、利用可能なアプリケーションのカタログのリフレッシュ、およびアプリケーションに関する情報の表示を行います。メニュー バーには、セッション履歴の表示、バンド幅の調整、およびアプリケーションの現在のステータスの表示のためのボタンがあります。詳細については、次の各セクションを参照してください。


- 337 ページの「ソフトウェアのインストール」
- 338 ページの「カタログのリフレッシュ」
- 338 ページの「情報の表示」
- 339 ページの「ソフトウェアの削除」

- 340 ページの「ソフトウェアの検証」
- 340 ページの「ソフトウェアの修復」
- 340 ページの「履歴の表示」
- 341 ページの「バンド幅の調整」
- 341 ページの「ステータスの表示」


ソフトウェアのインストール

利用可能なアプリケーションは、サービス リストに一覧表示されます。これらのアプリケーションから 1 つ以上をいつでもインストールできます。



ソフトウェアをインストールするには

- 1 サービス リストで、インストールするアプリケーション名をクリックします。
- 2 **【インストール】** ボタン  をクリックします。


インストールによっては、一連のダイアログ ボックスが表示される場合があります。その場合、表示される指示に従ってください。それ以外の場合は、インストールがすぐに始まります。

 インストールするアプリケーションの名前を右クリックして、表示されるショートカット メニューの **【インストール】** をクリックしても同じ操作を実行することができます。

インストールの進行状況が、進行状況バーに表示されます。

- インストールをキャンセルするには、グローバル ツールバーの **【キャンセル】**  をクリックします。
- インストールを一時停止するには、グローバル ツールバーの **【一時停止】**  をクリックします。アクションを一時停止すると、一時停止しているアクションをキャンセルまたは再開するまで、他のアクションを実行できません。


カタログのリフレッシュ

カタログは、Self-Service Manager のユーザー インターフェイスにログインするたびにリフレッシュされます。ログインしている間に、使用が認可されているアプリケーションのリストが変わった、またはインストールしたアプリケーションの更新が使用可能になったと考えられる場合は、グローバル ツールバーの **[カタログのリフレッシュ]**  をクリックして、アプリケーションのリストを更新します。

- ▶ ソフトウェア リストの任意のアイテムを右クリックして、表示されるショートカット メニューの **[カタログをリフレッシュ]** をクリックしても同じ操作を実行することができます。


情報の表示

サービス リストには基本的な情報が表示されますが、アプリケーションに関する詳細な情報 (ベンダー、バージョン、サイズ、インストール日など) は、次の方法で取得できます。

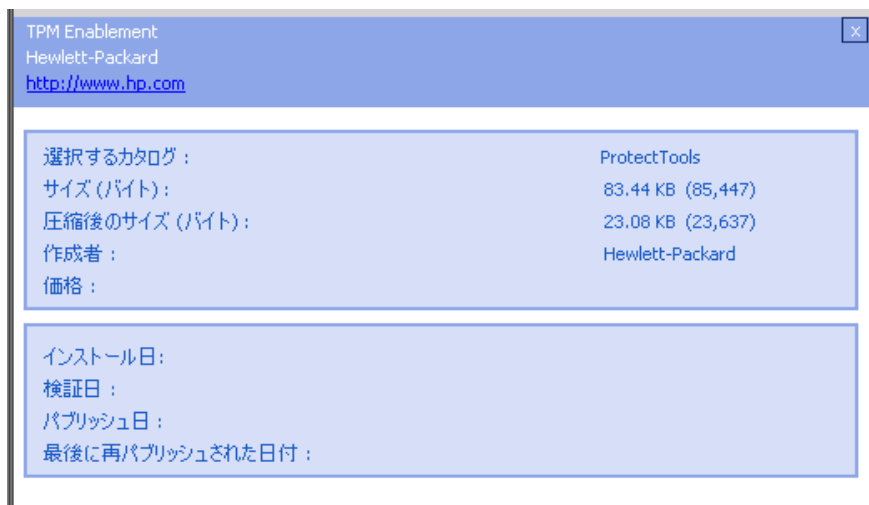
- これらのカラムをサービス リストに追加する。
- 展開したサービス ボックスで、**[拡張情報を表示]**  をクリックする。

メーカーからの詳細情報が必要な場合は、ベンダーのリンクをクリックします。

詳細情報を表示するには


- 1 サービス リストでアプリケーションを選択し、**[拡張情報を表示]**  をクリックします。

- ▶ アプリケーションを右クリックし、表示されるショートカット メニューの **[プロパティ]** をポイントし、**[情報]** をクリックしても同じ操作を実行することができます。





- 2 サービス リストに戻るには、対応する **[キャンセル]** ボタンをクリックします。

ソフトウェアの削除

コンピュータからアプリケーションを削除するには、**[削除]** ボタン  を使用します。

ソフトウェアを削除するには

- 1 削除するアプリケーションを選択します。
- 2 **[削除]**  をクリックします。
- 3 アプリケーションの削除を確認するメッセージが表示されたら、**[はい]** をクリックします。

 削除するアプリケーションの名前を右クリックして、表示されるショートカットメニューの **[削除]** をクリックしても同じ操作を実行することができます。

ソフトウェアの検証

アプリケーションのインストールをチェックするには

- 1 インストールされている検証対象のサービスをサービス リストで選択します。
- 2 **[検証]** をクリックします。
 - ▶ ソフトウェア名を右クリックし、表示されるショートカットメニューの **[検証]** をクリックしても同じ操作を実行することができます。
 - 検証でアプリケーションに問題がない場合は、アプリケーションの **[検証した日付]** カラムに検証の日付と時刻が表示されます。
 - 検証でアプリケーションに問題がある場合は、**[ステータス]** カラムに **[破損]** と表示されます。
- 3 ソフトウェアを修復するには、**[修復]** をクリックします。

ソフトウェアの修復

アプリケーションに何らかの問題がある場合、それを修復するには、**[修復]** をクリックします。

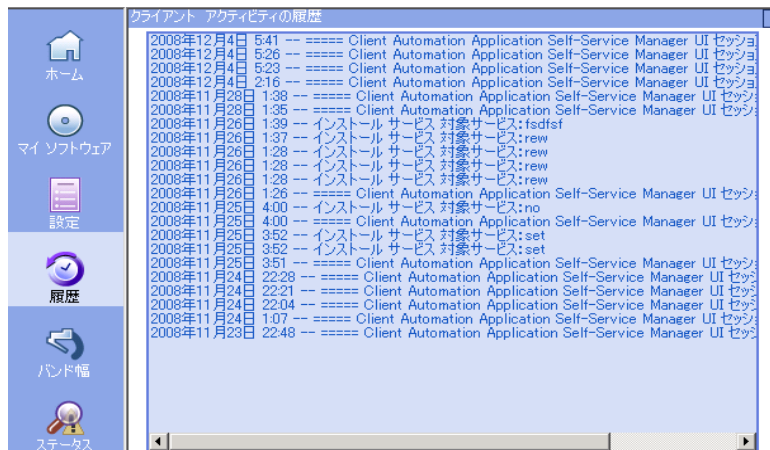
ソフトウェアを修復するには

- 1 修復する必要があるアプリケーションを選択します。該当するアプリケーションには、最初のカラムに **X**、**[ステータス]** カラムに **[破損]** と表示されます。
- 2 **[修復]** をクリックします。HPCA によってアプリケーションの修復に必要なファイルが取得されます。

履歴の表示

- 1 メニューバーの **[履歴]** をクリックして、現在のセッションの履歴を表示します。

図 18 [履歴] ウィンドウ



2 [履歴] ウィンドウを閉じて、サービス リストに戻ります。

バンド幅の調整

メニュー バーの **[バンド幅]** をクリックして、バンド幅のスライダを表示します。この値を変更すると、スロットリングの値が動的に変化します。

バンド幅のスライダを使用してバンド幅の設定を調整するには

- スライダをドラッグして、目的のバンド幅スロットリングの量にまで値を増減して調整します。
- バンド幅スロットリングは、[設定] の [接続オプション] セクションでも調整できます。

ステータスの表示

メニュー バーの **[ステータス]** をクリックすると、サイズ、推定時間、進捗状況、使用可能なバンド幅など、現在のアクションのステータスが表示されます。

図 19 選択したアプリケーションのステータス表示

名前	ステータス		
HP Client Automation Settings Migration Manager	更新可能		
✓ TPM Enablement バージョン 2 Hewlett-Packard http://www.hp.com ダウンロードがキャンセルされました		サイズ 圧縮後のサイズ	83.44 KB 23.08 KB
転送速度	0 kbps	ファイルの総数	N/A
合計サイズ	N/A	受信ファイル数	0
受信したバイト数	0 kb	サービスの総数	0
推定残り時間	00:00:00	受信サービス数	0

[ステータス] ウィンドウは、Application Self-Service Manager からドッキングしたりドッキングを解除したりできます。これにより、画面上の任意の位置に [ステータス] ウィンドウを移動できます。デフォルトでは、[ステータス] ウィンドウはドッキングされています。

[ステータス] ウィンドウのドッキングを解除するには

- 1 メニュー バーの **[ステータス]** をクリックします。
- 2 表示された [ステータス] ウィンドウ上で右クリックします。
- 3 ショートカット メニューから **[ドッキング済み]** を選択します。[ステータス] ウィンドウがドッキングされている場合、ショートカット メニューの **[ドッキング済み]** の横にチェック マークが表示されます。

転送速度	0 kbps	ファイルの総数	N/A
合計サイズ	N/A	受信ファイル数	0
受信したバイト数	0 kb	サービスの総数	0
推定残り時間	00:00:00	受信サービス数	0

Application Self-Service Manager インターフェイスから [ステータス] ウィンドウが分離され、画面上の任意の場所に移動できるようになります。

[ステータス] ウィンドウをドッキングするには

- 1 メニュー バーの **[ステータス]** をクリックします。
- 2 表示された [ステータス] ウィンドウ上で右クリックします。

- 3 ショートカットメニューの [**ドッキング済み**] をクリックします (チェックマークが表示されていない場合のみ)。

転送速度	0 kbps	ファイルの総数	N/A
合計サイズ	ドッキング済み 4	受信ファイル数	0
受信したバイト数	0 kb	サービスの総数	0
推定残り時間	00:00:00	受信サービス数	0

[ステータス] ウィンドウが **Application Self-Service Manager** インターフェイスにドッキングされます。

ユーザー インターフェイスのカスタマイズ

メニューバーの [**設定**] ボタンをクリックして、利用可能なカスタマイズオプションを表示します。次のセクションで各カスタマイズ領域について説明します。

- 343 ページの「**全般オプション**」
- 345 ページの「**サービス リスト オプション**」
- 348 ページの「**接続オプション**」

全般オプション

Application Self-Service Manager インターフェイスの外観を変更するには、[**全般オプション**] ウィンドウを使用します。

図 20 [全般オプション] ウィンドウ

[全般オプション](#)
[サブドキュメント オプション](#)
[接続オプション](#)

Ok 適用 キャンセル

表示

メニューを表示 自動非表示オプションバー

カタログリストを表示

オフライン モードのプロンプトを表示

起動パラメータ ファイル名:

C:\#PROGRA~1\#HEWLET~1\#HPCA\#Agent\#Lib\#args.xml

ブラウズ

色

システムの色を使用

色のカスタマイズ

選択色を設定

背景色を設定

ボタンの色を設定

作業領域の色を設定

デフォルトにリセット

表示を変更するには

- メニューを表示する場合は、[メニューを表示]を選択します。
- カタログリストを表示する場合は、[カタログリストを表示]を選択します。
- 各セッションの開始時にオフライン モードで Application Self-Service Manager を使用するかどうかを確認するには、[オフライン モードのプロンプトを表示] チェック ボックスをオンにします。
- オプションバーを自動的に非表示にするには、[自動非表示オプションバー] をオンにします。

色を変更するには

- システムの色を使用する場合は、[システムの色を使用] をオンにします。
- カラー スキームをカスタマイズする場合は、[色のカスタマイズ] をオンにします。
 - [色のカスタマイズ] をクリックした場合、目的に応じて以下のラベルのボックスをクリックします。

- **[選択色を設定]** 選択した色を変更します。
- **[ボタンの色を設定]** ボタンの色を変更します。
- **[背景色を設定]** 背景色を変更します。
- **[作業領域の色を設定]** 作業領域を変更します。

サービス リスト オプション

サービス リストの外観を変更するには、[**サービス リスト オプション**] を使用します。

図 21 サービス リスト オプション



サービス リストのカラム名をカスタマイズするには

サービス リストに表示されるカラムをカスタマイズするには、[**カラム**] 領域を使用します。右のカラムには、現在サービス リストに表示されているカラムの名前が一覧表示されます。利用可能な各カラム見出しの説明については、346 ページの「表示のカスタマイズ」を参照してください。

サービス リストにカラムを追加するには

- [使用可能なカラム] リスト ボックスで、1 つ以上の名前を選択し、[追加] をクリックします。選択したカラムが [表示するカラム] リスト ボックスの一覧に表示されます。

サービス リストからカラムを削除するには

- 1 [表示するカラム] リスト ボックスで、1 つ以上の名前を選択します。連続した複数のカラム名を選択するには **Shift** キーを押しながらカラム名をクリックし、連続していない複数のカラム名を選択するには **Ctrl** キーを押しながらカラム名をクリックします。
- 2 [削除] をクリックします。選択したカラムが [表示するカラム] リスト ボックスから削除され、元の [使用可能なカラム] ボックスに表示されます。

表示のカスタマイズ

- サービス リストで、現在のサービス アイテムを展開するには、[アクティブなサービス アイテムを展開] チェック ボックスをオンにします。
- 各サービスを仕切るグリッド線付きでサービス リストを表示するには、[グリッド線を表示] を選択します。
- 現在選択しているカタログを展開するには、[アクティブなカタログ アイテムを展開] を選択します。
- [詳細な操作を表示] は現時点では利用できません。

表 34 サービス リストで利用可能なカラムの見出し

カラムの見出し	説明
適応バンド幅	バンド幅スロットリングを使用するときに使用されるバンド幅の適用最小割合。
警告メッセージ	エンドユーザーに長いアプリケーション説明または指示のメッセージを表示 (警告 / 延期設定の一部として指定できる任意指定のサービス テキスト フィールド)。
作成者	サービスの作成者。
Avis	内部で使用するためだけのサービス ステータス フラグ。
圧縮後のサイズ	圧縮後のサービスのサイズ (バイト単位)。
説明	アプリケーションの簡単な説明。
エラーコード	現在のサービスのステータス。例: 初期 = 999。メソッドの失敗 = 709。

表 34 サービス リストで利用可能なカラムの見出し

カラムの見出し	説明
インストール日	アプリケーションがコンピュータにインストールされた日付。
ローカルの修復	ローカルでのデータ修復可能性 (データがローカル コンピュータにキャッシュされているかどうか)。
必須	アプリケーションで定義される必須またはオプションなファイル (内部使用)。
名前	アプリケーションの名前。
オーナー カタログ	アプリケーションの取得元のドメイン名。
価格	サービスの価格。
パブリッシュ日	アプリケーションがカタログにパブリッシュされた日付。
再起動	サービスの再起動設定 (内部使用)。
再パブリッシュ日	アプリケーションがカタログに再パブリッシュされた日付。
予約済みのバンド幅	バンド幅スロットリングを使用するときに使用されるバンド幅の予約済み最大割合。
スケジュールを許可	エンド ユーザーがローカルにアプリケーションの更新スケジュールを変更できるかどうかを指定。
サイズ	アプリケーションのサイズ (バイト単位)。 注意 : アプリケーションを正常にインストールするには、このカラムで表示される空き容量がコンピュータに必要です。
ステータス	アプリケーションの現在のステータス <ul style="list-style-type: none"> • 使用可能 • インストール済み • 更新可能 • 破損
システムのインストール	システム アカウントを使用してアプリケーションがインストールされるかどうかを表示。
スロットリングタイプ	使用するバンド幅スロットリングのタイプ。可能な値は、 ADAPTIVE 、 RESERVED 、または NONE 。
オプション	ステータス ウィンドウを表示するかどうかを決定。
アップグレード日	アプリケーションがアップグレードされた日付。

表 34 サービス リストで利用可能なカラムの見出し

カラムの見出し	説明
URL	ソフトウェア ベンダーの Web アドレス。
ベンダー	アプリケーションを提供したソフトウェア ベンダー。
検証日	前回、アプリケーションが検証された日付。
バージョン	アプリケーションのバージョン。

接続オプション

使用するバンド幅スロットリングのタイプの選択や、プロキシ サーバー設定の指定には、**[接続オプション]** (348 ページの [図 22](#) を参照) を使用します。

図 22 接続オプション

[全般オプション](#)
[サービスリスト オプション](#)
[接続オプション](#)

スロットリング

なし
 バンド幅を予約
 トラフィックに適應

プロキシ

プロキシ サーバーを使用
 プロキシ アドレスを検出

プロキシ サーバーのアドレス
 ポート

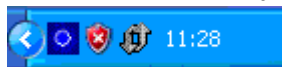
- スロットリング
 - スロットリングを行わない場合、**[なし]** を選択します。

- 使用するネットワーク バンド幅の最大の割合をスケールに基づいてスライドするには、[**バンド幅を予約**]を選択します。ユーザーは、ダウンロード時に予約バンド幅をインターフェイスで変更できます。
 - 使用するネットワーク バンド幅の最小の割合をスケールに基づいて指定するには、[**トラフィックに適応**]を選択します。適応バンド幅は、データダウンロードプロセスの間は変更できません。設定できるのは、ジョブがディスパッチされる前だけです。
- **プロキシ**
 - **Application Self-Service Manager** は、インターネット プロキシが使用されると、それを検出できます。検出されたインターネット プロキシのアドレスは、クライアント コンピュータの IDMLIB ディレクトリにある PROXYINF.EDM に格納されます。IDMLIB のデフォルトの場所は、`SystemDrive:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent\Lib` です。次回、**HPCA Agent** コンピュータが **HPCA Server** に接続するときには、指定したインターネット プロキシが使用されます。この機能を使用するには、**HPCA Agent** でインターネット プロキシを使用および検出できるようにする必要があります。

HPCA System Tray アイコン

HP Client Automation システム トレイ アイコンを使用すると、ユーザーは、ステータスや統計情報を確認したり、一時停止やキャンセルの操作を行ったりすることができます。

図 23 HPCA System Tray アイコン



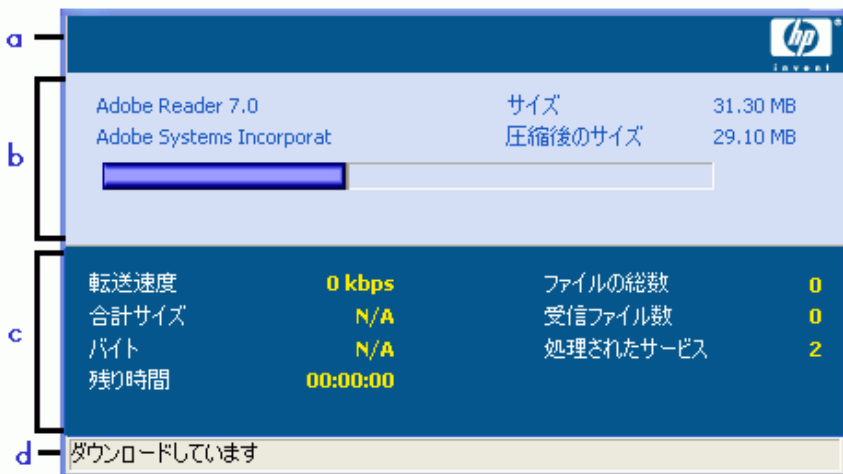
HPCA の状態を表示するには、カーソルをアイコンの上に移動します。

- **アイドル**: アクションが処理中でなく、ユーザーの介入を必要としないとき、アイコンは静的です。システム トレイ アイコンは、アイドル状態では非表示になる場合があります。
- **アクティブ**: **Application Self-Service Manager** が実行中のとき、またはユーザーの介入が必要なときに、アイコンはアクティブになります。アイコンの上にカーソルを合わせると、活動情報を示すポップアップが表示されます。重要な通知が発生した場合は、ポップアップが自動的に表示されます。

[HPCA ステータス] ウィンドウ

HPCA System Tray アイコンを左クリックして、[ステータス] ウィンドウを表示します。次の図で示すように [ステータス] ウィンドウが開きます。

図 24 HPCA ステータス




凡例

- a ボタン バー
- b 情報パネル
- c ステータス領域
- d ステータス メッセージ

[ステータス] ウィンドウには次の領域があります。

- **ボタンバー:** [一時停止] ボタン、[キャンセル] ボタン、および HPCA Agent が実行中にアニメーション表示になるロゴがあります。
- **情報パネル:** この領域には、アクティブなアプリケーションに関する情報が表示され、完了したタスクの割合を示す進行状況バーも表示されます。
- **ステータス領域:** 転送速度、送信の合計サイズ、受信したバイト数、送信の推定残り時間、送信するファイルの総数、受信したファイルの数、処理されたサービスの数など、アクティブなプロセスに関する統計が表示されます。

- **ステータス メッセージ領域**: 現在のプロセスに関するメッセージが表示されます。
 - **バンド幅設定**: HPCA Server のアプリケーションにバンド幅スロットリングを設定している場合、システム トレイ コンソールのバンド幅トグル ボタン  をクリックすると、バンド幅設定用のスライダが表示されます。バンド幅スロットリングの値を変更するには、スライダを調整します。

14 Personality Backup and Restore

HPCA Personality Backup and Restore ソリューションでは、個々の管理対象デバイスにあるアプリケーションとオペレーティング システムのユーザー ファイルや設定をバックアップおよび復元できます。ファイルと設定は **HPCA Core Server** に格納され、元のデバイスや新しいデバイスへの復元に使用できます。また、管理対象デバイスのファイルおよび設定をローカルにバックアップしたり、復元したりすることもできます。

HPCA Personality Backup and Restore ソリューションは、オペレーティング システムの配布の一部としてファイルと設定を移行する場合にも使用できます。

HPCA Personality Backup and Restore ソリューションは、**Microsoft** ユーザー状態移行ツール (**USMT**) に基づいています。このソリューションでは、**USMT** で作成される移行ストアのリモートおよびローカル両方の管理を提供し **USMT** を強化します。また、必要な **USMT** の制御ファイルをダウンロードし、これらのファイルを個別に配布する必要性を解消します。**HPCA** では **USMT** バージョン **3.0.1** と **4.0** をサポートしています。



基づいているバックアップ テクノロジーが異なるため、**HPCA 7.5** より前のバージョンの **HPCA** で作成されたバックアップは復元できません。

次のセクションでは、使用環境で **HPCA Personality Backup and Restore** ソリューションを実装する方法について説明します。

- 353 ページの「要件」
- 355 ページの「**USMT** について」
- 360 ページの「**Personality Backup and Restore** の使用」
- 367 ページの「トラブルシューティング」

要件

Personality Backup and Restore ソリューションを実装する前に、お使いの環境が次の要件を満たしていることを確認します。

- 354 ページの「オペレーティング システム」
- 354 ページの「ディスク容量」
- 355 ページの「ソフトウェア」

オペレーティング システム

次のオペレーティング システムを使用する移行元コンピュータから、バックアップを作成できます。

- Windows 2000 Professional Service Pack 4 以降
- Windows XP
- Windows Vista
- Windows 7

次のオペレーティング システムを使用する移行先コンピュータに、ファイルおよび設定を復元できます。

- Windows XP
- Windows Vista
- Windows 7

ディスク容量

開始する前に、移行元コンピュータ、移行先コンピュータ、および HPCA Core Server にバックアップされるファイルおよび設定を格納できる十分なディスク容量があることを確認する必要があります。バックアップに必要なディスク容量を推定するには、次の URL にある Microsoft TechNet Web サイトの「データの保存場所の決定」を参照してください。

<http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc722431.aspx>

注：格納場所は HPCA によって自動的に設定されます。移行元コンピュータ、移行先コンピュータ、HPCA Core Server にはそれぞれ、移行されるファイルおよび設定用に十分なディスク容量が必要です。

また、移行先コンピュータでは、移行されるファイルおよび設定が使用する 2 倍のディスク容量が必要です。

HPCA Personality Backup and Restore Utility を使用する場合、HPCA Core Server には、バックアップ時に作成された、アーカイブされたユーザー ファイルおよび設定が格納されます。復元時には、アーカイブされたファイルおよび設定が移行先コンピュータの一時的な場所にダウンロードされた後、元の場所に復元されます。復元が正常に行われたら、アーカイブされたファイルおよび設定は、移行先コンピュータから削除されます。

/localstore オプションを指定して pbr.exe コマンドを使用する場合、バックアップは C:/OSMGR.PRESERVE/PBR.work にあるディスクにローカルに格納されます。このバックアップは前述のファイルの唯一のコピーであるため、削除されません。

ソフトウェア

必要なアプリケーションは次のとおりです。

- **Microsoft USMT バージョン 3.0.1 または 4.0**

このアプリケーションは、移行元および移行先のデバイスでデフォルトの場所にインストールする必要があります。[USMT について](#)を参照してください。



このソリューションでは、Microsoft USMT バージョン 3.0.1 またはバージョン 4.0 を使用する必要があります。これ以外のバージョンの USMT はサポートされていません。

- **HP Client Automation Personality Backup and Restore**

このアプリケーションを、移行元と移行先両方のデバイスにインストールする必要があります。このアプリケーションは、HPCA Agent が管理対象デバイスにインストールされるときに自動的にインストールされます。

USMT について

HPCA Personality Backup and Restore ソリューションは Microsoft ユーザー状態移行ツール (USMT) に基づいているため、次の URL にある Microsoft Technet Web サイトのドキュメントを参照して、このツールとその機能について理解してください。

<http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc722032.aspx>

このセクションでは、Microsoft USMT について、入手方法、インストール方法、および移行ファイルを使用する方法について説明します。Personality Backup and Restore ソリューションで提供される、バックアップおよび復元時に自動的に USMT を起動する Hewlett-Packard ユーザー インターフェイスの説明については、361 ページの「HPCA Personality Backup and Restore Utility の使用」を参照してください。

サポートされるファイル、アプリケーション、および設定

USMT では、ユーザー ファイルおよびフォルダ (XP の [マイ ドキュメント] フォルダまたは Vista の [ドキュメント] フォルダなど)、オペレーティング システム設定 (フォルダ オプションや壁紙設定など)、アプリケーション設定 (Microsoft Word の設定など) を含むさまざまなデータが移行されます。総合的な一覧については、次の URL にある Microsoft TechNet Web サイトの「USMT 3.0 によって移行されるもの」を参照してください。

<http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc722387.aspx>

また、次の URL にある「USMT 4.0 の新機能」も参照してください。

[http://technet.microsoft.com/en-us/library/dd560752\(WS.10\).aspx](http://technet.microsoft.com/en-us/library/dd560752(WS.10).aspx)

- ▶ アプリケーションを正常に移行するためには、移行元コンピュータと移行先コンピュータのアプリケーションのバージョンが同一である必要があります。これには例外が 1 つあります。Microsoft Office の設定の場合は、移行元コンピュータの古いバージョンから移行先コンピュータの新しいバージョンに移行できます。
- ▶ USMT では、ユーザーがアクセスした、または変更したアプリケーション設定のみが移行されます。移行元コンピュータのユーザーがアクセスしたことがないアプリケーション設定は移行されません。
- ▶ フォント、壁紙、スクリーン セーバー設定などの一部のオペレーティング システム設定は、移行先コンピュータを再起動するまで適用されません。

Microsoft USMT 3.0.1 または 4.0 の入手とインストール

USMT をインストールする理由としては、次のいずれかまたは両方が考えられます。

- 管理者として、USMT の機能に慣れ、ソリューションを個人仕様にするために移行規則をカスタマイズする方法を学ぶ。
- + エンドユーザーとして、管理対象デバイスのファイルおよび設定をバックアップしたり復元したりできるようになる。

Personality Backup and Restore を実装する場合は、バックアップする移行元コンピュータと復元する移行先コンピュータに **Microsoft USMT 3.0.1** または **4.0** をインストールする必要があります。このセクションでは、このアプリケーションを入手できる場所、およびインストールする方法について説明します。



Microsoft ユーザー状態移行ツール バージョン **3.0.1** または **4.0** を使用する必要があります。これ以外のバージョンの **USMT** はサポートされていません。

Microsoft USMT 3.0.1 の入手

USMT 3.0.1 は次の URL にある Microsoft ダウンロード センターから入手できます。

<http://www.microsoft.com/downloads>

32 ビットと 64 ビットの 2 つのバージョンがあります。お使いの環境に適したバージョンを選択してください。

Microsoft USMT 4.0 の入手

USMT 4.0 は Windows Automated Installer Kit (AIK) for Windows 7 に含まれており、次の URL にある Microsoft ダウンロード センターから入手できます。

<http://www.microsoft.com/downloads>

32 ビットと 64 ビットの 2 つのバージョンがあります。お使いの環境に適したバージョンを選択してください。

管理対象デバイスでの Microsoft USMT のインストール

管理対象デバイスでは、2 つの方法で USMT をインストールできます。手動でインストールするか、HPCA Administrator Publisher を使用してサービスにパッケージ化してから (311 ページの「パブリッシュ」を参照)、管理対象デバイスに付与または配布します。USMT は移行元および移行先両方のクライアント デバイスで、デフォルトの場所にインストールする必要があります。

表 35 USMT のデフォルトのインストール場所

USMT のバージョン	デフォルトの場所
3.0.1	C:\Program Files\USMT301
4.0	C:\Program Files\Windows AIK\Tools\USMT

管理対象デバイスのオペレーティング システムに応じて、必ず適切なバージョン (32 ビットまたは 64 ビット) をインストールしてください。

移行ファイル

Personality Backup and Restore ソリューションでは、次の 3 つの **USMT** 移行ファイルを使用して、移行に含めるコンポーネントを指定します。

- MigSys.xml – オペレーティング システム設定の移行
- MigApp.xml – アプリケーション設定の移行
- MigUser.xml – ユーザー フォルダおよびファイルの移行

お使いの環境でこのソリューションを実装する前に、これらのファイルを入手し、**HPCA Core Server** に保存する必要があります (358 ページの「**Core Server** への移行規則の保存」を参照)。

これらのファイルを入手するには、サポートされているプラットフォームのいずれかに **USMT** をインストールする必要があります (356 ページの「**Microsoft USMT 3.0.1** または **4.0** の入手とインストール」を参照)。インストール時にこれらのファイルは、357 ページの「管理対象デバイスでの **Microsoft USMT** のインストール」に示すディレクトリに配置されます。

配置されたファイルは、編集することも (358 ページの「**規則の編集**」を参照)、そのまま使用することもできます。

規則の編集

場合によっては、デフォルトの移行規則の編集が必要になることがあります。たとえば、特定のアプリケーションの設定を移行しない場合や、特定のファイルタイプを除外する場合です。デフォルトの移行動作を変更するには、移行 **XML** ファイルを編集する必要があります。これらのファイルをカスタマイズする方法については、次のドキュメントを参照してください。

<http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc766203.aspx>

Core Server への移行規則の保存

移行ファイルの編集が完了したら、または移行ファイルを編集しない場合でも、**HPCA Core Server** の次のフォルダにファイルを保存します。

`DataDir\PersonalityBackupAndRestore\conf`

この場合の *DataDir* は、**HPCA Core** のインストール時に指定した、ユーザーが設定できるデータ ディレクトリです。



これらの移行ファイルは、同じファイル名であり、**Microsoft USMT 3.0.1** または **4.0** インストールから入手した元のファイルと同じファイル名 (*MigSys.xml*、*MigApp.xml*、および *MigUser.xml*) を使用する必要があります。

ScanState コマンド ラインと LoadState コマンド ライン

移行ルールは、**Personality Backup and Restore Utility** によって **Core Server** からダウンロードされ、個人データの収集と復元を行う **USMT** 実行可能ファイル **ScanState** および **LoadState** によって使用されます。*ScanState.exe* は、移行元コンピュータの個人データを収集する実行可能ファイルです。**Personality Backup and Restore Utility** で使用される **ScanState** コマンド ラインは、次のとおりです。

```
ScanState.exe /i:MigApp.xml /i:MigUser.xml /i:MigSys.xml /o  
/l:ScanState.log /localonly "Agent\Lib\PBR\work\store"
```

この場合の *Agent* は、**Agent** のインストール ディレクトリです。

LoadState は、移行先コンピュータに個人データを復元する実行可能ファイルです。**Personality Backup and Restore Utility** で使用される **LoadState** コマンド ラインは、次のとおりです。

```
LoadState.exe /i:MigApp.xml /i:MigUser.xml /i:MigSys.xml /  
l:LoadState.log /lac:password /lae  
"Agent\Lib\PBR\work\store"
```

この場合の *Agent* は、**Agent** のインストール ディレクトリです。

これらのコマンド ラインはカスタマイズできませんが、バックアップおよび復元される内容を理解していただくために記載しています。注：これらの **ScanState** および **LoadState** コマンド ライン引数によって、ローカルユーザー アカウントも含め、システムのすべてのユーザー アカウントが移行されます。復元を実行するときに、移行先コンピュータにローカルユーザー アカウントがない場合は、*password* というパスワードを使用して、**LoadState** によって作成されます（前述のコマンド ラインを参照）。そのため、復元後には、復元されたローカルユーザー アカウントのパスワードを変更する必要があります。

Personality Backup and Restore の使用

HPCA Personality Backup and Restore 機能には、次の 3 つの方法でアクセスできます。

- 361 ページの「[HPCA Personality Backup and Restore Utility の使用](#)」
- 366 ページの「[Personality Backup and Restore サービスの使用](#)」
- 365 ページの「[コマンドラインインターフェイスの使用](#)」

これらの 3 つの方法すべてで `pbr.exe` という名前の同一の HPCA アプリケーションを起動します。`pbr.exe` は、実行時に毎回、HPCA Core Server から管理対象デバイスに 3 つの移行 XML ファイル (358 ページの「[移行ファイル](#)」を参照) をダウンロードして、これらのファイルを使用してバックアップまたは復元を実行します。

デフォルトでは、`pbr.exe` がバックアップ ファイルを HPCA Core Server の次の場所に格納し、また、この場所からバックアップ ファイルを復元します。

`DataDir\PersonalityBackupAndRestore\backups`

この場合の `DataDir` は、HPCA Core のインストール時に指定したデータ ディレクトリです。サブディレクトリは、管理対象デバイスをバックアップするたびに `backups` フォルダに作成されます。このサブディレクトリには復元に必要なすべての情報が格納されています。



HPCA Core Server ではなく管理対象デバイスのローカル ハード ディスクにバックアップ ファイルを格納する場合は、`pbr.exe` コマンドに `/localstore` オプションを指定して使用します。この場合、ファイルは次の場所にあるローカル ディスクに格納されます。

`C:/OSMGR.PRESERVE/PBR.work`

復元に必要なすべての情報が、このサブディレクトリに格納されます。

詳細については、365 ページの「[コマンドライン インターフェイスの使用](#)」を参照してください。



バックアップ ファイルの格納場所が HPCA Core Server であるか、管理対象デバイスのローカル ハード ディスクであるかに関わらず、バックアップ ファイルが自動的に削除されることはありません。特定のデバイスのバックアップ データが不要になった場合は、HPCA 管理者がそのバックアップ データを手動で削除できます。

HPCA Personality Backup and Restore Utility の使用

HPCA Personality Backup and Restore Utility は、USMT の使用法を簡略化するユーザー インターフェイスです。このユーティリティは、HPCA Agent のインストール時に、管理対象デバイスに配布されます。



開始する前に、HPCA Core Server、移行元および移行先の両方のコンピュータに、十分なディスク容量があることを確認してください (354 ページの「ディスク容量」を参照)。

Personality Backup and Restore Utility を起動するには：

管理対象デバイスで、[スタート] メニューから次のように選択します。

[すべてのプログラム] > [HP Client Automation Personality Backup and Restore] > [Client Automation Personality Backup and Restore Utility]

次のセクションでは、このユーティリティの使用方法について説明します。

- 361 ページの「パーソナリティのバックアップ」
- 363 ページの「パーソナリティの復元」

パーソナリティのバックアップ

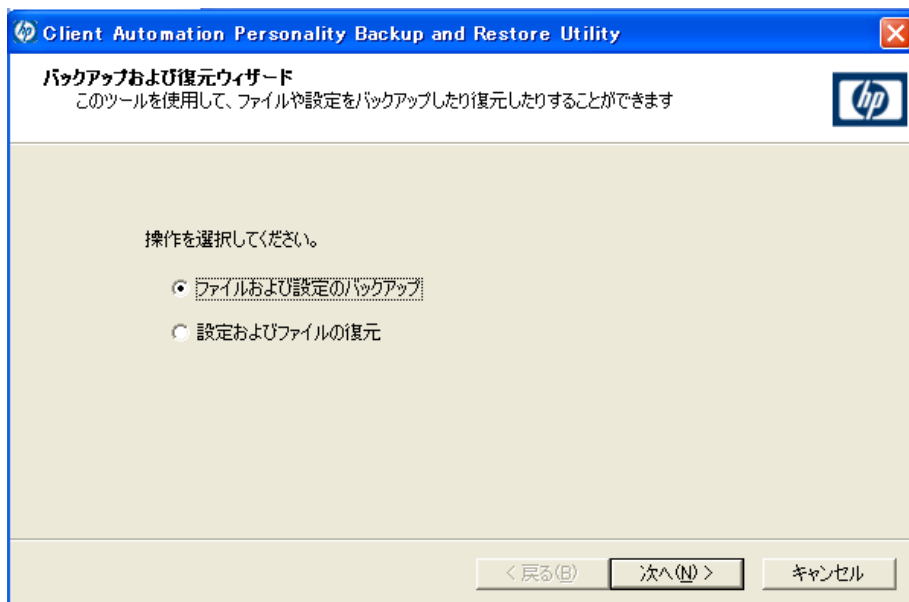
管理者権限のあるユーザー アカウントから Personality Backup and Restore Utility を実行する必要があります。



バックアップが正常に行われるように、バックアップの実行前に、開いているファイルや実行中のアプリケーションはできる限り終了します。バックアップの実行中には、新しいアプリケーションを起動したり、ファイルを開いたりしないでください。バックアップが失敗する可能性があります。

ファイルと設定をバックアップするには：

- 1 管理対象デバイスで **Personality Backup and Restore Utility** を起動します (361 ページを参照)。



- 2 **[ファイルおよび設定のバックアップ]** を選択して、**[次へ]** をクリックします。**[バックアップ]** ダイアログ ボックスが表示されます。
- 3 バックアップするデバイスのコンピュータ名を入力します。
- 4 7 ～ 15 文字のパスワードを入力して、**[次へ]** をクリックします。**[要約]** ダイアログ ボックスが表示されます。
- 5 要約情報を確認します。ファイルと設定を復元するときに必要になるため、コンピュータ名と使用したパスワードを記録します。
- 6 **[完了]** をクリックしてバックアップ プロセスを開始します。バックアップされるデータの量によっては、このプロセスが完了するまでに数分から数時間かかることがあります。**Personality Backup and Restore Utility** からバックアップの完了が通知されるまで、アプリケーションは終了しないでください。

パーソナリティの復元

管理者権限のあるユーザー アカウントから **Personality Backup and Restore Utility** を実行する必要があります。



復元が正常に行われるように、復元の実行前に、開いているファイルや実行中のアプリケーションはできる限り終了します。復元の実行中には、新しいアプリケーションを起動したり、ファイルを開いたりしないでください。復元が失敗する可能性があります。

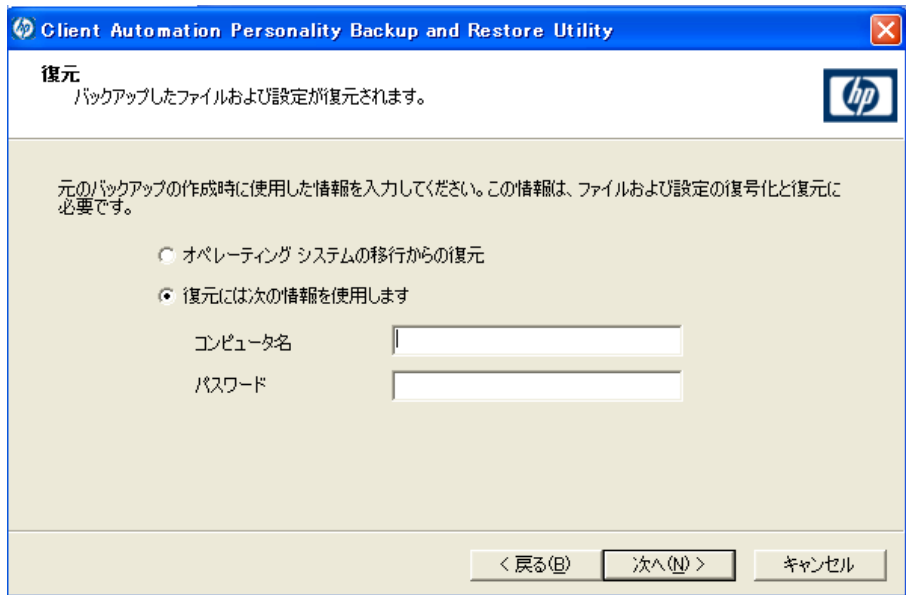
復元手順を開始する前に、設定を移行するすべてのアプリケーションを、移行先コンピュータにインストールする必要があります。注:(新しいバージョンが使用できる) **Microsoft Office** 以外のすべてのアプリケーションについては、移行元コンピュータにインストールされているものと同じバージョンのアプリケーションを、移行先コンピュータにインストールする必要があります。



バックアップで使用されたドメインと同じ **Windows** ドメインにあるコンピュータに復元します。また、バックアップで使用されたロケールと同じロケール(例、米国英語)で復元します。

ファイルと設定を復元するには

- 1 移行先コンピュータで **Personality Backup and Restore Utility** を起動します(詳細については、[361 ページ](#)を参照)。
- 2 **[設定およびファイルの復元]** を選択して、**[次へ]** をクリックします。**[復元]** ダイアログ ボックスが表示されます。



- 3 次のいずれかの操作を実行します。
 - **Personality Backup and Restore Utility** でバックアップしたファイルおよび設定を復元するには、次の手順を実行します。
 - a **[復元には次の情報を使用します]** を選択します。
 - b バックアップ時に使用した **[コンピュータ名]** および **[パスワード]** を入力します。
 - 移行を有効にした前回のオペレーティング システムの配布時に格納されたファイルと設定を復元するには、**[オペレーティング システムの移行からの復元]** を選択します。
- 4 **[次へ]** をクリックします。[要約] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 5 **[完了]** をクリックして復元プロセスを開始します。復元されるデータの量によっては、このプロセスが完了するまでに数分から数時間かかることがあります。**Personality Backup and Restore Utility** から復元の完了が通知されるまで、アプリケーションを終了しないでください。

- 6 フォント、壁紙、スクリーンセーバー設定などの一部のオペレーティングシステム設定は、移行先コンピュータを再起動するまで適用されません。これらの設定がすべて正常に適用されるように再起動を実行してください。

コマンドラインインターフェイスの使用

HPCA Personality Backup and Restore コマンドラインインターフェイスを使用して、管理対象デバイスのファイルと設定をバックアップしたり、復元したりできます。

構文は次のとおりです。

```
InstallDir\Agent\pbr.exe /B|/R [/localstore]
```

この場合の *InstallDir* は **HPCA Agent** のインストール先の場所です。デフォルトでは、これは C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA です。

/B オプションを指定するとバックアップを実行し、/R オプションを指定すると復元を実行します。

例 1: HPCA Core Server のファイルおよび設定のバックアップ

```
InstallDir\Agent\pbr.exe /B
```

例 2: HPCA Core Server からの復元

```
InstallDir\Agent\pbr.exe /R
```

/localstore オプションを指定すると、ローカルのバックアップまたは復元操作を実行できます。この場合、ユーザーデータは **HPCA Core Server** ではなく管理対象デバイスのローカルハードディスクに格納されます。または、ローカルハードディスクから復元されます。

例 3: ファイルおよび設定のローカルでのバックアップ

```
InstallDir\Agent\pbr.exe /B /localstore
```

例 4: ローカルバックアップ後の復元

```
InstallDir\Agent\pbr.exe /R /localstore
```

Personality Backup and Restore サービスの使用

HPCA が提供する次の 2 つの組み込みのサービスがあります。このサービスでは、ユーザー ファイルおよび設定のバックアップおよび復元のプロセスを自動化できます。

- HPCA Personality Backup (HPCA_PBR)
- HPCA Personality Restore (HPCA_RESTORE)

どちらのサービスも pbr.exe アプリケーションを起動します。これらのサービスは、オペレーティング システムの配布を行う状況で特に役立ちます。HPCA ライセンスのタイプに応じて、プロセスの動作が若干異なります。



HPCA Personality Backup サービス (pbr.exe /B) を使用してバックアップを実行した場合は、**HPCA Personality Restore** サービスを使用してのみユーザー データを復元できます。このユーティリティを使用してバックアップを実行した場合は、復元を実行する場合にもこのユーティリティを使用する必要があります。

HPCA Standard で OS 配布の一部としてユーザー データを移行するには

- 1 **OS 配布ウィザード**の [配布動作] ページで、[**ユーザー データと設定の移行**] オプションで [**はい**] を指定します。

このオプションを選択すると、HPCA は **HPCA Personality Backup** サービスを使用して、オペレーティング システムを配布する前にグループの各管理対象デバイスのユーザー データおよび設定をバックアップします。デフォルトでは、バックアップ ファイルは **HPCA Core Server** に格納されます。

- 2 管理対象デバイスの指定されたグループに **OS** を配布します。
- 3 **OS** の配布が完了したら、グループの各管理対象デバイスのデフォルトの場所に **USMT** がインストールされていることを確認します (357 ページの「**管理対象デバイスでの Microsoft USMT のインストール**」を参照)。
- 4 グループの管理対象デバイスごとに、ソフトウェア ライブラリに **HPCA Personality Restore** サービス (HPCA_RESTORE) を配布します。

このサービスは、ユーザー データを復元するデバイスごとに一度実行します。このサービスでは、まず、デバイスの C:\OSMGR.PRESERVE フォルダをチェックし、ローカル バックアップが実行されたかどうかを確認します。ローカルのバックアップ ファイルが見つからなかった場合、このサービスでは **HPCA Core Server** からユーザー データを復元します。

このサービスは、ユーザー データを復元するデバイスごとに一度実行します。このサービスでは、まず、C:\OSMGR.PRESERVE フォルダをチェックし、ローカル バックアップが実行されたかどうかを確認します。ローカルのバックアップ ファイルが見つからなかった場合、このサービスでは **HPCA Core Server** からユーザー データを復元します。

トラブルシューティング

このセクションでは、バックアップまたは復元が正常に完了しなかった場合に実行できるトラブルシューティング操作について説明します。

バックアップまたは復元が正常に完了しなかった

バックアップまたは復元が正常に完了しなかった場合は、**Agent** の Log ディレクトリにある `pbr.log` で、バックアップまたは復元時に発生したエラーを確認します。デフォルトの Log ディレクトリは、次のディレクトリです。

```
C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent\Log
```

`/localstore` オプションを指定して `pbr.exe` を使用する場合は、ログ ファイルは次のディレクトリに保存されます。

```
C:\OSMGR.PRESERVE\PBR.work\log
```

また、バックアップと復元時にそれぞれ作成された `ScanState.log` および `LoadState.log` ファイルを確認することもできます。これらのファイルは、**Agent** の Lib ディレクトリの下に `PBR\work\log` ディレクトリにあります。デフォルトの Lib ディレクトリは、次のディレクトリです。

```
C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent\Lib
```

ユーザーがパスワードを忘れたためデータを復元できない

Personality Backup and Restore Utility を使用して復元を実行するには、バックアップでユーザーが入力したコンピュータ名とパスワードの両方が必要です。紛失したパスワードを回復する方法はありませんが、管理者はユーザーが復元を実行できるように新しいパスワードを作成できます。このプロセスは次のとおりです。

- 1 管理者がユーザー ファイルと設定が格納されている **HPCA Core Server** のバックアップ ディレクトリを検索します。このディレクトリは、`DataDir\PersonalityBackupAndRestore\backups` にあります。この場合の `DataDir` は、**HPCA Core** のインストール時に指定した、ユーザーが設定できるデータ ディレクトリです。サブディレクトリの名前は次のとおりです。

```
ComputerName_EncodedComputerNameAndPassword
```

- 2 管理者は **Personality Backup and Restore Utility** を使用してバックアップを実行します。このバックアップは、ユーザーがパスワードを忘れたコンピュータでは実行しないでください。バックアップはそれ以外のマシン、できればバックアップの高速化を図るために、ユーザー データが少ないかまったくくないマシンで実行します。

このバックアップを実行するには、管理者は元のバックアップに使用したものと同一コンピュータ名（前述のバックアップ フォルダ名の一部）を入力し、復元を実行するエンドユーザーに支給するパスワードを作成する必要があります。

- 3 管理者は、`Data\PersonalityBackupAndRestore\backups` の下に作成された新しいディレクトリを見つけて、そのディレクトリの内容を削除し、手順 1 で説明した元のバックアップ ディレクトリの内容をコピーします。
- 4 エンドユーザーは、**Personality Backup and Restore Utility** を実行し、元のコンピュータ名と管理者が作成したパスワードを入力して、自分のファイルと設定の復元を行います。

注：エンドユーザーが、パスワードを忘れたが過去のバックアップからデータを復元する必要がない場合は、次回バックアップを実行するときに新しいパスワードを入力すれば、そのパスワードを使用して復元を実行できます。

15 よく寄せられる質問

この章では、HPCA およびそのコンポーネントを使用したときに利用できる一般的な管理タスクに関する、よく寄せられる質問を紹介します。

- 370 ページの「**HPCA Console** にはどうやってアクセスしますか?」
- 370 ページの「どのバージョンを使用しているかは、どのようにしてわかりますか?」
- 370 ページの「コンソールのパスワードはどのようにして変更できますか?」
- 371 ページの「自分の環境にあるデバイスの管理を始めるには、どのようにしますか?」
- 371 ページの「インベントリの収集のスケジュール設定は、どのようにしますか?」
- 372 ページの「管理対象デバイスのインベントリ情報は、どのようにして表示できますか?」
- 372 ページの「パッチ取得はどのようにして自動化できますか?」
- 373 ページの「パッチ適用状況探索スケジュールをどのようにして設定しますか?」
- 373 ページの「管理対象デバイスすべてにソフトウェアを配布するには、どのようにしますか?」
- 374 ページの「特定の **Microsoft** パッチを取得するには、どのようにしますか?」
- 374 ページの「ライセンス キーはどのようにして更新しますか?」
- 375 ページの「**OS** サービス パックの対象とするデバイスのグループをどのようにして作成しますか?」
- 375 ページの「ソフトウェアをある 1 つのデバイスに配布するには、どのようにしますか?」
- 376 ページの「コンソールを使用せずに **HPCA Agent** をインストールするには、どのようにしますか?」
- 376 ページの「**setup.exe** をパブリッシュするには、どのようにしますか?」
- 377 ページの「全デバイスがソフトウェアを受信したのは、どのようにしてわかりますか?」
- 377 ページの「ソフトウェアをユーザーがインストールできるようにするには、どのようにしますか?」

- 378 ページの「デバイス適用状況レポートを生成するには、どのようにしますか?」
- 378 ページの「OS イメージをキャプチャするには、どのようにしますか?」
- 378 ページの「OS イメージにドライバを追加するには、どのようにしますか?」
- 378 ページの「OS イメージにドライバを追加するには、どのようにしますか?」
- 379 ページの「OS イメージをパブリッシュするには、どのようにしますか?」
- 379 ページの「OS イメージを配布するには、どのようにしますか?」
- 380 ページの「利用状況データの収集を開始するには、どのようにしますか?」

HPCA Console にはどうやってアクセスしますか?

HPCA Console にアクセスするには、お使いの環境にある任意のデバイスからブラウザを使用します。

- **http://HPCAhost:3466/** に移動します。ここで、HPCAhost は、HPCA がインストールされているサーバーの名前です。

どのバージョンを使用しているかは、どのようにしてわかりますか?

- HPCA のバージョン情報を表示するには、[操作] 領域にある [インフラストラクチャ管理] の [サポート] ページを使用します。

コンソールのパスワードはどのようにして変更できますか?

各コンソールユーザーには、コンソールユーザーを作成するときに管理者が指定した独自のパスワードがあります。コンソールユーザーのログインパスワードは、195 ページの「アクセス制御」で変更します。

- 1 コンソールユーザーのユーザー ID をクリックして、[ユーザーの詳細] ウィンドウを開きます。
- 2 [パスワードの変更] をクリックします。

- 3 [パスワードの変更] 領域で、表示されたテキスト ボックスに新しいパスワードを入力し、確認します。
- 4 [適用]、続いて [保存] をクリックします。
新しいパスワードが保存されます。

自分の環境にあるデバイスの管理を始めるには、どのようにしますか？

デバイスは、**Management Agent** が配布されると、管理されます。エージェントを配布するには、そのデバイスを **HPCA** に追加する必要があります。

最初にデバイスをインポートします。

- [デバイス管理] の [一般] タブで [管理対象デバイスのインポート] をクリックします。 **デバイス インポート ウィザード** が開始されます。
- **246** ページのウィザードの手順に従って、デバイスをインポートします。

デバイスがインポートされたら、**Management Agent** を配布します。


- [デバイス管理] の [一般] タブで [**Management Agent の配布**] をクリックします。 **247** ページの「**エージェント配布ウィザード**」が開始されます。
- **247** ページのウィザードの手順に従って、**Management Agent** を配布します。

エージェントが配布されると、デバイスが管理できるようになり、ソフトウェア、パッチ、およびインベントリ管理の準備が完了します。

インベントリの収集のスケジュール設定は、どのようにしますか？


ハードウェアおよびソフトウェアのインベントリは、**ソフトウェア / ハードウェア インベントリ ウィザード** を使用して指定したスケジュールに基づいて収集されます。

- 最初に、インベントリ収集のスケジュール設定を、個々のデバイスについて行うか、グループについて行うかを選択します。 [デバイス管理] の [グループ] セクションまたは [グループ管理] の [グループ] で選択します。

- ツールバーで、[インベントリの収集]  ツールバー ボタンをクリックして、[ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索] を選択し、ウィザードを起動します。
- 249 ページのウィザードの手順に従って、デバイスとグループについてソフトウェアおよびハードウェアのインベントリ収集を定義します。
 - ▶ ソフトウェア配布ジョブが完了すると、追加されたインベントリ収集が実施されます。

管理対象デバイスのインベントリ情報は、どのようにして表示できますか？

[レポート] タブを使用して、管理対象デバイスのインベントリ情報を表示します。

- [レポート] タブのホーム ページから、[インベントリ情報] の下にある **[管理対象デバイスを表示]** をクリックします。全管理対象デバイスの一覧が表示されます。
- ページの左側のツールを使用するか、各リスト項目の条件をクリックしてリストをさらにフィルタします。
- ある1つのデバイスの情報を表示するには、**[詳細を表示]**  をクリックします。


パッチ取得はどのようにして自動化できますか？

[設定] タブの [パッチ管理] セクションを使用して、パッチ取得のスケジュールおよび設定を指定します。

- 1 **[取得] の [スケジュール]** タブで、付属のツールを使用して、取得スケジュールを設定します。
 - **実行**: 時間、日、週など一定の間隔でパッチを探索するかどうかを設定します。
 - **間隔**: 具体的な間隔 (時間、日、または週) を選択します。
 - **開始日**: ドロップダウン リストを使用して、パッチ適用状況を探る日を選択します。


- [現在のサーバー時刻] は、HPCA Server の現在の時刻を表示します。
- 2 終了したら、[保存] をクリックして、変更を適用します。[現在のスケジュール] の後に、新しいスケジュールが表示されます。
- 3 [取得] の [設定] タブで、各探索期間で取得するブリティンを入力します。ワイルドカード文字 (「MS05*」など) を使用してブリティンの範囲を指定できます。複数のブリティン検索を同時に行うには、カンマで区切ります (MS05*, MS06* など)。
- 4 [設定] タブの [インフラストラクチャ管理] にある [プロキシ設定] に移動します。
- 5 ブリティンの取得元の [Proxy Server のアドレス] と [ポート] を入力します。必要な場合、パッチを取得するためのプロキシユーザー ID およびプロキシパスワードを入力します。
- 6 [保存] をクリックして、変更を適用します。

パッチ適用状況探索スケジュールをどのようにして設定しますか？


- パッチ適用状況探索のスケジュールを指定するには、[デバイス] タブから管理対象デバイスを選択します (または、[グループ] タブからグループを選択します)。
- [インベントリの収集]  ボタンをクリックして、[パッチ適用状況の探索] を選択し、[パッチの適用状況探索ウィザード](#) を起動します。
- 250 ページのウィザードの手順に従って、デバイスおよびグループのパッチ適用状況探索のスケジュールを指定します。
- [レポート] タブを使用して、選択したデバイスに関するパッチ適用状況レポートを表示します。

管理対象デバイスすべてにソフトウェアを配布するには、どのようにしますか？

最初に、管理対象デバイスをすべて含むダイナミック レポート グループを作成します。

- [レポート] タブの [インベントリ] の下で、[管理対象デバイスを表示] をクリックします。
 - 全管理対象デバイスの一覧が表示されます。
 - **[新しいダイナミック レポート グループの作成]**  をクリックします。グループ作成ウィザードの手順に従って、グループを作成します。
- これで、新しく作成したグループ内のデバイスにソフトウェアを配布できます。
- [管理] タブで [ソフトウェア管理] をクリックします。
 - **[ソフトウェアの配布]** をクリックします。
 - これで、ソフトウェア配布ウィザード開始されます。ウィザードの指示に従って、新しく作成したグループおよび配布するソフトウェアを選択します。

特定の Microsoft パッチを取得するには、どのようにしますか？


- [設定] タブの [パッチ管理] セクションを使用して、[パッチ取得設定] の [取得するブリティン] テキスト ボックスに具体的なパッチ ブリティン番号を指定します。
-  設定を行ってすぐにパッチ取得を起動できます。定期的にはパッチを取得するようにパッチ取得スケジュールを設定した場合、取得設定の値をリセットする必要があります。これは、これらから先の取得の間に、パッチ取得が特定のパッチだけを取得するのを防ぐためです。

ライセンス キーはどのようにして更新しますか？

- 1 テキスト エディタを使用して、新しいライセンス ファイル (license.nvd など) を開きます。
- 2 ファイルの内容を、[設定] タブの [ライセンス] ページにある [ライセンス データ] テキスト ボックスにコピーします。
- 3 **[保存]** をクリックして、ライセンス情報を更新します。


OS サービス パックの対象とするデバイスのグループをどのようにして作成しますか？

[レポート] タブを使用して、特定のサービス パックを適用していない全デバイスを含むクエリを作成します。この例では、サービス パック 2 をインストールしていない Windows XP デバイスすべてを含むグループが作成されます。

- 1 [データ フィルタ] 領域で [インベントリ管理の関連情報] をクリックします。
- 2 [OS 関連情報] をクリックします。
- 3 [オペレーティング システム] をクリックして、「*Windows XP*」と入力します。
- 4 [適用] をクリックします。Windows XP をインストールしてある全デバイスが表示されます。
- 5 [OS のレベル] をクリックして、「!Service Pack 2」と入力します。
- 6 [適用] をクリックします。Service Pack 2 をインストールしていない Windows XP デバイスがすべて表示されます。
- 7 [新しいダイナミック レポート グループの作成]  をクリックして、グループ作成ウィザードの指示に従い、デバイスのグループを作成します。

ソフトウェアをある 1 つのデバイスに配布するには、どのようにしますか？

[ソフトウェアの詳細] ウィンドウを使用して、ソフトウェアをある 1 つのデバイスに配布します。

- 1 [管理] タブで [ソフトウェア管理] をクリックします。
- 2 [ソフトウェア ライブラリ] をクリックして、パブリッシュされたソフトウェアをすべて表示します。
- 3 ある 1 つのデバイスに配布するソフトウェアの説明リンクをクリックします。[ソフトウェアの詳細] ウィンドウが開きます。
- 4 [デバイス] タブをクリックして、そのソフトウェアを配布するデバイスを選択します。
- 5 [ソフトウェアの配布]  をクリックして、ソフトウェア配布ウィザードを開始します。
- 6 ウィザードの手順に従って、そのデバイスにソフトウェアを配布します。

コンソールを使用せずに HPCA Agent をインストールするには、どのようにしますか？

ネットワークに常時接続しているとは限らないデバイスにエージェントをインストールするには、HPCA メディアに収録されている HPCA Agent インストールプログラムを使用します。

- 1 HPCA インストール メディアの `Media\client\default\win32` ディレクトリにある、`standard-setup.cmd` ファイルを使用します。
- 2 コマンドラインで、「**standard-setup.cmd HPCA_IP_Addr**」と入力します。`HPCA_IP_Addr` はお使いの HPCA Server の IP アドレスです。
- 3 **Enter** キーを押します。

Windows インストーラ パッケージをパブリッシュするには、どのようにしますか？

- **Publisher** を使用して、パブリッシュするデータのタイプに **[Windows インストーラ]** を選択します。**Publisher** の手順に従って、**Windows** インストーラファイルが、管理対象デバイスへの配布に利用できるようにします。
詳細については、**Publisher** のオンライン ヘルプ、または 第 12 章、「パブリッシュ」を参照してください。

setup.exe をパブリッシュするには、どのようにしますか？


- **Publisher** を使用して、パブリッシュするデータのタイプに **[コンポーネントの選択]** を選択します。パブリッシュするファイルを選択して、**Publisher** の指示に従い、管理対象デバイスへの配布にそのファイルが利用できるようにします。
詳細については、**Publisher** のオンライン ヘルプ、または 第 12 章、「パブリッシュ」を参照してください。

全デバイスがソフトウェアを受信したのは、どのようにしてわかりますか？

- 1 [管理] 領域で [ソフトウェア管理] をクリックします。
- 2 [レポート] タブで [ソフトウェアの要約] をクリックします。[レポート] 領域に、全デバイス、管理対象デバイス、および失敗したデバイスの要約が表示されます。
[ソフトウェアの詳細] ウィンドウの [デバイス] タブを使用して、デバイス別のソフトウェアのステータスを表示することもできます。
- 1 ソフトウェアの説明リンクをクリックして、[ソフトウェアの詳細] ウィンドウを開きます。
- 2 [デバイス] タブをクリックします。
- 3 [ソフトウェアのステータス] カラムを表示して、どの管理対象デバイスにソフトウェアがインストールされているかを確認します。付与されたデバイスだけが表示されます。

ソフトウェアをユーザーがインストールできるようにするには、どのようにしますか？

ソフトウェア資格をデバイスのグループに追加して、Application Self-Service Manager から、ユーザーがそのソフトウェアをインストールできるようにします。

- [管理] タブの [グループ管理] セクションで [グループ] タブをクリックします。
- グループの説明リンクをクリックして、[グループの詳細] ウィンドウを開きます。
- [ソフトウェア] タブをクリックして、そのグループに付与されている全ソフトウェアを表示します。
- 別のソフトウェアを付与するには、[ソフトウェア資格の追加]  をクリックします。
- 付与するソフトウェアを選択して、[資格の追加] をクリックします。

付与すると、ソフトウェアは、コンソールまたは Application Self-Service Manager から個々のデバイスに配布できるようになります。

デバイス適用状況レポートを生成するには、どのようにしますか？

- [レポート] タブを使用して、どのパッチ ブリティンの適用状況を確認するかを指定します。
- [データ フィルタ] で、[**パッチ管理の関連情報**] をクリックします。
- [**パッチ適用状況ステータス**] をクリックします。
- ブリティンの名前または名前の一部を入力して、[**適用**] をクリックします。
- レポート リストの上部にあるツールを使用して、レポートのエクスポートまたは印刷を行います。

OS イメージをキャプチャするには、どのようにしますか？

Image Preparation Wizard を使用して、オペレーティング システム イメージの準備とキャプチャを行います。

- 1 ImageCapture.iso ファイルから **Image Preparation CD** を作成します。このファイルは、**HPCA** メディアの \Media\iso\roms ディレクトリにあります。
- 2 詳細な手順については、**Image Preparation Wizard** のオンライン ヘルプ、または **第 11 章、「OS イメージの準備とキャプチャ」** を参照してください。

OS イメージにドライバを追加するには、どのようにしますか？

配布用にオペレーティング システム イメージをキャプチャする前に、予想されるすべてのデバイスのハードウェア設定に対する **OEM** ドライバがインストールされているか確認することをお勧めします。

- **Microsoft** サポート情報の記事、「[How to Add OEM Plug and Play Drivers to Windows XP](#)」には、**Windows OS** のインストール環境用の **OEM** ドライバの追加に関する情報が解説されています。

OS イメージをパブリッシュするには、どのようにしますか？

- **Publisher** を使用して、パブリッシュするデータのタイプとして **[OS イメージ]** を選択します。パブリッシュするオペレーティング システム イメージを選択して、**Publisher** の指示に従い、デバイスへの配布にそのファイルが利用できるようにします。

▶ **Image Preparation Wizard** でキャプチャされるイメージは、デフォルトで **HPCA Server** の **C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\OSManagerServer\upload** ディレクトリに格納されます。

詳細については、**Publisher** のオンライン ヘルプ、または **第 12 章、「パブリッシュ」** を参照してください。

OS イメージを配布するには、どのようにしますか？

最初に、OS イメージを受信する全デバイスを含むスタティック グループを作成します。

- 1 **[グループ管理]** の **[一般]** タブから、**[新しいスタティック グループの作成]** をクリックします。
- 2 グループ管理ウィザードが開始されます。グループ作成ウィザードの手順に従って、グループを作成します。

これで、新しく作成したグループ内のデバイスにソフトウェアを配布できます。

- 1 **[管理]** タブで **[OS 管理]** をクリックします。
- 2 **[オペレーティング システムの配布]** をクリックします。OS 配布ウィザードが開始されます。
- 3 ウィザードの指示に従って、新しく作成したグループおよび配布するソフトウェアを選択します。OS 管理ジョブが作成されます。

利用状況データの収集を開始するには、どのようにしますか？

利用状況データは、利用状況収集エージェントが、管理対象デバイスでローカルに収集し保存します。利用状況データの収集を開始するには、次を行います。

- 1 **利用状況収集フィルタ作成ウィザード**を使用して、収集フィルタを作成して有効にします。詳細については、184 ページの「**収集フィルタ**」を参照してください。
- 2 **アプリケーション利用状況収集ウィザード**を使用して、利用状況収集エージェントを配布し、利用状況データの収集を始めます。272 ページのウィザードの手順に従って、グループから利用状況データを収集するスケジュールを指定します。または、個々のデバイスからの 1 回だけの収集を強制します。利用状況データは、12 か月の間、ローカル デバイスで保存されます。



ワイルドカード文字を使用して利用状況データを収集するフィルタを設定すると、大量のデータが収集されることになる場合があります。この場合、データベースのサイズが大きくなるにつれて、レポートのパフォーマンスに重大な問題が生じる可能性があります。利用状況情報が必要なアプリケーションについてだけ、データを収集するフィルタを作成することをお勧めします。

全アプリケーションについて利用状況データを収集するのは避けてください。

16 トラブルシューティング

次のセクションを使用して、HPCA の使用中に遭遇する一般的な問題のトラブルシューティングを行います。

- 381 ページの「ログ ファイル」
- 383 ページの「エージェント配布の問題」
- 384 ページの「OS 配布の問題」
- 385 ページの「Application Self-Service Manager の問題」
- 385 ページの「電源管理の問題」
- 386 ページの「パッチ管理の問題」
- 386 ページの「HPCA Server のトラブルシューティング」
- 391 ページの「ブラウザの問題」
- 393 ページの「ダッシュボードの問題」
- 395 ページの「その他の問題」

ログ ファイル

HPCA の各種ログ ファイルは、サーバー上の C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA 以下の次のディレクトリに格納されています。

- \Agent\Log
- \ApacheServer\logs
- \ApacheServer\apps\cas\logs
- \ApacheServer\apps\console\logs
- \BootServer\logs

- \ClientConfigurationManager\logs
- \ConfigurationServer\log
- \dcs\log
- \DistributedCS\logs
- \Knowledge Base Server\logs
- \ManagementPortal\logs
- \MessagingServer\logs
- \MiniManagementServer\logs
- \MulticastServer\logs
- \OOBM\logs
- \OSManagerServer\logs
- \PatchManager\logs
- \PolicyServer\logs
- \ProxyServer\logs
- \ReportingServer\log
- \tomcat\logs
- \VulnerabilityServer\logs

ログ ファイルのサイズは、時間が経過するにつれて大きくなります。ログには、**HPCA** サービスの動作中に使用されるものもあります。これらのアクティブなログ ファイルを削除しないでください。履歴ログ ファイルは必要に応じてアーカイブしたり削除したりできます。

ログファイルは、**HPCA Core Console** の [サポート] ページの [インフラストラクチャ管理] 領域にある [操作] タブを使用してダウンロードできます。

エージェント配布の問題

次の表は、エージェント配布ジョブの一般的なエラーメッセージおよび問題を解決するための手順を示しています。

表 36 エージェント配布ジョブのメッセージとトラブルシューティング

メッセージ	トラブルシューティングの手順
HPCA Management Agent のインストールに失敗しました。理由: <i>device</i> にユーザー <i>user</i> として接続するのに失敗しました。コード: No network provider accepted the given network path	HPCA Server では、エージェント インストール メディアをコピーするため、管理共有が作成されます。Windows ファイアウォールなどの個人用のファイアウォールが、この共有をブロックする場合があります。管理対象デバイスのファイアウォール除外リストに、 3463 番ポートおよびファイルとプリンタ共有サービスが追加されていることを確認します。 ローカルに定義された管理者に対しては、Windows Vista デバイスの管理共有 (C\$) へのアクセスは無効にされています。このため、Windows Vista デバイスはドメインの一部である必要があります、そのドメインの管理者の認証情報は、HPCA Console による Management Agent の配布の間に指定する必要があります。デバイスがドメインの一部でない場合、その他の手順ではローカルの管理者にアクセスを許可する必要があります。詳細な手順については、次の Microsoft サポート技術情報の記事を参照してください。 http://support.microsoft.com/kb/947232/en-us これらの変更が終了したら、デバイスを再起動します。
HPCA Management Agent のインストールに失敗しました。理由: コンピュータ名の重複。	使用環境内に重複したコンピュータ名を持つデバイスがないようにしてください。IP アドレスがすべて一意であっても、コンピュータ名が重複する可能性があります。IP アドレスが一意であれば DNS 名は一意になりますが、コンピュータ名は一意になりません。コンピュータ名が重複していると、Agent 配布は失敗します。
HPCA Management Agent のインストールに失敗しました。理由: <i>device</i> にユーザー <i>user</i> として接続するのに失敗しました。コード: Logon failure: unknown user name or bad password.	エージェント配布ウィザードの間に使用されたログイン認証情報が正しく、ユーザー ID がそのデバイスの管理特権を持っていることを確認します。パスワードは必ず入力してください。Windows XP デバイスでは、簡易ファイルの共有が無効になっていることを確認します。

表 36 エージェント配布ジョブのメッセージとトラブルシューティング

メッセージ	トラブルシューティングの手順
<p>HPCA Management Agent のインストールに失敗しました。理由 : <i>device</i> にユーザー <i>user</i> として接続するのに失敗しました。コード : Logon failure: unknown user name or bad password.</p>	<p>エージェント配布ウィザードの間に使用されたログイン認証情報が正しく、ユーザー ID がそのデバイスの管理特権を持っていることを確認します。パスワードは必ず入力してください。Windows XP デバイスでは、簡易ファイルの共有が無効になっていることを確認します。</p>
<p>Connection timed out</p>	<p>HPCA Server は、エージェントをデバイスに配布した後、3463 番ポートを使用して、そのデバイスへの TCP 接続を確立します。このポートが個人用のファイアウォールでブロックされていると、HPCA はデバイスを管理できません。管理対象デバイスのファイアウォール除外リストに、3463 番ポートおよびファイルとプリンタ共有サービスが追加されていることを確認します。</p>
<p>Timeout waiting for rma to register</p>	<p>エージェントは、デバイスにインストールされた後、3466 番ポートを使用して HPCA Server に登録されます。このポートが HPCA Server でファイアウォールによりブロックされていると、HPCA はデバイスを管理できません HPCA Server のファイアウォール除外リストに、3466 番ポートが追加されていることを確認します。</p>

OS 配布の問題

この章では、オペレーティング システム イメージの配布中に遭遇する一般的な問題について説明します。

TFTP サーバーが起動後にシャットダウンする

- 同じコンピュータで他の TFTP サーバーが動作していないことを確認します。

PXE がサブネットを横断できない

- PXE がサブネットを自由に移動するには、DHCP ヘルパーが有効である必要があります。DHCP ヘルパーは、DHCP ポートでのブロードキャストトラフィックの横断を許可します。通常、ブロードキャストはルータではオフになっています。

Application Self-Service Manager の問題

このセクションでは、HP Client Automation Application Self-service Manager (ASM) のよくある問題および問題を解決する手順を説明します。

アプリケーションのインストールが失敗し、カタログにはインストールされたと表示される

問題

インストールプログラムが失敗時にゼロを返すと、カタログには、アプリケーションがインストールされたと表示される場合があります。

対処法

ASD は、インストールが成功したかどうかを検出するのに、リターンコードを信頼しています。ASM が失敗を検出するには、インストールはゼロ以外のコードを返す必要があります。

このためには、インストールをコマンドファイルにラッピングし、正しいコードを返すことでプロセスが成功したかどうかを確認するロジックを使用します。

電源管理の問題

このセクションでは、HPCA の電源管理機能に関連するタスクの問題と対処法を説明しています。

デバイスが HPCA Server からの電源コマンドに応答しない

管理対象デバイスが、HPCA Server からの電源オン コマンドに応答しない場合、ルータやスイッチなどのネットワーク デバイスの設定に問題があることがあります。

- **Wake on LAN** サポートについて、**HPCA Server** から管理対象デバイスへのネットワーク パスをテストします。ネットワーク デバイスにリモートの電源 オン コマンドを送信するためのサード パーティ製ツールが、いくつかあります。インターネットで「**Wake on Lan ツール**」を検索すると、この機能をテストするための無料のツールが見つかります。

パッチ管理の問題

このセクションでは、パッチ管理に関連するタスクの問題と対処法を説明しています。

パッチ配布時のエラー

ターゲット デバイスへのパッチの配布時にエラーが発生する場合 (WUA Install Result Code 3 HRESULT \$hresult などのエラー メッセージが表示されます)、パッチの更新を受け取るターゲット デバイスに適切なバージョンの **Windows** インストーラがインストールされているかを確認します。

サポートされている最低限のバージョンに関する詳細については、**116** ページの「**パッチ管理**」を参照してください。

HPCA Server のトラブルシューティング

次のセクションでは、**HPCA Server** に関する問題のトラブルシューティングについて説明します。

- **386** ページの「**HPCA Core** コンポーネントのトラブルシューティング」

HPCA Core コンポーネントのトラブルシューティング

次のセクションでは、**Core Server** のコンポーネントに関連する問題のトラブルシューティングについて説明します。

- **387** ページの「**HPCA Cpre** の設定ファイル」
- **389** ページの「**HPCA Core** のログ ファイル」

HPCA Cpre の設定ファイル

Core Server のインストールでは、さまざまな Core Server コンポーネントのデフォルト値が設定されます。これらの値は変更する必要はありませんが、一部の値は Core Console で変更できます。次の表では、トラブルシューティングに必要な場合または HP テクニカル サポートからリクエストされた場合に備えて、設定ファイルの場所と名前を一覧表示します。

Core Server の製品設定ファイルへのデフォルトのパスは、

C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\xxxxxxx です。Core のインストール中に異なるパスを指定した場合、そのパスに従ってください。xxxxxxx の値は、次の表の場所カラムの値で置き換えます。

表 37 HPCA Cpre の設定ファイル

HPCA 製品	設定ファイルのタイプ	場所とファイル名 (C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\...)
HPCA Console	Apache Server	ApacheServer\apps\console\etc\service.cfg
	Apache Server	ApacheServer\apps\console\etc\proxy.cfg
	Sessionmanager	tomcat\webapps\sessionmanager\WEB-INF\sessionmanager.properties
	Sessionmanager	tomcat\webapps\sessionmanager\WEB-INF\classes\log4j.properties
Configuration Server		ConfigurationServer\bin\edmprof.dat
Distributed Configuration Server	Integration Server	DistributedCS\etc\HPCA-DCS.rc
	product	DistributedCS\etc\dcs.cfg
Messaging Server		MessagingServer\etc\core.dda.cfg
		MessagingServer\etc\patch.dda.cfg
		MessagingServer\etc\rms.cfg

表 37 HPCA Cpre の設定ファイル

HPCA 製品	設定ファイルのタイプ	場所とファイル名 (C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\...)
		MessagingServer\etc\usage.dd.acfg
OS Manager Server		OSManagerServer\etc\HPCA-OSM.rc
		OSManagerServer\etc\roms.cfg
		OSManagerServer\etc\roms_upd.cfg
Patch Manager		PatchManager\etc\HPCA-PATCH.rc
		PatchManager\etc\patch.cfg
Policy Server		PolicyServer\etc\HPCA-PM.rc
		PolicyServer\etc\pm.cfg
Portal	Integration Server	ManagementPortal\etc\HPCA-RMP.rc
	product	ManagementPortal\etc\rmp.cfg
		ManagementPortal\etc\romad.cfg
Reporting Server	OpenLDAP	DirectoryService\openldap
		ReportingServer\etc\cba.cfg
		ReportingServer\etc\ccm.cfg
		ReportingServer \etc\ed.cfg
		ReportingServer\etc\rim.cfg
		ReportingServer\etc\rm.cfg

表 37 HPCA Cpre の設定ファイル

HPCA 製品	設定ファイルのタイプ	場所とファイル名 (C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\...)
		ReportingServer\etc\rpm.cfg
		ReportingServer\etc\rrs.cfg
		ReportingServer\etc\rum.cfg
		ReportingServer\etc\scm.cfg
		ReportingServer\etc\vm.cfg
シンクライアント		TC\etc\HPCA-TC.rc
		TC\etc\rmms.cfg
Tomcat	Enterprise Manager	tomcat\webapps\em\WEB-INF\Console.properties
	Enterprise Manager	tomcat\webapps\em\WEB-INF\classes\log4j.properties
	OPE	tomcat\webapps\ope\WEB-INF\classes\log4j.properties (ログ レベル)
	VMS	tomcat\webapps\vms\WEB-INF\classes\log4j.properties (ログ レベル)

HPCA Core のログ ファイル

Core Server に問題があり、トラブルシューティングのためにそのログ ファイルにアクセスする必要がある場合、Core Console ではすべてのログ ファイルに即座にアクセスできます。

Core Server のログ ファイルを生成するには

- 1 Core Console の [操作] タブで、[サポート] をクリックします。
- 2 [トラブルシューティング] 領域で、[現在のサーバー ログ ファイルをダウンロード] をクリックします。
- 3 WinZip ファイルを開くと、ファイルが展開され、保存されます。

ファイルのすべての内容を理解する必要はありませんが、次の場合のためにこれらのファイルのアクセス方法および表示方法は知っておく必要があります。

- **HP** サポートにログ ファイルを提出する。
- 「**severe**」ラベルが付与されたエントリを確認する。

ブラウザの問題


次のトラブルシューティングのヒントは、ブラウザで発生する問題に関するものです。

- 391 ページの「F5 キーを使用してページをリフレッシュできない」
- 391 ページの「Internet Explorer 6 と SSL を使用して HTTP 1.1 を有効化できない」

F5 キーを使用してページをリフレッシュできない

HPCA Console の使用時に **F5** ファンクション キーを押すと、起動画面が短く表示され、最後に表示されていたダッシュボード ページに戻ります。現在表示されているページをリフレッシュできません。

解決策：

現在表示されているページをリフレッシュするには、ページ内の  (リフレッシュ) ボタンを使用します。

Internet Explorer 6 と SSL を使用して HTTP 1.1 を有効化できない

HTTP 1.1 が有効な場合、SSL が有効である Internet Explorer 6 を使用して HPCA Console を実行できません。これは、Internet Explorer 6 の制限事項です。

解決策：

Internet Explorer 6 のサポートは終了しました。Internet Explorer 7 以上にアップグレードする必要があります。

リモート制御を使用するとブラウザでエラーが発生する

HPCA Console から VNC またはリモート アシスタンスのリモート制御機能を開始すると、次のメッセージが表示される場合があります。

1 つのプロセスで複数の Java 仮想マシンが実行されることによってエラーが発生しました

この問題は、Java ブラウザ プラグインの既知の欠陥が原因である可能性があります。詳細については、http://bugs.sun.com/view_bug.do?bug_id=6516270を参照してください。

解決策：

このメッセージが表示された場合、ブラウザで使用している **Java Runtime Environment (JRE)** を、**JRE version 6 update 10** (またはそれ以降) にアップグレードします。

ダッシュボードの問題

次のトラブルシューティングのヒントは、HPCA ダッシュボードで発生する問題に関するものです。

- 393 ページの「ダッシュボード レイアウト設定の削除」
- 393 ページの「ダッシュボード ペイン読み込み状態が終了しない」
- 394 ページの「RSS クエリに失敗する」

ダッシュボード レイアウト設定の削除

ダッシュボードのレイアウトセッションは、使用しているコンピュータのローカル共有オブジェクト（ブラウザの cookie など）として格納されます。現在の設定を削除するには、**Adobe Website Storage Settings Panel** を使用して、**Flash** アプリケーションのローカルストレージ設定を管理する必要があります。詳細については、次の Web サイトを参照してください。

http://www.macromedia.com/support/documentation/en/flashplayer/help/settings_manager07.html

ダッシュボード ペイン読み込み状態が終了しない

次の両方の製品がインストールされているシステムで **HPCA Console** がホストされている場合、一部のダッシュボード ペインでは、結果が何も返されないまま読み込み状態がずっと続く場合があります。

- Microsoft SQL Server (Service Pack 2 が適用済み)
- Oracle ODBC クライアント ソフトウェア

次のバージョンの **Microsoft SQL Server** と **Oracle** クライアントは、同一のシステムにインストールされた場合、レポートと競合することが知られています。

Oracle ODBC Driver Version 10.2.0.1.0

Microsoft SQL Server 2005 Service Pack 2 (2005.90.3042)

原因がこの問題であることを検証するには

- 1 [コントロールパネル] の [管理ツール] で [イベント ビューア] を開きます。
- 2 左ナビゲーション ペインで [システム] を選択します。

- 3 [ソース] カラムが Application Popup になっているイベントを探します。
- 4 イベントに次の説明がある場合、次のエラーが発生していると考えられます。
アプリケーション ポップアップ : nvdkit.exe - アプリケーション
エラー : ...

解決策 :

これらの両方のプログラムを、HPCA Console をホストしているシステムにインストールしないでください。

RSS クエリに失敗する

HPCA ダッシュボード ペインが、コンテンツを提供する RSS フィードに接続できない場合、ペインに次のエラー メッセージが表示されます。

RSS フィード {RSS フィードの URL} への接続に失敗しました。HPC Enterprise Manager のプロキシ サーバーが正しく設定され、RSS フィードの購読が正しく設定され、RSS フィードにアクセスが可能か確認してください。

発生した接続の失敗のタイプを判別するには、ダッシュボード ペインの左下隅にある **RSS クエリに失敗しました** というメッセージの上にマウスを置きます。ツールチップに次のいずれかのメッセージが表示されます。

表 38 考えられる RSS フィードの失敗のタイプ

障害の原因	表示されるテキスト
プロキシが設定されていない	Error processing refresh: connection timed out: connect
Live Network のパスワードが無効	Error processing refresh: Invalid Response: Login failed
フィードに登録していない	Error processing refresh: Error on line -1: premature end of file

解決策 :

次を確認してください。

- 1 RSS フィードの URL が正しいことを確認する

- 2 **RSS** フィードサイトにアクセスできる。**RSS** フィードサイトの **URL** をブラウザに張り付けて確認します。
- 3 **HPCA Console** のプロキシ設定が正しく指定されている。
- 4 必要に応じて **RSS** フィードに登録している。フィードに登録するには、エラーメッセージに表示されている **URL** をクリックします。

その他の問題

次のトラブルシューティングのヒントは、前述の各トピックで解決できない問題に関するものです。

- 395 ページの「**SQL Server** データベースの設定の問題」
- 396 ページの「英語以外の環境でのレポート チャートの表示の問題」
- 396 ページの「レポートを開けない」
- 397 ページの「追加のパラメータが **HPCA** ジョブのウィザードで無視される」
- 398 ページの「仮想マシンが起動しない」
- 398 ページの「クエリが限界に達しました」

SQL Server データベースの設定の問題

初回セットアップ ウィザードまたは設定 UI から **SQL Server** データベースを設定すると、設定を正常に完了できないという問題が発生する場合があります。設定には、レポート データベース **DSN**、ユーザー **ID**、パスワード、サーバー、およびポートの指定が必要です。この設定を設定できない理由はさまざまです。

考えられる原因を以下にリストします。

- **SQL Server** のデフォルトのスタティック ポートは **1433** ですが、**SQL Server** のインストールが別のスタティック ポート、またはダイナミック (特定されない) ポートを使用して設定されている可能性があります。**HPCA** では、スタティック ポートを使用する必要があります。**SQL Server** のポート設定を確認し、適切に更新してください。
- [サーバーのホスト] は、データベースが存在するホストの名前です。例：

mydbserver.mycompany.com

- **SQL Server** のセットアップでデフォルトのデータベース以外のインスタンスが使用されている場合、インスタンスをサーバー名に追加する必要があります。たとえば、指定されたインスタンスが **HPCA** である場合、次のように指定します。

mydbserver.mycompany.com\HPCA

- **SQL Server** の認証設定を確認します。**Windows** 認証を使用している場合は、**SQL Server** の認証を使用してからレポート データベースの設定を適切に更新する必要があります。

英語以外の環境でのレポート チャートの表示の問題


英語以外の環境では、レポート チャートで特定の文字列に疑問符 (??) 文字が表示されます。このように誤って表示されるのは、クライアント デバイスにインストールされている **JAVA JRE** クライアントに英語以外のフォントのファイルがないことが原因です。

解決策：

これは、`fonts.properties` ファイルに関する一般的な **Java** の問題です。この問題を解決するためには、**JDK** ホーム ディレクトリの `font.properties` ファイルを特定の英語以外の環境向けのものに置き換える必要があります。たとえば、日本語環境では、`font.properties.ja` ファイルを使用して、オリジナルのフォント ファイルに置き換える必要があります。

レポートを開けない

このトピックでは、次の問題に対処します。


- 1 ダッシュボード ペインの  アイコンをクリックして関連レポートを開く。
- 2 リクエストしたレポートが開かない。
- 3 代わりに [レポート] ホーム ページが表示される。

これは、特定の **URL** がブラウザでブロックされたために発生します。使用しているブラウザのセキュリティ レベルを高く設定している場合、レポートの **URL** がブロックされることがあります。特定のレポートの **URL** がブロックされると、レポートのデフォルトの動作としてホーム ページが表示されます。

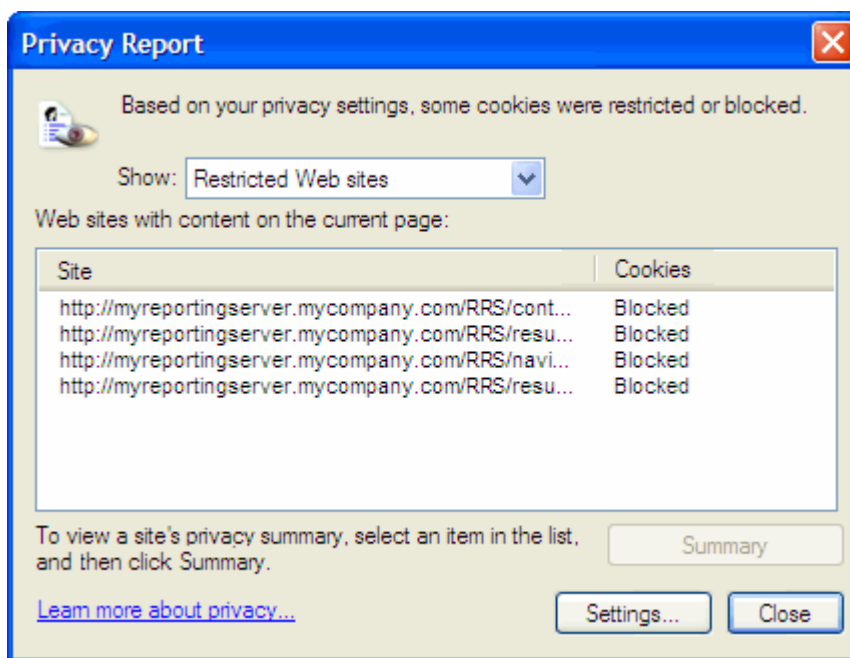
この動作は、Windows 2003 Server プラットフォーム上の Internet Explorer 7 で最も多く見られます。また、すべてのサポート対象プラットフォームでも発生する可能性があります。

解決策：

- 1 ブロックされた URL のリストを開きます。

たとえば、Internet Explorer 7 では、ブラウザの下側のバーに表示された赤い丸印が付いた目の形のアイコンをクリックします.

次のようなダイアログが表示されます。



- 2 ブラウザのプライバシー設定を使用して、表示するレポートの URL を、cookie の使用が許可されるサイトの一覧に追加します。

追加のパラメータが HPCA ジョブのウィザードで無視される

HPCA ジョブ作成ウィザードの使用時に「追加のパラメータ」を指定する場合、次の形式に従う必要があります。

option=value

この形式を使用しない場合は、追加のパラメータは無視されます。確認ページ (ウィザードの最後のページ) で、追加のパラメータがコマンドラインに含まれていることを必ず確認してください。

仮想マシンが起動しない

ESX バージョン 3.5 Update 2 (ビルド番号 **103908**) のライセンスの欠陥により、特定の日付以降に仮想マシンが起動できなくなります。

このビルドの **ESX** を実行している場合に **HPCA Console** から仮想マシンを起動しようとする、次のようなエラーメッセージがコンソールに表示されます。

結果 : 「マシン「< マシン名 >」名の起動に失敗しました」

詳細 : 「タスク haTask-##-vim.VirtualMachine.powerOn-#### の実行中にメソッド障害を受け取りました : 一般システム エラーが発生しました : 内部エラー。」

解決策 :

ESX バージョン 3.5 Update 2 build 110268 (またはそれ以降) をインストールしてください。

詳細については、この更新に関する **VMware** の次のリリース ノートを参照してください。

http://www.vmware.com/support/vi3/doc/vi3_esx35u2_vc25u2_rel_notes.html

クエリが限界に達しました

デフォルトでは、**Active Directory** オブジェクトの最初の **1000** 件のメンバーのみが **HPCA Console** に表示されます。**1000** 件を超えるメンバーを持つ **Active Directory** オブジェクトを参照しようとする、**「クエリが限界に達しました」** というエラーメッセージが表示されます。

推奨される解決策：

検索機能を使用して、表示されるメンバーを微調整してください。

代替解決策：

HPCA 管理者は、HPCA Console の `Console.properties` ファイルで `directory_object_query_limit` を指定できます。このファイルは次のディレクトリに格納されています。

```
<tomcatDir>\webapps\em\web-inf\Console.properties
```

<tomcatDir> のデフォルト値は次のとおりです。

```
C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\tomcat
```

`Console.properties` ファイルを変更した後は、必ず HPCA サービスを再起動してください。



`directory_object_query_limit` プロパティを変更すると、HPCA Console のパフォーマンスに悪影響を与える場合があります。

A HPCA Core Server と HPCA Satellite Server での SSL 設定

HPCA Console で設定可能な SSL 設定値の使用方法を十分に理解するには、SSL のさまざまな「構成要素」およびその機能について理解することが重要です。この付録では、HPCA 環境との関連を含めた SSL の概要を示します。詳細は、次のセクションを参照してください。

- 401 ページの「SSL の構成要素」
- 402 ページの「HPCA 環境での SSL」
- 403 ページの「Console の SSL 証明書フィールド」

詳細については、『HP Client Automation SSL 実装ガイド』を参照してください。

SSL の構成要素

次の構成要素の概要については、『HP Client Automation SSL 実装ガイド』の第 1 章を参照してください。

- 証明書
- 認証局
- 証明書の生成
- プライベート キー ファイル
- パブリック キー ファイル

HPCA 環境での SSL

SSL では、ID を確認し、セキュアな通信を実現するための共有暗号鍵を確立するために、**デジタル証明書**を使用します。SSL の使用方法は、インフラストラクチャ コンポーネント間の通信方法に応じて異なります。このセクションでは、SSL を有効にすべき 2 つの主な例と、それぞれの例における SSL の役割について説明します。



SSL 認証局、SSL 証明書、および SSL 証明書の生成の詳細については、『HP Client Automation SSL 実装ガイド』の第 1 章を参照してください。

リモート サービスへの SSL 通信のサポート

Core Server と Satellite Server の間の通信をセキュリティ保護する必要がないと想定される場合、それらのサーバー間の SSL 接続は不要です。ただし、Core Server または Satellite Server が、外部サーバー（ベンダーの Web サイトをホストするサーバーなど）、他の HPCA Server、および Active Directory と通信する場合には、セキュアな通信 (LDAPS) が必要です。

これら他のサーバーが主張するとおりの「サーバー」であることを信頼できるようにするため、Core または Satellite は、各サーバーの**パブリックな証明書**または発行**認証局 (CA)** の署名を取得する必要があります。Core または Satellite では、認証局から取得した **CA 証明書ファイル**も必要であり、他のサーバーでそれ入手できるようにして、Core または Satellite からのメッセージを復号化できるようにする必要があります。(Core および Satellite のインストールには、ほとんどの環境に適しているデフォルトの信頼された認証機関 `ca-bundle.crt` のセットが含まれています)。

コンシューマへのセキュアな通信サービスの提供

Core Server と Satellite Server の間の通信をセキュリティ保護する必要がある環境を想定します。この場合、Core はサーバーの役割を持ち、Satellite と可能なパブリック証明書が必要になります。Core Server のパブリック証明書には、そのパブリック キー、サーバー名、および (サーバーの ID を証明する) 認証局からの署名が含まれています。

- パブリック証明書 (**サーバー証明書**) は、自分を信頼してもらいたいユーザーすべてに与えることができます。

さらに、各 **Satellite Server** は「クライアント」の役割を持ち、**Satellite** と **Core** の間でメッセージの暗号化と復号化を実行できるように独自の証明書セットが必要になります。証明書は、その **Satellite** を証明するもので、**Core** がその **Satellite** を識別できるようにします。

個々の **Core** および **Satellite** は、メッセージを復号化するために独自のプライベート キーも必要になります。

- **プライベート証明書 (プライベート キー)** は、非公開の状態を維持し、一切共有しないでください。

Console の SSL 証明書フィールド

HPCA Console の [設定] タブの [インフラストラクチャ管理] 領域には、**SSL サーバー** および **SSL クライアント** があります。このセクションでは、2 つの領域の違いとそれぞれの領域の必要性について説明します。HPCA の **SSL** セットアップを完了するには、この付録の情報を確認してから、202 ページの「**インフラストラクチャ管理**」を参照してください。

- ▶ **SSL 証明書、SSL 認証局、および SSL 証明書の生成の詳細**については、『**HP Client Automation SSL 実装ガイド**』の第 1 章を参照してください。

SSL サーバー

パネルのこの領域を使用して、**SSL** を有効にし、**HPCA Server** のプライベート キー ファイル (`server.key`) とサーバー証明書ファイル (`server.crt`) をアップロードして保存します。これらのファイルは、(組織内で) 自己生成されたか、認証局から取得されたものです。これらのファイルの入手方法については、システム管理者にお尋ねください。

- プライベート キー ファイルは、対応するパブリック キーによってセキュリティ保護されたメッセージを復号化するために必要です。
- サーバー証明書ファイルは、**SSL** が有効になっているサーバーがこのホストを識別できるようにするために必要です。

ファイルがアップロードされると (場所を指定して [**保存**] をクリックすると)、これらのファイルは次の場所に保存されます。

C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\ApacheServer\conf\ssl。

このパスは **32** ビット オペレーティング システムの保存場所を示しています。
64 ビット オペレーティング システムの保存場所は次のとおりです。

```
C:\Program Files (X86)\Hewlett-Packard\HPCA\ApacheServer\  
conf\ssl。
```

デフォルトでは、これらのファイルは上記の名前で保存されますが、ファイル名はカスタマイズできます。

SSL クライアント

パネルのこの領域を使用して、**HPCA Server** の **CA** 証明書ファイル (ca-bundle.crt) をアップロードして保存します。このファイルには、ほとんどの環境で十分な権限を持つ信頼された認証機関のデフォルトのセットが含まれており、**HPCA Server** が **LDAPS** または **HTTPS** のいずれかを介して別のサーバーと通信する場合にのみ必要になります。



認証局から組織に取得された既存の **CA** 証明書ファイルを使用することが可能です。このファイルを入手する必要がある場合は、システム管理者にお尋ねください。

- **CA** 証明書ファイルには、信頼された認証局の署名入り証明書が含まれており、着信クライアントが「信頼できる」ものであることを確認するために必要です。

ファイルがアップロードされると (場所を指定して [**保存**] をクリックすると)、そのファイルは次の場所に保存されます。

```
C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\ApacheServer\  
conf\ssl.crt。
```


このパスは **32** ビット オペレーティング システムの保存場所を示しています。
64 ビット オペレーティング システムの保存場所は次のとおりです。

```
C:\Program Files (X86)\Hewlett-Packard\HPCA\ApacheServer\  
conf\ssl.crt。
```

デフォルトでは、このファイルは上記の名前で保存されますが、ファイル名はカスタマイズできます。

B 2 バイト文字のサポートについて

このセクションでは、サービス オペレーティング システム (SOS) のロケールを設定する、設定の変更を説明します。詳細は、次のセクションを参照してください。

 **Image Preparation Wizard** を使用してイメージを作成するときには、参照マシンとターゲット マシンのロケールが一致する必要があります。たとえば、簡体中国語の OS イメージを作成する場合は、簡体中国語の参照マシンで **Image Preparation Wizard** を実行する必要があります。

- 405 ページの「サポートされる言語」
- 406 ページの「ロケールの変更」



2 バイト文字が必要でない場合は、以下の変更を行わないでください。

サポートされる言語

405 ページの表 39 に、サポートされる言語と有効な言語コードの一覧を示します。

表 39 サポートされる言語とコード

言語	言語コード
韓国語	ko_KR
英語	ja
日本語	ja_JP
中国語 (簡体字)	zh_CN

ロケールの変更

PXE 環境でサポートされている言語にサポートを追加するには

- 1 テキスト エディタを使用して \X86PC\UNDI\linux-boot\linux.cfg \default を開きます。ファイルは次のように表示されます。

```
DEFAULT bzImage  
  
APPEND initrd=rootfs.gz root=/dev/ram0 rw ISVR=10.10.10.1  
ISVRPORT=3466
```

- 2 **LANG** パラメータを APPEND 行の最後に追加し、有効な言語コードを指定します (405 ページの表 39 を参照)。

結果として、言語が日本語に設定された、次の例のようなファイルが作成されます。

```
DEFAULT bzImage  
  
APPEND initrd=rootfs.gz root=/dev/ram0 rw ISVR=10.10.10.1  
ISVRPORT=3466 LANG=ja_JA
```

- 3 **default** ファイルを保存して閉じます。

サービス CD-ROM から復元するときにサポートされている言語にサポートを追加するには

- romsinfo.ini ファイルの ServiceCD セクションにある **LANG=xx_XX** を指定します。

サポートされる言語と有効な言語コードの一覧については、405 ページの表 39 を参照してください。

- romsinfo.ini ファイルは、サービス CD iso の一部です。

Sysprep ファイルの 2 バイト文字サポート

Sysprep で 2 バイト文字サポートを使用する場合は、ファイルを UTF-8 でエンコードする必要があります。

C レポートのパフォーマンスの強化

HPCA (Usage Manager) では、複数のスクリプトとマテリアライズドビューを用意しています。このスクリプトとビューを **Microsoft SQL Server** データベースおよび **Oracle** データベースに適用すると、レポートのパフォーマンスを強化できます。

これらのスクリプトおよびビューは次の場所にあります。

- **Microsoft SQL Server** データベースの場合は `Media\Usage\Optional Features\SQL Server`
- **Oracle** データベースの場合は `Media\Usage\Optional Features\Oracle`

ビューの使用

ビューには、標準マテリアライズドビューとフィルタマテリアライズドビューの2種類があります。どちらのビューもレポートのパフォーマンスを強化します。オプションで、いずれかのビューをデータベースに適用できます。各ビューの機能についての詳細は、スクリプトのコメントを参照してください。



スクリプト名では、`StepX_Define Filter Mat Tables` や `Indexes.sql` にあるように「**Materialized**」(マテリアライズド)を「**Mat**」と省略している場合があります。

[**標準マテリアライズドビュー (FMV)**] - レポートがアクセスするすべてのビューをテーブルに変換します。このビューにはクエリの実行時間を改善するインデックスがあります。すべてのビュー(レポートアクセスの内容)をテーブルに変換する機能とインデックスが追加され、クエリの処理速度が高速化されます。

[**フィルタ設定されたマテリアライズドビュー (FMV)**] - レポートがアクセスするすべてのビューをテーブルに変換します。ビューをテーブルに変換する前にフィルタを適用する必要があります。フィルタは個別のテーブルに格納されます。

たとえば、notepad.exe をフィルタとして選択すると、FMV テーブルにはすべてのデバイスの詳細がメモ帳を使用して入力されます。SMV と似ていますが、ビューをテーブルに変換するときにフィルタを適用する必要があるという点が異なります。フィルタは個別のテーブルに格納されます。例として、Notepad.exe のフィルタを選択する場合、FMV テーブルにはすべてのデバイスの詳細がメモ帳を使用して入力されます。

SMV または FMV のスクリプトを適用するには

- 1 **[HPCA Knowledge Base Server]** のサービスを停止します。このサービスは Windows の [コントロールパネル] の Administrative Tools\Services オプションを使用して停止および開始できます。
- 2 通常の手順で、所定の順序で次の場所にあるデータベース スクリプトを実行します。

— SQL Server の場合：

```
\SQL Server\Optional Features\Filter Materialized Views
```

または、

```
\SQL Server\Optional Features\Standard Materialized Views
```

— Oracle の場合

```
\Oracle\Optional Features\Filtered Materialized Views
```

または、

```
\Oracle\Optional Features\Standard Materialized Views
```

上記の各場所には、データベースからビューを削除するのに使用するスクリプトも含まれています。たとえば、Microsoft SQL Server および Filtered Materialized Views のスクリプト名は次のとおりです。

```
SQLServer - Remove All Filter Mat Tables and Indexes.sql
```

ユーティリティ スクリプト

データベース管理者として、次のスクリプトを使用してレポート ビューのパフォーマンスを強化できます。

- **Purge_Computer_Data.sql:** コンピュータ名に関連付けられているすべてのデータを削除します。コンピュータ名が、スクリプト内の適切な場所に指定されている必要があります。デフォルト値は MYCOMPUTER です。

- **Purge_User_Data.sql:** コンピュータ名とユーザー名に関連付けられているすべてのデータを削除します。コンピュータ名およびユーザー名が、スクリプト内の適切な場所に指定されている必要があります。デフォルト値は **MYCOMPUTER** および **BOB** です。
- **Delete All Windows OS Files from Database.sql: Usage Manager** データベースから **Windows Operating System (OS)** 関連のすべてのファイルを削除します。

Oracle 用のその他のスクリプト

その他のスクリプトは、ユーティリティ スクリプトとともに適用し、レポートビューのパフォーマンスを強化できる追加のスクリプトです。

- **Optional_Create_Public_Synonyms.sql:** パブリック シノニムを作成します。スクリプトは **Usage Manager** のユーザー名向けに編集する必要がある場合があります。
- **Optional_Drop_Public_Synonyms.sql: Optional_Create_Public_Synonyms** スクリプトを使用して作成したパブリック シノニムを削除します。
- **Step99a_DropAll.sql: Usage Manager** データベースに存在するすべてのテーブルを削除します。

D Windows 応答ファイルのカスタマイズ

この付録は、次のトピックで構成されています。

- 412 ページの「[unattend.xml ファイルのカスタマイズ](#)」
- 419 ページの「[HPCA OS Manager での XML ファイルの処理](#)」
- 421 ページの「[.subs ファイルおよび .xml ファイルについて](#)」

これらは、無人モード（クライアント デバイスでユーザーの介入が不要）で管理対象デバイスにオペレーティング システムのイメージを配布できるようにするこのイメージのキャプチャおよびパブリッシュのプロセスに関するトピックです。

unattend.xml ファイルのカスタマイズ

HPCA では OS の無人インストールに使用できる応答ファイルを提供します。この応答ファイルは unattend.xml という名前です。

各オペレーティング システムおよびアーキテクチャ (32 ビットまたは 64 ビットなど) には、独自の unattend.xml ファイルがあります。これらのファイルは、次のサブディレクトリにあります。

`InstallDir\Data\OSManagerServer\capture-conf`

ファイルの先頭にあるヘッダーは、ファイルの適用先の OS、アーキテクチャ、および配布メソッドを示しています。

HP が提供する unattend.xml ファイルを使用する場合は、OS イメージをパブリッシュする前に環境に合わせてこのファイルを変更する必要があります。次に、カスタマイズの対象となる設定をいくつか挙げます。

- 413 ページの「[ProductKey](#)」
- 415 ページの「[TimeZone](#)」
- 416 ページの「[RegisteredOwner](#) および [RegisteredOrganization](#)」
- 416 ページの「[JoinDomain](#)」
- 418 ページの「[MetaData](#)」



少なくとも、有効な製品キーを指定する必要があります (413 ページの「[ProductKey](#)」を参照)。ここで説明するその他の設定の変更はオプションです。

テキスト エディタを使用して、該当する unattend.xml ファイルのコピーを変更します。このコピーのファイル名は任意に指定できますが、.xml ファイル拡張子は維持する必要があります。OS イメージをパブリッシュするときに、カスタマイズした応答ファイルがある場所を指定します。



Windows Automated Installation Kit (AIK) には Unattend.chm という名前のファイルが含まれています。これは、コンパイル済みのオンライン ヘルプのファイルであり、unattend.xml ファイルの内容に関する参照情報が記載されています。ここで説明する設定とカスタマイズできるその他の設定についての詳細は、このヘルプ ファイルを参照してください。Unattend.chm をダブルクリックするだけで、簡単にファイルを開けます。

ProductKey

<ProductKey> 要素は、使用している具体的な OS イメージ、アーキテクチャ、および配布メソッドによって、unattend.xml ファイルの異なる場所に表示されます。<ProductKey> は、次のように文字間が区切られている 29 個の文字で構成されている文字列です。

```
XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX
```



すべての DVD インストールで、/IMAGE/INDEX が DVD の正しいイメージ (418 ページの「[MetaData](#)」を参照) を参照していることを確認してください。

リテール版

Windows のリテール版 (Windows 7 Ultimate など) では、次のように変更します。

- <ProductKey> 要素内の <Key> 要素に有効な製品キーを挿入します。例：

```
<UserData>
  <AcceptEula>true</AcceptEula>
  <ProductKey>
    <Key>XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX</Key>
    <WillShowUI>OnError</WillShowUI>
  </ProductKey>
</UserData>
```

この要素は、パスの「WindowsPE」の「Microsoft-Windows-Setup」コンポーネントにあります。

- 「specialize」パスの「Microsoft-Windows-Shell-Setup」コンポーネントにある <ProductKey> 要素全体を削除します。

```
<ProductKey>XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX</ProductKey>
```

ビジネス版

Windows のビジネス版 (Business、Enterprise、Professional、Server 版を含む) では、次のように変更します。

- パスの「WindowsPE」の「Microsoft-Windows-Setup」コンポーネントにある <Key> 要素のすべての文字を削除します (上の例を参照)。
<Key></Key>
- 「specialize」パスの「Microsoft-Windows-Shell-Setup」コンポーネントにある <ProductKey> 要素に有効な製品キーを挿入します。
<ProductKey>XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX</ProductKey>
Volume License Multiple Activation Key (MAK) を使用する場合は、
<ProductKey> 要素で使用してください。



Windows AIK では、<Key></Key> 要素は空の値をサポートしていますが、<ProductKey> 要素は空の値をサポートしていません。このため、<ProductKey> 要素を使用しない場合、この要素を削除する必要があります (413 ページの「リテール版」を参照)。

64 ビット プラットフォーム

一部の 64 ビット アーキテクチャで Windows セットアップ配布メソッドにより DVD を使用している場合は、次のように変更してください。

- パスの「WindowsPE」の「Microsoft-Windows-Setup」コンポーネントにある <Key> 要素のすべての文字を削除します (上の例を参照)。
<Key></Key>
- 「specialize」パスの「Microsoft-Windows-Shell-Setup」コンポーネントにある <ProductKey> 要素に有効な製品キーを挿入します。
<ProductKey>XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX</ProductKey>
- /IMAGE/INDEX がメディアの正しいイメージを参照していることを確認してください (418 ページの「MetaData」を参照)。
- 「WindowsPE」パスの次のコンポーネントの仕様で「amd64」; を「x86」; に変更します。
<component name="Microsoft-Windows-International-Core-WinPE" processorArchitecture="amd64" ...
<component name="Microsoft-Windows-Setup" processorArchitecture="amd64" ...
- パブリッシュ中、ソース ディレクトリの指定を求められたときは、同じオペレーティング システムの 32 ビット メディアのソース ディレクトリを指定します。

- Windows 2008 R2 x64 の場合、次の専用の手順を実行します。
 - Windows 7 Enterprise Edition 32 ビット インストール メディアを使用します。
 - OS イメージをパブリッシュする前に、次の手順を実行します。
 - a Windows 7 32 ビット インストール メディアから、`mediaDrive:\sources` フォルダを `c:\temp` にコピーします。
 - b Windows 7 メディアを取り出し、Windows 2008 R2 x64 メディアを読み込みます。
 - c Windows 2008 R2 x64 のインストール メディアから、`mediaDrive:\sources\license` フォルダを `c:\temp\sources` にコピーします。

既存のファイルの上書きを確認するメッセージが表示されたら、上書きの実行を確認します。

この操作により、Windows 2008 Server R2 EULA が Windows 7 インストーラのフォルダから使用できるようになります。



詳細については、Windows AIK に含まれているヘルプ ファイル Unattend.chm の「ProductKey」のトピックを参照してください。



HPCA は 64 ビット プラットフォームで Windows セットアップ配布のイメージ キャプチャを現在サポートしていません。

TimeZone

<TimeZone> 要素は、使用している具体的な OS イメージ、アーキテクチャ、および配布メソッドによって、unattend.xml ファイルの異なる場所に表示されます。

たとえば、キャプチャした Windows 7 (x86) イメージの unattend.xml ファイルでは、<TimeZone> 要素は次の 2 つの場所に表示されます。

- Microsoft-Windows-Shell-Setup コンポーネントでは、次の要素にあります。
<settings pass="oobeSystem">
- Microsoft-Windows-Shell-Setup コンポーネントでは、次の要素にあります。
<settings pass="specialize">

OS の配布先であるターゲット デバイスに合わせて <TimeZone> を変更します。例：

```
<TimeZone>Eastern Standard Time</TimeZone>
```

タイムゾーンのスペルが **Windows** レジストリで使用しているスペルと厳密に一致していることが重要です。詳細については、**Windows AIK** に含まれているヘルプファイル `Unattend.chm` の「言語パックのデフォルト値」のトピックを参照してください。



グリニッジ標準時は、現在、協定世界時として知られています。



Windows 7 を実行しているコンピュータでは、`tzutil` コマンドを使用してコンピュータのタイムゾーンを表示できます。

RegisteredOwner および RegisteredOrganization

これらの要素は、使用している具体的な OS イメージ、アーキテクチャ、および配布メソッドによって、`unattend.xml` ファイルの異なる場所に表示されます。

たとえば、キャプチャした **Windows 7 (x86)** イメージの `unattend.xml` ファイルでは、これら 2 つの要素は次の 2 つの場所にあります。

- `Microsoft-Windows-Shell-Setup` コンポーネントでは、次の要素にあります。
`<settings pass="oobeSystem">`
- `Microsoft-Windows-Shell-Setup` コンポーネントでは、次の要素にあります。
`<settings pass="specialize">`

これらの要素を会社（オペレーティングシステムを登録したエンティティ）の名前に変更します。例：

```
<RegisteredOrganization>Hewlett-Packard</RegisteredOrganization>  
<RegisteredOwner>Hewlett-Packard</RegisteredOwner>
```

これらの文字列に入力できる文字数は、半角で **256** 文字までです。

詳細については、**Windows AIK** に含まれている `Unattend.chm` ヘルプファイルの「**RegisteredOrganization**」および「**RegisteredOwner**」のトピックを参照してください。

JoinDomain

OS のインストール後、ドメインまたはワークグループのいずれかに参加するようにターゲットデバイスに指示できます。デフォルトはワークグループモードです。ターゲットにドメインに参加するよう指示するには、次の要素を変更します。


```
<component name="Microsoft-Windows-UnattendedJoin" ... >
  <Identification>
    <Credentials>
      <Domain></Domain>
      <Password></Password>
      <Username></Username>
    </Credentials>
    <JoinDomain></JoinDomain>
  </Identification>
</component>
```

例:

```
<component name="Microsoft-Windows-UnattendedJoin" ...>
  <Identification>
    <Credentials>
      <Domain>lan.mycompany.com.de</Domain>
      <Password>T3ch3d08</Password>
      <Username>administrator</Username>
    </Credentials>
    <JoinDomain>lan.mycompany.com.de</JoinDomain>
  </Identification>
</component>
```

- ▶ 指定されたユーザーには、ドメインに参加できる十分なアクセス レベルが必要です。
- ▶ この情報の一部が見つからないかまたは正しくない場合、デバイスはドメインではなくワークグループに参加します。
- ▶ ターゲット デバイスが以前 **HPCA** で管理されており、このデバイスが以前ドメインのメンバーであった場合、unattend.xml ファイルで <Domain> 要素および <JoinDomain> 要素の内容が格納されているドメイン情報で上書されます。
- ▶ **OS Manager Server** のスクリプトを使用してドメインを設定するなど、一元的に設定されるすべての情報で unattend.xml の情報が上書きされます。

詳細については、**Windows AIK** に含まれている Unattend.chm ヘルプ ファイルの「**JoinDomain**」のトピックを参照してください。

MetaData

オペレーティング システムのイメージを DVD から直接配布する場合、DVD の WIM ファイルでそのイメージの場所を指定する必要があります。WIM ファイルでは、この情報は次のように構成されています。

```
<WIM>
  <IMAGE INDEX="2">
    <NAME>MyWIM</NAME>
    <DESCRIPTION>MyCustomWindowsImage</DESCRIPTION>
  </IMAGE>
</WIM>
```

unattend.xml ファイルでは、イメージの情報は、<settings pass="WindowsPE">の下にある Microsoft-Windows-Setup コンポーネント階層の <MetaData> 要素で指定されています。例：

```
<MetaData>
  <Key>/IMAGE/INDEX</Key>
  <Value>2</Value>
</MetaData>
```

<Key> 要素は WIM ファイルのどのデータ項目に一致するかを指定します。次のいずれかを指定できます。

- IMAGE/INDEX
- IMAGE/NAME
- IMAGE/DESCRIPTION

<Value> 要素はこのデータ項目の推奨値を示します。この例では、配布するイメージの WIM ファイルの IMAGE/INDEX の値は 2 です。

WIM ファイルのイメージのリストを抽出するには、次のコマンドを使用します。

```
imagex /info WIMFileName > c:\info.txt
```

この例では、*WIMFileName* が WIM ファイル (install.wim など) の名前です。このコマンドの出力は、結果を簡単に検索できるように、(この例に示すように) テキスト ファイルに必ずリダイレクトします。

詳細については、Windows AIK に含まれているヘルプ ファイル Unattend.chm の「**MetaData**」のトピックを参照してください。

HPCA OS Manager での XML ファイルの処理

パブリッシュする unattend.xml ファイルは、発行したイメージに存在するすべての unattend.xml ファイルの上に配置されます。

HPCA がイメージインストールを開始する前に、パブリッシュした XML を substitutes ファイルと結合し、最終的な unattend.xml を生成します。

このファイルの結合は、HPCA が実際のイメージのインストールを開始する前に、HPCA によって実行されます。これまで前面に露出していた substitutes ファイルは、背後に隠れて使用されるようになります。各オペレーティングシステムおよびアーキテクチャ (32 ビットまたは 64 ビットなど) には、独自のファイルがあります。これらのファイルは、次のサブディレクトリにあります。

`InstallDir\Data\OSManagerServer\capture-conf`

パブリッシュされるイメージのプロセッサのアーキテクチャに応じて、自動的に正しいファイルが選択されます。

表 40 では、substitutes ファイルをパブリッシュするときに更新される unattend.xml ファイルの設定がリストに表示されます。



青で示されている設定 (CommandLine、Path、および PartitionID の両方のインスタンス) は、HPCA が動作するために必要です。これらの設定を削除することはできません。

表 40 substitutes ファイルに基づいて更新される設定

設定パス	コンポーネント	パス	設定	上書き値
windowsPE	Microsoft- Windows-Setup	DiskConfiguration/ Disk/ ModifyPartitions/ ModifyPartition	PartitionID	HPCA が OS をインストールする先の DISKPART ボリュームの ID
windowsPE	Microsoft- Windows-Setup	ImageInstall/ OSImage/ InstallTo/	PartitionID	HPCA が OS をインストールする先の DISKPART ボリュームの ID
windowsPE	Microsoft- Windows-Setup	ImageInstall/ OSImage/ InstallFrom/	Path	インストールに使用する WIM ファイル

表 40 substitutes ファイルに基づいて更新される設定

設定パス	コンポーネント	パス	設定	上書き値
oobeSystem	Microsoft-Windows-Shell-Setup	AutoLogon/	Domain	コンピュータ名 (自動ログオン用)
specialize	Microsoft-Windows-Shell-Setup	AutoLogon/	Domain	ローカル コン ピュータ名 (自動 ログオン用)
specialize	Microsoft-Windows-UnattendedJoin	Identification/ Credentials/	Domain	HPCA Enterprise コンソールの getmachinename .tcl または既存 のデバイス エン トリを使用してド メインを一元的に 設定する
specialize	Microsoft-Windows-UnattendedJoin	Identification/	JoinDomain	HPCA Enterprise コンソールの getmachinename .tcl または既存 のデバイス エン トリを使用してド メインを一元的に 設定する
specialize	Microsoft-Windows-Shell-Setup		Computer Name	コンピュータ名
oobeSystem	Microsoft-Windows-Shell-Setup	FirstLogonCommands/ SynchronousCommand	Command Line	Agent のインス トール メディア インストーラへの パス

必要に応じて、substitutes ファイルをカスタマイズし、特定のカスタマイズを無効にしたり、新しいカスタマイズを追加したりできます。ただし、PartitionID 設定または CommandLine 設定を削除または変更できません。

.subs ファイルおよび .xml ファイルについて



HPCA では、Publisher の実行時にこの情報のソースを指定できるようになりました。詳細については、317 ページの「オペレーティング システム イメージのパブリッシュ」を参照してください。



このトピックは Windows XP または Windows 2003 には該当しません。

HPCA Publisher は下位互換性があります。.WIM ファイル、.EDM ファイル、.XML ファイル、および .SUBS ファイルで構成される、保存されている OS イメージのパブリッシュをサポートしています。

*.SUBS ファイルおよび *.XML ファイルを手動で事前に作成する場合は、これらのファイルに *.WIM ファイルと同じプレフィックスを指定する必要があります。たとえば、vista.WIM、vista.SUBS、および vista.XML と指定します。3 つのファイルすべてを同一のディレクトリに格納する必要があります。



HPCA Publisher を実行するときに、*.WIM ファイルと同じディレクトリに *.SUBS ファイルおよび *.XML ファイルがある場合は、unattend.xml ファイルは要求されません。

HPCA では、次のフォルダのサブディレクトリにある Image Capture メディアにこれらのファイルのサンプルを用意しています。

```
\samples\unattend
```

サンプルファイルを使用する場合は、ファイル名を変更し、必要に応じて修正します (<TimeZone> および <ProductKey> の設定など)。

.XML ファイルは一般情報を格納している応答ファイルであるとともに、.SUBS から取り込まれる情報のプレースホルダでもあります。Microsoft の Windows System Image Manager (SIM) ツールを使用して、*.XML ファイルに情報を追加できます。情報を追加する場合は、まず対応する *.WIM ファイルを開いてから、*.XML を開く必要があります。



*.XML ファイルおよび *.SUBS ファイルを使用する場合は、Windows インストール用の製品キーを *.XML ファイルに指定する必要があります。

このファイルの XML 値は、一切削除しないでください。*.XML ファイルの変更を間違えると、インストールが失敗する可能性があります。

SIM ツールの [メッセージ] セクションで「…値 \$\$SUBSTR\$\$ が無効です…」のようなエラーが表示されても無視して構いません。

このファイルを保存すると、「応答ファイルには、検証エラーがあります。続行してもよろしいですか？」などのメッセージが表示される場合があります。[はい] をクリックして続行します。

.SUBS ファイルは、.XML で修正される各 XML 項目と推奨値の一覧を示す「置換」ファイルです。*.SUBS ファイルの行は XPATH と呼ばれます。



.SUBS ファイルに入力されている情報は、.XML ファイルの情報より優先されます。

置き換えの例

置き換えの仕組みについて理解するには、次の例を参照してください。この例では、JoinDomain 属性を、filename.xml ファイルの「anything」から unattend.xml ファイルの「VistaTeam」に設定する方法を示しています。



< > で囲まれたコードは、*.xml ファイル内ではすべて 1 行で表示される必要があります。

- 1 オペレーティング システム、ターゲット デバイス アーキテクチャ、配布メソッドのための適切な unattend*.xml ファイルおよび substitutes ファイルを配置します。これらのレポートは、ImageCapture CD の samples\ にあります。
- 2 unattend*.xml ファイルのコピーを作成し、filename.xml という名前を付けます。ここで、filename は .WIM ファイルの名前に一致します。このコピーを .WIM ファイルと同じディレクトリに格納します。

- 3 substitutes ファイルのコピーを作成し、*filename.subs* という名前を付けます。このコピーを .WIM ファイルと同じディレクトリに格納します。

これで 1 つのディレクトリに次の 3 つのファイルが格納されます。

- *filename.wim*
- *filename.xml*
- *filename.subs*

- 4 *filename.xml* ファイルに **JoinDomain** の XML 要素を配置します。次の例のようになります。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<unattend xmlns="urn:schemas-microsoft-com:unattend">
    <settings pass="specialize">
        <component name="Microsoft-Windows-UnattendedJoin"
processorArchitecture="x86" publicKeyToken="31bf3856ad364e35"
language="neutral" versionScope="nonSxS"
xmlns:wcm="http://schemas.microsoft.com/WMIConfig/2002/State"
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
            <Identification>
                <JoinDomain>anything</JoinDomain>
            </Identification>
        </component>
    </settings>
    <cpu:offlineImage cpu:source="wim://hpfcovcm/c$/
vista_inst/vista.wim#Windows Vista ULTIMATE"
xmlns:cpu="urn:schemas-microsoft-com:cpu"/>
</unattend>
```

- 5 次の *filename.subs* ファイルの XPATH 要素を変更します。注：この XPATH 要素が、*filename.subs* ファイルでは 1 行で表示されています。

```
//un:settings[@pass='specialize']//
un:component[@name=Microsoft-Windows-UnattendedJoin'][@pr
ocessorArchitecture='x86']/un:Identification/
un:JoinDomain,VistaTeam
```

オペレーティング システムの配布中に *filename.subs* ファイルと *filename.xml* ファイルが結合され、*unattend.xml* ファイルが作成されます。このファイルは、**Windows** セットアップのすべてのフェーズで情報を提供するために使用されます。この例では、**JoinDomain** 属性が **vistaTeam** に設定されます。

E Windows XP および Windows Server 2003 の OS イメージのキャプチャ

▶ この付録の情報は、Windows XP および Windows Server 2003 の OS イメージのキャプチャにのみ関連しています。

Windows Vista、Windows Server 2008、Windows 7、およびサポートされているすべてのシンクライアントオペレーティングシステムのキャプチャと重要なイメージキャプチャプロセスの概要については、285 ページの「OS イメージの準備とキャプチャ」を参照してください。

▶ HPCA は暗号化されていないパーティションのキャプチャのみをサポートしています。

この章は、次のトピックで構成されています。

- 425 ページの「HPCA Image Preparation Wizard について」
- 427 ページの「イメージのキャプチャの前提条件」
- 433 ページの「OS イメージのキャプチャ」
- 448 ページの「OS イメージのパブリッシュおよび配布」

HPCA Image Preparation Wizard について

HPCA Image Preparation Wizard では、ImageX、Windows セットアップ、レガシー配布で使用する Windows XP または Windows 2003 Server の OS イメージをキャプチャできます。

Image Preparation Wizard は、次のタスクを実行します。

- 1 参照マシンに関する情報（ハードウェア機能と OS 機能についての情報）を収集して格納します。

- 必要に応じて、使用可能な終了ポイントを実行します。**Image Preparation Wizard** で、イメージを封印する **SysPrep** が起動される前に **PRE.CMD** が実行されます。**Sysprep** によってイメージが封印された後、**POST.CMD** が実行されます。詳細については、427 ページの「**Image Preparation Wizard の終了ポイント**」を参照してください。

▶ **Image Capture** の終了ポイントは、**ImageX** および **Windows** セットアップのキャプチャタイプの場合にのみサポートされます。

- (サポートされているオペレーティング システムで) **Microsoft Sysprep** を実行します。
- 参照マシンを (適切なメディアから起動された) **Service OS** で再起動します。実行した **Service OS** でイメージと関連ファイルが収集されます。

キャプチャ中は、**Service OS** の画面にステータス情報が表示されます。詳細については、308 ページの「**Windows PE Service OS 画面について**」を参照してください。

- ファイルを作成し、**HPCA server** の次のディレクトリにコピーします。

`InstallDir\Data\OSManagerServer\upload`

レガシー イメージを作成する場合、次のファイルがアップロードされます。

- **ImageName.IMG**
このファイルには、ゴールド イメージが含まれています。これは、非常に大きなハード ディスク ドライブ システムのブート パーティションをセクタごとにコピーして圧縮したファイルです。このファイルには、イメージがインストールされる時にアクセス可能な組み込みファイル システムが含まれています。
- **ImageName.MBR**
このファイルには、参照マシンのマスター ブート レコード ファイルが含まれています。
- **ImageName.PAR**
このファイルには、参照マシンのパーティション テーブル ファイルが含まれています。
- **ImageName.EDM**
このファイルにはインベントリ情報を含むオブジェクトが含まれています。

ImageX または **Windows** セットアップを使用してイメージを作成する場合、次のファイルがアップロードされます。

- **ImageName.WIM**
このファイルには参照マシンの一連のファイルとファイル システムが含まれています。

— ImageName.EDM

このファイルにはインベントリ情報を含むオブジェクトが含まれています。

Image Preparation Wizard の終了ポイント

必要に応じて、**Image Preparation Wizard** の終了ポイントを使用できます。たとえば、キャプチャを実行する前にデバイスをクリーンアップするために使用できます。



Image Capture の終了ポイントは、**ImageX** および **Windows** セットアップのキャプチャ タイプの場合にのみサポートされます。

終了ポイントを使用するには

- 1 PRE.CMD ファイルと POST.CMD ファイルを作成します。
- 2 これらのファイルおよびサポート ファイルを、
OSM\PREPWIZ\payload\default\pre と
OSM\PREPWIZ\payload\default\post にそれぞれ保存します。

Image Preparation Wizard によって、これらのファイルは参照デバイスの %temp%\prep wiz\pre と %temp%\prep wiz\post にコピーされ、キャプチャが始まる前に削除されます。**Image Preparation Wizard** で、イメージを封印する **SysPrep** が起動される前に PRE.CMD が実行されます。**Sysprep** によってイメージが封印された後、POST.CMD が実行されます。

PRE.CMD または POST.CMD のいずれかからゼロ以外のリターン値が返されると、**Image Preparation Wizard** が停止することがあります。対話モードでは、停止するか、エラーを無視して続行するかを選択できます。バッチ モードでは、**Image Preparation Wizard** は停止します。

イメージのキャプチャの前提条件

ImageX、**Windows** セットアップ、またはレガシー配布で使用する OS イメージをキャプチャする前に、次の手順を実行しておく必要があります。

- 428 ページの「[参照マシンの準備](#)」
- 430 ページの「[Windows AIK のインストール](#)」

- 430 ページの「Sysprep のインストールおよび設定」

参照マシンの準備

- 1 オリジナル製品メディアから、オペレーティング システムをインストールします。参照マシンは、インストールするオペレーティング システムを実行できる必要があります。参照マシンが DHCP を使用していることを確認します。



OS は C: ドライブに格納してください。C: ドライブ以外はキャプチャされません。

- 2 必要に応じて OS をカスタマイズします。これには、基本的なまたは必要な複数のアプリケーションのインストールが含まれる場合があります。OS とアプリケーションの最新のサービス パック、およびイメージの配布先となるデバイスに必要なドライバが含まれることを確認してください。次の Microsoft サポート技術情報の記事には、Windows OS のインストールに OEM ドライバを含めることに関する情報が記載されています。

記事: 314479 - OEM プラグ アンド プレイ ドライバを Windows XP に追加する方法

<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;314479>

- 3 Microsoft .NET Framework バージョン 2.0 (またはそれ以降) がインストールされていることを確認します。.NET Framework は、次の Microsoft ダウンロード センターから入手できます。

<http://www.microsoft.com/downloads>

どのバージョンの .NET Framework が参照マシンに存在しているのかを確認するには、次のディレクトリのフォルダを表示します。

%SYSTEMROOT%/Microsoft.NET/Framework

- 4 レガシー メソッドを使用してこのイメージを配布する場合は、HPCA Agent を参照マシンにインストールする必要があります。HPCA では Windows セットアップまたは ImageX の OS イメージとともに Agent をパブリッシュする必要があるため、Windows セットアップ配布または ImageX 配布では必要ありません。

レガシー配布の場合のみ、次の操作を実行する必要があります。

要件に応じて、HPCA インストール メディアから Agent をインストールします。少なくとも、Application Manager Agent および OS Manager Agent をインストールする必要があります。これらの操作は、OS イメージを配布するときに、デバイスを OS Manager Server に接続できるようにするために必要です。Agent を更新する必要がある場合は、Agent のセルフ メンテナンスを使用する必要があります。

- 5 **HPCA Server** へのアップロード プロセスが終了するまで、キーボードやマウスによる操作が数分間行われなくても、デバイスの電源が切れないように、**BIOS** の電源管理を設定してください。
- 6 イメージ ファイルのサイズはできるだけ小さくしておいてください。オペレーティング システムの収納に十分なパーティションの大きさに加えて、**HPCA Agent** 用の追加領域がある設定が理想的です。



Windows 7 より前の **Windows** オペレーティング システムの場合、プライマリ ブート ドライブのプライマリ ブート パーティションへのイメージの配布がサポートされます。



Windows セットアップ配布メソッドを使用してイメージを正常にキャプチャするには、参照マシンの **OS** パーティションに十分な空きディスク領域がある必要があります。たとえば、**7 GB** のイメージをキャプチャするには、**50 ~ 60 GB** の空きディスク領域が必要です。

次の手順は、.WIM イメージ ファイルのサイズを最小に抑えるのに役立ちます。

- a 空き領域を作成します。

HP は、最小の空き容量で最小のパーティションを作成した後、**Sysprep.inf** ファイルの [Unattended] のセクションに **ExtendOemPartition = 1** を設定することを推奨します。これで、より大きなドライブを持つターゲット デバイスに小さなイメージをインストールできるようになります。

ExtendOemPartition = 1 の場合、**Microsoft** ミニセットアップ ウィザードは、**OS** インストール パーティションをそのディスクと物理的に連続した、パーティションが設定されていない使用可能な任意の空き領域に拡張します。これで、**HPCA Agent** はボリューム上の空き領域をアプリケーションのインストールに使用できます。

- b ラップトップを使用している場合は休止状態を無効にします。
- c 必要があれば、復旧パーティションを削除します。
- d ページング ファイルを無効にします。配布後、**mini-setup** が実行されると、ページング ファイルは、自動的に利用可能になります。
- e システムの復元を無効にします。
- f インデックス作成サービスとディスク圧縮を無効にします。
- g **On Resume Password Protect** を無効にします。

Windows AIK のインストール

ImageX または Windows セットアップを使用して配布を行う場合、Windows Automated Installation Kit (AIK) を HPCA Core (OS イメージを HPCA database にパブリッシュする場所) にインストールする必要があります。

Windows AIK がインストールされていない場合、Microsoft ダウンロード センター (www.microsoft.com/downloads) からダウンロードできます。通常の Windows インストールには含まれていません。使用しているオペレーティング システムに適したバージョンが次のデフォルトの場所にインストールされていることを確認してください。

C:\Program Files\Windows AIK

Windows AIK をインストールしたら、HPCA Core サービスを再起動します。

詳細については、『HPCA Core および Satellite 入門およびコンセプト ガイド』の「HPCA を使用して Windows オペレーティング システムを管理する」を参照してください。


Sysprep のインストールおよび設定

Microsoft Sysprep は、クローン作成されたイメージを使用して Microsoft オペレーティング システムを配布できるようにするプログラムです。HPCA OS Manager Image Preparation Wizard によって Microsoft Sysprep が実行されます。これにより、セキュリティ識別子がすべて取り除かれて、イメージがリセットされます。

オペレーティング システム イメージがターゲット デバイ스에 配布された後でターゲット デバイスが起動されると、Microsoft ミニウィザードが自動的に実行されます。Sysprep.inf からの応答を使用した後、Microsoft ミニウィザードは、ターゲット マシンの Sysprep ディレクトリを削除します。

Sysprep をインストールするには

- 1 クローン作成されたイメージを使用して Microsoft オペレーティング システムを配布するために、Microsoft Sysprep をダウンロードします。

 Sysprep の使用方法、Sysprep.inf ファイルの作成方法、および使用可能なパラメータの設定方法については、Microsoft のドキュメントを確認してください。

- 2 Microsoft オペレーティング システムのインストール メディアの SUPPORT\TOOLS フォルダにある DEPLOY.CAB ファイルを見つけます。詳細は、Microsoft のドキュメントを参照してください。

- 3 Deploy.cab ファイルから **Microsoft Sysprep** ファイルを抽出します。これらのファイルを参照マシンの C:\SysPrep にコピーして、ディレクトリおよびファイルが読み取り専用設定されていないことを確認します。



最新バージョンの **Sysprep** を使用していることを確認してください。古いバージョンを使用すると、エラーが発生する場合があります。

適切なバージョンの **Sysprep** がない場合は、**Microsoft** の **Web** サイトからダウンロードできます。

管理者権限を持っている場合でも、**Sysprep** を実行するための適切なユーザー権限を設定されていることを確認してください。**Microsoft Web** サイトの記事 #270032「**Sysprep.exe** プログラムの実行に必要なユーザー権利」を参照してください。適切なユーザー権限がない場合、**Sysprep** を実行すると、次のエラーが発生します。

「このアプリケーションを実行するには、管理者である必要があります。」
Image Preparation Wizard を終了し、適切なユーザー権限をセットアップしたら、再びウィザードを実行する必要があります。

- 4 **Microsoft Sysprep** を使用するために、参照マシンが、ドメインではなく **WORKGROUP** に所属していることを確認します。
- 5 Sysprep.inf を作成して、C:\Sysprep に保存します。

Sysprep.inf を作成するには

Sysprep.inf は手動で作成するか、**Microsoft** セットアップ マネージャ (Setupmgr.exe) を使用して作成できます。セットアップ マネージャは、**Microsoft OS** 配布メディアにある SUPPORT\TOOLS フォルダの Deploy.cab ファイルにあります。詳細は、**Microsoft** のドキュメントを参照してください。



Microsoft は、**Windows 2000** 用 **Sysprep** ユーティリティによる大容量ストレージセクションの作成をサポートしていません。**Windows 2000** でこのオプションを使用すると、イメージのキャプチャまたは配布中に問題が発生する場合があります。

サンプル Sysprep.inf ファイルは、**Image Capture** メディアの \samples\sysprep\ ディレクトリでは使用可能です。



Sysprep.inf ファイルのサイズは **800 KB** 以下にしてください。

Sysprep.inf ファイルを作成する場合、次の操作を行います。


- TimeZone の値を環境に合わせて調整します。
- AdminPassword をセットアップします。

- ユーザーがターゲット デバイスに入力しなくて済むように、製品キーを作成します。
- 無人インストールを行うには、[Unattended] セクションに `UnattendMode = FullUnattended` を含める必要があります。
- `ExtendOemPartition` を **1** に設定します。これにより、**Microsoft Sysprep** は、OS のパーティションをそのディスクと物理的に連続した、パーティションが設定されていない使用可能な任意の空き領域へ拡張します。
- `Sysprep.inf` に `JoinDomain` が存在する場合、`Sysprep.inf` はコンピュータをドメインに接続する権限があるアカウントの管理ユーザー **ID** とパスワードを持っている必要があります。`JoinDomain` は大文字と小文字を区別することに注意してください。

Sysprep.inf ファイルの優先度の設定方法

`Sysprep.inf` ファイルはオペレーティング システム イメージとともに配布されるか、オペレーティング システム イメージに接続されたパッケージ (上書き **Sysprep** ファイル) として配布されます。`Sysprep.inf` ファイルが個別にパブリッシュされた場合、イメージの **NTFS** にある `Sysprep.inf` ファイルと統合され、**1** つの `Sysprep.inf` になります。

`Sysprep.inf` ファイルは、次の順で低位から高位へ優先度が付けられます。

- 1 イメージに埋め込まれた **Sysprep** (優先度が最も低い)。個別にパブリッシュされる `Sysprep.inf` (上書き **Sysprep**) がない場合、イメージ内の `Sysprep.inf` が使用されます。
- 2 上書き **Sysprep** (ゴールドイメージと別の **Sysprep** ファイル)。詳細については、**151** ページの「[Using an Override Sysprep File](#)」を参照してください。
 上書き `Sysprep.inf` は **1** つだけ解決されます。
- 3 ポリシー条件に添付された **Sysprep** (優先度が最も高い)。

OS イメージのキャプチャ

実行するキャプチャのタイプに対応する次の手順を参照してください。

配布メソッド	手順
ImageX、 Windows セットアップ、 レガシー	433 ページの「 Image Capture Wizard を使用したイメージのキャプチャ」 または 439 ページの「 無人モードでの Image Preparation Wizard を使用したイメージのキャプチャ」

Image Capture Wizard を使用したイメージのキャプチャ

ImageX、Windows セットアップ、またはレガシー配布で使用する OS イメージのキャプチャに関する手順を次に示します。

HPCA OS Manager Image Preparation Wizard を使用するには



イメージをローカルでキャプチャする場合、続行する前に、参照マシンを CD-ROM/DVD ドライブから起動するように設定します。ImageCapture メディアが起動可能なため、この作業を実行する必要があります。ImageCapture メディアを実行すると、デバイスを再起動して、イメージをアップロードします。

- 1 **ImageCapture** メディアを参照マシンに挿入します。このメディアの入手先に関する詳細については、『**HPCA OS Manager システム管理者ガイド**』の「製品メディア」を参照してください。
- 2 **ImageCapture** メディアで、`\image_preparation_wizard\win32` に移動し、`oscapture.exe` を実行します。



HPCA Agent が参照マシンにインストールされていない場合、次のメッセージが表示されます。

このコンピュータには **Application Manager** がインストールされていません。OS Manager 製品がインストールされているターゲット コンピュータは管理できない可能性があります。

デバイスを管理対象とするには、**Image Preparation Wizard** を実行する前に、必ず **HPCA Agent** をインストールしてください。

- ▶ `oscapture.exe` プログラムでは、**Microsoft .NET Framework** バージョン **2.0** (またはそれ以降) が必要になります。これは、次の **Microsoft** ダウンロードセンターから入手できます。

<http://www.microsoft.com/downloads>

どのバージョンの **.NET Framework** が参照マシンに存在しているのかを確認するには、次のディレクトリのフォルダを表示します。

`%SYSTEMROOT%/Microsoft.NET/Framework`

- レガシー メソッドで配布するイメージをキャプチャする場合、**Image Preparation Wizard** では、続行する前に `C:\Sysprep` フォルダが存在すること、および **HPCA agent** がインストールされていることが検証されます。
- **ImageX** または **Windows セットアップ** で配布するイメージをキャプチャすると、**Image Preparation Wizard** は **Sysprep** を `C:\sysprep` に置きます。

- ▶ **Publisher** を使用する場合は、**Agent** を取得する場所を選択するオプションが表示されます。これには、**Agent** を個別にパッケージ化し、新しいバージョンを必要に応じて **HPCA database** にパブリッシュして **Agent** を更新できるという利点があります。これを実行すると、新たに配布する **.WIM** はすべて自動的に最新の **Agent** を使用します。

HPCA Standard ライセンスを使用している場合は、キャプチャしたイメージに **Agent** が既に含まれている必要があります。ただしその場合でも、**Publisher** を実行するときにパブリッシュ元の **Agent** を選択する必要があります。

3 [次へ] をクリックします。

[エンドユーザー ライセンス契約] ウィンドウが表示されます。

4 [同意する] をクリックします。

配布方法は以下のようになります。

- **レガシー** は、パーティションのディスク イメージをそのままキャプチャします (**.IMG** 形式)。
- **ImageX** では、**Windows PE** や **ImageX** ユーティリティで配布される **.WIM** 形式でイメージがキャプチャされます。
- **Windows セットアップ** では、**Windows PE** や **Windows セットアップ** ユーティリティで配布される **.WIM** 形式でイメージがキャプチャされます。

OS でサポートされていない配布メソッドは表示されません。

- 5 使用する配布メソッドを選択し、**[次へ]** をクリックします。
- 6 **HPCA server** の IP アドレスまたはホスト名およびポートを入力します。これは、次の形式で指定する必要があります。

`xxx.xxx.xxx.xxx:port`

HPCA Core および **Satellite** インストールで OS のイメージングと配布用に使用される **HPCA server** ポートは **3466** です。**HPCA Classic** インストールでは、ポート **3469** がこの目的のために予約されています。

- 7 **[次へ]** をクリックします。
- 8 イメージ ファイルの名前を入力します。これは、`InstallDir\Data\OSManagerServer\upload` ディレクトリに格納されるイメージ名です。
- 9 **[次へ]** をクリックします。

[ディスク イメージのスパン] ウィンドウが表示されます。

- 10 各イメージ ファイルに使用するディスク容量 (非圧縮) の合計を **MB** 単位で入力します。スパンしたイメージを作成しないときは、「**0**」(ゼロ)と入力します。

スパンしたイメージを使用して、イメージ ファイルを小さいセグメントに分割できます。スパンされたイメージの各セグメントのサイズは **4 GB** に制限されます。イメージを **HPCA database** に格納する場合、イメージ全体が **4 GB** 以下である必要があるという条件を満たすことができるため、有用です。

この値を **0** (ゼロ) に設定した場合、イメージ リソース ファイルのサイズが **4GB** を超えると、自動的にイメージがスパンされます。

- 11 **[次へ]** をクリックします。

該当する場合は、[追加の **Sysprep** オプション] ウィンドウが表示されます。このテキスト ボックスには、すべての **SID** をクリアし、キャプチャできるようにマシンを準備するコマンドが予め入力されています。

また、**Sysprep** に渡す追加オプションを、スペースで区切って入力することもできます。



これは高度なオプションです。追加したオプションや行った変更は検証されないため、イメージのキャプチャまたは配布が失敗する可能性があります。**HP Software** サポート担当者からこのような指示があった場合は、注意して作業を行ってください。

追加の **Sysprep** オプションについては、**Microsoft** のドキュメントを参照してください。

- 12 [次へ] をクリックします。
- 13 配布メソッドで **ImageX** を選択すると、デフォルトのオプションが選択された [Image Preparation Wizard のペイロードの選択] ウィンドウが表示されます。
- ▶ ペイロードには、ターゲット デバイスに配布されるローカル サービスの起動 (LSB) データが含まれます。
- 14 イメージ ファイルの説明を入力し、[次へ] をクリックします。
[Windows 版の選択] ウィンドウが表示される場合があります。
- 15 取得する Windows のエディションを選択し、[次へ] をクリックします。
[オプション] ウィンドウが表示されます。
- ▶ HPCA agent をインストールしていない場合は、[OS のインストール後にクライアント接続を実行する] チェック ボックスは表示されません。レガシーメソッドでイメージをキャプチャする場合にのみ、この Agent をインストールすることが重要になります。
- 16 適切なオプションを選択します。
- ▶ キャプチャするオペレーティング システムによってオプションが表示されます。

— Sysprep.inf に大容量ストレージ セクションをビルドする

Windows XP 以上の Sysprep.inf の [SysprepMassStorage] セクションで、大容量ストレージ ドライバのリストをビルドするには、このチェック ボックスをオンにします。

- ⚠ Microsoft は、Windows 2000 用 Sysprep ユーティリティによる大容量ストレージ セクションの作成をサポートしていません。Windows 2000 でこのオプションを使用すると、イメージのキャプチャまたは配布中に問題が発生する場合があります。
- ▶ 大容量ストレージ ドライバのリストは、レジストリにインストールされます。これには約 15 ~ 20 分かかりますが、マシンのモデルおよびメーカーを越えたイメージ配布を成功させるため、基本的な大容量ストレージ デバイスのドライバを提供します。
これらの入力内容にエラーがあると、この後の Sysprep の実行は失敗する場合があります。

— **未使用のディスクスペースの圧縮を最適化する**

未使用ディスク領域の圧縮を最適化するには、このチェックボックスをオンにします。これは、システムドライブパーティションの最後までゼロを追加します。注：ハードドライブの容量によっては、若干時間がかかる場合があります。

これにより、キャプチャしたイメージの圧縮率が大きくなり、サイズが小さくなります。イメージファイルのサイズが小さい方が、保存するディスク領域が少なく、ネットワーク上を転送するバンド幅が小さくて済みます。

— **OS のアップロードの前にパーティションのサイズを変更する**

パーティションのサイズをできるだけ小さくするには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにしない場合は、パーティションのサイズが適切であるか確認してください。

— **OS のインストール後にクライアント接続を実行する**

OS をインストールした後に HPCA server に接続するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにしない場合は、OS がインストールされた後、HPCA OS 接続は実行されません。

Agent をインストールしない方法を使用する（たとえば、レガシーメソッドを使用していて、HPCA agent をインストールしなかった、あるいは配布時に Agent がインストールされデフォルトで接続が実行されるために Windows Vista（またはそれ以降）イメージをキャプチャする）場合は、このオプションは表示されません。

17 [次へ] をクリックします。

[要約] ウィンドウが表示されます。

18 [開始] をクリックします。

19 [完了] をクリックします。

APIC デバイスで作業している場合は、[イメージを APIC 互換にする] ウィンドウが表示されます。Windows Vista（およびそれ以降）オペレーティングシステムは APIC 互換デバイスでなければキャプチャ/配布できないため注意してください。

20 必要であれば、[Make image compatible with machine with PIC(イメージを PIC を搭載したマシン互換にする)] チェックボックスを選択します。



Microsoft はこれを推奨していません。この選択を行う前に、Microsoft の Web サイトで詳細を確認してください。

21 [次へ] をクリックします。

上図のチェックボックスを選択した場合は、[Select Windows CD (Windows CD の選択)] ウィンドウが表示されます。

22 [Windows CD-ROM] へ移動し、[次へ] をクリックします。

23 [完了] をクリックして、Sysprep を実行します。

Image Preparation Wizard により Sysprep が起動されます。イメージのサイズによって完了時間は異なります (15 ~ 20 分)。

▶ システム予約パーティションに LSB の挿入ファイルを格納できるスペースがない場合、メッセージがポップアップされます。このメッセージを無視するか、Image Preparation Wizard を停止します。メッセージを無視すると、Image Preparation Wizard が続行されます (このパーティションに十分なスペースが作成されている場合)。十分なスペースが作成されていない場合、LSB ファイルが挿入できないことを示すメッセージが表示されて失敗します。

キャプチャ中は、Service OS の画面にステータス情報が表示されます。詳細については、308 ページの「Windows PE Service OS 画面について」を参照してください。

完了後に、Sysprep はデバイスを再起動します。[OK] をクリックして、デバイスを再起動します。

▶ 監視モード (以前の出荷時モード) を使用している場合、マシンはオペレーティングシステムをネットワーク接続が有効な状態で再起動します。カスタマイズが完了したら、Image Capture CD/DVD をマシンに挿入し、コマンドプロンプトから次を実行します。

```
sysprep.exe -reseal -reboot
```

Sysprep が再起動すると、イメージがサーバーにアップロードされます。

— ブート順が最初に CD-ROM からブートする設定になっていて、Image Capture メディアが読み込まれた場合は、デバイスは CD-ROM で起動されます。

デバイスに CD-ROM が搭載されない場合は、PXE 環境が必要で、デバイスはネットワーク優先で起動されるように設定されている必要があります。これで、ネットワーク起動中にキーボードの **F8** を押して、PXE によりイメージをキャプチャできます。メニューが表示された後、ぜひ [Remote Boot (Image Upload) (リモートブート (イメージアップロード))] を選択します。

⚠ レガシー キャプチャ モードでは、デバイスで CD ではなくオペレーティングシステムが起動される場合、準備のプロセスをやり直す必要があります。

これで、デバイスがネットワークに接続され、**HPCA server** にイメージが格納されます。

- ▶ イメージのアップロードは、長時間かかるように感じられる場合があります。それは、アップロードではなく、イメージの圧縮と圧縮のための未使用ディスク領域の最適化（特に、空きディスク領域が多くある場合）によるものです。これは、イメージの転送中に行われるため、ネットワークのパイプはボトルネックになりません。転送速度は約 **300 KB/秒** ～ **1 MB/秒** ですが、プロセッサの速度とネットワーク環境によって異なります。
- 必要に応じて取得できるように、`\upload` ディレクトリに格納するファイルのコピーを作成できます。

Image Preparation Wizard がネットワークに接続し、**HPCA Core** の次のディレクトリにイメージが格納されます。

`InstallDir\Data\OSManagerServer\upload`

アップロードプロセスが完了すると、以下のメッセージが表示されます。

**** OS イメージは正常に HPCA OS Manager Server に送信されました。

次に、イメージを **HPCA database** にパブリッシュします。311 ページの「パブリッシュ」を参照してください。

無人モードでの Image Preparation Wizard を使用したイメージのキャプチャ

設定ファイルを使用して、無人モードで **Image Preparation Wizard** を実行できます。

無人モードで **Image Preparation Wizard** を使用するには

- 1 **ImageCapture** メディアを参照マシンに挿入します。このメディアの入手先に関する詳細については、『**HPCA OS Manager** システム管理者ガイド』の「製品メディア」を参照してください。
- 2 `\samples\prepwiz_unattend` に移動し、OS 固有の設定ファイル (`vista.cfg` または `xp.cfg`) をローカル マシンまたはネットワーク上の場所にコピーします。

- 3 必要な変更を行います。表 41 に、変更が必要な可能性がある値を示します。

表 41 変更する設定ファイル内の変数

変数名	説明	値の例
RISHOSTPORT	OS Manager Server の IP アドレス。	xxx.xxx.x.x:port
IMAGENAME	アップロードされるファイルを作成するために使用するプレフィックス。これは、アップロードされるイメージの名前を作成するために、.WIM に追加されます。	Vista
IMAGEDESC	データベースにパブリッシュされるイメージの説明。	「Windows Vista 無人テストイメージ」
PREPWIZPAYLOAD (今後のリリース用)	管理者が使用するペイロード。 ペイロードには、ターゲットデバイスに配布されるローカルサービスの起動 (LSB) データが含まれます。	デフォルト値「/OSM/PREPWIZ/payload/default/」を使用します。
OSEDITION (Vista 用)	使用する Vista のエディションを指定します。	「Enterprise」
set ::setup(DEPLOYOS,SELECTED)	イメージのキャプチャ後に OS を再配布するかどうかを示す 1 または 0 の値。	「0」
set ::setup(ClientConnect,SELECTED)	イメージ配布後にターゲットデバイスで OS 接続を実行するかどうかを示す 1 または 0 の値。	「1」

- 4 参照マシンで、コマンドウィンドウを開き、ディレクトリを CD/DVD に変更します。Image_Preparation_Wizard\win32 に移動します。ここで、次のコマンドを実行します。


```
prepwiz -mode silent -cfg <fully qualified  
path>\<config_file>
```

<config_file> には、オペレーティング システム固有の設定ファイル (setup.cfg など) を指定します。

Image Preparation Wizard が **Sysprep** を起動します。これが完了するのに 15 ~ 20 分かかる場合があります。完了すると **Sysprep** によりデバイスがリブートされ、ネットワークに接続されて **HPCA server** の /upload ディレクトリにそのイメージが格納されます。

Windows Native Install Packager を使用した配布用のイメージのキャプチャ

▶ この配布モードの Windows XP および Windows 2003 イメージのキャプチャは、HPCA Enterprise Edition でのみサポートされています。

この場合のみ、HPCA Windows Native Install Packager を使用してイメージを準備します。イメージは、参照マシンのハード ドライブ上の、Windows Vista 以前のオペレーティング システムのインストール メディアのイメージです。作成されるイメージは、Windows のインストールのファイル コピー フェーズを完了しており、HPCA Agent が含まれています。イメージは HPCA server の `InstallDir\Data\OSManagerServer\upload` ディレクトリに送信されます。次に、Publisher を使用してイメージを HPCA database にパブリッシュします。

イメージがターゲット デバイスに配布されると、ターゲット デバイスはリブートします。Windows Native Install セットアップは引き続きテキスト モード セットアップ フェーズを実行し、その後 GUI フェーズを実行します。2 つのフェーズは `unattend.txt` で制御され、完全自動セットアップが可能です。

- 442 ページの「[タスク 1: 参照マシンの準備](#)」
- 444 ページの「[タスク 2: unattend.txt の作成](#)」
- 445 ページの「[タスク 3: HPCA Windows Native Install Packager のインストール](#)」
- 445 ページの「[タスク 4: HPCA Windows Native Install Packager の実行](#)」

タスク 1: 参照マシンの準備

参照マシン上で作成されたオリジナルのインストール メディアのイメージがターゲット デバイスに配布されます。HPCA Windows Native Install Packager を使用してイメージを作成する前に、HPCA メディアを持っていることと、参照マシンが次の条件を満たしていることを確認します。

- 1 HPCA server に接続できる。
- 2 以下の条件を満たすターゲット ドライブ (拡張パーティションにあることを推奨)。
 - ターゲット ドライブは現在フォーマットされており、空である (データがない)かのように扱われる。ターゲット ドライブがフォーマットされていない場合か、あるいはフォーマットされているが、データが含まれている場合に、ユーザーはドライブをフォーマットするよう要求されます。

- ユーザーがドライブにデータが確実に残らないようにドライブをフォーマットする場合は、あらかじめ **FAT32** でフォーマットできる。

▶ **FAT32** では一度配布すると、拡張できないため、注意してください。**NTFS** は拡張できるデフォルトのオプションです。

- **1.5 GB 以上**。 **Image Preparation Wizard** の [未使用のディスクスペースの圧縮を最適化する] チェックボックスがどのように設定されているかによって、ターゲットドライブが大きくなれば、ドライブのイメージ化の処理時間が長くなる、または、イメージが必要以上に大きくなる場合があります。

⚠ ターゲットドライブに保存するすべてのデータが失われます。

- 3 **HPCA Windows Native Install Packager** ソフトウェアが既にインストールされている、c: ドライブなどの独立したドライブ (高速化のため)。 **445** ページの「**タスク 3: HPCA Windows Native Install Packager のインストール**」を参照してください。

- 4 また、次の項目にアクセスする権限が必要です。 **HPCA Windows Native Install Packager** を使用する場合は、項目の場所を指定します。

- **HPCA Agent** のセットアップファイル。

- オペレーティングシステムメディアの **i386** ディレクトリ。

必要なサービスパックは、すべてこのディレクトリにスリップストリームできます。これを実行する方法の詳細については、各サービスパックに関連する **readme.txt** ファイルを参照してください。

▶ **Windows** セットアップで、古いバージョンの **Windows** 用のセットアップを実行することはできません。例:

- デバイスで **Windows XP** が実行されている場合は、**Windows 2000** 用の **i386** ディレクトリを使用できません。
- デバイスで **Windows 2003 Server** が実行されている場合は、**Windows 2000** 用または **Windows XP** 用の **i386** ディレクトリは使用できません。

- **unattend.txt**

ファイルは手動で作成するか、**Windows** メディアの **Windows** セットアップ マネージャを使用して作成できます。使用可能なサンプルファイルは、**Image Capture** メディアの **\samples** ディレクトリにあります。

タスク 2: unattend.txt の作成

unattend.txt ファイルでは、ユーザー入力が必要ないように、OS のインストールが自動化されます。unattend.txt ファイルは **i386** ディレクトリで指定されている **Windows** のリリースと一致している必要があります。これらのファイルはインストールされている **Windows** のバージョンによって、若干異なる場合があります。



Unattend.txt ファイルは、**800 KB** 以下にしてください。

イメージとともに格納する unattend.txt ファイルを作成するときのヒントを次に示します。

- ファイルの中の設定は、環境にあるどのデバイスでも使用できるように、できるだけ汎用的にする必要があります。
- このファイルの [GuiUnattended] セクションには、ステートメント `AutoLogon=YES` および `AutoLogonCount=1` を含めます。

HPCA Agent セットアップでは、**Agent** をターゲット デバイスにインストールするために **Windows** インストーラが使用されます。また `OEM\cmdlines.txt` では **Windows** インストーラを実行できないため、`OEM\cmdlines.txt` の代わりに [GuiUnattended] セクションを使用する必要があります。

`AutoLogon` ステートメントと `AutoLogonCount` ステートメントを使用すると、オペレーティング システムのインストール後に初めてのユーザーがログオンするときに、**Agent** が確実にインストールされます。

- このファイルの [Unattended] セクションには、ステートメント `extendoempartition=1` を含めます。これにより、**Windows** はファイル システムとパーティションを拡張し、パーティションに続く未使用スペースを取り込むことができます。ターゲット パーティションが小さすぎる場合は、インストールのコピー フェーズを実行することはできません (このフェーズは参照マシンで実行されます)。その後、イメージが配布されると、テキスト モード フェーズは失敗します。あるいは、別のパーティションに **OS** がインストールされることもあります。

大きいターゲット パーティションを使用している場合は、ファイルの未使用スペースにゼロを埋めるプロセスに時間がかかります。

- 必要なカスタマイズをするには、別の unattend.txt ファイルを作成することもできます。Publisher を使用してこれらのファイルを HPCA DB の SYSPREP クラスにパブリッシュできます。次に、それらを適切な OS イメージに接続できます。イメージが配布されると、カスタマイズした unattend.txt ファイルはオリジナルのファイルに統合されます。

▶ ファイルをパブリッシュする方法の詳細については、311 ページの「パブリッシュ」を参照してください。unattend.txt ファイルをパブリッシュするときは、Sysprep.inf ファイルをパブリッシュする場合と同じ手順に従います。

タスク 3: HPCA Windows Native Install Packager のインストール

- 1 Image Capture メディアで、\windows_native_install に移動して setup.exe をダブルクリックします。
- 2 **[次へ]** をクリックします。
[エンドユーザー ライセンス契約] ウィンドウが表示されます。
- 3 条件を確認して、**[同意する]** をクリックします。
- 4 製品のインストール先のディレクトリを選択して、**[次へ]** をクリックします。
[要約] ウィンドウが表示されます。
- 5 **[インストール]** をクリックします。
インストールが完了したら、**[完了]** をクリックします。

タスク 4: HPCA Windows Native Install Packager の実行

- 1 デスクトップにある HPCA Windows Native Install Packager アイコンをダブルクリックします。
[設定オプション] ウィンドウの [Client Automation]、[Windows セットアップ]、[パッケージ] という 3 つの領域で、情報を入力する必要があります。
 - a [Client Automation] 領域には、Client Automation 製品に関連する設定オプションが表示されます。
 - b [Windows セットアップ] 領域では、OS のインストールを実行するのに必要な情報を収集します。

- c [パッケージ] 領域では、作成するパッケージに関して HPCA で必要な情報が収集されます。

▶ これらの各ウィンドウで、入力必須フィールドに入力しないまま **[次へ]** をクリックした場合、そのフィールドに入力するように、メッセージが表示されます。

- 2 [Client Automation Client ソース ディレクトリ] フィールドに、HPCA Agent のパスを入力します。
- 3 インストールする Client Automation 製品のチェック ボックスをオンにします。
- 4 OS のインストール後、HPCA OS 接続を実行するには、**[インストール後、最初の接続を実行]** チェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスがオンになっていないと、OS のインストール後に、HPCA OS 接続は自動的に実行されません。
- 5 **[任意指定の Packager コマンド ライン引数]** ボックスに、WNI アプリケーションで使用されるパラメータを入力します。オプションは 1 行ですべてを入力することも、複数行にわたって入力することもできます。オプションは次のような「キーワード値」の形式で指定します。

```
-trace_level 9
```

キーワードの先頭には必ずダッシュ (-) を付けます。

▶ テクニカル サポートの指示では、通常 **[任意指定の Packager コマンド ライン引数]** テキスト ボックスのみを使用します。

ログを作成するためのパラメータが多数あります。次の例では、C:\temp\nvdwni.log という名前のファイルを作成する方法を説明します。

```
-trace_level 99
```


```
-trace_dir c:\temp
```



別の名前でログを作成する場合は、以下を使用します。

```
-trace_file filename.log
```

- 6 **[次へ]** をクリックします。
- 7 **[unattend.txt ファイル]** ボックスで、適切な unattend.txt ファイルを参照します。

イメージに格納する汎用 unattend.txt ファイルを選択します。このファイルは、イメージが適用するすべてのデバイスに適用可能なオプションを含んでいる必要があります。必要なカスタマイズをするには、イメージに個別の unattend.txt ファイルを添付することができます。

 unattend.txt ファイルは i386 ディレクトリで指定されている **Windows** のリリースと一致している必要があります。これらのファイルはインストールされている **Windows** のバージョンによって、若干異なる場合があります。

- 8 **[i386 ディレクトリ]** テキスト ボックスで、**Microsoft** の配布メディアで提供される **Windows** 配布元ディレクトリを選択します。**Microsoft** のスリッパストリーム プロセスを使用して、サービス パックおよびその他の修正を統合できます。これを実行する方法の詳細については、各サービス パックに関連する readme.txt ファイルを参照してください。
 -  必ず **Windows CD-ROM** から i386 ディレクトリを別の場所にコピーしてください。CD-ROM を使用する場合、**Windows** セットアップは、CD-ROM がターゲット デバイスに読み込まれたと想定して、必要なファイルをすべてコピーしない恐れがあります。
- 9 **[ターゲット ドライブ]** ドロップダウン リストで、ネイティブ インストール パッケージを作成するドライブを選択します。拡張パーティション上にあるドライブを選択することを推奨します。
 -  このドライブに既存のすべてのデータが失われます。
- 10 **[特別なコマンドライン パラメータ]** テキスト ボックスで、**Windows** セットアップ プログラムを実行するときに、プログラムに渡すパラメータをすべて入力します。パラメータの詳細については、**Microsoft web** サイトを参照してください。
- 11 **[次へ]** をクリックします。
- 12 **[イメージ名]** テキスト ボックスに、\upload ディレクトリに格納するパッケージの名前を入力します。この名前に入力する文字は、8 文字以内の英数字である必要があります。
- 13 **[イメージの説明]** テキスト ボックスにイメージの説明を入力します (半角 255 文字まで)。
- 14 **[Client Automation OS Manager Server]** テキスト ボックスに、イメージをアップロードする HPCA server の IP アドレスまたはホスト名を指定します。
- 15 **[Client Automation OS Manager ポート]** テキスト ボックスに、HPCA server のポートを指定します。

- 16 **[未使用のディスクスペースの圧縮を最適化する]** チェック ボックスをオンにし、ターゲット ドライブをイメージ化する前に、未使用ディスク スペースをすべて null にします。この設定によって、イメージのサイズを小さくすることができますが、Image Preparation Wizard の実行時間がより長くなります。
- 17 **[次へ]** をクリックします。
- 18 **[要約]** を確認し、**[作成]** をクリックします。



Windows 2000 デバイスで **[作成]** をクリックした後、Windows セットアップによってシステムのリブートが要求される場合があります。再起動をしない場合は、**[キャンセル]** をクリックします。再起動は必要ありませんが、再起動が起こっても、障害はありません。

Windows セットアップが実行され、HPCA Windows Native Install Packager に戻ります。

- 19 HPCA Windows Native Install Packager が完了すると、Linux CD-ROM/DVD でシステムのリブートを求めるメッセージが表示されます。これは、Image Capture メディアを指しています。



まず CD-ROM/DVD から起動するように起動順を設定する必要があるため、注意してください。

- 20 Image Capture メディアを挿入して、**[OK]** をクリックしてください。
- 21 **[完了]** をクリックします。
- 22 デバイスをリブートすると、イメージが `InstallDir\Data\OSManagerServer\upload` ディレクトリにアップロードされます。
- 23 OS イメージが正常に HPCA Server に送信されたことを示すメッセージが表示されたら、ドライブからメディアを取り出し、デバイスを再起動します。

OS イメージのパブリッシュおよび配布

イメージをキャプチャしたら、Publisher を使用して HPCA データベースにそのイメージをパブリッシュします。手順については、311 ページの「パブリッシュ」を参照してください。

イメージをパブリッシュしたら、OS ライブラリをリフレッシュして、使用可能な OS イメージのリストを表示します。HPCA Console ツール バーを使用して、選択したデバイスにイメージを配布します。

F カスタム Windows PE Service OS のビルド

この章は、次のトピックで構成されています。

- 450 ページの「カスタム ビルド スクリプトについて」
- 451 ページの「前提条件」
- 454 ページの「Windows PE Service OS へのドライバの追加」
- 455 ページの「カスタム Windows PE Service OS のビルド」
- 461 ページの「カスタマイズした build.config ファイルの使用 (高度なオプション)」

カスタム ビルド スクリプトについて

HP が提供するスクリプトを利用して、次のことができます。

- 中国語または韓国語のフォントのサポートを追加する。
- 更新された **Windows Automated Installation Kit (AIK)** から新しい **winpe.wim** ファイルが使用可能になったときに、**Windows Preinstallation Environment (PE) Service OS** を更新する。
- 提供された **Windows PE Service OS** 内にはない、ドライバやパッケージを追加する。
- **Microsoft Windows AIK** に関する知識とともに、この章の情報を使用して、使用環境に必要なドライバやパッケージを含む **Windows PE Service OS** を再ビルドする。
- デフォルトの **Service OS** の変更やブートメニューの設定の変更など、適用する必要がある更新がある場合に新しい **ImageCapture.iso** を作成する。
- デフォルトの **Service OS** の変更やブートメニューの設定の変更など、適用する必要がある更新がある場合に新しい **ImageDeploy.iso** を作成する。

前提条件

HP が提供するスクリプトを使用してカスタム Windows PE Service OS をビルドするには、いくつかの前提条件を満たしている必要があります。詳細については、次のトピックを参照してください。

- 451 ページの「プロセスの知識」
- 451 ページの「Administrator マシン」
- 452 ページの「メディア」
- 452 ページの「ファイルとディレクトリ」
- 453 ページの「他の言語のサポート」
- 453 ページの「高度なオプション」



互換性のないソフトウェアがインストールされているマシンで、このスクリプトを実行しないでください。Administrator マシンの前提条件を参照してください。

プロセスの知識

Windows PE Service OS にドライバやその他の情報を追加するには、Microsoft のインストール前のカスタマイズ プロセスに関する基本的な理解が必要です。

Administrator マシン

スクリプトを実行するには、Windows Automated Installation Kit (AIK) の 32 ビットバージョンがインストールされている Administrator マシンが必要です。このマシンを使用して、カスタマイズされた Windows PE Service OS をビルドします。



次のソフトウェアがインストールされているマシンは使用しないでください。

- HPCA Boot Server
- HPCA Core Server または HPCA Satellite Server
- Cygwin

Windows AIK バージョン 1.1 および 2.0 がサポートされています。バージョン 1.1 は、Windows Vista および Windows Server 2008 に付属しています。バージョン 2.0 は、Windows 7 および Windows Server 2008 R2 に付属しており、下位互換性があります。どちらのバージョンも Microsoft Web サイトからダウンロードできます。

▶ Windows AIK の 32 ビット バージョンがダウンロードされ、インストールされていることを確認します。

メディア

次のメディア (DVD または CD-ROM) が必要です。

- HPCA 製品メディア
- HPCA Image Capture メディア
- HPCA Image Deploy メディア

ファイルとディレクトリ

- HPCA 製品メディアの build_scripts.zip ファイルが必要です。
- 新しい ImageCapture.iso または ImageDeploy.iso を生成する場合、次の操作を行って必要な更新済みファイルを含めます。
 - a **Administrator** マシンに、c:\build_items のようなビルドアイテムのディレクトリを作成します。
 - b オプション: HP から受け取った更新されたファイルを、ビルドアイテムのディレクトリにコピーします。必要に応じて、**Image Capture** メディアまたは **Image Deploy** メディアの構造を基にサブディレクトリを作成します。

このディレクトリに必要なファイルがすべて揃っていない場合は、ファイルをコピーするために、以前の **Image Capture** メディアまたは **Image Deploy** メディアの挿入が要求されます。
 - c オプション: **ImageDeploy CD** で使用するために、romsinfo.ini または netinfo.ini をビルドアイテムのディレクトリに含めることができます。
 - d オプション: 適切な ISO で使用するために、rombl_capture.cfg と rombl_deploy.cfg をビルドアイテムのディレクトリに含めます。このファイルには、メニューのタイムアウト設定やデフォルトの **Service OS** などの情報が含まれます。

これらのファイルを作成するために、必要に応じて以前の ImageCapture.iso または ImageDeploy.iso から rombl.cfg をコピーしてファイルを編集したり、名前を変更したりできます。

これらのファイルがビルドアイテムのディレクトリに含まれていない場合、以前の **CD-ROM** とそのメディアからのファイルの取得を促すメッセージがスクリプトによって表示されます。**CD-ROM** を挿入しないことを選択すると、標準の rombl.cfg ファイルが自動的に作成されます。

他の言語のサポート

ISO に変更を加えずに、中国語または日本語のサポートを追加する場合は、次のようにします。

- 既存の winpe.wim ファイルを build_items ディレクトリから削除します。
- 製品 **CD-ROM** の \custom_build\lang_support ディレクトリから、winpe_cjk.wim を build_items ディレクトリにコピーします。
- 名前を winpe_cjk.wim から winpe.wim に変更します。
- 455 ページの「[カスタム Windows PE Service OS のビルド](#)」を参照して、スクリプトを実行します。



中国語または日本語が有効になった winpe.wim ファイルを、winpe.wim ファイルを再ビルドせずに使用するには、winpe.wim ファイルの再作成を求められたときに「**n**」と入力します。

- ImageDeploy CD を使用して、CD からインストールするかキャッシュからインストールしているときに、メッセージをローカル言語で表示する場合は、製品メディアにある \custom_build\lang_support\i18n ディレクトリをビルドアイテムのディレクトリにコピーします。ローカル言語で必要のない .msg ファイルは削除できます。

高度なオプション



次の情報は、経験を積んだ HPCA 管理者のみを対象としています。HPCA による OS 管理と Microsoft Windows AIK ツールの両方をよく理解している場合を除き、既存の winpe.wim ファイルをカスタマイズしないでください。

既存の winpe.wim ファイルを使用する場合

- 既存の winpe.wim は、ビルド スクリプトを実行しているマシンにインストールされている **Windows AIK** と同じバージョンの **Windows AIK** を使ってビルドすることを強く推奨します。
- winpe.wim ファイルには次のパッケージがインストールされている必要があります。
 - **Windows AIK バージョン 1.1** の場合
 - WinPE-HTA-Package
 - WinPE-Scripting-Package
 - WinPE-XML-Package
 - WinPE-WMI Package
 - **Windows AIK バージョン 2.0** の場合
 - WinPE-hta.cab
 - WinPE-scripting.cab
 - WinPE-wmi.cab
 - WinPE-setup.cab
 - WinPE-legacysetup.cab
 - WinPE-setup-client.cab
 - WinPE-setup-server.cab
- winpe.wim ファイルが peimg /prep コマンドを使用して作成されている場合は、**Windows AIK**、**peimg**、**ImageX** の **Microsoft** ドキュメントに記載されている制限 (**Windows AIK 1.1** にのみ適用) を参照してください。

Windows PE Service OS へのドライバの追加

ビルド スクリプトを実行するときに **Windows PE Service OS** にドライバを追加できます。たとえば、リブートが必要なドライバがある場合、「オフライン」モードで実行する必要があります。つまり、ビルド スクリプトが一時停止し、そのときに必要な変更を実行できます。詳細については、次の手順で説明します。

- ▶ また、Windows PE が実行されているときに（「オンライン」モード）ドライバを追加することもできます。すべてのドライバがリブートを必要とせずすべて含まれていて、デバイスは HPCA server に接続されている必要があります。

Windows PE Service OS の起動中に、

`InstallDir\OSManagerServer\SOS\WinPE\drivers` に存在するすべてのドライバがダウンロードされ、`drvload.exe` を使用してインストールされます。

カスタム Windows PE Service OS のビルド

次のトピックでは、HPCA によって提供されるスクリプトを取得および使用して、カスタム Windows PE Service OS をビルドする方法について説明します。

- スクリプトを取得して実行の準備をする方法については、455 ページの「スクリプトの取得」を参照してください。
- スクリプトを起動して必要な情報を指定する方法については、456 ページの「スクリプトの実行」を参照してください。
- スクリプトを実行したら、460 ページの「その他の情報」を参照してください。

- ▶ スクリプトを起動する前に、451 ページの「前提条件」の内容を参照してその前提条件を満たしていることを確認してください。

スクリプトの取得

カスタム Windows PE Service OS のビルドに必要なスクリプトは、HPCA インストールメディアにあります。次の手順に従ってスクリプトを取得し、Administrator マシンで実行する準備をします。

スクリプトを取得し、Administrator マシンでスクリプトを使用できるようにするには


- 1 インストールメディアにある `InstallDir\media\ISO\roms\build_scripts.zip` を Administrator マシン (Windows AIK がインストールされている場所) にコピーします。
- 2 任意のディレクトリ (C:\Build_scripts など) に `build_scripts.zip` を展開します。

スクリプトの実行

- ▶ この手順では、前提条件 (451 ページの「前提条件」を参照) を満たしていることと、スクリプトを取得 (455 ページの「スクリプトの取得」を参照) していることを前提としています。

カスタム Windows PE Service OS をビルドするには

- 1 **Windows** コマンドプロンプトで、作成したディレクトリ (C:\Build_scripts など) に移動します。
- 2 「**run**」と入力します。
- 3 使用する **HPCA** のバージョンに対応する番号を入力します。
- 4 新しい **WIM** ファイルを作成するかどうか尋ねられたら、「**Y**」または「**N**」と入力します。

 winpe_cjk.wim を使用していて、winpe.wim ファイルを再ビルドしない場合、後で winpe.wim ファイルの再作成を求められたときに「**N**」と入力します。

「**Y**」と入力すると、**Windows AIK** ツールのディレクトリへのパスの入力を求められます。たとえば、「C:\Program Files\Windows AIK\Tools」と入力します。

- 5 **Microsoft Windows AIK** の winpe.wim ファイルを使用するかどうか尋ねられたら、「**Y**」または「**N**」を入力します。

▶ **Microsoft Windows AIK** の winpe.wim ファイルを使用することを強く推奨します。

「**N**」を入力した場合は、既存の winpe.wim ファイルが仕様通りにビルドされていることを確認するようにリマインダが表示されません。次に、既存の winpe.wim ファイルへのフルパスを指定するように促されます。

- 6 ローカル フォントのサポート パッケージを含めるかどうかを尋ねられたら、「**Y**」または「**N**」を入力します。
- 7 ドライバまたはパッケージを追加するために **WIM** 作成プロセスを一時停止するかどうかを尋ねられたら、「**Y**」または「**N**」を入力します。
- 8 **WIM** 作成プロセス中に追加するドライバのディレクトリのパスを指定するかどうかを尋ねられたら、「**Y**」または「**N**」を入力します。

「**y**」と入力した場合は、ドライバを含むディレクトリへのフルパスを入力するように求められます。

- 9 次の一連の質問によって、**Image Capture ISO** と **Image Deploy ISO** のどちらを新規作成するのか、さらに、どの **Service OS** を含めるのかが決まります。
 - 次の条件のいずれかに一致する場合、新しい **Image Capture ISO** を作成する必要があります(「**y**」と入力)。
 - HP Software サポートから更新済みファイルを受信している。
 - winpe.wim を再ビルドしており、ISO を使用してキャプチャを実行する。
 - 設定 (rombl.cfg、netinfo.ini、または rominfo.ini) を変更する必要がある。
 - 次の条件のいずれかに一致する場合、新しい **Image Deploy ISO** を作成する必要があります(「**y**」と入力)。
 - HP Software サポートから更新済みファイルを受信している。
 - winpe.wim を再ビルドしており、配布中に CD からブートする。
 - 設定 (rombl.cfg、netinfo.ini、または rominfo.ini) を変更する必要がある。

ISO オプションを指定するには、次の手順に従います。

- a 新しい **Image Capture ISO** を作成するかどうか尋ねられたら、「**y**」または「**N**」を入力します。
- b 新しい **Image Deploy ISO** を作成するかどうか尋ねられたら、「**y**」または「**N**」を入力します。
- c 質問 (a) または (b) に対して「**y**」と入力すると、ISO に含める **Service OS** を尋ねられます。適切な **Service OS** を選択します。次に、**Enter** キーを押します。
- d 新しい rombl.cfg ファイルを作成するか、既存の rombl.cfg ファイルを使用するかを尋ねられたら、次のいずれかの操作を行います。
 - 新しい rombl.cfg ファイルを作成する場合は、「**1**」と入力し、**Enter** キーを押します。
 - 既存の rombl.cfg ファイルを使用する場合は、「**2**」と入力し、**Enter** キーを押して手順 (h) に進みます。
- e どの **Service OS** をデフォルトで起動するかを尋ねられたら、適切な選択を入力します。次に、**Enter** キーを押します。

- f 作成する各 ISO のブートメニューの処理方法を指定します。次の 3 つの方法があります。

0 ブートメニューはターゲットデバイスのユーザーに表示されません。

手順 (d.e) で指定したデフォルトの Service OS が使用されます。

-1 ブートメニューが表示され、ユーザーからの応答を待機します。この応答によってデフォルトの Service OS の設定が書き込まれます。

1 以上
の数値 ブートメニューが表示され、ユーザーからの応答をこの秒数の間待機します。この秒数を過ぎると、手順 (e) で指定したデフォルトの Service OS がブートされます。

- g OS Manager インフラストラクチャに接続するために使用されるポートを変更するかどうかを尋ねられたら、「**Y**」または「**N**」を入力します。デフォルトポートは **3466** です。

- h ISO ブートセクタに含まれる ISO ブートロード値を指定するかどうかを尋ねられたら、「**Y**」または「**N**」を入力します。



デフォルト値を使用していて問題が発生し、HP Software サポートにデフォルト値を変更するように指示された場合にのみこのオプションを使用します。

特定のハードウェアモデルでは、BIOS の問題が原因でブートロードセグメントを **0x2000** にする必要があります。他のモデルの場合、ブートロードセグメントが **El Torito ISO 形式 (0x0000)** のデフォルトのローダーセグメントでないと CD からブートできません。

ブートロードセグメントの設定を指定するには、「**1**」、「**2**」または「**3**」を入力します。

- 1 HPCA のデフォルト (**0x2000**) ñ 大部分の BIOS で動作します。
- 2 ISO のデフォルト (**0x0000**) ñ 大部分の BIOS で **0x07c0** に変換されます。
- 3 手動で値を入力します。

次に、**Enter** キーを押します。「**3**」と入力した場合、**0x** で始まる 16 進数の文字列としてブートロードセグメントの設定を指定します。

- i ビルドアイテムのフルパスの入力を求められたら、ディレクトリ名 (C:\build_items など) を入力し、**Enter** キーを押します。

これで、Image Capture ISO および Image Deploy ISO に関連する質問は完了します。

- 10 一時作業ディレクトリのフルパスを求められたら、ディレクトリ名 (C:\build_work など) を入力します。このディレクトリは、以降の手順で <work-dir> と呼ばれます。

▶ そのディレクトリが既に存在しており、その中に情報がある場合、その情報を削除するかどうかを尋ねられます。削除しないことを選択すると、もう一度ディレクトリの入力を求められます。終了する場合は、**Ctrl + C** キーを押してプロセスを終了します。削除することを選択すると、情報は上書きされます。

- 11 出力ディレクトリのフルパスを求められたら、ディレクトリ名 (C:\build_output など) を入力します。

▶ CAS 用の ISO を作成するかどうか尋ねられたら、「**N**」と入力します。

画面に表示されるメッセージでわかるように、このビルドプロセスは時間がかかります。完了すると、**Service OS** 作成プロセスが正常に終了したことを示すメッセージが表示され、コマンドプロンプトに戻ります。

最後の手順

ビルドが完了したら、C:\WinPE_output など、Windows PE.wim が格納されたディレクトリに移動し、次の操作を実行します。

表 42

ターゲットデバイスのブートメソッド	必要な操作
PXE	出力ディレクトリから winpe.wim を <i>InstallDir</i> \BootServer\X86PC\UNDI\boot にコピーします。
LSB	CSDB Editor を使用して LSB パッケージの winpe.wim を置換します。
CD	Windows PE スクリプトを使用して、新しい ISO を作成します。

ImageCapture.iso または ImageDeploy.iso を作成することを選択した場合、同じ出力ディレクトリに格納されます。

その他の情報

Windows PE Service OS のカスタム ビルド スクリプトに必要なすべての情報を
入力すると、次の処理が実行されます。

- 1 ISO のビルドに必要なファイルがビルド アイテムのディレクトリにない場
合、CD/DVD を挿入し、ファイルをコピーする必要があります。CD/DVD
の挿入を選択しない場合、ビルド プロセスは停止します。
- 2 入力した情報が保存され、Windows PE ディレクトリの作成が始まります。
- 3 ドライバまたはパッケージを追加するために WIM 作成プロセスを一時停止
することを指示した場合、Windows PE ディレクトリが作成された後にプロ
セスが一時停止され、winpe.wim の内容が WIM ディレクトリ
(C:\build_work\WIM など) に抽出されます。これには、次の 2 つの方法
があります。

メソッド A: Windows AIK ツールを使用して変更を行います。

Windows AIK バージョン 1.1 を使用している場合、peimg.exe コマンドを
使用します。この実行ファイルのデフォルトの場所は、次のとおりです。

```
C:\Program Files\Windows AIK\Tools\PETools\peimg.exe
```

Windows AIK バージョン 2.0 を使用している場合、dism.exe コマンドを
使用します。この実行ファイルのデフォルトの場所は、次のとおりです。

```
C:\Program Files\Windows AIK\Tools\Servicing\dism.exe
```

これらのコマンドの使用方法については、Windows AIK のドキュメントを
参照してください (または **/help** コマンドライン オプションを使用してく
ださい)。

メソッド B: ドライバをドライバ リストに追加します。

必要な情報がすべて収集されたことを示すメッセージが表示された後、
winpe.wim および ISO をビルドするために必要な情報を格納する C:\
Build_scripts ディレクトリに build.config ファイルが作成されま
す。テキスト エディタを使用してこのファイルを開き、空の DRIVERS リス
トの下に適切なドライバを追加できます。

例:

```
declare DRIVERS = " cdrom.inf \  
e:\tmp\work\WIM\windows\inf\adp94xx.inf \  
e:\tmp\work\WIM\windows\inf\3com*.inf "
```



バック スラッシュ (\) は特殊文字であるため、この例のようにバック スラッシュを 2 つ使用して「エスケープ」する必要があります。

最後の行以外のすべての行がバック スラッシュで終わっていることに注意してください。この例では、バック スラッシュは宣言の継続を示しています。

ディレクトリを指定しない場合は、スクリプトが
<work-dir>\WIM\Windows\inf ディレクトリの中のドライバを検索します。

指定する場合は、c:\anydirectory\mydrivers.inf のように場所とドライバをフルパスで指定できます。

また、c:\anydirectory にあるすべての md*.inf ファイルをインストールする、c:\anydirectory\md*.inf などのワイルドカードを含むファイル名を持つパスを指定することもできます。

完了後、「run」と入力して続行すると、ドライバが winpe.wim に追加されます。

今後再度スクリプトを実行すると、build.config ファイルを保持するか、新しいファイルと交換するか尋ねられます。また、スクリプトは自動的に一時停止されます。追加するパッケージまたはドライバが他にない場合は、「run」と入力して続行します。

カスタマイズした build.config ファイルの使用 (高度なオプション)

任意で、既存の build.config ファイルを別の名前で保存できます。多様な設定セットを維持する必要がある場合や、既存の設定を基にテストをしている場合、既存の build.config ファイルの別名保存が必要になる場合があります。ドライバは上で指定したようにファイルに追加できます。

ファイルは、C:\build_scripts など、build_scripts.zip ファイルを展開したディレクトリに配置します。

スクリプトを実行する場合は、「run」と入力する代わりに次のコマンドを使用します。

```
run.cmd -f mybuild.cfg
```

引数 パラメータを指定しない場合、デフォルトの build.config ファイルが作成され、使用されます。

索引

A

Agent Explorer, 330

APIC デバイス, 437

Application Self-service Manager

アクセス, 332

ユーザー インターフェイス, 331

カタログのリフレッシュ, 338

カタログ リスト, 335

グローバル ツールバー, 334

サービス リスト, 335

情報の表示, 338

ソフトウェアのインストール, 337

ソフトウェアの削除, 339

メニュー バー, 334

Application Self-service Manager 用のユーザー インターフェイス, 331

[Avis] カラム, 346

B

build.config ファイル, 461

カスタマイズ, 461

build_scripts.zip, 452

C

ca-bundle.crt, 402, 404

CCM_PUBLISHER, 106

CCM_TPM_ENABLEMENT, 106

CMI、設定, 221

CSV にエクスポート, 67, 92, 113, 120, 126, 138, 164, 172, 180, 210, 218

E

Embedded Linux, 129, 303

ExtendOemPartition パラメータ, 432

H

HPCA Agent

インストール

Windows CE, 85

Windows XPE, 84

削除

Windows XPE, 85

HPCA Agent ID, 147

HPCA Application Self-Service Manager

ユーザー インターフェイス

ソフトウェアの検証, 340

ソフトウェアの修復, 340

HPCA OS Manager Image Preparation

Wizard, 288, 294, 425, 433

使用, 294, 433

HPCA System Tray アイコン, 349

HPCAS コンソールへのアクセス, 370

[HPCA ステータス] ウィンドウ, 350

[HPCA ステータス] ウィンドウの情報パネル
 , 350

HPCA 操作ダッシュボード、設定 , 241

HP Client Automation Administrator
Publisher, 106

HP SoftPaq のパブリッシュ , 326

HP SoftPaq、パブリッシュ , 326

HP インスタント サポート , 176

HP ハードウェア レポート , 148

HTTPS, 404

I

ImageName.EDM, 298, 302, 305, 426

ImageName.IMG, 426

ImageName.MBR, 426

ImageName.PAR, 426

Image Preparation Wizard, 298, 302, 306

終了ポイント , 426, 427

使用 , 298, 302, 306

無人 , 439

Infrastructure Server

サービス キャッシュ , 216

サービス キャッシュの同期 , 216

J

JoinDomain パラメータ , 432

L

LDAPS, 402, 404

M

Management Agent

グループへの配布 , 94

削除 , 70

デバイスのグループからの削除 , 95

配布 , 31, 65, 69

Management Agent の削除 , 68, 92

Management Agent の配布 , 67, 92

Microsoft 自動更新

重要な情報 , 117

[Microsoft 自動更新を無効化] エージェント

オプション , 227

Microsoft パッチ , 374

N

netinfo.ini, 452

O

OSEDITION, 440

OS イメージ ターゲット デバイス

要件 , 129

OS 管理 , 125, 233

オペレーティング システム , 126

過去のジョブ , 137

現在のジョブ , 136

全般 , 125

[OS のアップロードの前にパーティションの
サイズを変更する] チェック ボックス ,
437

[OS のインストール後にクライアント接続を
実行する] チェック ボックス , 299, 307,
437

OS のサービス パック , 375

OS の詳細 , 133, 183

グループ , 134

全般 , 133

デバイス , 135

プロパティ , 133

レポート , 136

OS 配布ウィザード , 265

P

peimg コマンド , 460

prep wiz.exe, 294, 298, 302, 433

prep wiz_unattend, 439

PREPWIZPAYLOAD, 440

Publisher

使用 , 311

PXE, 130

R

RDP, 72

rombl_capture.cfg, 452

rombl_deploy.cfg, 452

romsinfo.ini, 452

runasuser, 105

S

S.M.A.R.T.

設定 , 222

有効化 , 222

S.M.A.R.T. 警告

レポート , 147

Self-Monitoring、Analysis、および

Reporting Technology S.M.A.R.T. を参照

server.crt, 403

server.key, 403

Service OS

デフォルト , 457

setup.cfg, 439

setup.exe, 376

Setupmgr.exe, 431

SSL

Active Directory, 402

ca-bundle.crt, 402, 404

HTTPS, 404

LDAPS, 402, 404

server.crt, 403

server.key, 403

サーバー証明書 , 402, 403

証明書 , 401

証明書の生成 , 401

証明書ファイル , 402

デジタル証明書 , 402

認証局 , 401

パブリック キー ファイル , 401

パブリック証明書 , 402

プライベート キー , 403

プライベート キー ファイル , 401

SSL の設定

Core コンソール , 403

Satellite コンソール , 403

SSM, 327

SSM 準拠 , 327

[Sysprep.inf に大容量ストレージ セクション
をビルドする] チェック ボックス , 436

Sysprep.inf ファイル

作成 , 432

優先度の設定 , 432

[SysprepMassStorage] セクション , 436

T

TimeZone パラメータ, 431

TPM

設定, 223

TPM Enablement サービス, 106

U

[UI オプション] カラム, 347

UnattendMode パラメータ, 432

[URL] カラム, 348

V

VNC, 72

W

Windows 2003 Server, 28

Windows Automated Installation Kit
(WAIK), 451

Windows CE, 129, 300

Windows XPe, 296

Windows XP Embedded, 129

Windows インストーラ パッケージ, 376

Windows インストーラ ファイル, 313

Windows リモートデスクトップ, 72

winpe.wim

既存ファイルの使用, 453, 454, 456

WinPE Service OS

更新, 450

ドライバやパッケージの追加, 450

X

XPe, 129

あ

アウトバンド, 229

アクティブなカタログ アイテムを展開, 346

アクティブなサービス アイテムを展開, 346

新しいロケーションの作成, 218

[圧縮後のサイズ] カラム, 346

[アップグレード日] カラム, 347

アプリケーション プロファイル配布ウィザード, 256

アプリケーション利用状況収集ウィザード, 272

アプリケーション利用状況、探索, 71

い

[色のカスタマイズ] オプション, 344

インスタント サポート, 176

インストール

Application Self-Service Manager ユー
ザー インターフェイスを使用したソ
フトウェア, 337

HPCA Agent

Windows CE, 85

Windows XPe, 84

インストール済みブリティンを管理するエー
ジェント オプション, 228

[インストール日] カラム, 347

インターネット プロキシ検出, 349

インフラストラクチャ管理, 208

インフラストラクチャ サーバーの削除, 210

インフラストラクチャ サーバーの追加, 210

インフラストラクチャ サーバーの同期, 216

インフラストラクチャ サービスの削除, 210

インフラストラクチャ サービスの配布, 210
インベントリ
探索, 70
デバイスのグループに対する探索, 95
インベントリ管理レポート, 147
インベントリの収集, 68, 93
インベントリのスケジュール設定, 371
インベントリの表示, 372
インポート
デバイス, 69

う

ウィザード, 245
OS 配布, 265
アプリケーション プロファイル配布, 256
アプリケーション利用状況収集, 272
エージェント削除, 248
エージェント配布, 247
グループ作成, 252
サービス インポート, 259
サービス エクスポート, 260
ソフトウェア同期, 261
ソフトウェアの削除, 263
ソフトウェアの配布, 255
ソフトウェア資格, 263
ソフトウェア/ハードウェア インベントリ, 249
デバイスのインポート, 246
電源管理, 251
パッチの適用状況探索, 250
パッチ配布, 261

え

エージェント削除ウィザード, 248

エージェント配布
ウィザード, 247
サイレントインストール, 248
[エラー コード] カラム, 346
エラーで終了, 139

お

[オーナー カタログ] カラム, 347
オペレーティング システム イメージ、パブリッシュ, 317

か

[価格] カラム, 347
拡張情報を表示, 338
過去のジョブ
OS 管理, 137
グループ管理, 103
ジョブ管理, 142
ソフトウェア管理, 111
デバイス管理, 81
パッチ管理, 124
カスタム WinPE Service OS のビルド, 449
仮想カタログ, 335
カタログ
仮想, 335
選択, 335
リフレッシュ, 334
カタログのリフレッシュ, 334
カタログ リスト, 335
管理
オペレーティング システム, 125
グループ, 90
ジョブ, 137
ソフトウェア, 104
デバイス, 62
パッチ, 116

管理オプション パブリッシュ オプション ,
313

管理対象デバイスのインポート , 67

き

休止状態 , 139

く

クイック スタート タスク , 28

グリッド線を表示 , 346

グループ

削除 , 97

ソフトウェア , 101

ソフトウェア資格 , 100

パッチの付与資格 , 102

作成 , 94

スタティック , 91

ソフトウェアの配布 , 101

タイプ , 91

探索 , 91

追加

ソフトウェア資格 , 100

パッチの付与資格 , 102

内部 , 91

レポート , 91

グループ管理 , 90

過去のジョブ , 103

グループ , 92

現在のジョブ , 103

全般 , 90

グループ作成ウィザード , 252

グループ資格の追加 , 121, 132

グループ タイプ , 97

グループの作成 , 33

グループの詳細 , 97

os, 98

現在のジョブ , 99

全般 , 97

ソフトウェア , 98

デバイス , 98

パッチ , 99

プロパティ , 97

レポート , 99

[グループの詳細] ウィンドウ、タスク , 99

グローバル ツールバー , 334

け

[警告メッセージ] カラム , 346

現在のジョブ

OS 管理 , 136

グループ管理 , 103

ジョブ管理 , 137

ソフトウェア管理 , 111

デバイス管理 , 81

パッチ管理 , 123

[検証日] カラム , 348

こ

コンソールへのアクセス , 195

コンソール ユーザー

削除 , 197

作成 , 196

詳細の表示および変更 , 197

[コンポーネントの選択] パブリッシュ , 315

さ

[サーバーの詳細] ウィンドウ , 214, 216

- サービス
 - インポート , 164, 172, 180
 - エクスポート , 164, 172, 181
 - 削除 , 164, 181
 - 削除、パッチ , 172
- サービス CD, 131
- サービス インポート ウィザード , 259
- サービス エクスポート ウィザード , 260
- サービス資格ウィザード , 263
- サービスのインポート , 164, 172, 181
- サービスのエクスポート , 165, 182
- サービス リスト , 335
 - オプション , 345
 - カラムの削除 , 346
 - カラムの追加 , 346
- サービス リストへのカラムの追加 , 346
- [再起動] カラム , 347
- [サイズ] カラム , 347
- [再バブリッシュ日] カラム , 347
- 削除
 - HPCA Agent
 - Windows XPE, 85
 - サービス リストのカラム , 346
 - ソフトウェア , 101, 339
 - パッチの付与資格 , 102
- 作成
 - 新しいロケーション , 219
 - グループ , 94
 - スタティック グループ , 252
 - ダイナミック ディスカバリ グループ , 253
 - ダイナミック レポート グループ , 155, 254
- [作成者] カラム , 346

- サポート , 194

し

- システム 트레이
 - アイドル状態 , 349
 - アクティブ状態 , 349
- システム 트레이のアイドル状態 , 349
- システム 트레이のアクティブ状態 , 349
- [システムの色を使用] オプション , 344
- [システムのインストール] カラム , 347
- システム要件
 - HPCA Core
 - ターゲット デバイス , 62
 - HPCA Satellite
 - ターゲット デバイス , 62
- 自動更新 , 117
- 収集フィルタ
 - 作成 , 185, 273
 - 変更 , 186
 - 有効化 , 185
- 終了ポイント , 426, 427
 - Image Preparation Wizard, 426, 427
- 手動入力 , 246
- [使用可能なカラム] リスト ボックス , 346
- 詳細な操作を表示 , 346
- 詳細プロパティ , 80
- ジョブ管理 , 137
 - 過去のジョブ , 142
 - 現在のジョブ , 137
 - 全般 , 137
- ジョブ コントロール , 138
- ジョブ ステータス , 138
- ジョブの一時停止 , 138

- ジョブの開始, 138
- ジョブの再開, 138
- ジョブの削除, 138
- ジョブの詳細, 141
 - サービス, 142
 - 詳細, 142
 - ターゲット, 142
- ジョブのスケジュール再設定, 138
- ジョブの停止, 138
- シンクライアント, 129
 - イメージの準備とキャプチャ, 296
 - 出荷時 OS イメージの配布, 129
 - 要件, 62

す

- スケジュール、設定, 31
- [スケジュールを許可] カラム, 347
- スタティック グループ, 97
 - 作成, 252
 - デバイスの追加, 100
 - デバイスを削除, 100
- [ステータス] ウィンドウ
 - 情報パネル, 350
 - ステータス メッセージ領域, 351
 - ステータス領域, 350
 - ドッキング, 342
 - ドッキング解除, 342
 - バンド幅設定, 351
 - ボタン バー, 350
- [ステータス] ウィンドウのステータス メッセージ領域, 351
- [ステータス] ウィンドウのステータス領域, 350

- [ステータス] ウィンドウのドッキング解除, 342
- [ステータス] ウィンドウのバンド幅設定, 351
- [ステータス] ウィンドウのボタン バー, 350
- [ステータス] カラム, 347
- [ステータス] ボタン, 341
- スロットリング, 348
 - トラフィックに適応, 349
 - バンド幅, 349
- [スロットリング タイプ] カラム, 347

せ

- 生成: レポート, 35
- 接続オプション, 348
- 設定
 - CMI, 221
 - OS 配布モード, 234
 - S.M.A.R.T., 222
 - TPM, 223
 - スケジュール, 31
 - パッチ取得
 - スケジュール, 176
 - 設定, 176
- 設定ファイル, 387
- [設定] ボタン, 334
- [説明] カラム, 346
- 前回の同期, 216
- 前回ログオン ユーザー, 80
- 選択されたインフラストラクチャ サーバーのサービス キャッシュの同期, 210
- 全デバイス, 91
 - グループ, 129

そ

ソフトウェア

- インポート , 164, 172, 180
- エクスポート , 164, 172, 181
- グループ資格の追加 , 106
- 検証 , 340
- 削除 , 164, 181, 339
- 修復 , 340
- 配布 , 34
- パブリッシュ , 32, 313
- 付与 , 34

ソフトウェア インベントリ、探索 , 70

ソフトウェア管理 , 104

- 過去のジョブ , 111
- 現在のジョブ , 111
- 全般 , 104
- ソフトウェア , 105

ソフトウェア削除ウィザード , 263

ソフトウェアのインポート , 164, 172, 180

ソフトウェアのエクスポート , 164, 172, 181

ソフトウェアの検証 , 340

ソフトウェアの削除 , 164, 166, 181, 182

ソフトウェアの修復 , 340

ソフトウェアの詳細 , 107, 166, 175

- グループ , 108
- 全般 , 107
- デバイス , 110
- プロパティ , 108, 168
- レポート , 111

ソフトウェアの同期 , 101

ソフトウェア / ハードウェア インベントリ ウィザード , 249

ソフトウェア配布ウィザード , 255

[ソフトウェア配布フォルダの削除] エージェント オプション , 228

た

ターゲット デバイス

- 定義 , 129
- ファイアウォール設定 , 211

ダイナミック レポート グループ、作成 , 155, 254

大量ストレージ ドライバ , 436

- リスト , 436

ダッシュボード , 38

- 概要 , 38
- 設定 , 240
- HPCA 操作 , 241
- パッチ , 242
- パッチ管理 , 48
- ペイン , 38

探索

- デバイス , 69

探索グループ , 94

つ

[追加のファイル] 詳細パブリッシュ モード オプション , 314

て

データのリフレッシュ , 67, 92, 113, 120, 126, 138, 164, 172, 180, 210, 218

[適応バンド幅] カラム , 346

デバイス

- インポート , 30, 65, 69
- 削除 , 79
- 探索 , 69

デバイス管理 , 62
 過去のジョブ , 81
 現在のジョブ , 81
 全般 , 65
デバイス適用状況レポート , 378
デバイスのインポート , 30
デバイスのグループに対する電源管理 , 97
デバイスの削除 , 210
デバイスの詳細 , 79
 os, 80
 グループ , 80
 詳細プロパティ , 80
 全般 , 80
 ソフトウェア , 80
 パッチ , 80
 プロパティ , 80
 レポート , 81
デバイスの探索 , 246
デバイスを削除 , 68, 93
デフォルトの Service OS
 変更 , 450
電源管理 , 68, 78, 93
電源管理ウィザード , 251

と

ドッキングされた [ステータス] ウィンドウ ,
 342
ドライバリスト , 460
トラフィックに適応 , 349

な

[名前] カラム , 347

は

バージョン , 370
[バージョン] カラム , 348
ハードウェア インベントリ、探索 , 70
ハードウェア管理 , 221
配布
 Management Agent, 31, 65
 PXE を使用する OS イメージ , 131
 オペレーティング システム , 127
 シナリオ、OS イメージ , 128
 ソフトウェア , 34, 101, 105, 113, 373
 パッチ , 34, 102, 119, 120
 モード , 127, 265
パッチ
 グループ資格の追加 , 121, 132
 削除 , 172
 取得 , 32, 119, 176
 配布 , 34, 102, 119, 120
 付与 , 34, 102
 付与資格の削除 , 102
パッチ管理 , 116
 過去のジョブ , 124
 現在のジョブ , 123
 設定 , 224
 全般 , 119
 パッチ , 120
パッチ管理ダッシュボード , 48
 設定 , 242
パッチ管理レポート , 150
パッチ取得 , 372
パッチ適用状況
 探索 , 71
パッチ適用状況探索ウィザード , 250
パッチ適用状況探索スケジュール , 373

パッチの削除 , 172, 174

パッチの取得 , 32, 119, 176

パッチの詳細 , 121

グループ , 121

全般 , 121

デバイス , 122

プロパティ , 121

レポート , 123

パッチ配布ウィザード , 261

パブリッシュ

コンポーネントの選択 , 315

ソフトウェア , 32, 313

モード

管理オプション , 313

追加のファイル , 314

プロパティ , 314

変換 , 314

パブリッシュされたサービス、表示 , 330

[パブリッシュ日] カラム , 347

バンド幅

スライダ , 341

スロットリング , 341, 348, 351

設定、調整 , 341

予約 , 349

バンド幅を予約 , 349

ひ

[必須] カラム , 347

表示

Application Self-Service Manager ユー

ザー インターフェイスでの情報 , 338

パブリッシュされたサービス , 330

レポート , 35

[表示するカラム] リスト ボックス , 346

ふ

フィルタ ヘッダー情報 , 186

ブート メニュー

設定変更 , 450

付与

ソフトウェア , 34

パッチ , 34, 102

ブレード サーバー レポート , 147

プロキシ

検出 , 349

[プロパティ] パブリッシュ オプション , 314

へ

ペイン , 38

変換 パブリッシュ オプション , 314

変換ファイル , 314

[ベンダー] カラム , 348

ほ

[ホーム] ボタン , 334

ま

[マイ ソフトウェア] ボタン , 334

み

[未使用のディスク スペースの圧縮を最適化
する] チェック ボックス , 437

む

無人モード

Image Preparation Wizard, 439

め

メニュー バー , 334

ゆ

[ユーザーの詳細] ウィンドウ , 197

よ

[予約済みのバンド幅] カラム , 347

ら

ライセンス キー
更新 , 374

り

リモート アシスタンス , 72

リモート制御 , 68, 72

利用状況管理レポート , 151

利用状況収集エージェント , 186

利用状況収集フィルタ
作成 , 185, 273
変更 , 186
有効化 , 185

利用状況条件、定義 , 186

利用状況データ、難読化 , 240

利用状況データの難読化 , 71, 96, 240

利用状況データ、フィルタ , 187

利用状況の収集 , 184

[利用状況の設定] ページ , 240

[履歴] ボタン , 340

れ

レポート
生成 , 35
表示 , 35

ろ

ローカル サービスの起動 , 130

[ローカルの修復] カラム , 347

ログ ファイル , 389

ログ ファイル、ダウンロード , 158

ロケーション , 218
インフラストラクチャ サーバーへの割り
当て , 219
削除 , 220
新規作成 , 219

ロケーションの削除 , 218

ロケーションの自動作成 (インベントリ デー
タに基づき) , 218